WDC# 188918

N-K

めくれず

国立公文書館
分類
配架番号 3A 14 23-11

陸軍士官学校文庫
[illegible] 第 1692 号
類別 部門 雑誌 [illegible]
6 番
[illegible] 冊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

文庫

日本將校ノ外閲覽ヲ禁ス

昭和四年二月發行
陸軍重砲兵學校

目録

○海岸ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動 …… 研究部
○列車砲兵ニ就テ …… 畑少佐
○「ダーダネルス」ノ戰闘（第三） …… 研究部

蒐録 第九十二號

めくれず

本録ハ當校職員ノ研究調査ニ係ル事項及其他ノ資料ヲ蒐集シ之ヲ校附諸官ノ學術研究ノ參考ニ資スル目的ヲ以テ編纂セルモノトス從テ其所説ハ學校ノ代表意見ニアラス讀者之ヲ諒セヨ

陸軍重砲兵學校研究部

日本將校ノ外閲覧ヲ禁ス

海岸ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動

昭和四年八月

研究部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

海岸ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動（正誤表）

枚数	行	誤	正
緒言	三	海軍ニ	海軍ハ
6 表	十	難ホグレハナリ	難ケレハナリ
〃 〃	十二	急務	急速
7 〃	五	速度	速力
7 表	十一	敷設ケル	敷設セル
〃 裏	七	ニ在リテハ	ニ在リテモ
十六 表	十八	行動	奇効
〃	〃	〃ノ	トソル

本稿ハ主事畑少佐之ヲ編纂シ海軍兼任教官大野中佐及阿部中佐ノ補正ヲ得タルモノトス

海岸ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動（正誤表）

枚	表裏	行	誤	正
緒言		三	海軍ニ	海軍ハ
6	表	十	難キゲレハナリ	難ケレハナリ
〃	〃	十二	急燥	急遽
7	〃	五	速度	速力
7	表	十一	敷設ケル	敷設セル
〃	裏	七	ニ在リテハ	ニ在リテモ
三十六	表	十八	奇効	奇效

本稿ハ主事畑少佐之ヲ編纂シ海軍兼任教官大野中佐及阿部中佐ノ補正ヲ得タルモノトス

海岸ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動（正誤表）

枚	表裏	行	誤	正
緒言		三	海軍ニ	海軍ノ
一	裏	五	防者	攻者
二	表	七	沿岸ヲ	沿岸ニ
〃	〃	末行	根拠地ヨリハ途中	「ハ」ヲ削ル
〃	裏	四	攻者ト	攻者ハ
三	〃	十二	執状シテ其	熱状シ其
四	〃	二	自由本土	自国本土
七	表	五	之ヲ随従ス	之ニ随従ス
〃	裏	七	水力機	水上機
八	表	四	魚雷攻撃	雷撃
十一	裏	一	着水上	着水場
十二	表	十二	散布	散在
十三	裏	六	空中写真	航空写真
十四	〃	一	射撃間	射撃艦
十六	表	二	水上艦艇ハ	水上艦艇ノ
〃	裏	十	両方	両法
〃	〃	末行	戦史	戦史上
十七	表	五	独軍	独海軍
〃	裏	三四及	現状	状態
1	〃	四	約一〇米ノ	約一〇米毎ノ
〃	〃	八	（又ハ[illegible]海軍ニ於テ之ヲ決行シ	削除
2	表	四	前方ヘ	前方ニ
5	裏	十一	敵ノ○○敷設	敵ノ機雷敷設
6	表	十	難キゲレハナリ	難ケレハナリ
〃	〃	十二	急謀	急遽
7	〃	五	速度	速力

枚	表裏	行	誤	正
7	表	十一	敷設ケル	敷設セル
〃	裏	八	出スル	出ツル
〃	〃	十	使用シテ其前方	使用シテ之ヲ其前方
8	表	四	鈎挺	鈎挺
〃	〃	七及八		二字上リ
〃	裏	〃	一二	一 二
10	〃	二	其成功	「其」ヲ削ル
12	表	四	教段	教団
〃	〃	五	軽決部隊	軽快部隊
二十一	表	二	内部ニ於ケ	内部若ハ他方面ニ於ケ
〃	裏	四	腹セシムル	服セシムル
〃	〃	十一	「ヲ以テスル場合」	削除
二十五	〃	要図	右側「セツドル角」ノ凸角ニ「クムカレ」	対岸稜堡附近記入
〃	〃	〃	Sn Acas	Cn Acas 島
二十六	表	三	繋数設及・・・	繋数設及・・・
〃	〃	末行	方面襲撃	方面ノ襲撃
三十	裏	一	大隊	大部隊
三十一	表	十一	砲兵ハ位置ノ	砲兵位置ノ
三十三	〃	四	大射撃	小射撃
〃	〃	十二	流縮	沈縮
〃	裏	末行	至ラ	互ラ
三十四	表	十	振道	振致
三十五	〃	十一	及魚雷攻撃戦	及魚雷攻撃戦
〃	裏	七	ニ在リテハ	ニ在リテモ
三十六	表	十八	奇効	奇数

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

海岸ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動

目次

緒言
第一章 海岸攻防ノ特質
第一節 海軍作戦指導ノ要領
第一款 積極的ノ攻勢作戦
第二款 前進根據地附近ノ攻勢防禦作戦
第三款 自國沿岸附近ノ攻勢防禦作戦
第二節 海軍ト海岸戰闘トノ關係
第一款 海岸戰闘ノ發生
第二款 海岸戰闘ノ特質
第二章 海岸附近ニ於ケル航空機ノ攻防
第一節 海岸附近ニ對スル空中攻撃

第一款　海上艦船ヨリ攻撃スル場合
第二款　陸上基地ヨリ攻撃スル場合
第三款　空中攻撃ノ目標
第二節　海岸附近ノ對空防禦
第一款　海上艦船ヨリ攻撃スルモノニ對スル防禦
第二款　陸上基地ヨリ攻撃スルモノニ對スル防禦
第三章　砲撃及之ニ對スル防禦
第一節　砲撃
第一款　砲撃ノ生起及目的
第二款　砲撃ノ準備
第三款　砲撃ノ實施
第二節　砲撃ニ對スル防禦
第四章　閉塞及之ニ對スル防禦
第一節　閉塞攻撃
第一款　閉塞ノ準備
第二款　閉塞ノ實施
第二節　閉塞ニ對スル防禦
第五章　機雷攻撃及之ニ對スル防禦
第一節　機雷敷設一般ノ要領
第一款　機雷ノ種類及性能
第二款　機雷敷設ニ及ホス交感
第二節　機雷攻撃
第三節　機雷攻撃ニ對スル防禦
第四節　掃海
第六章　魚雷攻撃及之ニ對スル防禦
第一節　港灣ニ對スル魚雷攻撃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二節　魚雷攻撃ニ對スル防禦
第七章　水路及海峡ノ通過ニ伴フ攻防
第一節　通過戦
第一款　強行通過
第二款　潜行通過
第二節　通過ニ對スル防禦
第一款　直接防禦
第二款　要撃戦
第八章　封鎖及被封鎖
第一節　封鎖
第一款　封鎖ノ種類
第二款　封鎖ノ部署及配備
第三款　封鎖指導要領
第二節　被封鎖
第九章　上陸戦闘ニ伴フ攻防
第一節　上陸攻撃
第一款　上陸攻撃ノ種別
第二款　強行上陸攻撃ノ特性
第二節　上陸防禦
結言

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

海岸ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動

緒言

本書ハ海岸ニ對スル海軍ニ攻撃要領並防禦海軍ノ對抗法ヲ説キ且此間ニ於ケル相互関係ヲ明ニシ以テ海岸重砲兵ノ戰闘原則及法則ノ研究ニ関スル基礎ヲ鮮明ナラシムルヲ以テ目的トス

攻者海軍トシテ將又防者海軍トシテ既歴セル戰闘原則ノ設想ニ就キテハ特ニ之ヲ某々國或ハ我國等ト限定スルコトナク廣ク一般的ニ蒐録スルヲ主旨トセリ　又海岸要塞ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動ト限定スルコトナク海岸ノ攻防ニ於ケルモノトシタルハ將来ニ於ケル海岸攻防ノ特質ハ單ニ築城及兵備ヲ既設セル限定地域ノ局部的攻防ノミニ止ラス　長延ナル海岸線ノ随所ニ於テ発生スルコトアルヲ思ヘハナリ

岸線ノ随所ニ於テ発生シ[illegible]

築城及兵備ヲ設ケ得ル[illegible]攻防ノ多[illegible]ニ止ラス、最モ重要ナル海

海岸ノ攻防ニ於テ[illegible]ハ海岸攻防ノ特質ハ單ニ

主旨トセリ又海岸[illegible]今ノ海軍ノ行動ナル限度ナルコトナキヲ

特ニ之ヲ其ノ範囲[illegible]一致ノ目的ニ邁進スルヲ

以テ海軍ト[illegible]ノ緊密ナル協同ニ就キテハ

關スル要綱ヲ[illegible]トス

ニ於ケル相互關係ヲ明ニシ以テ海岸攻防ニ於ケル[illegible]原則及其ノ研究ニ

本書ハ海岸ニ對スル海軍ノ攻撃要領[illegible]海軍ノ對抗法ヲ説キ且此間

緒言

海岸ノ攻防ニ於ケル海軍ノ行動

第一章 海岸攻防ノ特質

第一節 海軍作戰指導ノ要領

凡ソ海上作戰ノ目的ハ敵海上兵力ヲ速ニ撃滅シテ制海權ヲ獲得スルニ存ス。而シテ此等ノ作戰行動ハ各種兵力ノ全能ヲ発揮スルニ容易ナル洋上ニ於テ之ヲ遂行スルヲ原則トシ海岸攻防ヲ事トスルハ特種ノ場合ニ属ス。海岸攻防ニ於ケル海軍ノ作戰指導ノ要領ハ概ネ次ノ場合ニ約言スルコトヲ得ヘシ

第一款 積極的ノ攻勢作戰

海軍テ國防ノ第一線トシテ積極的ニ敵國海面ニ於テ攻勢作戰ヲ企圖スルハ理想トスル所ニシテ若シ各種兵力ノ性能ニ鑑ミ之カ實施殆ト不可能ナル場合ニ在リテモ比較的劣勢ナル兵力ヲ有スル敵ノ一局部ニ對シ支作戰トシテ急襲的ニ之ヲ行フコトアルモノトス

而シテ敵國海面ニ近ク根據地ヲ占メ以テ防者艦隊ニ對スル攻勢作戰ヲ企

圖スル場合ニ在リテモ攻者艦隊カ敵國沿岸ヲ封鎖シ若ハ其陸軍ノ敵國領土侵襲ヲ行ヒ得ルハ攻者艦隊カ既ニ少クトモ概略ノ制海權ヲ獲得セル後ニ非サレハ困難ナルヘシ

又前記ノ支作戰ノ如キ場合、當面ノ防者艦隊ノ大部ハ防勢ニ立ツノ止ムヲ得サルヘシト雖而モ一部ノ艦隊ハ防者艦隊ニ對シ不斷ノ奇襲ヲ發生スヘシ

戰例一、日露戰爭ニ於テ日本海軍ハ旅順口ニ對シ攻勢ヲ企テ爲ニ該方面ノ露國艦隊ハ日本沿岸ニ肢足ヲ伸スヲ得サリシモ浦塩ニ對シテハ日本海軍ノ攻勢ヲ執ルコトナカリシ爲、該方面ノ露艦ハ日本海面ニ對シ奇襲ヲ企ツルコトヲ得タリ

六、歐洲大戰ニ於テ英海軍ハ優勢ナリシモ獨乙海軍ニ對スル間接封鎖ヲ以テ滿足スルノ止ムヲ得サルニ到リ爲ニ屢ゝ其本土ニ敵ノ奇襲ヲ蒙レリ

第二款　前進根據地附近ノ攻勢防禦作戰

適切ナル前進根據地ヲ占領シ該地附近ニ於テ近接スル敵艦隊ニ對シ攻勢防禦ヲ企圖スルモノヲ意味シ前款ノ積極的攻勢作戰ヲ採用スルニ十分ナル兵力ヲ有セサルカ或ハ敵國海面ニ近ク利用スヘキ根據地ヲ占ムルヲ得サルトキ生起スルモノトス

斯ノ如キ場合ニ於テ攻防兩海軍ノ行動ヲ稽フルニ攻者海軍ハ防者ノ前進根據地ヲ顧慮スルコトナク直接敵國本土ノ沿岸ヲ迫ルカ然ラスンハ先ツ前進根據地ノ攻撃ヲ企圖スルカ二者其一ヲ選フヲ要シ此際前者ヲ採用スルトキハ次ノ如キ不利ヲ釀スヲ以テ其發生ノ公算ハ寧ロ寡少ニシテ後者ニ伴フ戰闘ノ生起多カルヘシ

一、攻防兩國間ノ距離ニ依リ素ヨリ差異アルヘシト雖茲ニ兩本國土ノ著シク遠隔セル場合ヲ設想スルトキハ攻者ハ其自國ノ勢力範圍ニ在ル最前方ノ前進根據地ヨリハ途中ノ給油及給炭ノ爲碇泊スルコトナ

クシテ直接ニ敵國本土ニ迫ルヲ要シ爲ニ敵國本土沿岸ニ達セル場合ニ於テハ既ニ僅少ナル燃料ヲノミ保有スルニ過キサルカ若ハ海上ニ於テ燃料補給ノ必要ヲ生シ共ニ作戰ノ遂行ヲ困難ナラシム

二、攻者ト防者ノ前進根據地附近ヲ通過スルニ際シ其往復共ニ防者ノ前進根據地ニ在ル艦隊特ニ其驅逐艦及潛水艦等ノ攻撃ヲ受クルヲ豫期セサルヘカラサル重大ナル不利アリ

三、前進根據地ニ在ル防者艦隊ニシテ攻者ノ艦隊ニ對シ戰鬪ヲ企圖スルカ或ハ先ツ驅逐艦及潛水艦等ノミヲ以テ攻者ノ兵力減殺ヲ計リタル後、攻者ノ艦隊ニ對シ全力攻撃ヲ行ハンカ攻者ハ少クモ其自國ニ向フ退路ヲ遮斷セラレ、其蒙ルヘキ損害ハ尠カラサルヘシ

四、攻者艦隊ノ後方補給線ハ途中ニ存スル防者ノ前進根據地ニ比較的近接スルヲ以テ攻者ニシテ其補給ノ安全ヲ期センニハ多大ノ輜重ヲ隨伴スルカ若ハ其作戰ヲ最モ迅速ニ完了スルヲ要シ共ニ攻者ノ作戰遂行上ニ大ナル制肘ヲ與フルモノト謂フヘシ

第三款　自國沿岸附近ノ攻勢防禦作戰

自國ノ沿岸ニ占位シ敵海軍ノ近接ヲ待チテ攻勢防禦作戰ヲ採用スルヲ意味シ開戰時及開戰後ノ狀況ニ依リ艦隊前款ノ如キ前進根據地ヲ占ムル能ハサルカ若ハ斯ノ如キ前進根據地ヲ有セサル場合等ニ於テ生起スヘシ

此場合ニ於ケル戰況ハ之ヲ大別シテ攻者ノ防者本土沿岸ニ於ケル制海權ヲ獲得シタル場合ト然ラサル場合トニ區分スルコトヲ得ヘク前者ノ場合ニ在リテハ其作戰ノ範圍ハ既ニ次節ニ入ルヘク後者ノ場合ニ在リテハ攻者各種艦船中、防者本土ノ沿岸ニ對シ有效ニ策動シ得ヘキモノハ其潛水艦及高速水上艦船（巡洋艦、驅逐艦）並敷設艦、航空母艦等ナルヘク而モ此等ノ艦船ハ其艦隊ニシテ沿岸ノ制海權ヲ獲得シアラサルヲ以テ其能率ノ發揮ニ於テ容易ナラサルモノアリ、從ヒテ斯ノ如キ場合ニ於テ攻者ハ其攻撃支援ノ爲適當ナル戰隊派遣ヲ要スルコトアリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

戦例、 欧洲大戦間英海軍ハ其最新式戦艦ノ外ハ凡テ之ヲ独逸ノ海軍基地ニ対スル作戦ニ使用スルノ意図ナリシモ独逸外洋艦隊ノ存在ハ「ヘリゴランド」ノ攻撃ニ際シ英海軍ヲシテ支援ノ為戦艦隊ヲ使用スルノ止ムヲ得サルニ到ラシメ又其最新式戦艦ヲ此ノ危険ナル海面ニ行動セシムルヲ欲セサリシハ同攻撃ノ成功セサリシ所以ナレリ

独逸外洋艦隊ハ白耳義ニ於ケル其基地ヲ防護セサリシヲ以テ英海軍ハ危険ナル海面ニ戦艦ヲ投スルコトナクシテ白耳義沿岸ノ作戦ヲ遂行スルコトヲ得タリ

第二節 海軍ト海岸戦闘トノ関係

海軍作戦指導ノ要領ハ以上ノ如シト雖状況ニ依リ此等有效ナル作戦ノ遂行ヲ許サスシテ自国沿岸附近ニ蟄伏シテ其防禦兵力、陸軍ノ警衛其他ニ於ナル防禦兵力並陸軍ノ移動兵力ト相俟テ直接ノ海岸防禦ニ従事セサルヘカラサル場合ヲ生スルハ勿論其他前節ノ如キ作戦ニ連繋シ其海上作戦若ハ海陸軍協同上陸作戦上ノ必要ニ基キ海岸戦闘ヲ惹起スルコトアリ

第一款 海岸戦闘ノ発生

以上ノ見地ヨリ一国海軍トシテ其本然ノ海上作戦以外ニ海岸戦闘ニ参与スヘキ場合ヲ列挙スレハ概ネ左ノ如シ

其一 防勢的見地ヨリ生スル海岸戦闘

イ、自国海軍ノ劣勢ニシテ敵国海軍ニ対シ第一節各款ノ一般作戦ノ指導ヲ許ササルトキ

ハ、開戦当初ヨリ絶対優勢ナル敵海軍ニ対スルヲ要スルトキ

ヱ、優勢ナル敵聯合国艦隊ニ対スルヲ要スルトキ

ヌ、開戦当初若ハ某時機ニ於テ自国海軍ノ頗ル不利ナル戦闘ヲ交ヘタルトキ

二、自國海軍主力ノ其本土ヨリ遠隔セル戰場ニ在ルカ若ハ某方面ニ抑制セラレアルニ乘シ敵海軍ノ自由本土ニ對シ策動セルトキ

三、海外屬領等ニシテ自國本土ノ策源地ヨリノ距離ヨリモ遠隔シアルトキ(距離ハ敵國海軍ノ策源地ヨリノ距離)

四、僻所ニ發生スル小規模ノ海岸戰闘

其二 攻勢的見地ヨリ生スル海岸戰闘

一、海上ニ於ケル決戰ニ依リ敵ノ海上兵力ヲ再起シ能ハサル程度ニ撃破シタル後ニ於テ要地ノ占領ニ協同スルトキ

二、海上作戰ノ必要上ヨリ生スル海岸戰闘

イ、海上作戰遂行中艦隊ニ必要トスル對海岸戰闘ヲ行フトキ

ロ、海上作戰上重要ナル敵ノ要点ヲ攻略スル為ニ生スルモノ

三、上陸作戰ニ伴ヒ生起スルモノ

四、前諸項ニ連繫シテ生スル小規模ノモノ

第二款 海岸戰闘ノ特質

海岸ニ對スル攻撃ハ之ヲ大別スルトキハ純然タル海軍ノ攻撃及陸海軍連合ノ攻撃ニ區分スルコトヲ得ヘク其任務、局地ノ地勢、防禦施設及兵力等ニ依リ千差萬別ノ狀態ヲ呈スヘク之ニ對スル防禦ノ特質モ亦、種々ナルヘシト雖、之ヲ便宜上類別スルトキハ概ネ次ノ如クナルヘシ

一、局地ノ攻防

イ、航空機ヲ以テスル攻防

ロ、艦船ヲ以テスル攻撃及之ニ對スル防禦

(イ) 砲撃及之ニ對スル防禦

(ロ) 閉塞及之ニ對スル防禦

(ハ) 機雷攻撃及之ニ對スル防禦

(ニ) 魚雷攻撃及之ニ對スル防禦

(ホ) 防禦網及障碍物ノ破壊並掃海

二、水道及海峽ノ通過ニ伴フ攻防

イ、通過戦

(イ) 強行通過ニ伴フ攻防

(ロ) 潜行通過ニ伴フ攻防

ロ、要撃戦

三、封鎖戦及被封鎖戦

イ、間接封鎖ニ伴フ攻防

ロ、直接封鎖ニ伴フ攻防

四、上陸作戦及奇襲

イ、大規模ノ上陸作戦及其防禦

ロ、小規模ノ上陸作戦及其防禦

ハ、奇襲上陸及其防禦

五、海上交通ノ脅威及支援

イ、敵艦船ヲ沖合ニ迎撃スルモノ及之ニ對スル防禦

ロ、沿岸航行船舶ノ攻撃及之ニ對スル防禦

第二章 海岸附近ニ於ケル航空機ノ攻防

第一節 海岸附近ニ於ケル空中攻撃

海岸及其接續地域ニ對スル空中攻撃（爆撃、雷撃及瓦斯攻撃）ハ各種ノ海岸戦闘ニ連繋シ或ハ獨用セラレテ行ハルルハ勿論、開戦ノ當初ニ方リテハ航空機ヲ主体トシ或ハ航空機ノミヲ以テスル海岸戦闘ノ惹起ヲ見ルコトアルヘク又戦局ノ進捗ニ伴ヒテモ某方面ニ於テハ此種戦闘ノ生起ヲ見ルコトアラントス

以下述フル所ハ主トシテ海軍関係ノモノニ就キ説カントス

航空機ヲ以テ敵國沿岸ヲ攻撃スルニ方リ海上艦船上ヨリスル場合ト陸上基地ヨリスル場合トノ二アリ

第一款 海上艦船ヨリ攻撃スル場合

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

艦船上ヲ基地トシテ空中攻撃ヲ行フタメ使用スヘキ艦船ニ二種アリ航
母艦及特設航空母艦（Air craft Tenders）之ナリ

其一　航空母艦

航空母艦ノ進歩ハ今ヤ種類及大小ノ異ル各種ノ飛行機ヲ塔載シ一艦ニ於ケル其機数一二〇機ニ達スルモノアリ且其甲板上ニ於ケル離着容易トナリシヲ以テ独リ空中偵察ノミナラス戦闘機ノ掩護ノ下ニ爆撃機ヲ使用シ又戦闘機ヲシテ防者ノ戦闘機ニ対抗セシムルト共ニ其機関銃及小爆弾ヲ以テ防者ノ地上軍隊ヲ攻撃セシムルコトヲ得

其二　特設航空母艦

其性能ハ其水上飛行機ヲ逐次躍進セシメツツ之ニ随伴シテ操縦者ニ宿舎ヲ提供シ且燃料、滑油ノ補充、予備品及修理材料ノ支給ヲ行フコトヲ得又水上及陸上飛行機ヲ塔載運搬スルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ在リテハ攻撃ヲ企図スルトキハ水上機ハ之ヲ艦側ノ海面ニ卸下シテ飛行ヲ開始セシメ陸上機ハ之ヲ附近ノ海濱等ヨリ飛翔セシムルヲ要スルモノトス

従ヒテ特設航空母艦ノ使用法ハ之ヲ概別シテ次ノ四種トナスコトヲ得

一、特設母艦ハ予備燃料、爆弾、魚雷等ヲ塔載シ且所要ノ修理作業ヲ行ヒツツ其大型水上機ヲ本土ノ策源地ヨリ攻撃ヲ企図スル地点ニ躍進セシメツツ母艦ハ之ヲ随従ス

二、水上機ヲ塔載運送シ之ヲ所望ノ大洋上ニ卸シテ飛行ヲ開始セシム

三、前項ノ如ク搬送シタル後之ヲ陸地ニ近キ静穏ナル海上ニ卸シテ飛行ヲ開始セシム

四、陸上機ヲ塔載運送シ之ヲ海濱ニ卸下シ附近ニ適切ナル飛行場ヲ求メ該所ヨリ飛行ヲ開始セシム

以上各種方法ノ採用ニ関シテハ次ノ如キ利害関係ヲ生ス

一、大洋上ヨリ飛行開始スル場合

大洋上ヨリ水上機ヲ飛行開始セシメントスルハ一般則トシテ好テ採用セ

スヘキ方法ニ非スシテ大型水上機ノ如キハ極メテ良好ナル天候ニ於テノミ其重爆弾ヲ装備シテ大洋上ヨリ飛行ヲ開始スルコトヲ得ヘシ

然レトモ状況ニ依リ風波ニ庇掩セル海面ノ利用ヲ許サヽル場合ニ於テハ作戦ノ要求上此ノ方法ヲ強行スルコトアリ此ノ際精確ナル天気豫報ハ作戦ノ遂行ニ重大ナル因子ヲ與フルモノトス

二、陸岸ニ近キ静穏ナル海面ヨリ飛行開始スル場合

攻者ニシテ爆撃ノ為水力機ヲ使用セントセハ手段ヲ竭シテ防者砲火ノ威力圏外ニ風波ノ障蔽アル海面ヲ求メンコトヲ努ムルヲ當然トシ又攻者ニシテ奇襲攻撃ヲ行ハントセハ住民ノ存在セサルカ若ハ通信施設ヲ有セサル場所ヲ選定シ以テ其現出ヲ防者ニ告知スルコトナキヲ期スルヲ要ス

三、陸上飛行機ヲ使用スル場合

陸上機ヲ使用シ海濱附近ヨリ飛行ヲ開始セントセハ攻者ハ其攻撃目標ニ接近シテ據点ヲ有スルカ或ハ其飛行機ノ前進路ニ沿ヒ間隔五〇〇哩以下ノ庇掩セル着陸場ヲ有シ之ニ依リテ其特設母艦ヨリ補給及修理ヲ受クルコトヲ得ルヲ以テ必要ナル條件トス

然レトモ他面陸上機ハ其携行重量ノ関係上爆撃及魚雷攻撃ノ為水上機ニ比シ更ニ有效ナル使用ヲ企圖シ得ヘキヲ以テ状況之ヲ許ス限リ其利用ニ努ムルヲ一般トス

其三　航空母艦及特設航空母艦ノ自衛

敵前ニ行動スル航空母艦又ハ特設航空母艦ハ防者ノ主要ナル攻撃目標ナルヲ以テ常ニ厳重ナル自衛警戒ニ努メ通常直衛ヲ配シ又成ルヘク高速ヲ用ヒ且之字運動ヲ行フモノトス

第二款　陸上基地ヨリ攻撃スル場合

陸上基地ヨリ有效ナル爆撃ヲ加ヘントセハ其攻撃目標ヨリ数百哩以内ノ距離ニ基地ヲ有スルヲ要シ斯ノ如キ場合ハ次ノ如キ時ニ限ル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、攻者ノ本領土若ハ占領地域ノ防者ニ接近セルトキ
二、攻者ニシテ防者ニ接近シテ勢力範圍ヲ擴張シタルトキ
三、敵國沿岸ニ基地ヲ占ムルヲ許ストキ若ハ許スニ到レルトキ

戰例一、歐洲大戰間獨軍飛行機ハ其白耳義根據地ヨリ英國沿岸ニ對シ頻繁ノ偵察及爆撃ヲ實施セリ

二、同戰爭間英、佛及米國ノ航空隊ハ「ドーバー」海峡内ノ諸港ニ在リテ白耳義ニ在ル獨逸海軍根據地ニ對シ屡々偵察及爆撃ヲ行ヘリ

第三款　空中攻撃ノ目標

空中攻撃ノ目標タルヘキモノハ爆彈投下ヲ行フ場合ト魚雷ヲ以テスル場合トニ於テ多少其趣ヲ異ニス

其一　爆撃ノ目標トナルヘキモノ
イ、海軍艦船
ロ、陸上砲台ノ要部、火藥庫
ハ、海軍工廠内諸工場、燃料庫及油槽
ニ、軍事上重要ナル製造工場
ホ、乾船渠
ヘ、商船
ト、沿岸都市

其二　魚雷攻撃ノ目標トナルヘキモノ
イ、海軍艦船
ロ、商船
ハ、浮船渠
ニ、乾船渠ノ鉄扉

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二節　海岸附近ノ對空防禦

海岸附近ニ於テ敵ノ空中攻撃ニ對シ防者海軍ノ執ルヘキ行動ハ陸上施設及陸軍部隊ト密接ナル關係ヲ有スルモ本章ハ海軍ニ關スル事項ノミヲ述フ

第一款　海上艦船ヨリ攻撃スルモノニ對スル防禦

海上ノ基地トモ稱スヘキ敵ノ航空母艦及特設航空母艦ヲ攻撃シ根底ヨリ敵ノ企圖ヲ挫折セシムルヲ以テ要件トシ之カ爲敵情偵察ノ手段ヲ竭スコト肝要ナリ

其ノ一　敵情偵察

敵ノ航空母艦及特設航空母艦ヲ偵察シ其状態ヲ明カナラシメンニハ左ノ如キ艦船及航空機（飛行船ヲ含ム）ヲ使用スルヲ要シ敵情ニ依リ差アルモ潜水艦及航空機ハ最モ有利ニ使用セラルル場合多シ

航空機

滑水艦
驅逐艦
巡洋艦

其二、攻撃要領

航空母艦及特設航空母艦ヲ攻撃スルタメ使用スヘキ艦船ハ左ノ如キモノヲ以テ適當トス

航空機
潜水艦
驅逐艦
巡洋艦

敵ノ航空母艦及特設航空母艦ハ直衛ノ外巡洋艦、巡洋戰艦及戰艦等ニ依リテ支援セラレアルコト多カルヘク此際母艦ヲ直接攻撃スヘキヤ或ハ支援ニ任セル艦船ヲ攻撃スヘキヤニ就キテハ彼我ノ兵力ニ依リ實施ノ難易アルヘキモ一般ニ母艦ヲ攻撃スルヲ有利トシ尚判斷ノ基礎トシテ左ノ如キ事項アリ

一、敵ノ爆撃若ハ雷撃ノ防者海軍施設ニ與フルコトヲ得ヘキ損害程度並此損害ノ全戰役ニ與フル效果ノ判斷

コレカ爲ニハ防者陸軍トシテ敵爆撃機ノ行動ヲ阻止スヘキ驅逐機及高射砲兵ノ兵力ヲモ顧慮スルノ要アリ

二、敵ノ母艦ト其支援艦船ノ何レヲ撃沈スルヲ以テ防禦軍ニ重大ナル價値ヲ及ホス可キヤノ判斷

之カ爲彼我海軍ノ兵力及編組ノ全般關係ヲ稽ヘ以テ敵母艦或ハ其支援艦船ノ價値ヲ定ムルヲ要ス

三、敵ノ母艦ト其支援艦船ノ何レカ撃沈若ハ破壞ノ機會多キヤノ判斷

之カ爲觸接ノ難易及成功公算ノ多寡ヲ顧慮スルノ要アリ

第二款　陸上基地ヨリ攻撃スルモノニ對スル防禦

此種防禦ノ方針ハ敵ノ基地（根據地及着陸、着水上ヲモ含ム）ヲ積極的ニ攻撃スルニ在リ　而シテ此任務ヲ解決スル為防者ハ其航空機ヲ使用スルノミナラス艦船ノ利用ニ努メ且陸軍部隊ト協同ノ要アリトス

第三章　砲撃及之ニ對スル防禦

第一節　砲撃

海軍艦船ヨリ海岸ノ重要施設ニ對スル砲撃ハ之ヲ大別シテ左ノ二種トナスコトヲ得

一、海岸砲台ニ對スル大規模ノ砲撃

戰例、一九一五年（大正四年）欧洲大戰間英佛聯合艦隊ノ「ダーダネルス」海峡ニ於ケル土耳古海岸要塞ニ對シ行ヘルモノ

二、重要市街、建築物等ヲ砲撃シ若ハ友軍ニ策應シテ敵ノ外翼ヲ制圧スル等ノ砲撃

戰例、欧洲大戰間局部的ニ各所ニ頻出ノ状ヲ呈シ開戰ヨリ一九一七年（大正六年）三月末マテノ間ニ於テモ聯合軍側ニ於テ一九八回、同盟軍側ニ於テ六一回ノ統計ヲ有スルモ其規模概シテ小ナリ

海軍独力ヲ以テ海岸要塞ニ對シ大規模ノ砲撃ヲ行フハ其本来ノ作戰目標ノ消滅セルカ或ハ状況上止ムヲ得サル場合ニ限ルモノニシテ艦隊トシテ對砲台戰ヲ行フノ不利ハ概ネ次ノ如ク約言スルコトヲ得ヘシ

一、射撃諸元ノ測定及射弾ノ観測共ニ困難且不正確ニシテ有效ナル射撃成果ヲ期待スルコト難シ

二、砲台ハ地形ヲ利用シ且落角大ナル火砲ヲ以テ終始全形ヲ暴露セル艦船ニ對シ數發乃至數十發ノ重砲弾ニ依リ撃沈ヲ期シ得ルニ反シ艦船ハ比較的低伸セル弾道ヲ以テ各所ニ散布セル諸砲台ニ対シ其全戰闘力ヲ奪フコト絶対ニ不可能ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、艦船ニ搭載セル弾薬数ハ比較的寡少ニシテ其補充モ亦容易ナラス

第一款　砲撃ノ主旨及目的

其一、艦船ヲ以テ砲撃ヲ行フヘキ場合

一、敵ノ海上兵力ヲ掃蕩シタル後ニ於テスル場合

二、敵要塞ノ防禦施設ノ適切ナラスシテ且守兵ノ志気旺盛ナラサルモノニ対スル場合

三、作戦ノ遂行上止ムヲ得サル場合

其二、砲撃ノ目的

一、要塞内ニ於ケル市街、重要施設及艦船等ノ破摧又ハ威嚇スルタメニ行フモノ

二、海岸ニ於ケル他ノ戦闘ニ連繋シ諸砲台ニ対スル牽制射撃又ハ毒瓦斯射撃ノタメニ行フカ若ハ某砲台、観測所、電燈所等ニ対シ破壊又ハ制圧センカタメニ行フモノ

三、上陸作戦又ハ陸上部隊ノ攻撃ニ連繋スルタメ真面目ニ行フモノ

第二款　砲撃ノ準備

砲撃ヲ行ハンカタメニハ予メ綿密ナル偵察ヲ行ヒテ防備及水陸ノ地形ヲ明カニスルト共ニ砲撃実施上必要ナル直接準備ヲ整ヘ要スレハ敵艦船及機雷等ニ対スル警備行動ヲ行フヲ要シ其要項左ノ如シ

一、航空機、潜水艦及軽快艦船ヲ以テ予メ偵察ヲ行ヒ以テ海陸ニ於ケル防備（砲台、防禦艦船、機雷等）並海陸（[illegible]ノ地形（暗礁、潮流及水深等ヲ含ム）ヲ偵知スルコト

戦例、一九一五年「ダーダネルス」ノ砲撃ニ於テ聯合艦隊ハ「スキロ」島ノ「トレプーキ」港ニ待機中ヲ利用シ二月十四日、一駆逐艦ニ各艦ノ砲術長ヲ搭乗セシメ海峡口ヨリ約五浬半ノ距離ニ於テ土軍ノ砲火ヲ受ケツツ諸砲台ヲ偵察セリ

二、成シ得ル限リ航空兵力ヲ集結シ敵潜水艇ヲ掃蕩シ且機雷ヲ清掃ス

三、精密ナル地図ヲ有セサル場合ニ在リテハ空中寫眞ヲ撮影シテ間接射撃ヲ準備計画ス

四、砲撃ニ任スヘキ艦船ハ甲板上ニ土嚢若ハ石炭ヲ積載スル等ノ手段ニ依リ防禦力ヲ増大シ又防雷具ヲ装備セシム

第三款　砲撃ノ實施

艦船ノ陸上目標特ニ陸上砲台ニ対スル砲撃ハ既述ノ如キ不利ヲ藏スルヲ以テ之ヲ延セシニハ為シ得レハ防者ノ射程外ヨリ砲撃シ或ハ防者ノ威力ノ発揚ニ不利ナル射界外ヨリスル等ノ手段ヲ採用スルヲ可トシ状況ニヨリ直接攻撃法ヲ強行ス

其一、直接攻撃法

主トシテ艦隊ヲ移動シ比較的近距離ヨリ行フモノニシテ露出砲台及營造物ノ破壊或ハ掃海及上陸等ノ作業ヲ掩護スル等ノ目的ニ適用セラル従ヒテ其砲撃ハ通常短時間ニ行ハレ一時敵ヲ沈黙セシムルノ主旨トス

直接攻撃法ノ特点左ノ如シ

一、適宜直衞ヲ配シ且高速力ヲ以テ運動シ砲台ヨリノ距離及方向ノ変化ヲ大ニシ且同一航路ノ反覆ヲ避ク

二、砲台ノ集中射撃ヲ避ク各個ニ各砲台ヲ撃破沈黙セシムル如ク運動及砲撃ヲ規正ス

三、要スレハ航空機ニ依リテ弾着観測ヲ行フ

其二、間接攻撃法

砲台ノ射程又ハ射界外ニ在リテ適宜直衞ヲ配シ高速力ヲ用ヒ同一航路ノ反覆ヲ避ケツツ行フモノニシテ比較的長時間ノ砲撃ニ適用セラル、状況ニ依リ投錨又ハ停止シテ行フコトアリ

間接攻撃法ノ特点左ノ如シ

一、敵砲台ノ射程及射界外ヨリ逐次撃破ヲ行フ

二、弾着ハ航空機又ハ側方ニ分派セル観測艇ニ依リ行ヒ或ハ射撃間ノ交互観測ニ依ル

三、碇泊中ニ於テハ防潜網ヲ使用シ或ハ航空機其他ヲ以テ敵潜水艇ヲ警戒ス

其三、砲撃ニ関スル要項

一、爆撃ノ併用

艦砲ヲ以テ砲撃スルト共ニ航空兵力ヲ集結シ其全力ヲ挙ケテ爆撃ヲ行フ

二、機雷及潜水艇ニ対スル警戒

砲撃開始ニ先チ予メ機雷ノ掃蕩ヲ行フハ勿論ナルモ戦闘間ニ於テモ亦要スレハ前路掃海ヲ行ヒ又敵潜水艇ニ対シテハ駆逐艇及飛行機ヲ以テ至厳ナル警戒ヲ行フ

三、煙幕ノ利用

暴露セル目標ニ対スル場合ノ外ハ射撃ハ間接射撃ノ要領ニ拠ルヲ一般トスルヲ以テ煙幕ノ利用ニ依リ敵眼ヲ遮盲スルコトヲ努ムルヲ可トス

四、使用弾種

使用弾種ハ榴弾ヲ一般トスヘキモ将来ニ在リテハ少クモ炸薬ノ一部ニ毒瓦斯資剤ヲ混用スルモノヲ使用スヘシ

五、砲撃ノ時機

飛行機ノ観測、仮標ノ照準等ノ便ヲ顧慮シ真面目ノ砲撃ハ昼間ニ於テ行ハルルヲ通常トス

然レトモ防者照明兵器ノ威力著シク劣ル場合或ハ防者ノ砲撃効果ヲ不利ニ導カンカ為其他脅威、牽制等ノ特種目的ニ対シテハ夜間ヲ選ヒテ砲撃ヲ行フコトアルヘシ

六、航空基地ノ獲得

砲撃ノ実施ニハ航空兵力ノ優勢ヲ必要ナル條件トシ之カ為先ツ航空基地ノ獲得奪取ニ力ヲ竭スヲ要スルコト多シ

七、砲撃ノ為使用スヘキ艦種

砲撃ノ為使用スヘキ艦種ハ水上艦船ニ依ルモノト潜水艦ニ依ルモノトニ区分シ得ヘク其差異左ノ如シ

(1) 水上艦船ニ依ル砲撃

此種ノ砲撃ハ防者海軍ヲ掃蕩若ハ圧迫シ制海権ヲ獲得シタル場合ニ於テノミ可能ナリトス

戦例一、ダーダネルス海峡ニ於ケル英佛軍聯合艦隊ノ砲撃

戦例二、欧洲大戦間独逸水上艦船ハ屡ミ英國沿岸ヲ砲撃セシモ何レモ大ナル損害ヲ呈セシムルニ到ラス又最後ニ於ケル巡洋艦隊ハ奇襲ヲ行ヒシモ其目的ハ攻略上及志気上ノ戦果ヲ求メンカ為ニ出テタルモノトス

(2) 潜水艦ニ依ル砲撃

水上艦船ハ自國港湾内ニ閉塞セラレアル場合ニ於テモ潜水艦ヲ以テスル敵國海軍ノ砲撃ヲ行フコトハ可能ナリトス　然レトモ潜水艦ヲ以テ堅固ナル防禦ヲ施セル重要港湾ニ対シ砲撃ヲ試ムルハ頗ル稀ナリト云フヘク通常無防禦ナル小港ノ奇襲若ハ曝露セル海軍基地（飛行場、無線通信所等）ニ対シ砲撃ヲ行フノ程度ニ過キサラントス

第二節　砲撃ニ対スル防禦

敵ノ砲撃ニ対スル防者海軍ノ対抗法ハ我陸軍ノ防禦戦闘ニ協力シテ敵ノ砲撃ニ従事シアル艦船又ハ之ヲ支援シツツアル敵艦船ヲ攻撃スルヲ以テ要旨トシ其一般要領ニ就キテハ左ニ略述スルモノノ外他ノ海岸戦闘ニ比シ特異ノ点ヲ認メス

一、對空中戦闘ニ依リ敵ノ偵察及砲撃準備並実施ヲ妨害シ且水上艦船ニ

依リ之ヲ補助ス

二、砲撃ニ任セル敵艦船或ハ之ヲ支援中ナル敵艦船ニ対シ攻撃ヲ敢行シ其企図ヲ根底ヨリ挫折スルコトヲ必要トス　特ニ敵艦隊防者砲台ノ射程又ハ射界外ヨリ砲撃スル場合ニ於テ然リトス

此種攻撃ニハ潜水艦及駆逐艦ヲ利用スルヲ可トシ又航空機ニ依ル雷撃又ハ爆撃ヲ企図スルコト肝要ナリ

第四章　閉塞及之ニ対スル防禦

防禦港湾若ハ水道内ニ在ル艦船ノ行動ヲ阻止センカ為之等港湾ノ入口若ハ水道上ノ要点ヲ閉塞センニハ閉塞船ヲ使用スルト機雷敷設ニ依ルトノ両方アリト雖本章記述ノ範囲ハ之ヲ前者ノ場合ニ限リ後者ニ就キテハ次章ニ於テ述フル所アラントス

第一節　閉塞攻撃

閉塞船ヲ以テ港湾ノ入口若ハ水道上ノ要点ヲ閉塞セントスル行動ハ戦史左ノ如ク行ハレアリ

一、米西戦争中ニ於ケル米軍ノ「サンチアゴ」ノ閉塞

二、日露役間ニ於ケル日本海軍ノ旅順ニ於ケル三回ノ閉塞

三、欧州大戦中一九一八年（大正七年）四月二十二日夜及五月九日夜英海軍ノ白耳義沿岸ニ於ケル独軍根拠地タル「ジーブルージ」及「オステンド」ニ対シ行ヒシ閉塞

第一款　閉塞ノ準備

閉塞成功ノ第一歩ハ準備ノ優越ニ在リト云フヘク之カ為敵情及地形ヲ明カニスルノ必要ハ勿論、閉塞部隊ノ訓練ニ格段ノ意ヲ拂ハサルヘカラス

敵情ヲ明カニスヘキ要項ハ港湾若ハ水道内ニ在ル敵艦船ノ位置、種類並其企図ニ対スル判断ヲ必要トシ又他方面ニ在ル敵艦船ノ現状ヲ知悉スルコト肝要ニシテ其他敵港湾若ハ水道ノ防備及水陸ノ地勢（水深、潮流、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

潮汐ノ干満等）ヲ明カニシ且豫定閉塞地域附近ニ於ケル氣象状態ヲ精査、熟知スルヲ忘ルヘカラサル件トス

其他敵ノ航路標識並移動状ヲ属スル防禦施設ニ関シテハ努メテ直前ノ現状ヲ偵知スルト共ニ適切ナル判斷ニ依リ防者ノ偽騙動作ヲ妨遏シ以テ夜間ノ活動ニ支障ナカラシムルヲ肝要トス

閉塞ニ任スヘキ部隊ノ訓練ハ閉塞部隊ノ編成ニ伴ヒ努メテ綿密ニ之ヲ行ヒ以テ暗夜敵前ニ於ケル行動ニ毫髪ノ渋滞ナカラシムル如ク準備スルヲ緊要トス

戦例、一、「ジーブルージ」ノ閉塞戦ニ於テ英海軍ハ約二ケ月ニ亘リ兵体ノ訓練及戦術上ノ錬成ヲ行ヒ其成功ニ大ナル素因ヲ與ヘタリ

二、旅順ノ閉塞戦三回中ニ於テモ準備ノ周密度ノ如何ニ範閑成果ニ影響スヘキヤヲ明證シアリ

状況ニ依リ所要ノ海面ヲ掃海シテ閉塞戦ノ前進ヲ準備スルヲ要スルコトアリ

第二款　閉塞ノ實施

閉塞戦ノ実施ハ夜暗ニ伴フ困難ト不確実トヲ妨止シ且其行動ヲ秘匿シ勇敢ナル動作ニ依リ之ヲ遂行スルヲ以テ要訣トス

其一、閉塞船及護衛艦艇

閉塞戦ニハ商船又ハ運送船ヲ使用スルカ或ハ舊式若ハ老朽ノ水上艦船ヲ使用シ且閉塞船ハ防者ノ局地防禦ニ任セル海軍艦船ノ反撃ヲ防止スルニ十分ナル海軍艦船ヲ以テ護衛セラルルヲ通常トス

状況ニ依リ護衛艦ヲ使用スルコトナク閉塞ヲ遂行センカ為潜水艦ヲ閉塞船トシテ利用スルコトアルヘシ

其二、煙幕、照明具ノ利用及小艦艇ノ誘導

閉塞動作ノ遂行ニ方リテハ通常先ツ多数ノ快速ナル小艦艇ヲ挺進シテ

所要ノ水域ニ煙幕ヲ構成シ以テ防者ノ視目ヲ遮盲シ其火力ヲ減殺シ次テ之等小艦艇ノ誘導ニ依リ所望ノ水域ニ閉塞船ヲ進ムルヲ可トス

煙幕ノ利用ハ風向ニヨリ其價値ヲ左右セラルルコト大ニシテ且其風向ハ時ニ変化ノ特質ヲ有スルヲ以テ豫メ十分ナル準備及計画ヲ必要トシ又煙幕ハ敵眼ヲ遮盲スルト同時ニ閉塞船ヲシテ到着地点、航進目標ノ発見、精査ヲ困難ナラシムルコトアルヲ以テ独リ小艦艇ノ誘導ニ依ルノミナラス火箭及吊光弾等ヲ使用シテ要点ノ発見ニ資スルヲ要スルコトアリ

戦例、一、一九一八年四月二十二日夜ニ於ケル「ジーブルージ」閉塞戦ニ於テ英海軍ハ煙幕ノ発生及救助用トシテ「沿岸用モーターボート」十八隻「モーターランチ」三十三隻ヲ使用セリ

二、同夜「オステンド」ニ於ケル第一回ノ閉塞戦ハ「モーターボート」六隻「モーターランチ」二十八隻ヲ使用セシカ煙幕利用ノタメ良果ヲ與ヘシ北東風ハ午前零時十五分ニ到リ俄然南南西ニ変化シ全ク其價値ヲ没却スルニ至レリ

三、五月九日夜ニ於ケル「オステンド」第二回ノ閉塞戦ニ於テ港湾ノ入口ヲ発見センカ為メ英海軍ハ百萬燭光ノ「カルシウム」吊光弾ヲ使用セリ

其三、欺騙、牽制手段及奇襲

閉塞行動ノ実施ニ方リテハ防者ヲ欺騙シ又ハ之ヲ牽制シ其虚ニ乗シテ計画行動ヲ遂行スルカ若ハ全ク奇襲的ニ防者ノ不意ニ乗スルカ如ク行動スルヲ所要トシ欺騙及牽制ノ手段トシテ採用スヘキモノ左ノ如シ

一、航空機ノ爆撃

二、水上艦船及潜水艇ニ依ル砲撃

三、一部ノ奇襲上陸

戦例、英海軍ハ「ゼーブルージ」及「オステンド」第一回ノ閉塞戦ニ於テハ砲撃、爆撃ニ依リ牽制及欺騙ヲ企テシモ「オステンド」第二回ノ閉塞戦ニ於テハ全ク之等ノ行動ヲ行フコトナク不意且突如トシテ同時攻撃ヲ開始セリ

其四、閉塞隊ノ収容

閉塞隊ハ其閉塞船ヲ所望ノ位置ニ撃沈スルヤ閉塞船ニ搭載セル小艇若ハ随行セル軽快小艦艇ニ依リ乗員ヲ収容撤退スルヲ一般トシ状況ニ依リ目的達成後更ニ一部ノ乗員ヲシテ陸上ノ要点ニ対シ決死的ノ奇襲上陸攻撃ヲ敢行セシムルコトアリ

第二節　閉塞ニ対スル防禦

敵海軍ノ閉塞行動ニ対シ防者海軍ノ執ルヘキ行動ハ豫メ敵情ヲ明カニシテ之ニ対抗ノ手段ヲ講シ敵ノ欺騙及牽制動作ニ優越シテ敵ノ企図ヲ根底ヨリ挫折セシムルヲ肝要トス

其一、一般ノ要領

敵閉塞部隊ノ其閉塞セントスル港湾若ハ水道ヨリ尚ホ離隔セル距離ニ在ルトキ捜索ノ手段ヲ竭シテ敵ノ攻撃兵力及其位置ヲ確知シ之ニ対シ優勢ナル兵力ヲ集結スルヲ努ムルト共ニ絶エス敵情ノ変化ニ留意シ其機微ニ亘リテ精査シ以テ適切ナル対抗法ヲ講スルコト所要ナリトス

状況ノ切迫ニ伴ヒテハ其警戒勤務ヲ至厳ニシ且適切ナル戦術上ノ判断ニ依リ敵ノ豫備行動ヲ凌駕スルト共ニ陸上部隊ト緊密ナル連繋ヲ保持シ敵閉塞船ノ未タ豫定位置ニ到着セサルニ先タチ之ヲ撃沈スルヲ期スルヲ要シ状況之ヲ許セハ敵ノ護衛艦船ヲ攻撃スルヲ可トス

其二、対閉塞戦ニ使用スヘキ海軍兵力要素

此種戦闘ニ使用スヘキ防者海軍兵力要素及其特質次ノ如シ

一、潜水艦

敵ノ近接ヲ友軍ニ通報シ且敵ノ護衛艦船ニ魚雷攻撃ヲ加ヘ又敵閉塞

船ヲ撃破スルニ適ス

二、航空機

敵兵ヲ離隔シアル場合ニ於ケル捜索及偵察ニ適スルモ閉塞戦ノ発生ニ方リテハ夜暗ノ関係上其用途寧ロ寡少ナリ

三、水中聴音機ヲ装備セル哨戒船

敵ノ近接ヲ偵知、報告セシムルタメ価値大ナリ

四、機雷、

敵ノ閉塞船ニ対シ有効ナル武器トシテ使用セラレ之カ為敵ノ閉塞ヲ予期スルトキハ之ヲ所要ノ海面ニ設置スルヲ可トシ此際友軍艦船通過ノタメ支障ヲ呈セサル如ク企画スルコト肝要ナリ

五、防禦網及防材

之ヲ支持スヘキ艦船若ハ陸上防備施設ト相俟ケテ其効果ヲ発揚ハヘク然ラサルトキハ其価値少キコト「ゼーブルージ」ニ於ケル戦例ノ明證スルトコロナリ

第五章　機雷攻撃及之ニ対スル防禦

第一節　機雷敷設一般ノ要領

第一款　機雷ノ種類及性能

機雷ニハ繋維機雷及無繋維機雷ノ二種ヲ有シ其用途ハ攻防ノ目的ニ依リ差アリ

現時海軍ニ於テハ各国共視発機雷ハ殆ント之ヲ使用セサルモ米陸軍海岸砲兵ハ其根拠防禦海面ニ視発機雷ヲ使用スルヲ本則トシアリ

其一、繋維機雷

攻防何レノ目的ニモ使用セラルルモノニシテ敵艦船ハ機雷罐ニ触レタル場合ニ危害ヲ被ルモノトス其或種ノモノハ単ニ繋維索ノミニ触レタル場合ニ於テモ爆発シテ艦船ニ危害ヲ及ホスモノアリ然レトモ此種ノ機雷ノ不利ハ時トシテ友軍艦船ニ不測ノ危害ヲ呈スルコト之ナリ　機雷ヲ使用シ得ヘキ水深ノ限度ハ約八〇〇米迄ニ有効ニシテ更ニ深海用ノモノハ尚

試験中ナルモノノ如ク其設置ハ繋維索ノ長度ヲ加減シテ水面下ニ於ケル機雷鑵ノ位置ヲ規正スルコトヲ得ヘク目標ノ水上艦船ナルト潜水艇ナルトニ依リ差異ヲ呈ス　而シテ對潜水艇ノ為ニハ潜水艇ノ最大潜航深度ヲ標準トシ水面下七〇米ヨリ約一〇米ノ深度差ヲ以テ数段ニ敷設スル機雷堰ヲ構成スルヲ通常トス

其二、無繋維機雷

欧洲戦中独逸及土耳古海軍ニ於テ之ヲ使用シ又最近各國海軍ニ於テ之ヲ使用シ（又最近各国海軍ニ於テ之ヲ使用シ）若ハ実験シツツアルカ如キモ其構造ハ詳カナラス　然レトモ之ヲ防禦的用法ニ使用シ敵ノ出現ニ際シ其航路附近ニ敷設シ攻者艦船ノ水線附近ニ損害ヲ與ヘントスルモノニシテ防禦力ナキ小艦及運送船等ノ如キハ致命的ノ損害ヲ蒙ルヘキ性質ノモノタルハ明カナリ

第二欵　機雷敷設ニ及ホス交感

本欵ニハ現時ノ攻防ニ於テ最モ活用性ヲ有スル触発機雷ノ敷設ニ交感スヘキ海洋上ノ特性ヲ述ヘントス

其一、近接海面、水路及港湾入口ノ幅員

一、近接海面及水路

港湾若ハ水道ノ前方ヘ機雷布設ヲ行ハントスル艦船ハ其目標タル港湾若ハ水道ノ入口ニ對シ関猶セル近接海面又ハ水路ヲ有スルコト所要ナリ

二、港湾入口ノ幅員

港湾ノ入口若クハ水道ノ幅員ハ何レモ大ナル交感ヲ有セス　即チ幅員小ナルモノハ敷設閉塞スヘキ区域ノ小ヨリ之ヘハ容易ナランモ他面敷設ニ任スル艦船ノ狭隘危険ナル水域ニ於テ侵入及作業上ノ困難ヲ伴フヘク、幅員廣キモノハ之ニ反スルノ利害ヲ呈ス

其二、潮流、干満差及水深等

一、潮流速度ト機雷深度トノ関係

潮流ノ機雷ニ對スル影響ハ敷設深度（水面ヨリ機雷迄ノ深サ）水深及潮高ノ大小等ニ依リテ其程度ヲ異ニス　故ニ潮流ト機雷トノ關係ヲ述ヘントセハ之等ノ相互關係ニ依ル影響ヲ研究シ且之ニ目標艦艇ノ吃水ヲ關連考慮シ結局最後ノ決定トシテハ某水深、某潮高ノ場所ニ於テ某敷設深度ノ機雷ハ某目標艦種ニ對シ幾何ノ潮流迄有効ナルヤヲ確ムルヲ實用的トス
今敷設深度ヲ敵艦ノ吃水以上ニ増大セシムル流潮速度（節）ヲ表示スレハ左ノ如シ

海深（米）	潮高（米） ＼ 敷設深度 ＼ 吃水 ＼ 目標艦種	戦艦 一〇米 九米	戦艦 一〇米 七米	戦艦 一〇米 五米	巡洋艦 六米 四米	巡洋艦 六米 三米	巡洋艦 六米 二米	駆逐艦 四米 三米	駆逐艦 四米 二米	駆逐艦 四米 一米
四〇	〇	1.5	2.10	2.70	1.80	2.00	2.40	1.50	1.70	2.00
	一	0	1.70	2.50	1.50	1.80	2.00	0	1.50	1.70
	二		1.50	2.10	0	1.50	1.80		0	1.50
	三		0	1.70		0	1.50			0
六〇	〇	1.20	1.70	2.00	1.50	1.70	1.80	1.30	1.50	1.70
	一	0	1.50	1.80	1.20	1.50	1.70	0	1.30	1.50
	二		1.20	1.70	0	1.20	1.50		0	1.30
	三		0	1.50			1.20			0
一〇〇	〇	0.75	1.10	1.40	1.00	1.11	1.30	0.75	1.20	1.10
	一	0	1.00	1.30	0.75	1.00	1.10	0	0.75	1.00
	二		0.75	1.10	0	0.75	1.00		0	0.85
	三		0	1.00		0	0.75			0
一四〇	〇	0.50	0.80	1.00	0.70	0.80	0.90	0.50	0.70	0.80
	一	0	0.70	0.90	0.50	0.70	0.80	0	0.50	0.70
	二		0.50	0.80	0	0.50	0.70		0	0.50
	三		0	0.70		0	0.50			0

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二、潮流特質ノ関係

潮流ノ特質トシテ考慮スヘキハ一定方向ニ常流スル潮流ト約六時間ヲ間シテ反對方向ニ流ルルモノトニ對スル交感之ナリ

(イ)　一定方向ニ流ルル潮流

概ネ同一ノ速度ヲ以テ一定方向ニ流ルル潮ハ機雷ノ効力ヲ減殺スルコトナク又斯ノ如キ潮流ハ其速度ノ小ナルヲ一般トス

斯ノ如キ敷設海面ニ在リテハ潮流ノ変差ニ基ク繋維索長ノ差異ノ平均値ヲ同索ニ延長スルヲ常トス

(ロ)　一定時間ヲ間シ反對方向ニ流ルル潮流

此種海面ニ於ケル機雷敷設ハ機雷ノ効力ヲ減殺スルコト大ナリセヲ前表ニ對照スルニ六十米ノ水深ニテ潮高〇米敷設深度五米ノ場合戦艦ニ對シ潮流ニ節迄、一四〇米ノ水深ニ於テハ一節迄ノ潮流ニ於テノミ有効ナルヲ知ルヘク其他ノ場合ニ在リテハ某程度ノ水面下ニ於ケル効力ヲ無視スルカ若ハ潮流ノ緩ナルトキ機雷鐘ヲ水面ニ暴露シ無効トナルヘシ

三、潮汐ノ高低

潮汐干満差ハ其程度如何ニ依リテ機雷ノ効力ヲ減殺スルコト前記反對方向ニ流ルル潮流ト同様ナリ

四、敷設潜水艇ノ為必要ナル水深

潜水艦ヲ以テ機雷敷設ヲ行ハントセハ潜水艦ノ通過スヘキ水域ハ少クモ十五米ノ水深ヲ有セサル可カラス

其三、熱帯海面ノ特色

熱帯地方ノ海面ニ在リテハ海面下約十米ニ在ル機雷ト雖飛行機上ヨリ之ヲ認識スルコトヲ得ヘク又此十米ハ水上艦船ニ對スル機雷効力ノ最大限度ニ偏ス　従テ熱帯海面ニ於ケル機雷ノ効力ハ他ノ海面(日本近海ニ於ケル不透明ノ海面ニ在リテハ約三米)ニ比シ特異ノ状ヲ呈スル

コトヲ銘刻セサルヘカラス

第二節　機雷攻撃

機雷ハ元来防禦的兵器ナリシモ日露役ニ於ケル日本海軍ノ旅順ニ於ケル攻勢的使用及欧洲大戦ニ於ケル各國ノ機雷用法特ニ「ドーバー」海峡及北海ニ於ケル障壁的用法ハ機雷ノ攻撃武器トシテ頗ル有効ナルヲ實証シ将来ノ戦ニ在リテハ益々其利用ノ範囲大ニシテ價値ヲ発揮スルモノト信セラル

其一、攻撃ニ於ケル機雷ノ用法

機雷ノ攻撃的用法ハ概ネ左ノ如ク概別スルコトヲ得ヘシ

一、敵海上兵力ヲ滅殺スル目的ヲ以テ敵港湾附近又ハ豫想航路上ニ敷設スル場合

二、敵ノ作戦行動区域ヲ制限シ或ハ通商交通ヲ阻止スル目的ヲ以テ比較的廣範囲ニ敷設スル場合

三、敵港湾及水道等ノ閉塞

四、敵港湾及水路ノ封鎖

其二、敷設ノ為使用スヘキ艦艇及其要領

攻撃ノ為機雷ヲ敷設スルニハ其規模ノ大小、隠密ヲ要スル程度等ニ依リ使用スヘキ艦艇及敷設要領ヲ異ニスルモノトス

一、敷設ノ為使用スヘキ艦艇及其携行機雷数ノ概要

機雷敷設艦	大型	五〇〇個
	小型	六〇個
敷設潜水艦		二五－五〇個
巡洋艦		六〇個

二、敷設要領

大規模ノ敷設ニハ敷設艦、巡洋艦若ハ驅逐艦ヲ使用シ敵ノ行動ヲ制限スルヲ以テ目的トシ隱密ノ敷設ハ專ラ潛水艦ヲ使用シ適切ナル時期ト場所トヲ選ヒテ之ヲ行ヒ敵艦船ノ爆沈ヲ目的トスルモノトス
敵情ニ依リ監視部隊ヲ配置シテ敵敷設機雷ノ排除ヲ積極的ニ妨害スルヲ要スルコトアリ

第三節　機雷攻擊ニ對スル防禦

防者海軍ノ機雷ニ關シ執ルヘキ行動ハ概ネ次ノ三種ニ區分スルコトヲ得ヘシ

一、攻者海軍ノ行動ヲ阻止、遲滯、又ハ制限スル目的ヲ以テスル防禦機雷ノ用法
二、攻者ノ機雷敷設ニ對スル各種ノ防禦戰鬪
三、防禦機雷ヲ掃海セントスル敵ニ對スル戰鬪

以上ノ内防禦機雷ノ用法ニ關シテハ第一節ニ述ヘタル無繫維機雷ヲ使付スル外概ネ第二節ニ述ヘタルモノニ同シク掃海ニ關シテハ攻防ヲ一括シテ第七章中ニ之ヲ說クヘキヲ以テ以下主トシテ第二項ノ防禦戰鬪ニ就キ防者トシテ各種艦艇ノ用法ヲ敍セントス

一、潛水艦

攻者ノ使用スヘキ各種ノ機雷敷設艦ニ對スル戰鬪及低速度ヲ以テ敷設中ナル敵巡洋艦ニ對シ其行動ヲ阻支スヘキコトヲ得ヘキモ其他ノ敵艦艇ノ敷設行動ヲ阻止スルタメ有效ナラス　コレ敵ノ企圖スヘキ敷設ハ通常夜間ニ於テ行ハルルヲ以テ敵ノ潛水艦ニ對シテハ其ノ位置ヲ標定スルコト困難ニシテ又敵ノ驅逐艦及高速度ノ敷設艦ニ對シテハ魚雷ノ命中ヲ期シ難キケレハナリ
然レトモ亦同時ニ假令魚雷ノ命中ヲ期シ得サルモ防者潛水艦ノ此種ノ用法ハ敵ニ重大ナル士氣上ノ效果ヲ與ヘ敵ヲシテ其敷設行動ヲ急遽不確實ナラシムルノ關係ノ利益ハ之ヲ認ムルコトヲ得ヘク更ニ又斯ノ如

キ用法ニ於テハ防禦潜水艦モ亦敵機雷ノ為損傷ヲ受ケ或ハ撃沈セラルルコトアルヲ期セサルヘカラサルモノトス

二、航空機

晝間ニ於ケル敵ノ機雷敷設ヲ偵知シ之ヲ攻撃セシムル為有効ナルモ夜間ニ於テハ其効果乏シキモノトス

即チ晝間ニ於テ機雷敷設ヲ行フ敵ノ水上艦艇ニ對シテハ勿論熱帯海面ニ在リテハ沿岸ニ近ク敷設中ナル敵潜水艦及既ニ敷設セシ機雷ヲ偵知セシムル為有効ナル行動ヲ豫期スルコトヲ得ヘシ

三、哨戒艇

敵艦艇ノ機雷敷設中ナルヲ偵知シ速ニ之ヲ通報セシムル為極メテ有利ニ之ヲ使用スルコトヲ得ヘク其水中聴音機ヲ使用スルトキハ約一〇〇〇〇米（五浬）ノ範囲ニ於ケル敵潜水艦ヲ標定シ爆雷ヲ以テ之ヲ攻撃スルコトヲ得ヘシ

四、駆逐艦

敵ノ各種敷設艦艇ヲ捜索シテ之ヲ攻撃スルタメ使用シ得ヘク敵潜水艦ニ對シテハ火砲若ハ爆雷ニ依リ、敵敷設艦ニ對シテハ火砲若ハ魚雷ニ依リ攻撃スルモノトス又夜間ト雖敵敷設艦ニ對シテハ魚雷攻撃ヲ行ハサルヘカラサルコトアルモ敵ノ速度大ナルトキハ其十分ナル効力ノ期待困難ナリ

五、巡洋艦

敵ノ敷設艦ヲ捜索スル為利用スルコト稀ナルモ已ニ他ノ友軍艦艇ニ依リ被害ヲ受ケタル敵ノ敷設艦ニ對スル攻撃ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第四節　掃海

機雷ヲ以テスル攻防ニ関聯シ掃海行動ハ各種ノ戦況ニ連繋シテ発生スルモノニシテ実ニ掃海ハ機雷ヲ敷設ケル海面ニ於ケル作戦ノ除幕的豫備行動ナリト称スルコトヲ得ル場合寡シ　然レトモ機雷アル海面ニ對シテハ敵ハ必ス事前ノ掃海ヲ行フモノナリト断スルハ過早ニシテ掃海ト本

行動トノ間ニ時間ヲ間スルハ已ニ拙策タルヲ免レス　從ヒテ或ハ本行動ト同時若ハ極メテ僅少ナル時間ヲ隔テテ之ヲ行フヲ一般トスヘク時トシテハ敵ノ意表ニ出テテ奇効ヲ奏セシカ爲多少ノ犠牲ヲ覺悟シテ豫メ掃海ヲ行フコトナク直ニ其本行動ヲ企図スルコトアルハ一九一七年秋ニ於ケル「リガ」湾口ニ於テ独海軍ノ行ヒシモノノ如キヲ生スヘシ　特ニ艦船ニ防雷具ヲ附シテ機雷ニ依ル損害ヲ減少シ得ルニ於テ然リトス

掃海ニハ泊地掃海及前路掃海ノ二種アリテ泊地掃海ハ連日又ハ必要ニ應シ艦隊ノ泊地又ハ泊地ヨリ外海ニ出入スル航路ヲ掃海スルヲ目的トシ駆逐艦、掃海艇又ハ短艇ヲ使用シテ之ヲ行ヒ前路掃海ハ我艦隊ノ機雷ヲ敷設セル危険海面ヲ航行スルニ當リ比較的高速(〇〇)ノ艦船ヲ使用シテ其前方ニ進メ以テ前路ノ掃海ヲ行ハシムルモノニシテ近時之カタメ駆逐艦ヲ使用スルヲ常トス

敵前ニ於ケル掃海ノ實施ニ關シテハ概ネ次ノ三方法ヲ認ムルコトヲ得ヘシ

一、掃海艦艇ヲ以テスルモノ

掃海艦艇ヲシテ掃海具ヲ曳航セシメ該掃海具ニ依リテ機雷ノ繋維索ヲ切斷シテ機雷鐘ヲ浮上セシメ或ハ索ヲ切斷スルコトナリ之ヲ鉤促シテ淺所又ハ深所ニ移動スルノ両法アリ

二、航空機ヲ以テ爆撃ス

而シテ前記ノ掃海ヲ實施セシメンニハ駆逐艦及輕巡洋艦等ヲ使用シ之ヲ支援セシムルヲ通常トス

第六章　魚雷攻撃及之ニ對スル防禦

海洋戰ニ於ケル魚雷ハ晝夜ヲ問ハス有効ナル武器ニシテ特ニ夜間戰闘ニ於テハ主兵ノ地位ヲ占メ晝間戰闘ニ於テハ補助兵器ノ首位ヲ占ムルコト戰史ノ明認スル所ナルモ本章ニ於テハ防禦港湾ニ對スル魚雷攻撃及之ニ對スル防禦ニ就キ述ヘントス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一節　港湾ニ對スル魚雷攻撃

一、魚雷ノ装備及効果

現時各國艦船ヲ通覧スルニ魚雷発射管ノ口径及発射管数ハ左表ノ如シ

艦種	口径（糎）	数
戦艦	五三以上	二－八
巡洋戦艦	五〇以上	四－八
巡洋艦	五三－五五	六－一二
駆逐艦	四五－五五	四－一二
潜水艦	四五－五五	四－一〇

魚雷ノ命中効果ハ魚雷口径ノ大小及目標タルヘキ艦船ニ依リ一定シ難シト雖沈没セシムルタメノ命中魚雷ノ標準ハ概ネ左ノ如シ

大艦	三乃至四発
小艦	一乃至二発
運送船	一発

現時魚雷ノ最大有効射程ハ約二〇〇〇米ト認ムルコトヲ得ヘシ

二、港湾内艦船ノ攻撃要領

港湾内ニ對シ魚雷攻撃ヲ行ハンニハ該港湾ニ對スル廣濶且制限ナキ近接路ヲ有シ又港湾ノ入口ノ廣濶且真直ナルヲ要件トシ開放セル海面ニ碇泊セル艦船ニ對スル攻撃ハ最モ容易ナリトス　若潜水艦ヲ以テ攻撃ヲ行ハントセハ港湾ノ入口ニ至ル迄水深少クモ十五米ナルヲ要ス

晝間潜水艦ヲ以テ魚雷攻撃ヲ行ハントスル場合ニ於テハ若防者ニシテ適切ナル對抗法ヲ採用セルトキハ其成功ノ公算著シク寡少ナリ　之ニ反シ夜暗ニ乗シ駆逐艦若ハ水上潜水艦ヲ以テスル此種ノ攻撃ハ有効ナルモノトス

第二節　魚雷攻撃ニ対スル防禦

港湾ニ対スル敵艦船ノ魚雷攻撃ニ対スル防禦ハ既ニ述ヘタル機雷敷設攻撃ニ対スル防禦法ヲ準用スルコトヲ得ヘク特ニ附加スヘキ件ヲ列挙スレハ左ノ如シ

一、小区域ノ機雷敷設

防禦港湾ニ対スル近接海面ニシテ敵艦船ノ通過ヲ豫期シ而モ我防禦艦船ノ通過ニ使用スルヲ要セサル区域ニハ機雷ヲ敷設シ又開濶セル錨泊地ヲ採用セル場合ニ在リテハ其全周ニ亘リテ魚雷ノ射程範囲外ニ機雷ヲ敷設スルヲ可トス

二、防禦艦船ノ碇泊位置及碇泊法

敵艦艇ノ魚雷攻撃ヲ避ケンニハ港湾ノ状態ニ応シ碇泊位置ノ選定及碇泊法ヲ適切ナラシムルヲ要シ之カ為顧慮スヘキ件左ノ如シ

(イ) 敵艦船カ防禦港湾外方ヨリ港湾ノ入口ヲ通シテ発射スル魚雷ノ方線方向ヲ避ケタル区域ニ碇泊位置ヲ選定ス

(ロ) 港湾入口ノ方向ニ艦船ノ主軸ヲ一致セシメ以テ敵ノ攻撃魚雷ニ対シ最小ノ艦船幅員ヲ呈スル如ク投錨碇泊ス

三、燈火ノ秘匿及消滅

夜間ニ於テハ各艦船上ノ燈火ヲ庇ヒ且港湾附近ノ燈火ヲ消滅ス

四、魚雷網ノ使用

魚雷網ヲ使用スルハ好テ採用スヘキ手段ニ非スシテ他ノ方法ヲ採用シ難キ場合ニ於ケル最後ノ手段ナリトス　コレ魚雷網ハ切断器ヲ具有スル魚雷ニ対シテハ其効果少キノミナラス友軍艦船通過ノ為ニハ通過門ヲ設ケサルヲ得サルト其装備ハ著シク高價ナレハナリ

第七章　水路及海峡ノ通過ニ伴フ攻防

水路及海峡ニ対スル艦船ノ通過ニ伴フ攻防ハ之ヲ攻者ヨリ見ルトキハ主力ヲ以テスル強行通過及軽快艦船ヲ以テスル潜航通過ノ二ニ概別スルコ

トヲ得ヘク港湾ニ対スル突入ノ極メテ困難ナルニ比シ水路及海峡ニ対スル突進通過特ニ其潜行通過ハ其成功ノ機会アリ
又此種戦闘ヲ防者ヨリ観ルトキハ敵ノ強行通過及潜行通過ニ対スル直接ノ防戦ト要撃戦トニ概別スルコトヲ得ヘシ

第一節　通過戦

第一款　強行通過（ダーダネルス及リガ湾口ニ於ケル戦例参照）

地形及水路ノ状態特ニ水路及海峡ノ幅員、長短、潮流、水深並気象状態ハ素ヨリ其他防者海上兵力及空中兵力ノ多寡並陸上防備ノ程度ニ依リ執ルヘキ戦法ハ千差ナルヘシト雖其不利トスル所ハ谷窄ノ障碍ヲ冒シテ所謂隘路ヲ通過セサル可カラサルニ依リ従ヒテ通過戦ノ要訣ハ此不利ヲ極度ニ減少スルニ存シ其要旨ハ左ノ如ク約言スルコトヲ得ヘシ

(イ)　視界小ナル時機ヲ選択シ尚敵眼ヲ遮盲スルノ処置ヲ講スルコト

(ロ)　運動自在ナル隊形ヲ保持スルコト

(ハ)　警戒ヲ至厳ナラシムルコト

(ニ)　通過ノ時間ヲ極力短縮スルコト

一、時機ノ選定

通過ノ時機ハ昼夜何レトスヘキヤハ地形、防者ノ防備状態及攻者艦隊ノ兵力編組等ニ依リ決スヘキモノナリ

昼間ハ航行容易ニシテ水中障碍物ノ排除回避ニ便ナルモ同時ニ敵砲台飛行機及潜水艦等ノ攻撃ヲ受ケ易キノ不利ヲ蔵シ夜間ニ於テハ其利害相反シ特ニ生地ニ於ケル大部隊ヲ以テスル高速力ノ突破ハ航行上ノ危険大ナリトス

二、通過ノ実施要領

(イ)　敵情偵察及欺騙

企図ヲ暴露セサル限リ航空機ヲ以テ敵情特ニ防備状態ヲ偵察スルヲ肝要トシ事前ニ於テ予メ十分ナル偵察ヲ行ヒアル場合ト雖若干時間

前ニ於ケル一般状態ヲ明カナラシムルヲ要ス
又敵ヲ牽制、欺瞞スル目的ヲ以テ陽動ヲ試ムルヲ可トスルコトアリ

(ロ) 時機ノ選定及煙幕利用

状況之ヲ許セハ夜暗、雨雪、霧靄等ヲ利用スルカ或ハ払暁時ヲ選フヲ可トシ陸上砲台ヲ遮蔽スル為煙幕ヲ利用スルヲ可トス
煙幕ノ展張ニハ通常飛行機煙幕、駆逐艇ニ依ル煤煙幕等ヲ利用スルモノトス

(ハ) 掃海

水深、潮流等ノ関係上機雷ニ対シ顧慮ヲ要セサル場合ノ外掃海部隊ヲ先行シ或ハ少クモ前路掃海ヲ以テ敵機雷ノ掃海ヲ行フヲ通常トス
状況ニ依リテハ一部ノ犠牲ヲ覚悟シ且敵ノ意表ニ出ツル目的ヲ以テ掃海作業ヲ行フコトナク通過ヲ企図スルコトアリ

(ニ) 通過ノ隊形及区分

水路及海峡ノ広狭及防備ノ程度ニ依リ一定セサルモ主隊ハ縦長隊形ヲ執リ前衛ヲ強力ニシ特ニ直衛配備ヲ厳重ニシ敵潜水艦ニ対スル警戒ヲ十分ナラシムルヲ要ス
主隊ハ其兵力及編組ニヨリ各個撃破ヲ受クル虞ナキ限リ数群ニ区分シテ前進スルヲ可トス　又大部隊ニ在リテハ軽快部隊ヲ先行シテ敵ノ配備ヲ攪乱セシムルヲ可トスルコトアリ

(ホ) 航進及速力

不規則ノ変針ヲ行ヒツツ高速力ヲ以テ一挙急速ニ通過スルヲ可トシ状況ニ依リ多少ノ損害ヲ覚悟シ急速通過ヲ旨トセサルヘカラサルコトアリ

(ヘ) 敵ノ抵抗ニ対スル応戦

艦隊ハ真面目ノ戦闘ヲ避ケ成ルヘク急速通過ヲ本旨トスルモ敵主隊ト交戦スルニ方リテハ彼我ノ対勢ノ変化ニ顧慮スルコトナク近接猛撃ヲ

加ヘ敵ノ砲台下ニ在リテハ寧ロ敵艦隊ト混戦スルヲ可トス
敵若水上艦艇ヲ以テ反撃ヲ企図スルニ方リテハ先有力ナル前進部隊ヲ以テ之ヲ撃破シタル後ニ通過スヘキヤ或ハ全隊一挙ニ通過スヘキヤハ一ニ状況ニ依リ之ヲ決スルモノトス

第二款　潜行通過　（ダーダネルス戦例参照）

軽快艦船特ニ潜水艦及駆逐艦ヲ以テ水路及海峡ヲ通過潜入シ内部ニ於ケル作戦ヲ企図スルハ其奏功比較的容易ニシテ従ヒテ此種戦闘ノ頻出スヘキコト之ヲ過去ノ戦史ニ徴スルモ明カナリ潜行通過ハ暗夜、濃霧、雨雪等ヲ利用シ奇襲的ニ或ハ隠密ニ之ヲ遂行スルヲ肝要トシ其実施要領ハ一ニ状況ニ依ルモノトス

第二節　通過ニ対スル防禦

第一款　直接防禦

水路及海峡ニ対スル敵艦船ノ通過企図ヲ挫折セシムルニハ各種ノ海軍兵力要素、就中廣区域ノ敷設機雷、魚雷及爆撃飛行機並潜水艦ヲ利用スルヲ可トシ一般ニ敵ノ行動ヲ阻止スル為執ル可キ手段ハ次ノ三ト約言スルコトヲ得ヘシ

一、哨戒艦船

敵艦船ノ求タ目的トスル通過区域ヘ進入セサルニ先タチ適時之ヲ發見シ且要スレハ照明彈及探照燈ヲ以テ之ヲ照明シテ陸上砲台ノ射撃ヲ有效ナラシメンニハ輕快ニシテ前記ノ如キ裝備ヲ有スル小哨戒艦船ヲ使用シ此任務ニ服セシムルヲ可トス

二、機雷及障碍物ヲ以テ入口ノ閉塞

諸種ノ防禦用網防材及機雷ハ敵潜水艦ヲ阻止スルタメ有效ナリ又機雷ハ敵ノ驅逐艦及巡洋艦ニ對シテモ（有效ナルモ網又防材ハ此等ノ潜入ニ對シテハ）其効果乏シキヲ一般トス

然レトモ亦防禦網ノ推進機ニ纏絡スルトキハ大ナル損害ヲ與フルノ機會ヲ呈スルモノトス

三、通過中若ハ内部ニ侵入シタル敵ニ對スル攻撃

(イ) 潜水艦ヲ以テスル場合

敵艦船特ニ其潜水艦及驅逐艦ノ夜間侵入ヲ防止スル爲有效ナラス然レトモ敵ノ一度侵入シタル後ニ在リテハ晝間ニ於テ好機ヲ捉ヘ此等敵艦船ヲ攻撃スル爲極メテ有利ナリ

(ロ) 驅逐艦及巡洋艦

其砲火及爆雷ヲ以テ侵入ヲ企テツツアル敵艦船ヲ攻撃スル爲必要ニシテ又一度侵入ヲ完了セル敵艦船ニ對シ之ヲ攻撃シ内部海面ノ制海權ヲ獲得スル爲極メテ必要ナリトス

第二款　要撃戰

固定及移動兵力ヲ善用シ地形ノ利ニヨリ敵通過艦船ノ運動ヲ覊束シ敵艦船ノ不利ナル態勢ニ乘シ之ヲ擊破セントスルヲ以テ目的トシ特ニ考慮スヘキ諸件左ノ如シ

(イ) 要撃地点ノ選定ヲ適切ナラシムルコト

(ロ) 敵ノ奇襲ニ對スル警戒至嚴ナルヘキコト

(ハ) 成ルヘク長ク敵ヲ隘路内ニ拘束スルコト

(ニ) 補助機関ヲ善用スルコト

(ホ) 地形ヲ利用シテ敵ノ運動ヲ覊束シ我全力ヲ挙ケテ敵ノ一部ニ猛撃ヲ加フルコト

一、要撃部隊ノ兵力配備

要撃部隊兵力配備ノ要領概ネ左ノ如シ

(イ) 水道外側ニ航空機及哨戒艦船ヲ配備ス

(ロ) 水道内外ノ要所ニ駆逐艦及潜水艦ヲ配備シ又水深及潮流等ノ関係之ヲ許サハ機雷ヲ敷設ス

(ハ) 陸上ノ防備ヲ完全ニス

(ニ) 防者主力艦船ハ水道ノ内側ニ待機シ且警戒ヲ厳ナラシム

二、要撃戦ノ指導要領

(イ) 敵艦船ノ水道ヲ通過シ其内側ニ近ク地形ニ制セラレツツ展開ヲ行ハントスルトキ其展開未完ノ時機ヲ捕捉シ全力ヲ挙ケテ之ヲ攻撃シ敵ヲシテ進退谷マルノ不利ナル状態ニ陥ラシムルニ在リ

敵若シ優勢ナルトキハ寧ロ水道ノ内側附近ニ之ヲ要撃シ敵ヲシテ展開ノ餘地ナカラシムルヲ利アリトス

(ロ) 防者主隊ハ敵ニ先ンシテ展開ヲ完了スルヲ要スト雖過早ニ展開シテ長ク敵潜水艦ノ危険ニ曝露シ又ハ敵ヲシテ強行通過ノ企圖ヲ放棄セシムルコトナキヲ要ス之カ為防者主隊ノ展開ヲ了ルヤ直ニ全力ヲ以テ敵展開ノ半途ニ乗シ攻撃シ得ル如クナラシムルヲ以テ理想ナリトス

(ハ) 軽快部隊ハ其速力及地形ヲ利用シテ敵ノ運動ヲ覊束シ以テ我潜水艦ノ襲撃ヲ容易ナラシムルト共ニ主隊ト協同シテ敵ヲ陸岸ノ一側ニ圧迫ス

(ニ) 潜水艦ハ海陸友軍トノ通信連絡ヲ保持シテ敵情ヲ確知スルコトヲ努メ地形及兵力ニ應シ敵ノ豫想航路ニ平行若ハ直角ニ散開シ地形ヲ利用シテ敵ヲ攻撃シ敵若シ散開面ヲ脱過スルトキハ極力之ヲ追躡シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

テ敵ノ退却ヲ阻止ス

(ホ) 航空機ハ敵情ヲ偵察シ之ヲ報告スルト共ニ敵潜水艦ニ對スル警戒ヲ行ヒ又要スレハ敵艦船ニ對シ爆撃ヲ加フ

第八章 封鎖及被封鎖

第一節 封鎖

封鎖トハ海上兵力ヲ以テ外部ヨリ敵ヲ一地ニ抑圧シ且敵ノ交通ヲ遮断スルモノトス

第一款 封鎖ノ種類

一、規模ノ大小ニ依ル區分

局地封鎖及沿岸封鎖之ナリ

前者ハ例ヘハ三十七八年戰役ニ於ケル旅順ノ如ク封鎖宣言區域ヲ敵ノ軍港、根據地等一小局部ニ限定スルモノニシテ後者ハ例ヘハ欧洲大戦ニ於ケル独逸沿岸ニ對スル英艦隊ノ封鎖ノ如ク廣範圍ヲ包括スルモノナリ

二、目的ニ依ル區分

商事封鎖及軍事封鎖之ナリ

商事封鎖ハ敵ノ経済的圧迫ヲ目的トスルモノニシテ敵ノ港湾又ハ海岸ニ對シ其通商交通ヲ遮断スル手段ナリ

軍事封鎖ハ専ラ作戰上ノ必要ニ基クモノニシテ敵兵力ヲ一地ニ拘捉シテ海陸ヨリ之ヲ容易撃滅ヲ計ルカ又ハ他ノ作戰上ノ目的ヨリシテ一定期間之ヲ拘捉スル手段ナリ

三、實施上兵力配備ニ依ル區分

軍事封鎖ハ其實施ニ要スル兵力配備ニ依リ之ヲ直接封鎖及間接封鎖ノ二トス

(イ) 直接封鎖

一定區域外ニ於ケル敵ノ自由行動ヲ全ク束縛スルヲ目的トシ敵前ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

我實力ヲ示シテ之ヲ威压スルモノナリ例ヘハ三十七八年旅順ニ於ケル帝國艦隊ノ如シ

(ロ) 間接封鎖

敵ノ行動ヲ監視シ時ニ之ヲ誘出シ敵出動セハ我實力ヲ以テ之ヲ擊滅スルヲ目的トスルモノニシテ敵前ニハ監視ノ目的ヲ達スルニ足ル一部ノ兵力ヲ置キ大部ハ即應ノ準備ヲ完成シテ敵前ヨリ適當ニ離隔占據又ハ待機スルモノナリ例ヘハ歐洲大戰ノ英國艦隊ノ如シ

近時潜水艦航空機ノ發達著ク是等兵種ノ存在スル敵港灣ニ主力部隊ヲ曝露スルハ甚タ危險ニシテ却テ不利ニ陷ルヲ以テ將來ハ何レモ間接封鎖ニ依ルノ外ナク又現時ノ國際公法ハ封鎖ノ爲ニハ實力ヲ必要トスルヲ以テ將來絶対的封鎖ハ不可能ナルヘシ

第二款　封鎖ノ部署及配備

軍事局地封鎖ニ就キ其部署ヲ約說スレハ左ノ如シ

一、封鎖艦隊ノ區分及任務並障碍物

(イ) 封鎖主隊

封鎖艦隊ノ主力部隊ニシテ敵ノ出擊(脫出)ニ即應シ得ル如ク戰備ヲ完成シ且敵航空機及潜水艦ノ危險大ナラサル位置ニ自衛待機シ敵出擊(脫出)スルヤ直ニ出動之カ擊滅ニ任ス

(ロ) 封鎖前哨

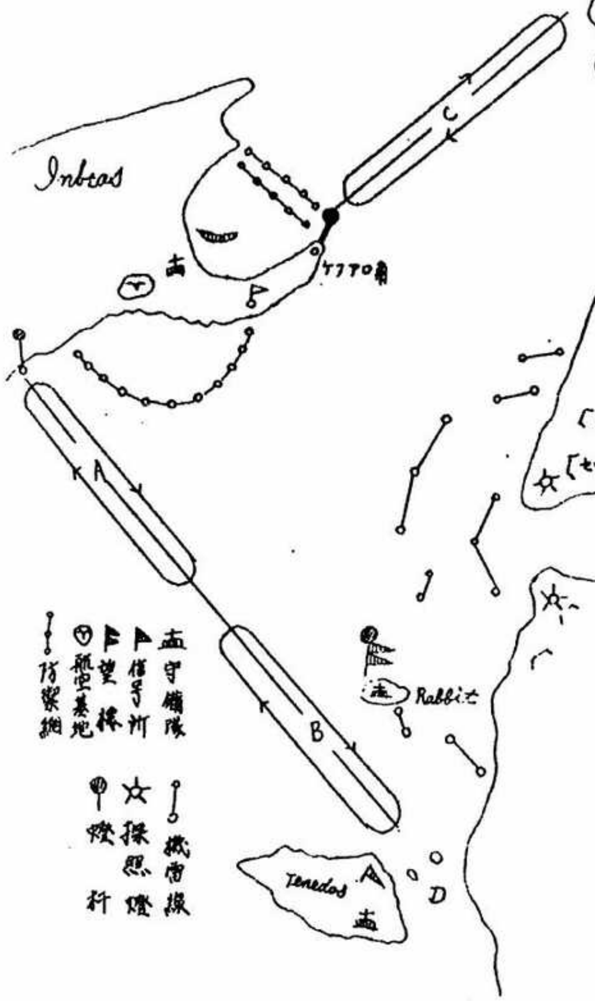
敵前ニ在リテ直接敵情ノ監視、偵察及障碍物ノ排除維持ニ任シ敵脫出セハ狀況ニ依リ自ヲ之ヲ處分スルカ又ハ之ヲ封鎖主隊ニ誘致ス

(ハ) 障碍物

封鎖ノ作業ハ期間長キニ從ヒ勞苦益々大ナリ故ニ機雷敷設及港口閉塞ニ依リ航路ノ一部若ハ全部ニ障碍ヲ與フルコトハ此勞苦ヲ輕減スルノミナラス封鎖ノ確實ヲ增加スル所以ナリ故ニ成ル可ク之ヲ實施スルト共ニ之カ排除ニ對スル監視妨害ノ手段ヲ講スルコト必要ナリ

二、封鎖ノ戰例

歐洲大戰間「ダーダネルス」ニ於ケル戰例次ノ如シ



(イ) 封鎖主隊

「ミユドロス」(「ダーダネルス」ヨリ五〇浬)ニ在リ東地中海艦隊ノ戰艦敷設及根據地艦船ヨリ成リ戰艦中二隻ハ一時間待機他ハ六時間待機ノ姿勢ニ在リ

(ロ) 機雷

二線ニ敷設ス敷設距離百呎深度十呎

(ハ) 望樓

「ラビット」島ニ設置シ海峽ノ監視、哨戒艇船及「ケフアロ」信號所トノ通信連絡ニ任ス

本島ハ海峽内部迄監制シ得

(ニ) 飛行偵察

「一―二機ハ毎早朝海峽上空及附近海面ヲ偵察シ一機ハ即時待機ス、時々「コンスタンチノープル」方面襲擊ニ任ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(ホ) 封鎖前哨

○ 潜水艦ハ晝間機雷布設線ノ内方ニ在リテ監視

○ 驅逐艦ハ晝間ハＡＢＣＤニ各一隻宛八節ニテ一時間毎ニ針路反轉夜間ハ二隻宛十二節ニテ三十分毎ニ反轉ス

前哨驅逐隊ノ交代

驅逐艦十二隻(六分隊)ハ「ミユドロス」ヲ基地トシ毎日一分隊宛交代ス往路掃海ヲ行ヒ且ニ晝夜哨戒ノ後「ケフアロ」錨地ニ歸還ス其逐次掃海ヲ行フコトアリ

第三款　封鎖指導要領

一、封鎖ノ維持

封鎖部隊ハ戰術上常ニ受働的位置ニ在ルノミナラス長期ニ亘ル無味单調ハ動モスレハ士氣ノ倦怠ヲ來シ爲ニ敵ニ乘セラルルノ結果ヲ招來スルヲ以テ常ニ手段ヲ講シ士氣ヲ維持スルコト肝要ナリ左記諸項ハ士氣ヲ振興スルノミナラス物質的利益ヲ收ムル爲有效ナル方法トシテ從來屡ミ實施セラレタルモノトス

(一) 訓練ノ勵行

(二) 障碍物ノ敷設

(三) 敵砲台ノ攻擊

(四) 陸上造營物、在泊艦船、都市等ニ對スル砲擊

(五) 在泊艦ノ襲擊

二、敵ノ出擊ニ對スル處置

(一) 敵出動セハ哨艦ハ直ニ之ヲ警報シ敵兵力ノ大小ニ依リ當面ノ我兵力ヲ以テ機宜所斷スルカ又ハ前哨全部ヲ集中スルカ或ハ我全兵力ヲ以テ之ヲ攻擊ス又敵港内ニ殘存スルトキハ一部ヲ以テ之ヲ監視セシム

但敵主隊ノ出擊ニ際シテハ豫メ港外ノ掃海、航空機ノ活動、補助部

隊ノ出動、通信数ノ大小等ニ依リ概ネ之ヲ察知シアルヲ以テ之ニ即應シテ敵ヲ逸セサル手段ニ關シテハ萬遺算ナキヲ要ス

(二) 出撃セル敵ニ對シテハ一般海洋戦ニ準スル外地形局地兵力障礙物及敵ノ陥穽手段等ヲ顧慮シツツ正面攻撃ヲ以テ迅速ニ敵ヲ攻撃圧迫シ短時間ニ敵ヲ撃破スルヲ主眼トス

(三) 補助部隊ハ其快速ヲ利用シ成ルヘク敵ノ一翼ヲ包圍シ又ハ退路ヲ遮断シ主力ト協同シテ之ヲ陸地ニ圧迫スルヲ可トス

(四) 航空機ハ特ニ水中危険物ニ對シ主隊ヲ警戒ス

(五) 成シ得レハ敵ヲ外洋ニ誘出スルヲ利トスルモ之カ爲攻撃時間ヲ延長スルハ他ノ局地兵力ノ参加ヲ招來シ或ハ敵ノ陥穽ニ陥ル等ノ不利ヲ來スヘシ

第二節　被封鎖

一、艦隊局地ニ拠ル目的

敵艦隊ハ[illegible]ヲ以テ防禦港ニ拠ルトキハ自然之ヲ撃滅セントスル敵艦隊ノ封鎖ヲ受クルニ至ルヘシ

(一) 敵艦隊ノ大部分ヲ挙ケテ決戦点ニ集中スル爲残餘ノ艦隊ヲ以テ戦略要点ヲ守備スルコト

(二) 我艦隊ノ參着スル迄在泊艦隊ノ勢力保存ヲ必要トスルトキ

(三) 敵艦隊ヲ漸減セントスルトキ

二、局地ノ弊ト士氣ノ振興

元來局地ニ據レル艦隊ハ局地兵力ヲ善用シテ劣勢ヲ補ヒ最良ノ時機ヲ撰擇シテ敵兵力ノ減殺又ハ撃滅ヲ目的トスルモ蟄居長キニ從ヒ港内ノ安寧ニ馴レ漸次士氣ノ衰頽ヲ來シ戦意ヲ殺キ遂ニハ自滅ニ陥ルコトナシトセス故ニ常ニ手段ヲ講シテ士氣ヲ振興シ或ハ屡々出撃ヲ試ミ或ハ局地兵力ヲ活用シテ敵ヲ懊悩疲労セシメ以テ乗スヘキ機會ノ作爲ニ努メ苟クモ機ノ乗スヘキアラハ敢然トシテ出撃シ攻守ヲ轉セシムルコ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ト必要ナリ

三、出撃

(一) 凡ソ出撃ノ好機トシテ選定スヘキハ

(イ) 奇襲部隊ノ襲撃奏効セシトキ

(ロ) 鎮守其他敵ニ災厄アリシトキ

(ハ) 雨雪、靄霧等優勢艦隊ノ全能発揮ニ適セサルトキ

(ニ) 其他敵ノ警戒ニ缺陥ヲ生シタルトキ又ハ敵ノ弱点ヲ発見シタルトキヲ挙クヘキモ是等ハ自然ニ生スルヲノミ待ツヘキニ非スシテ屢々勇敢ナル出撃ニヨリ敵ノ封鎖線ヲ攪乱シ又ハ佯動詭計等ニヨリ之ヲ作為スルニ非サレハ即刻之ニ乗スル能ハス

(二) 出撃ニハ企図ヲ掩蔽シ先頭ヲ厳重ニ警戒シ敵ノ抵抗ヲ突破シテ迅速ニ廣濶ナル海面ニ出テ内線ノ利ヲ占メ局地ノ全兵力ヲ活用シ封鎖艦隊ノ集中全カラサル間ニ敵ノ一部ニ猛撃ヲ加フルヲ要ス

第八章　上陸戰闘ニ伴フ攻防

第一節　上陸攻撃

第一款　上陸攻撃ノ種別

海岸ニ對スル上陸攻撃ハ之ヲ両種ノ場合ニ區分シ考定スルコトヲ得ヘシ

(一) 奇襲

軍事上ノ破壊ヲ企ツル為海岸ニ於ケル陣地ノ一時的占領ヲ目的トスル小部隊ノ奇襲的攻撃ニシテ此方式ハ單独ニ或ハ他ノ攻撃方式ヲ綜合シテ行ハルヘク敵ノ軍事上ノ破壊目標ハ海岸防禦用火砲、敷設機雷發射所、探照燈、飛行場其他ノ重要軍事施設等其作戦ノ目的ニ依リ異ルヘシ

此種ノ攻撃ニ於ケル兵力ハ或ハ敵海軍艦船ノ乗員ニ依リテ編制セラルル上陸部隊ニ依ルカ若ハ海軍艦船或ハ運送船ニ依リ輸送セラレシ小ナル派遣部隊ヨリ成ルヲ通常トス

戰例

歐洲大戰中「ダーダネルス」海峽作戰中ニ英軍ノ半島南海岸ノ土軍砲臺破壞ノ爲行ヒシ上陸奇襲及「ジーブルジー」閉塞攻撃ニ際シ獨軍防波堤上ノ水上飛行機基地並海岸砲台破壞ノ爲英軍ノ行ヒシモノノ如キ適例トス

(二) 強行上陸

陸海軍連合ノ遠征軍ヲ以テスル大規模ノ強行上陸攻撃ニシテ其作戰成功ノ條件トシテ攻者ハ制海權ヲ獲得シ且空中部隊ノ優勢ヲ確保シアルヲ要シ從テ此際ニ於ケル防者ノ海軍部隊及航空部隊ハ次ノ如キ状態ニ在ル場合ニ於テ本戰闘ヲ生起スヘシ

1 海軍

(イ) 艦隊ノ敗北セルトキ

(ロ) 艦隊ノ著ク劣勢ニシテ自國港灣内ニ蟄伏セルトキ

(ハ) 防者艦隊主力ノ攻者ノ上陸方面ニ對シ遠隔シアルトキ

2 航空部隊

(イ) 事前ニ於テ徹底的ニ敗北セルトキ

(ロ) 使用ニ不適當ナル状態ニ在リテ而モ敵ノ強行上陸ヲ企ツル迄之ヲ恢復スルノ見込ナキトキ

抑々陸海軍連合部隊、強行上陸作戰ノ目的ハ其將來作戰ノ爲適切ナル基地ヲ占領シ且之ヲ確保セントスルニ存ス而シテ敵ノ斯ノ如キ目的ノ爲利用セントスル基地ハ適切ナル防禦施設ヲ有スル防者ノ重要ナル港灣ト一致スルヲ通常トスルヲ以テ上陸軍ノ上陸ハ其所望ノ基地ヨリ著シク離隔セサル範圍ニ於テ適地ヲ求メテ行ハルルヲ一般トシ該上陸地域ノ選定ハ情況之ヲ許ス限リ其所望ノ基地ニ接近シ且水路、潮流、潮高(干滿)、天候氣象、地形、道路及鐵道網ノ状態並遭遇スヘキ抵抗ノ度等ヲ參酌シテ決定セラルヘシ

大隊ヲ以テスル戰略的ノ奇襲ハ其實行不可能ニシテ戰術的ノ奇襲ハ其攻撃ノ時期及場所ノ選定並使用兵力ヲ適切ナラシムルトキハ實行ノ望アルモノトス

第二款　強行上陸攻撃ノ特性

一　攻撃地域ノ選定及攻撃一般ノ要領

(一) 攻撃兵力ヲ指向スヘキ地域ハ次ノ如ク區分スルコトヲ得ヘシ

1　築城及防備ヲ施セル重要港湾若ハ基地ノ直接附近ノ地域

2　固定配備ノ海岸防備ヲ有セサルモ重要ナル港灣若ハ基地ヨリ著シク遠隔セサル範圍内ニ在ル次等ノ地域ニ在ル港湾

3　主要ナル港湾若ハ基地ヨリ著シク遠隔セサル地域ノ開放セル海濱

(二) 攻撃一般ノ要領

前記三場合ニ共通スル敵攻撃法一般ノ特質次ノ如シ

(イ) 敵ハ其先進部隊トシテ輕巡、驅逐艦及掃海艦ヲ差遣シ防者海軍警備前衛ノ艦船ヲ其選定セル上陸地域ノ海面ヨリ掃蕩スルカ若ハ少クモ是等ノ艦船ヲ防者海岸火砲ノ庇掩下迄撃退セントコトヲ努ム

(ロ) 先進部隊ノ行動ニ次キ其航空母艦若ハ前進飛行根據地ヨリ行動スル航空部隊ヲ使用シ以テ空中優勢ノ獲得竝空中偵察ヲ企圖ス此目的ノ為使用セラルヘキ航空部隊ハ主トシテ攻撃及觀測飛行機ヨリ成ルヘキモ同時ニ又防者ノ潜水艦若ハ其他ノ艦船ヲ攻撃スル目的ヲ以テ若干ノ爆撃機ヲ参加セシムルコトアリ

(ハ) 掃海艦ハ防者ノ敷設機雷及其他ノ障碍物ノ掃蕩ヲ企テ又上陸セントスル全地域ニ對シ果敢ナル偵察ヲ各方面ヨリ行ヒテ防禦配備特ニ防禦威力砲兵ノ位置ノ標定ニ其手段ヲ竭スモノトス

(ニ) 偵察及海岸火砲、橋梁、運河、堰堤等ノ破壊並交通々信ヲ遮断スル目的ヲ以テ上陸奇襲ヲ行フコトアルヘク又此奇襲ハ既ニ先進

部隊ノ策動間ニ於テモ之ヲ行フコトアリ

(二) 各種攻撃地域ノ差異ニ基ク攻撃戦闘ノ特色

1 築城防備ヲ施セル重要港湾若ハ基地ノ附近ニ直接攻撃スル場合

(イ) 砲撃及爆撃

此場合ニ於テハ該港湾若ハ基地附近ニハ当然防者ノ海岸火砲ヲ存シアルヲ以テ攻者ハ其先進部隊ノ行動ト少時ヲ間シテ砲撃及爆撃ヲ開始スヘク其時間ノ差異ハ先進部隊ノ上陸地域ヲ掃蕩スルニ要スル時間ヲ基礎トシテ定ムルモノトス

砲爆撃ニ用フル兵力ハ主力艦搭載ノ重装甲ノ大口径長射程砲並重爆撃機及之ヲ掩護スヘキ駆逐戦闘機ヲ以テスル航空部隊ヨリ成リ更ニ観測飛行機ヲ加フルコトアリ

砲爆撃部隊ハ威力ニ依ル偵察特ニ未タ其位置ヲ標定シ得サリシ防禦重砲兵陣地ヲ偵知スルコトヲ得ヘク又此砲撃ハ高爆烈弾並毒瓦斯弾ヲ使用シ一般ニ長射程砲兵ノ準備射撃ヲ行フモノトス而シテ是等ノ砲爆撃ハ時トシテ数日間ニ亘ルコトアリ

尚此時期ニ於テ施スヘキ他ノ手段ヲ列挙スレハ概ネ次ノ如シ

i 防者ノ潜水艦ニ対シ其主力艦及航空母艦ヲ防護センカ為爆雷ヲ装備セル駆逐艦ヲ砲撃及爆撃部隊ニ跟随セシムルコト

ii 防者ノ基地ニ於ケル防備特ニ海岸砲及陸上防備ニ依リ掩護セラレアル防者ノ艦船及陸海軍ノ海浜施設ノ爆撃ヲ企図スルコト

iii 基地ヨリ各方面ニ通スル主要ナル交通通信ヲ遮断シテ防者増援ノ来着ヲ阻支シ若ハ遅滞セシメンコトヲ努ムルコト

iv 激烈ナル空中偵察ノ続行

v 主力艦ニ大ナル危殆ヲ呈スルコトナクシテ防者ヲ擾乱シ且休止ノ暇ナカラシメ之ヲ疲労セシメ其志気ヲ沮喪セシムル為有ユル手段ヲ竭スヘキコト

砲爆撃ノ實施ニ先タチ敵ニシテ未タ空中優勢ヲ獲得シアラサルトキハ更ニ此期間ニ於テ少クモ局部的ノ空中優勢ヲ確立スルヲ要シ然ラサレハ之ヲ求メ得ル迄其上陸攻撃ノ實施ヲ遷延セシムルヲ要スルニ至ルヘシ

(二) 上陸ノ實施及其支援

砲爆撃ニ次キ主トシテ裝甲及軽巡洋艦並驅逐艦ヨリ成ル支援部隊及運送船ヲ海岸ニ接近セシメ小船ニ依リ強行上陸ヲ試ム而シテ此動作ハ通常霧若ハ夜暗ノ庇護ニ依リテ開始セラレ且煙幕ノ下ニ於テ継續スルヲ可トス

上陸ハ爲シ得ル限リ迅速ナル速度ニ依リ継續スル数回ノ復行ヲ行ヒ且其運送船ハ成ルヘク近ク海岸ニ投錨センコトヲ努ムヘキモ防禦火器ノ射撃ヲ顧慮スルヲ要ス

最初ニ上陸セシ部隊ハ少クモ防禦軽砲兵火ニ對シ爾後ノ上陸ヲ掩護センカ爲海濱ヨリ十分ナル距離ヲ保持シテ一般ノ爲掩護位置ヲ占領スルヲ要シ支援部隊ハ先進及砲爆撃部隊ノ加入ヲモ受ケ一般上陸攻撃ノ初期ニ於ケル情況ノ如何ニ依リテハ局部的ノ砲兵準備射撃、阻支射撃ヲモ行フヲ要スルノミナラス之ニ次テ攻者砲兵ノ海濱ニ占位スル迄ハ射撃ヲ継續スルモノトス

又此期間ニ於テ攻者ノ企ツ可キ戰闘手段トシテ考察スヘキモノハ次ノ如シ

i 上陸部隊ヲ支援スル攻者艦船ニハ曲射兵器及高爆烈彈並毒瓦斯彈ヲ裝備使用スルコトヲ期セサル可カラス

ii 強行上陸間砲爆撃部隊ハ防禦重砲兵ノ各要素ヲ制圧センコトヲ期シ且之ヨリ先キ先進部隊ノ各要素ハ防禦重砲兵ノ火力ヲ他ニ牽制スル爲陽動偽騙ノ目的ヲ以テ港灣ノ強行通過ヲ企ツルヲ要スルコトアルヘシ

(ハ) 上陸後ノ戰鬪

一度海岸ニ立脚地ヲ占メ且大部隊ヲ上陸セシメハ爾後ニ於ケル戰鬪ノ特質ハ陸地戰ト全ク其要領ヲ同シクス

2 固定防禦施設ヲ有セサル次等港灣ニ攻撃スル場合

防者ニシテ列車砲兵、自動車牽引重砲ヲ運用セハ作戰ノ狀態ハ第一ノ場合ト同一若ハ近似スヘキモ次ノ如キ特色ヲ呈スルヲ一般トス

(イ) 先進部隊ノ行動

防禦海軍兵力並敷設機雷並防禦網ノ施設ノ前場合ニ比シ劣ルヲ一般トスルヲ以テ攻者先進部隊ノ行動ハ前場合ノ如ク熾烈ナラサルヲ一般トス

(ロ) 砲爆撃

攻者ノ砲爆撃ヲ以テスル一般準備砲撃及空中爆撃ハ防者ノ集中シ得ヘキ移動海岸兵備ノ多寡ニ依リ異ルモ前場合ノ如ク長時間ニ亘ラサルコト多シ

(ハ) 特種ノ情況

若シ防者ニシテ移動海岸砲兵ヲ此作戰ニ集中使用スルコトヲ得サル場合ニ在リテハ此作戰ハ海岸砲兵ノ支援ヲ有セサル開放、無防禦ノ海濱ノ攻撃ト同一ノ要領トナルヘシ

3. 防禦施設ナキ海濱ニ攻撃スル場合

(イ) 防者ニシテ海軍所屬ノ海岸防禦兵力ヲ有シ且觸發機雷ヲ敷設シ尚移動海岸重砲ヲ集中使用スルコトヲ得ハ攻者ノ作戰ハ第一ノ場合ニ近似シ從ヒテ強行上陸攻撃ノ實施ニ先タチ精巧ナル準備ヲ必要トシ之カ爲防者ニ時間ノ餘裕ヲ與ヘテ其移動兵力ノ招置ヲ容易ナラシムルノ不利アリ

(ロ) 若シ防者ニシテ移動海岸重砲ヲ有セサランカ防禦海軍所屬ノ艦船等ハ直ニ攻者ノ先進部隊ニ撃退セラレ防者ノ機雷モ亦有效ナル

砲兵火ノ掩護ヲ缺クヲ以テ速ニ掃海スルコトヲ得茲ニ上陸攻撃ハ大部隊ノ奇襲ヲ以テ迅速ニ行ハレ其成功ノ公算ハ至大ナリト云フヘシ

第二節　上陸防禦

敵ノ上陸攻撃ヲ撃破スル爲海軍部隊ノ執ルヘク行動ハ次ノ三者ニ區分スルコトヲ得

(一) 敵ノ近接及其企圖スル上陸地域ニ關スル情報ヲ獲得スル爲ノ作戰
(二) 敵艦船及運送船ニ對スル攻撃
(三) 上陸中ナル敵軍隊ノ攻撃

一、情報獲得ノ爲ノ作戰

攻撃シ來ル敵ノ未タ防禦海岸ヨリ大ナル距離ヲ間セル時期ニ於テ敵ノ位置ヲ偵察シ之ニ對シ防者陸海軍ノ兵力ヲ集中シ得ルノ準備ヲ行フコト肝要ニシテ又强行上陸ヲ企圖スル敵ノ運送船隊ハ防者ノ使用シ得ヘキ海軍兵力ニ比シ更ニ優勢ナル海軍部隊ヲ伴ナフヲ一般トスルヲ以テ防禦海軍部隊ハ其利用シ得ヘキ全力ヲ傾倒スルヲ期スルヲ要ス

情報獲得ノ爲使用スヘキ艦船及兵力要素ハ航空機（特ニ阪式飛行船）驅逐艦及巡洋艦ヲ可トシ此等部隊ハ防禦海岸ヨリ數百哩ノ外ヲ捜索シテ関係ノ情報ヲ求メ且之ヲ報告セシムル爲頗ル有效ニ使用セラル

敵運送船ノ位置ヲ確認スルヤ其他ノ運送船ノ來ルヲ豫期スル場合ノ外其捜索行動ヲ中止シ速カニ之ヲ報告通報スルト共ニ情況之ヲ許ストキハ敵ニ觸接ヲ求メツツ常ニ敵ノ位置ヲ明ニスルカ如ク行動スヘキモノトス

二、敵艦船及運送船ニ對スル攻撃

敵ノ運送船及之ヲ護衛セル艦船ニ攻撃ヲ加ヘンニハ潜水艦、驅逐艦及航空機ヲ極メテ肝要トシ爆撃及魚雷攻撃機ハ特ニ價値大ナリ

若シ防禦艦隊ニシテ一般行動ヲ採ルヘカラヲ許サザルカ如キ劣勢ナルニ方リテハ此等艦隊ハ攻撃ノ爲適切ナル機會ヲ捕捉スルヲ目的トシテ敵

艦隊ニ近ク位置スルハ不可ナリ此場合ニ於ケル潜水艦及觸接機雷ノ價値次ノ如シ

(一) 潜水艦

属領諸島ニ對スル敵ノ攻撃ニ際シテハ潜水艦ハ防禦兵力トシテ價値特ニ大ナリ

即チ此際他艦船ノ支援若ハ援助ヲ受クルコトナク独立作戰ヲ必要トスルノミナラス該属領ヘシテ敵手ニ歸スルカ如キ場合ニ在リテハ退却ノ手段ヲ有スレハナリ

(二) 觸発機雷

之ヲ使用スルコトヲ得ヘキモ敵ニ脅威ヲ與フルト同時ニ防禦海軍モ亦脅威ヲ感シ其行動ヲ掣肘スルヲ以テ敵ノ上陸攻撃ヲ撃退スル為機雷ヲ敷設スルハ敵ノ攻撃部隊ヲ認メタルカ或ハ敵攻撃ノ切迫セルヲ確信スルノ理由ヲ有スル場合ニシテ其使用ヲ制限スルコト次ノ如シ

1、小ナル沿岸防禦港湾ノ如キ上陸地域ニ通スル狭隘ナル近接海面

2、攻撃部隊ノ接近シツツアル線ヲ横過シテ海岸沖ニ敷設ス

3、狭隘ナル海濱又ハ上陸地域ノ沖合ニ敷設シ以テ敵ノ行動ヲ遅滞セシメ之ニ依リテ防者陸海軍部隊ノ所要兵力ヲ集中スルノ餘裕ヲ與フ

三、上陸中ナル敵軍隊ノ攻撃

此場合ハ主トシテ防禦陸軍ノ戰闘ニ属スヘキモノニシテ海軍トシテハ小船ニ乗シテ上陸中ナル敵軍隊ニ對シ爆撃及戰闘飛行機ヲ以テ攻撃ヲ行フコトヲ得ヘシ

結言

以上ハ單ニ現時ニ於ケル一般ノ趨勢ニ就キ其主要ナルモノヲ約述セシニ過キス想フニ此等戰法ノ特徴ハ艦船及兵器ノ改善進歩ニ伴ヒ逐日其面目ヲ更ムルハ勿論創意工夫ニ依リ敵ノ意表ニ出テ奇効ヲ奏セントシ膠柱慣用ノ戰法ノ戰勝ノ要素ニ非サルハ各國軍ノ齊シク肯定スルトコロナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

宜シク常ニ艦船及兵器ノ進歩ニ着目シ且各國海軍ノ情勢ニ不斷ノ注意ヲ拂ヒ以テ海岸重砲兵戰闘ノ基礎ヲ鮮明ナラシメンコトヲ期セサル可カラス

日本將校ノ外閲覧ヲ禁ス

昭和四年二月

列車砲兵ニ就テ

畑少佐

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

宜シク常ニ艦船及兵器ノ進歩ニ着目シ且各國海軍ノ情勢ニ不斷ノ注意ヲ拂ヒ以テ海岸重砲兵戰闘ノ基礎ヲ鮮明ナラシメンコトヲ期セサル可カラス

日本將校ノ外閲覧ヲ禁ス

列車砲兵ニ就テ

昭和四年六月

畑少佐

「列車砲兵ニ就テ」正誤表

枚数	表	裏	行数	誤	正
八	オ		八・七	解決シタモノテアル元来	元来…解決レタモノテアル（行ヲ改ム）
〃		ウ	六	ツタ列車砲兵	ツタ…列車砲兵…（行ヲ改ム）
二〇	オ		六	價シナイ	値シナイ
〃		ウ	九	上ヨリ逐フル	上ヨリノミ逐フル
四	オ		八	不利アリ	不利ガアル
〃	〃		一二	少クモ	少クトモ
五	〃		一八・九	砲架	架匡
九		ウ	四	移動量	旋回量
〃		〃	五	方向旋回	方向移動装置
〃		〃	六	方向移動	方向旋回
一一		〃	二	結果トシテ陸軍	結果トシテ海軍カラ陸軍
一二		〃	六	夫ニ	夫々ニ
一三	オ		七	卽力	機力
一六	〃		七	列車砲大隊	列車砲兵大隊

二四		ウ	九	程度ニ廣地域	程度ハ廣地域
二六	オ		五	一般位置	一般配置
二七	〃	末	行	就イテ	就テ
二八		ウ	三	際シテハ本線	際シテ本線
二九		〃	八	地幅ヲ	地幅及地盤ヲ
〃		〃	一〇、一一	ゴトヲ得観測貨車……	ゴトヲ得、観測貨車……
三〇	オ		三	火砲ノ性態	火砲ノ性能
三二	〃		七	要塞地帯ヲ	要塞地帯内ヲ
〃		ウ	三	前方ハ若ハ	前方若ハ
〃		〃	一八	等運行ニ對スル制限	等中運行ニ對スル制限區域
三三	オ		三	車輌氏トス	車輌氏デアル
〃	〃		六	作戰ニ亙リ	作戰地ヘ亙リ
三七		ウ	二	勿論デアル須ラク	勿論デアル須ラク（行ヲ改ム）

列車砲兵ニ就テ

目次

緒言

第一章 列車砲兵ノ價値

第一節 列車砲兵採用ノ利益

第二節 列車砲兵ノ不利

第三節 列車砲兵採用ノ根本

第二章 列車砲兵用兵器材料

第一節 火砲材料

第二節 其他ノ材料

第三章 列車砲兵ノ編制及教育

第一節 編制

第二節 教育

第四章　列車砲兵ノ運用
第一節　任務及軍隊區分
第二節　一般用法中特異ノ事項
第三節　移動
結言

列車砲兵ニ就テノ

緒言

列車砲兵ノ創意ハ近時ニ於ケル革新的ノモノニ非スシテ遠キ以前ヨリ其濫觴乃至ハ揺籃時代トモ稱スヘキ史實ヲ有シ其根本着意ハ砲兵ノ威力ト運動性ノ相反スル両要求カラ自然ニ生シタ結果テ臂力、馬力ヨリ進ンテ到達シタ機械力ノ應用中ノ一手段ニ外ナラヌモノテアル即チ運動性ノ関係上企及シ難イ大威力ノ発揮ヲ鉄道ノ利用ニ依ツテ解決シタモノテアル元来機械力ト云ツテモ自動車関係ト鉄道関係トノ二方面カ有リ或ル方面テハ自動車ノ力テ運動性ヲ附與スルコトノ出来ルノハ砲車ヲ分解セスシテ行ヒ得ルノハ加農テハ十五糎級、榴弾砲テハ二十糎級ヲ限度トシ其以上ノ大威力砲ハ分解シテ運搬ノ必要ヲ生シ之ニ反シテ鉄道ニ依ル移動即チ列車砲ナレハ更ニ更ニ大口径大威力ノ火砲カ分解スルコトナク其儘テ射撃位置ニ展開スルコトカ出来ルコトニ着意セラレタノカ列車砲兵ノ濫觴

トモ云ハレテ居ルカ事實世界ノ技術界ニ於ケル自動車ノ創意ハ鉄道ノ開通ニ比シテ遅レタノテ従ツテ又自動車砲兵ヨリモ列車砲兵ノ創意ハ先陣ノ史實ヲ有シ米国テ始メテ列車砲兵ノ使用セラレタノハ南北戦争間テ既ニ七十年ニ垂ントシテ居ルノテアル別ニ物珍ラシイ着意テモ何テモナク苟クモ鉄道ノ存スル以上ハ當然ノ結果トシテ現出スヘキ運命ノモノテアツタ列車砲兵ノ用途ハ単ニ之ヲ野戦ニノミ使用スルトカ或ハ海岸戦ニノミ使用スルト云フカ如キ局限的ノモノテナク國軍ノ作戦状態ニ依リ其何レニモ使用シ得ル如ク編制シ装備シ訓練シ且之ニ應スル補助施設ヲ肝要トスルコトハ兵器行政ノ上カラ見テモ國家経済ノ上カラ云ツテモ絶對ノ問題テ特ニ寡ヲ以テ衆ヲ撃ツノ根本方針カラ閑却シテナラヌ要件テ出来得ル限リ此ノ主義ニ一致セシメナクテハナラヌト思フ

本稿ハ列車砲ニ関スル常識的ノ一般論ヲ略述スルノヲ目的トシ此ノ範囲ニ於テ奥行ヲ浅クシ間口ヲ廣クシテ國軍ノ之ニ関スル研究ノ端緒タラシメントスルノ微意ニ出テタモノテ此等ニ関スル各部ノ具体的研究ハ近ク入手ノ予定ニ在ル火砲材料ニ接シタル後時ニ其實地試験ノ進捗ニ伴ヒテ進メタイ所存テアル、コレ運用ヲ論スルニモ編制教育ヲ説クニモ兵器材料ノ改善ヲ述フルニモ一ノ既定ノ兵器材料ト云フモノカナクテハ萬事カ画空テ假ニ某外國軍ノモノヲ深ク紹介シテ見タトコロテ眞ノ一ノ参考ノ末葉ニシカ價シナイカラテアル

第八章　列車砲兵ノ價値

列車砲兵使用ノ目的ハ大口径大威力砲ニ他ノ方法ヲ以テ企及シ難イ移動性ヲ與ヘテ砲兵威力ト運動性トノ調和ヲ求メ苟クモ鉄道ノ存在シ若クハ之ヲ補足シ得ル方面ニ於テハ外征タルト國土直接ノ防衛タルトヲ問ハス軍ノ大威力砲トシテ之ヲ活用セントスルノテアル、素ヨリ列車砲兵ハ他砲兵ニ比シ其利益ノ大ナル点ヲ存スルト共ニ不利ナル点モ有リ従ヒテ列車砲万能論ヲ唱フルコトハ之ヲ許サス又其利害ヲ正當ニ判断シ且其不利ハ
ニ

如何ナル手段ニ依リ如何ナル程度迄警スルコトカ出來ルカヲ審議セハ其價値ニ關シ正鵠ナル批判カ出來從ヒテ此砲兵ノ建設及運用並教育上ノ根本資料カ求メ得ラルルト思フ

第一節　列車砲兵採用ノ利益

一、國家經濟上ノ顧慮

外征及國土防衛上共ニ大威力砲ノ切要ナルハ敢テ多言ヲ要セサルトコロテ此両要求ヲ充足スルコトヲ得ヘキ性能ノ列車砲兵ヲ建設スルコトハ經濟上ノ諦和ニ合致シ得ルノミナラス巣ニ之ヲ國土海岸ノ直接防備上ヨリ遠フルモ固定兵備ニ於ケルカ如キ絶大ナル築城費ヲ省キ老朽ノ悲運ヲ救済シ得ルノ利アリ兵備ノ部分的ニ就テ之ヲ見テモ砲身、砲架等ノ交換カ迅速容易ニ行ハレ要スレハ此ノ間他ノモノヲ以テ代用スルコトモ出來ル

二、戰略戰術的奇襲效果ノ獲得

大威力砲ノ使用ハ自動車牽引トスルトキハ已ニ其火砲ノ口径上著シキ制限ヲ加ヘテ陸交戦ニ於テハ其效果ニ就テ不足ヲ感スルモノカアルカ列車砲ヲ用フレハ野戰ニ依リテハ軍ノ總豫備砲兵トシテ卓越ナル威力ヲ發揚シ國土直接ノ海岸防禦ニ於テハ長遠ナル海岸線ノ隨所ニ現出セシメ此等両方面ノ戰略的機動ニ依リ敵ノ空中部隊ニ對スル損害ヲ輕減シツツ敵ノ企圖ヲ挫折シ其機先ヲ制シテ隨時ニ奇襲的ノ效果ヲ發揚スルコトカ出來ル

三、國土海岸防備計画ノ秘匿

海岸要塞等ノ固定兵備ハ如何ニ之ヲ秘匿スルコトヲ努ムルモ長年月ノ間ニハ敵國民ノ平時調査ニ依リテ某程度ニハ之ヲ知得セラルルモノト考ヘナクテハナラヌ又從ヒテ敵ハ我固定兵備ニ對シテハ至當ナル準備計画ノ下ニ攻撃ノ利ヲ收ムルコトカ出來ルカ移動兵備ヲ以テスレハ其戰時ノ使用計画ハ之ヲ秘匿スルコトカ容易テ極言スレハ敵ハ其攻撃ニ方

ッテ始メテ已設兵備ノ増援セラレアルヲ知リ又ハ全ク兵備ノ無カッタ場所ニ於テ有力ナル兵備ニ遭遇スル等ノ場合ヲ生スルコトトナル

四、砲兵任務ノ擴大

移動性カ大テ射程カ長遠ナコトハ分散的ノ配置ヤ集中火力ノ発揚ニ至便テ又砲兵ノ勁敏性ヲ増シ全軍ノ士氣ニ大ナル效果ヲ與ヘ砲兵自身ニ就テモ創意性ヲ大ニシ以テ砲兵任務ノ擴大ニ資スルトコロカ頗ル多イノテアル

第二節 列車砲兵ノ不利

列車砲兵必スシモ萬能ニ非スシテ長所ト共ニ短所ヲ有シ從ヒテ一部人士ノ間ニハ長短ノ比較考慮上其不利ヲ高唱スルモノモナキニ非サルカ如ク聞知セラレ吾人モ亦其短所タル諸点ハ十分ニ之ヲ認ムルニ吝テナイカ長短両方面ヲ有スルハ万物ノ免レサルトコロテ要ハ長短比較ノ程度ニ拠リ其採否及程度ヲ決定スヘキモノテアルト思フ

列車砲兵ノ不利乃至ハ短所トシテ認メラレタ事項ハ次ノ如キモノテアルカ此等ノ点ハ採用否認ノ判決ヲ呈スルモノテナクシテ之ヲ使用スヘキ場合、地域、使用程度等ヲ決定スルノ因子トナル可キモノテアル、以下此ノ短所トセラレアル諸項ヲ列挙スルト共ニ之カ不利ヲ医スヘキ方法及其對應策ヲ附記スルコトトスル

一、豫想スル作戦場ノ鉄道網ニハ一定ノ限度アリ又状況ニ應シテ戦場内ニ増加延伸シ得ヘキ鉄道網ニハ著シキ制限ヲ有シ從ヒテ列車砲兵ノ使用ハ大ニ制限セラルルモノ多キノ不利アリ

列車砲兵ト鉄道網トハ車ノ両輪鳥ノ双翼ニ比スヘキモノテ鉄道網ノ存セサル地域ニ列車砲ヲ運用スルコトハ何人モ考ヘサルトコロテ又此等ハ豫想スル作戦地及内地ノ鉄道網ノ発達ノ状態ニ依リテ差カアルカ少クモ其程度迄ハ既ニ鉄道狭軌網カアルト云フ前提ノ下ニ議論ヲ進ムヘキコトハ勿論テ又然リトセハ平時ヨリ作戦上ノ要求ヲ顧慮

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シテ平時ノ一般交通運輸ノ利便ヲ許リツツ所要ノ増設ヲ行フコトハ可能ノ問題テ又苟モ列車砲兵ノ利益アル点ヲ認ムル以上ハ此等ノ補助施設ハ断行セネハナラヌトコロテアル尚一部ノ補備的敷設ノ如キハ戦時ニ於テモ必要ナル方面ニハ増加シ得ルコトハ素ヨリテアル、從ッテ此ノ問題ハ白紙的ニハ論セラレヌモノテ一國ノ鉄道網ノ現況、豫想作戦地ノ鉄道網状態、此両者ニ對スル戦時施設ノ可能ノ程度、平時ニ於ケル將来傾向及指導可能ノ範圍等ヲ基礎トシテ考定スヘキモノテアル、又此ノ列車砲兵ヲ他ノ輓馬砲兵ヤ自動車砲兵ノ如ク戦場ノ隅カラ隅マテ限ナク移動セシムルコトカ出來ネハ其效果カ無イ様ニ考フルノハ列車砲兵ノ本質ヲ曲解セルモノテ其處ニハ他ノ砲兵ノ企及シ難イ長射程、大威力ト云フ利点ヲ省ミナケレハナラナイ

鉄道網カ有ッテモ一旦敵ノ為、破壊爆破等ノ妨害ヲ受ケタラ實ノ持腐レトナルテハナイカトノ反論意見モ生シヤウカ、夫レカ為メニハ鉄道網ノ縦令ニ他ノ手段ヲ竭シ又万一斯ノ如キ不利ニ遭遇シテモ直ニ之ヲ良好ナル状態ニ恢復シ得ル如キ對應手段及準備ヲ整ヘテ置クコトニ依リ某程度迄之ヲ緩和救済シ得ヘク斯ノ如キ消極的不利ヲ恐レテ積極的ノ利点ヲ没却セントスルノハ杞憂ノ最大ナルモノテ戦捷ノ径ヲ知ラサルモノト云フヘキテアル

二、作戦地域ニ依リ鉄道ノ軌隔ニハ相當ニ差異アリ又鉄道ノ素質上長射程大威力ヲ主旨トスル列車砲兵モ其重量及容積上自ラ制限ヲ受ケテ希望ノ效果ヲ發揚シ難キ不利ヲ生スルコトカ多カラウ

鉄道ノ軌隔ノ異ナルモノニ對シテハ列車砲兵材料中砲架ニ於テノミ二重計画ヲ有スレハ解決シ得ル問題テ外征ヲ作戦方針トスル國ハ宜シク予想作戦地ノ鉄道軌隔ヲ胸算シ若シ異ナルモノアレハ砲架以下ノ部品ニ於テノミ別種ノモノヲ準備スレハ足レリトスルノテアル、勿論コノ際両種ノ鉄道上ニ流用セントスル為メニハ總重量関係ニ於テ

ハ狭軌隔ノモノニ適應スルコトカ基礎トナル此ノ点ハ更ニ之ヲ擴張スルトキハ公ヘノ列車砲テモ下部ニ就テ特種材料ヲ考案スレハ輕便鉄道上テモ某程度ノ列車砲ノ運用ノ出來ルコトハ明カテ既ニ其實例カ有ルコトハ有力ナル實証テアル

鉄道ノ素質上列車砲兵材料ノ設計ニ某程度ノ制限ヲ受クルコトハ勿論テアルカ此ノ問題ハ鉄道其モノヲ基準トシテ火砲ヲ設計シ其火砲ノ威力ハ單ニ口径関係ノミテナク公ヘノ口径テモ日進月歩、射程ヤ威力ノ増進ヲ技術的ニ考案ノ餘地カアルシ鉄道其モノヽ局部的ニ素質向上ノ方策モ有ルシ又進ンテハ用兵上カラ國有鉄道ノ総ヘ企画ト云フ根本問題ヲモ生スルコトハ過去ノ失敗ハ別トシテ将來熟慮断行ノ餘地カ無イトモ云ヘマイ

三、海岸防禦用トシテハ列車砲兵ノ不利ナル点トシテ次ノ如キ諸件ヲ高唱セラレテ居ル

(一) 列車砲兵ヲ使用シ得サル場所多シ島嶼内及岬角等ノ交通不便ナル地形ニ於テ特ニ然リトスル

(二) 希望スヘキ地域ニ予メ固定兵備ヲ有シ必要ニ應シ直ニ之ヲ其位置ニ於テ使用スルヲ勝レリトシ列車砲兵ヲ以テ戦闘間ニ移動使用セントスルハ不可能ノ要求テ又各方面ニ分配シ得ヘキ豫備砲兵トシテ列車砲兵ヲ有スルヨリモ必要ナル地点ニ固定兵備ヲ有スルヲ以テ反ツテ経済的ナリトスル

(三) 列車砲兵ナレハ直ニ到ルトコロニ布陣シ得ルト云フカ事實ニ於テ豫メ比較的膨大ナル陣地ノ構築等ヲ要スルテハナイカ

以上諸件ニ関シテハ既ニ再三述ヘタルカ如ク吾人ハ決シテ列車砲兵萬能ヲ唱フルモノテナイ即チ地形上必ス固定兵備ノ要アル場所ノ厳メテ多イコトヲ當然認メテ居ルカ公時ニ列車砲兵ヲ運用シ得ヘキ場所、運用スルヲ以テ勝レリトスル場所又運用セサ

ル可カラサルモノアルヲ高唱シテ居ルノテアル、即チ固定兵備ノ必要ヲ當然過キル程認メタ上ノ議論タルヲ再言シテ置クノテアル、但シ固定兵備萬能、列車砲兵無用論ハ吾人ノ断シテ許サヌトコロテ夫レニ就テハ前節ノ論述ヲ更ニ繰リ返サナイ、
列車砲兵ヲ適切ニ運用スル為ニハ豫メ陣地及之ニ伴フ施設ヲ計画シ且其設備ヲモ行ツテ置クコトハ當然ノコトテ之カ海岸防禦ノ特性上為シ得ヘキコトテ又必ス為ササル可カラサルコトテアル、然シ其準備ト云フ方面カラ比較スルト固定兵備ノモノトハ丸テ算盤ノ桁カ大異イテ敵ニ對シ企圖ヲ秘匿スルト云フ方面カラ言ツテモ月鼈ノ相違カアル

第三節　列車砲兵採用ノ根本

前二節ニ於テ其利害ノ要点ヲ述ヘ且其不利ヲ医スルノ方策乃至ハ緩和ノ手段ニ及ンタカ更ニ之ヲ一括シテ其判決トモ称シ補備手段トモ為スヘキ要綱ヲ略記スレハ次ノ如クテ之レ即チ列車砲兵採用ニ伴フ根本問題トモ称スヘキテアル勿論之ニ係リ火砲ノ口径ヤ運動性ヤ威力問題等ノ重要問題ヲ蔵スルカ此等ハ別ニ其相當ノ章又節等テ部分的ニ述ヘルコトトスル

一、列車砲兵ノ編制、装備及訓練ハ之ヲ野戦及海岸戦ノ両要求ニ合致スル如クシ以テ國軍作戦威力ノ増進ト國家経済力ノ調和トヲ適切ナラシムルコト

二、國大海岸防備（局地ノ要塞防備ノミナラス國土ノ全海岸線ニ對スルモノ）ニ要スル兵備ハ固定兵備ヲ最少限度ニ止メ成ルヘク列車砲兵及自動車砲兵等ノ移動兵備ヲ採用スルノ方針トスルコト

固定兵備ヲ用フヘキ場合ハ次ノ如ク約言スルコトカ出来ル

(一) 地形上、列車砲兵ヲ使用シ得サル地域

(二) 防備上ノ必要ニ基ク火砲威力ノ関係上之ヲ列車砲兵トナスヲ許サヌモノ即チ重量ト鉄道貨車トノ相對的関係カラ止ムヲ得ヌモノ

（二）局部的ニ限定任務ヲ有スル補備火砲テ其使用砲数及各砲ノ重量関係上列車砲兵トスルノ必要ナク又移動ノ要求寡少ナルモノ

而シテ移動兵備中列車砲兵トスルノ必要ナキ程度ノモノ換言スレハ自動車ヤ輓馬等テ其性能ヲ帯ハシムルコトノ出来ルモノハ之ヲ自動車或ハ輓馬砲兵等トスルコトハ勿論テアル

三、列車砲兵ノ運用上缺ク可カラサル鉄道網ノ敷設ハ平時ヨリ之ヲ國軍ノ作戦及防備上ノ要求ニ合致セシムル如ク指導シ且鉄道素質ノ向上ニ就キ軍部ノ指導及支援ヲ怠ラサルコト

四、火砲材料ノ設計ハ國軍ノ作戦及防備上ノ方針ニ合シ且永遠ナル将来傾向ヲ附度スルヲ要シ豫想作戦地ニ於ケル鉄道網ノ状態及國土内ニ於ケル必要度等ヲ稽ヘ材料ノ一部特ニ匡床ノ如キハ二重ノ計画ヲ有スルコト

五、単ニ本線鉄道上ニ於ケル移動ノミナラス使用地域ノ地形及交通網ノ状態ニヨリテハ軽便鉄道上ヘヲ運行シ得ル如キ特種架匡ノ設計ヲ要スルコト

六、列車砲兵用材料ハ単ニ作戦地ニ於ケル鉄道素質ノミナラス外征ノ場合ヲ考慮シ船舶輸送上ノ要求ニモ合致セシムルコト

第二章　列車砲兵用兵器材料

第一節　火砲材料

一、具備スヘキ一般性能

使用スヘキ目的ニ依リ多少ノ差異ヲ呈スルカ一般的ニ述フレハ次ノ要素ヲ必要トスル

（一）陣地進入及射撃準備ノ迅速ナルコト

（二）射撃ノ精度良好ニシテ射撃間ノ故障ノ少キコト

（三）成ルヘク全周射撃ヲナシ得ルコト

（四）発射速度ノ良好ナルコト

（五）射程及弾丸效力ニ對スル適切ナル要求ヲ充足スルコト

二、材料ノ型式

砲種、口径等ノ雜多各種ノモノヲ綜合シ之ヲ大別概観スルト次ノ四様式カ認メラルル

（一）鉄道（線路）上ニ於テ直ニ射撃ヲ實施シ且全周射撃ヲ行ヒ得ルモノ
直ニ射撃ヲ實施スルト云フテモ医床ト軌條トノ間ニ枕木ヲ敷キ附属取付ノ扛起機テ医床以上ノ部分ヲ低下セシメ且支脚ヲ装置スル程度ノ準備ハ必要ナノテ米国ノ現用八吋加農及十二吋臼砲ヤ佛軍ノ二四〇粍加農等ハコノ部類ニ属シ最モ軽便ナモノテ其射撃準備完了ニ要スル時間ハ一時間乃至三時間ト見ルヘキテアル然シ此ノ型式ハコレ以上ノ大口径ノモノニハ應用カ困難トセラレテ米軍テモ最近ノ新式砲ニ於テ此ノ型式ハ八吋（二十糎）加農及十二吋（三十糎）榴弾砲ニ應用セラレ其以上ノモノハ次ニ述フル（二）ノ型式ニ歸着シテ居ル

（二）鉄道線上ニ於テ直ニ射撃セントスレハ極限セラレタ方向射界ノミヲ許シ其以上ノ射撃ハ鉄道上ニ特設スル砲床上ニ卸下スルコトヲ要スルモノ
舊式ノ火砲ニモ此種ノモノヲ認メルカ新式ノモノテモ口径ノ大ナルモノハ前述ノ如ク此ノ型式ニ依ラナケレハナラヌ米軍ノ十四吋（三十五糎）加農ヤ十六吋（四十糎）榴弾砲ハ此ノ型式テ方向移動ノ限度カ七度迄ハ鉄道線上テ（一）ノ要領ニヨリ射撃シ得ルカ其以上ノ方向射界ヲ求ムル爲ニハ特設セル砲床上ニ卸下スルコトヲ要スル、勿論砲床上ニ卸下スレハ全周射撃ヲモ許スカ所要時間ハ十二時間乃至一週間ヲ要スルモノトセラレテ居ル
砲床材料トシテ使用スルモノハ木材及金具等ノ制式部品ヲ装備シ之ヲ組立テルノテアルカ海岸防禦ノ如キニ在リテハ豫メ所要ノ陣地点ニ永久ノ混凝土砲床ヲ構築シテ置クコトモ出來ルシ野戦ニ於テモ

時日ノ餘裕アル状況ニ於テハ應用ノ餘地カアル
此ノ型式ノ材料ハ又火砲材料ヲ砲床上ニ卸下セナクトモ彎曲セル線路ヲ或方向ニ對シ設置シ該線路上ヲ前後ニ移動スルコトニヨリ方向移動量ヲ僅僅ニ求ムルコトモ出來ル

(三) 鉄道線路上ニ於テ射撃シ得ルモ固有ノ方向旋回ヲ有セス單ニ彎曲セル線路ヲノミ利用シテ方向移動ヲ行ヒ得ルモノ
舊式材料タルコト勿論テ廃始明ノ列車砲材料ニノミ之ヲ認メラレ不動目標ニ對シテハ多少ノ用務ヲ爲スカ夫レモ目標爽縦ニハ大ナル制限ヲ受ケ將來使用ノ見込少イモノテアル

(四) 鉄道線路上ニ特設セル回轉盤上ニ於テ射撃スルモノ
鉄道線路上所望ノ地点ニ回轉盤ヲ設ケ射撃ニ際シテハ火砲材料ヲ該回轉盤上ニ固定シ恰モ停車場ノ轉車臺上ニ於テ機関車ヲ操縦スルカ如キ要領テ火砲ニ所望ノ方向ヲ附與スルモノテアル、鉄道ノ三、十種如斯ハ此ノ型式デアルト聞クカ大ナル設備ヲ要スルト云フ点カラ考ヘテ好テ採用スヘキ方式テ無イノミナラス野戦等ニ於テハ其使用上大ナル制限ヲ受クルコトヲ豫期セラルル

前記ノ諸型式ヲ比較スルニ吾人ノ希望ニ一致スルモノハ(一)ノ型式テ材料ト鉄道素質ノ関係上止ムヲ得ス大口径ノモノニ於テ始メテ(二)ノ型式ヲ採用スヘキモノテ有ルコトハ誰シモ首肯スルコトト思フ、但シ日進月歩ノ軍事技術ノ前途ヲ考フレハ現在(二)ノ型式ニ依ラサル可カラストセラレアル大口径ノ列車砲材料モ(一)ノ型式ニ近キモノニテ済ム場合モ生シヤウシ更ニ(一)ノ型式ト雖モ其採用ノ頗ル單簡性ヲ帯フルモノヲ考案スルコトニナルタロウシ又必スナラナケレハナラナイモノト信セラレルシ或ハ又(一)ト(二)トノ中間型式ノモノテ(一)ニ近キモノヲモ創意スル等ノ前途ニ就テ関係方面ノ三省ヲ乞フ次第テアル

三、砲種、口径及射程

現時ノ列車砲ハ加農カ其大部デ(一部ノ榴彈砲(米軍ニ於テ臼砲ト稱スルモノアルモ殆ント榴彈砲ニ近シ)ヲ有シテ居ル、加農ト榴彈砲ノ比較ニ就テハ列車砲ニ限ツタ問題デナク(一般問題ノ範圍ニ入ルノデ榴彈砲ノ彎曲セル彈道ニ依リ求メ得ル特種ノ效果ハアルカ其重量ト射程トノ相對的關係ヤ加農ノ長射程ニ於ケル落角ノ增加ト發射速度ノ要求等カラ見テ大体ニ於テ加農賞用ノ跡ヲ認ムルコトカ出來ル、米軍ノ新式砲中ニ十二吋(三十糎)榴彈砲ヲ認ムルノハ[illegible]度此ノ程度ナレハ新式八吋(二十糎)加農ト全ヘノ匡床ヲ使用シ得前述ノ(一)ノ型式ヲ採用シ得ルト云フ点ニ発足シテ居ルモノデアル、此關係ハ十四吋加農ト十六吋榴彈砲トノ間ニモ同様デ十四吋加農ノ匡床ヲ十六吋榴彈砲ニモ使用シ得ルト云フ点デ進ンデ來タカ此ノ榴彈砲ノ射程カ十四吋加農ノ二分ノ一ヲ超ユルコト大ナラス他面十四吋加農ノ最大射角ハ五十度ニ達シ從ヒテ十六吋榴彈砲ハ列車砲材料トシテハ十四吋加農ニ劣リ　他面固定

米軍ニ於テハ十六吋加農(最大射角六十五度)ニ其威ヲ奪ハレテ儼シテ不振ノ状態デアル、

列車砲ノ口徑ハ現時、加農ハ二十糎カラ三十五糎、榴彈砲ハ三十糎カラ四十糎ト云フ程度デアル今米軍ニ於ケル現用並ニ新式材料ノ口徑及射程ノ一覧ヲ示スト次表ノ如クデアル

砲種(口徑)		現用材料(射程米)	新式材料(射程米)
加農	八	二八〇〇〇	三一〇〇〇
	十四	三七〇〇〇	四三〇〇〇
榴彈砲	十二	一三九〇〇	二〇〇〇〇
	十六	二八〇〇〇	二七〇〇〇

前記火砲中米軍ノ將來使用セントスルモノハ八吋及十四吋ノ加農ヲ主ニ

トシ加フルニ十二吋榴彈砲ヲ以テセントスルモノニテ八吋加農ハ華府會議ノ結果トシテ陸軍ニ移管セラレンタ四十五口徑ノモノヲ取不敢新式砲架ヲ製作シテ前表ノ如キ射程ヲ得テ居ルカ將來ハ五十口徑ノモノヲ考案シテ居ルシ十四吋加農ハ矢張リ五十口徑ノモノカ既ニ久シキ以前ヨリ製作セラレ試驗済ノ結果ニ在リ十二吋榴彈砲ハ二十三口徑テアル十六吋榴彈砲ハ新式砲トシテ一部ノ試製ヲ見タカ已ニ述ヘタル理由テ將來採用ノ傾向ニ乏シイ

列車砲兵材料トシテ十四吋加農級カ米國ノ鐵道素質カラ云ツテ最大限度ノモノテアルコトハ已ニ屢々唱ヘラレテ居ルトコロテ野戰ニ於テ總軍隊備砲兵トシテ猛威ヲ逞ウセンカ為ニハ少クモ此ノ程度ノモノハ必要テアルシ又海岸戰ニ於テ敵ノ戰艦ニ對シテハ此位ハ最少限度ニ必要ヲ認メラレ其不足ハ固定ノ十六吋加農ニ依ル方針テアル

八吋加農ハ野戰ニ於テ更ニ軽易ニ移動シ迅速ニ射撃任務ニ服スルト云フ關係上又海岸戰ニ於テハ世界海軍國ノ巡洋艦建造熱ノ旺盛ナルニ鑑ミ同艦種ニ搭載スル中口徑威力砲ニ對シ有效ニ戰闘スルタメ其必要大ナルヲ高唱力説シテ居ル

何レニシテモ野戰タルト海岸戰タルトヲ問ハス一國ノ鐵道素質ノ關係上使用シ得ヘキ最大口徑ノ加農ト別ニ更ニ軽易ニ移動シ得ヘキ加農ヲ必要トスルコトハ殆ント動カス可カラサル要件テ特ニ此ノ後者ハ野戰海岸兩用ヲ切念スル國軍テ而モ鐵道素質ノ極メテ良好ナラサル範圍ニ於テ活用センカ為ニハ大ニ着目スヘキモノト思フ、列車砲兵ト云ヘハ單ニ鐵道線路ノミカ問題ノ如ク云々スル論者モアルカ外征ニ必要ナル船舶輸送ヲモ考慮スルノ要カアルシ二十糎級ノ火砲テモ既ニ射程三万米ヲ突破セントシツツアルコトヲ考フレハ大ニ着意セナケレハナラナイ重要問題テアル、從ツテ吾人ノ私見トシテハ國軍ノ列車砲兵材料トシテハ八吋（二十糎）程度ノ加農ヲ主力トシテ野戰及海岸戰ニ於ケル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軽易ナル運用ヲ企画シ別ニ一部ノ更ニ大口径ノモノ例ヘハ十吋（二十五糎）程度ノ加農ヲ以テ前記軽易材料ノ企及シ能ハサル目標ニ対スル運用ヲ企図スヘキテアルト思フ

榴弾砲モ有ルニ越シタコトハ無イカ相当ニ加農ヲ充実シタ後ノ問題テ今ヨリ力説スヘキ焦眉ノ問題テ無イノミナラス一度二十糎加農問題カ実現スレハ夫ニ関聯シテ更ニ三十糎程度ノ榴弾砲ヲ物ニスルコトハ大シタ困難ハナイ

四、発射速度及火砲全備重量

発射速度ハ砲種、口径、火砲ノ結構、目標ノ種類及射撃時間ノ長短等ニヨリテ差アルコトハ勿論テアルカ米軍ノモノニ就キ概察スルト一門ノ一分間ニ発射シ得ル弾数ハ次表ノ如クテアル

砲種	短時間	長時間
八吋加農	一	二分ノ一
十二吋臼砲	二分ノ一	五分ノ二
十四吋加農	二	一
十六吋榴弾砲	二	一

前記ノ数値中八吋及十二吋砲ハ現用砲（手力ヲ以テ装填及照準）ニ就キ之ヲ示シ十四吋及十六吋砲（発電装置ヲ有シ自力ニヨリ装填及照準）ハ新式砲ニ就キ示セルモノテアル

火砲ノ全備重量ハ運動性ヲ左右スル重大問題テ鉄道ノ素質ヤ船舶輸送ノ関係ト密接不分離ノ関係ヲ有セシムヘキモノテアル

今米軍ニ於ケル列車砲全備重量ノ概数ヲ示セハ次ノ如クテアル

八吋加農　七七瓲
十二吋臼砲　八〇瓲

十四吋加農　三三一七
十六吋榴弾砲　三〇八七

第二節　其他ノ材料

一、観測貨車

中隊（砲台）以上ノ各本部ニハ観測貨車少クモ一輛ヲ有シ該貨車内ニハ観測及通信ニ要スル主要器材ヲ収容シアルノミナラス陣地占領ニ伴ヒ主要ナル射撃諸元ノ決定及射撃指揮ヲ施行シ得ル如クスル必要カアル」観測車トシテ使用スヘキ貨車ハ有蓋貨車ナルモ採光、防護等ヲ顧慮シ尚車内ニ於ケル器材ノ整備及操用ニ至便ナラシムルノ特種設備ヲ行フヲ要シ其収容スヘキ器材ハ本部ノ大小ニ依リ差異アルコト他ノ砲兵ト異ルトコロハナイ

又列車砲兵ト称スルモ之ヲ野戦ニ使用スヘキヤ海岸戦ニ使用スヘキヤニ依リテ観測車内ノ収容器材ニ差異ヲ生スルコトハ勿論テ此等ハ既ニ述ヘタル如ク一國軍ノ列車砲兵使用ノ目的カ野戦及海岸戦ト云フコトニナレハ観測車内ノ収容器材ハ自ラ二途ニ計画規定シ平時ニ於テハ両用ノ教育ヲ施シ戦時ハ動員ト共ニ其用法ヲ定メテ之ニ一致スルノ観測装備ヲ執ラシメ又戦争ノ推移中、戦闘序列ノ変更ヲ見ルカ如キ場合ニハ直ニ其補充（交換）装備ヲ準備スルコトカ必要テアル、斯ノ如ク述ヘルト一ハ砲兵ニ対シ二途ノ観測器材ヲ準備シ甚タ不経済ノ如ク思考セラルルカモ知レヌカ列車砲兵装備中ノ観測器材ハ其死活ヲ左右スヘキ重大要具タルハ勿論ナルモ其観測一車輛ハ全般装備中ノ九牛ノ一毛ニモ比スヘキモノテ之ヲ二重ニ計画スルコトハ此ノ砲兵ヲ野戦及海岸ノ二途ニ活用セントスル重大問題カラ考ヘテ躊躇スヘキ筋合ノモノテハナイト思ハレル

二、弾薬貨車

弾薬車モ亦有蓋貨車テアルカ其内部ニハ弾丸及装薬ノ整備及操用ノ便

ト之ヲ揚彈シ送彈シテ砲尾ニ運搬スルノ装置カ必要テ少クモ彈薬車ハ一輌ハ常ニ砲車ト連結シテ運用スル必要カアル　ハ彈薬車内ニ収容スヘキ彈薬数ハ火砲ノ口径及貨車ノ容積ニ依ツテ差異アルハ勿論テ米軍ノ八吋加農用ノモノハ九十六発十二吋臼砲用ノモノハ四十八発ヲ運搬時ニ於ケル一車輌ノ定数トシテ居ル

三、其他ノ車輌

以上ノ外各種雑多ナ車輌カ此ノ砲兵ノ装備上必要テ又其必要ナル範囲ハ中隊及各本部ノ大小等ニ依ツテ差異カ有ルカ之ヲ一律ニ列記スルト次ノ如キモノカアル

無線通信貨車
発電用貨車
探照燈用貨車
装備品貨車
油槽貨車
機械用貨車
修理貨車
工場貨車

勿論此種砲兵ノ移動ノ為メニハ以上ノ外ハ一般軍隊ト同シク客車、有蓋貨車及無蓋貨車等ヲ準備シ人員、荷物、行李、炊具、糧秣及諸車輌ノ輸送ヲ準備スルコトカ必要テアルカ此等ハ部隊装備ノ外テアル

第三章　列車砲兵ノ編制及教育

第一節　編制

編制ニ就テハ使用兵器及其整備数ノ未決問題ヲ保留シツツ具体的ニ論述スルコトヲ許サヌカ茲ニハ列車砲兵ノ特色上ハ一般砲兵ニ比シテ特異ナル編制上ノ着意ヲ述フルニ止ムル

一、砲兵ノ司令部内ニ設置スヘキ機械

野戰ニ於ケル軍砲兵部（若クハ攻城砲兵司令部）及海岸戰ニ於ケル海岸防禦管区司令部（若ハ要塞司令部）ニハ列車砲兵ノ技術的性能ヲ十分ニ理解シ且其運用ニ関スル諸般ノ事項ヲ完全ニ處理シ得ヘキ將校一ヲ有セシメ作戰主任幕僚ノ直接補佐官タラシムルコトカ必要テアル

二、　列車砲兵旅團司令部

苟クモ二個以上ノ列車砲兵聯隊ヲ有スル場合ニ於テハ必スヤ列車砲兵旅團司令部ノ必要ヲ生スル、コレハ決シテ二個以上ノ列車砲兵聯隊ヲ常ニ統一使用センメントスルノ着意テナクシテ寧ロ列車砲兵全般ノ用法ニ就キ常ニ高級指揮官ニ適切ナル意見具申ヲナシ且其命令及意圖ニ應スル準備ヲ行ヒアラシムルヲ主目的トシ又必要ニ應シ列車砲兵ヲ使用スル主要方面ニ於テ要スレハ他ノ砲兵ヲモ合シテ砲兵集團若クハ大集團ノ指揮機関タラシムルノ主旨テアル

三、　列車砲兵聯隊

聯隊本部ハ二乃至三個ノ大隊ト其外ニ補充機関及修理機関ヲ附スルノ要カアル

元來聯隊ノ編制ニ方リテハ此ノ砲兵ノ特色上各大隊カ即チ戰術的單位トシテ獨立活動シ得ルコトヲ主体トスヘキテアルカ若様ノ遠沖スル関係上通信設備サヘ出來レハ廣地域ニ分散配置シタ各大隊ヲ統一指揮シテ其威力ヲ絶大ナラシムルコトヤ或ハ異ル列車砲兵聯隊内ノ二個以上ノ大隊若ハ列車砲大隊ト他ノ砲兵大隊トヲ編合シテ使用スル等ノ事項モ戰況ヤ目標ノ状態ニ於テハ生スルコトヲ豫期スルコトカ必要テ從ツテ聯隊本部ノ編成ハ所謂砲兵集團又ハ小集團ノ指揮カ執レルコトニ着意スルノ必要カアル、

聯隊本部編制中他ノ砲兵ト異リ特ニ鉄道掛將校一ヲ設ケ聯隊ノ鉄道移動ニ関スル事項即チ列車ノ編成及解除並乘下車、搭載卸下トヲ監督セシムルノ要カアル、　此等ノ事項ハ他ノ砲兵ニ於テモ鉄道輸送ト云フ問題

カ起レハ當然必要デアルカ鐵道ヲ運動ノ爲唯一ノ生命トスル列車砲兵ノ運用ヲ円滑ナラシメンカ爲ニハ常續的ニ此ノ業務ニ專念沒頭スル將校カ必要ナ事ハ敢テ多言ヲ要スマイ、米軍ニ於テハ更ニ此ノ將校ニ一名ノ補佐將校ヲ附シ大中尉二名ニテ鐵道ト彈薬ニ關スル業務トヲ實施セシメテ居ル

修理機関トシテ兵器中隊ト云フ樣ナモノヲ聯隊直轄機関トシテ保有セシメ戰闘部隊ノ後方ニ於ケル移動修理所タラシムルコトモ亦必要デ其編制内容ハ之ヲ所要ニ應シ獨立分派スル大隊ニ分属セシメ得ル如クシ主トシテ優秀ナル技術的手腕ヲ有スル人員ヲ以テスルヲ要スル

四、列車砲兵大隊

大隊ハ本部及二乃至三中隊ヲ基幹トシ此ノ砲兵ノ特性上、特ニ戰術的單位トシテ獨立行動スルニ適スルヲ編成ノ根本基準トスルヲ要スル

本部ノ編成上、鐵道掛將校ヲ要スルハ勿論全任務ヲ有スル下士卒ヲモ編成内ニ加ヘナクテハナラヌ

鐵道掛將校ノ任務ハ聯隊本部ニ於テ述ヘタ如ク大隊ノ鐵道ニ依ル移動業務即チ列車ノ編成、解除及乘下車、搭載卸下ヲ監督スルノ外大隊トシテハ線路ノ修理及保存並短距離運行ニ関スル業務ノ統轄指導ヲモ要スル、從ヒテ線路ノ修理及保全等ハ部下中隊ノ兵員ヲ取ッテ行ヒ或ハ中隊ニ区域ヲ配當シテ實施セシムル等ノ處置ニ出ツルトシテモ短距離特ニ陣地進入直前ノ運行及之ニ伴フ保安ノ必要上若干ノ下士卒ヲ要スルノデ其最少限ノ要員ハ次ノ如キモノデアル

下士若ハ技手一、　機関車掛
下士一、　鐵道掛將校助手
兵卒一、　機関車火夫
兵卒二、　轉轍手
兵卒三、　雜役兵

計　下士六、卒六、

鉄道掛將校ヲシテ弾薬掛ヲ兼務セシメ又鉄道掛下士以下ニ更ニ所要ノ人員ヲ加ヘテ弾薬掛ト合ヘスルノハ米軍ノ遣リ方デアルカ何レニシテモ前記ノ如キ要員ノ計上ハ最少限度ニ必須ノモノデアル

五、列車砲兵中隊

中隊ノ編制デハ次ノ如キ特異ノ点ヲ認メ得ラルル

(一) 中隊ノ砲数

二門カ四門カノ問題デ之ハ一ニ火砲口径、重量、発射速度及附属スル器具材料ノ多寡等ニ依ルモノデアル、殊ニ米軍ノ例ヲ引用スルト七吋及八吋加農ヤ十二吋臼砲デハ四門ヲ中隊トシ十二吋加農ヤ十四吋以上ノ砲デハ二門中隊トシテ居ル、十二吋臼砲ト云ヘハ四門ノ中隊デハ過大ニ類スルヤノ感モ起ルカ著者既ニ述ヘタ如ク此ノ砲ハ重量ニ於テハ八吋加農ト大差ナク又其発射速度ノ小ナル等ノ関係カラ生レタ結果デアル

(二) 鉄道掛將校及附属下士

將校ノ数ハ中隊長、観測小隊長及砲車小隊長等ヲ要スル外ニ鉄道掛將校トシテ中尉一及其附属ノ下士一ヲ要スルコトヲ特色トスル

(三) 中隊ノ下士以下

中隊ノ兵員数ハ火砲ノ種類ニ依リテ異ルカ米軍列車砲兵中四門中隊ヲ採用セル八吋加農及十二吋臼砲ノモノハ次ノ如ク二門中隊ノモノハ砲車分隊ノ数ヲ異ニスルノミテ其他ニ差異ヲ認ムルコトハ少イ

區分	下士	兵卒	計
中隊長附属	四	五	九
観測分隊	五	二四	二九
通信分隊	四	一一	一五
砲車分隊四	二二	九二	一一四

補充分隊	五	一八	二三
計	四〇	一五〇	一九〇

六、平時編制

平時編制ノ完備ハ即チ戦時戦力ノ潜勢力テ経費ノ充當ヲ云々シテ平時部隊ヲ缺キ単ニ戦時ノ使用ヲ図セントスルハ國家経済上カラ観レハ一文惜ノ百失トナリ又兵器ノ秘密ヲ云々シテ平時部隊ニ装備スルコトナク兵器庫ノ貯蔵物件トナスコトハ實ノ持腐レトナレハ示タンモ今日ノ實ハ明日ノ古草履トナルノ事實ヲ閑却シ訓練ノ實績ヲ忘レタモノテ他面有事ノ日ニ於ケル國家ノ造兵ヤ其藝能力ヲモ考フル必要カアリ徒ラニ他國ヲ真似ル兵器行政方針モ採用出来マイ、

何レニシテモ苟クモ列車砲兵ヲ採用スルコトニ着意セハ先ツ戦時編制ヲ考ヘ同時ニ其因子タル平時編制ヲ完備シ之ニ依テ万全ノ訓練ニ邁進シナクテハナラナイ

平時編制トシテハ此ノ砲兵ノ特色ニ之ヲ他ノ某砲兵ト共通乃至ハ融通的ニ編制スルカ如キ姑息不徹底ナコトヲ考ヘス重砲兵ノ一分科トシテ獨立スル部隊ヲ建設スルノ要アルコトハ此ノ砲兵カ特種ノ移動性能ヲ有スルコトヤ野戦及海岸戦ノ両用ニ使用スヘキ見地カラシテ少シモ不経済ノ点ナク行ヒ得又行ハサル可カラサルモノテアルコトハ明瞭テアル

平時部隊ノ編制ハ素ヨリ戦時編制ノ部隊数如何ニ左右セラルル問題テアルカ平時編制ノ単位トシテハ聯隊ヲ以テスルコトカ経済的方面カラモ訓練的方面カラ観テモ必要テ茲ニ獨立ノ小部隊ヲ建設スルコトハ獨リ此ノ砲兵トノミ云ハス過去ニ於ケル砲兵編制ノ史實カラ見テモ同意シ難イ点テアル況ンヤ此種砲兵ノ如キ戦略的使用ノ範囲廣汎ナルモノニ於テ特ニ其感ヲ深クスル

若シ編制ノ過渡期ニ於テ先ツ大隊ヲ建設スルノ止ムヲ得サル場合ニ於テモ必ス聯隊本部ト一大隊ヲ包含スル聯隊トスルコトカ必要テアル、更ニ過渡的ニ元ヲ單ニ一中隊ノミヲ建設スル場合ニ於テハ先ツ之ヲ學校教導隊ノ一部トシ次テ編制ノ擴張ニ伴ヒ二中隊ノ大隊ニ聯隊本部ヲ附シテ一箇ノ聯隊トスルノ方策ニ進展セシムヘキテアル

第二節 教育

列車砲兵ニ関スル教育問題トシテ特異ナル点ト認ムヘキ主要ナルモノハ其移動ノ根元タル鉄道関係ノ事項テ之ニ関聯スル事項ハ次章ニ述フル運用要旨ト密接ノモノテアル、尚此ノ教育ニ連繋シテ教育施設及方法ヲ如何ニスヘキヤヲ附言スルコトトスル

一、列車砲兵トシテ教育スヘキ鉄道関係事項

鉄道ハ其関係スル範圍ニヨリ民間營業用ノモノト軍用ノモノトヲ存シ列車砲兵ハ此ノ両者ニ関係ヲ有シ其内、軍用ノモノハ主トシテ鉄道隊等トシテハ工兵隊或ハ軽便鉄道隊ノ習得スヘキ事項テアルカ列車砲兵ノ特性上、砲兵自ラモ亦此ノ鉄道ニ関スル智識ヲ有シ所要ノ教育ヲ施サナクテハナラナイコトハ恰モ自動車砲兵中ニ自動車ヲ部隊正規ノ装備トシテ有シテ居ナイモノテモ自動車ニ関スル智識ヲ有シ其教育ヲ行ハナクテハナラナイコトト以上ニ必要テアツテ單ニ一般軍隊ノ有スル鉄道ニ関スル智識ヤ教育ノ程度ヲ以テ甘ンスルコトカ出來ナイコトハ敢テ多言ヲ要セナイコトテアル

列車砲兵ノ將校以下ハ其職域ニ應シ鉄道ニ関スル智識及教育中少クモ次ノ事項ニ通シナクテハナラナイ

(一) 將校

(イ) 鉄道ニ依ル移動計画ノ策定上必要ナル事項（使用材料ニ應シ使用鉄道ノ素質上必要ナル技術的判断ヲ含ム）

(ロ) 所要ニ應シ砲兵移動ノ目的ヲ以テスル已設鉄道ノ偵察

(ハ) 砲兵的見地ニ基キ鉄道専門部隊若ハ機関ニ對スル至當ナル要求
及協議

(ニ) 鉄道線路ノ建築及修理ニ関スル實地能力及其教育法

(ホ) 鉄道ノ運轉及保安ニ関スル實地能力及其教育法

(ヘ) 機関車其他ノ輪轉材料及建築材料ノ検定

(ト) 線路新設ノタメ偵察、選定測量及所要材料ノ計画

(二) 下士以下

其職域ニ應シ将校ノ指導ニ依リ作業若ハ業務實施ノ能力ヲ具備スル
ヲ要シ一般下士卒ト特業下士卒ナルトニ依リ次ノ如キ差アル

(イ) 一般下士卒ノ

鉄道線路ノ建築及修理

鉄橋ノ補設

列車ノ制動

鉄道ノ保安

下士ハ局部的ノ鉄道ノ偵察及将校ノ助手トシテ機関車以外ノ輪轉
材料ノ検査

(ロ) 特業下士卒

機関車ノ運轉及検査

線路ノ測量及建築材料ノ検査並其所要数量ノ算討

線路保安業務ノ監督指導

二、其他ノ教育事項中特異ナルモノ

本線鉄道ノミナラス軽便鉄道ニ関スル同様ノ教育ヲ行フコトハ作戦ノ
目的及使用範囲ノ関係上少クトモ工兵部隊ニ對シテハ必要ナル事項デ又
外征作戦ノ為船舶輸送ニ関スル教育ヲ深刻ニ行フヘキコトハ使用材料
ノ関係上特ニ留意セナクテハナラナイ

三、教育施設及方法

學校敎育ト軍隊敎育トニ分ケ且列車砲兵建設ノ揺籃時代ト爾後ニ於ケル敎育トニ區分シ考定スル必要カアル

(一) 建設時代

列車砲兵ヲ建設セハ先ツ重砲兵學校ニ敎導隊ノ中隊ヲ増設シ之ヲ列車砲兵中隊トシ以テ列車砲兵研究試驗ノ實行機關トシ且將校學生敎育ノ實地機關トスルノ要カアル

此ノ時期ハ各種將校學生ニ對シテハ列車砲兵ニ關スル常識的敎育ヲ行フノ程度ニ止メ專ラ其建制、編制、運用及敎育並材料研究ノ期間トシ兵器材料ノ交付時期ヨリ二年間ヲ目途トシテ之ヲ行フヲ要スル

學校トシテハ寧ロ兵器材料ノ交付ヲ受クルニ先タチテ先ツ所要ノ將校及一部ノ下士ヲ鐵道聯隊ニ分遣シ約二ケ月位ノ見當テ鐵道ニ關スル實地ノ研究ヲ遂ケシムルコトカ切要テ士官學校敎育程度若ハ之ニ多少ノ皮相的研究ヲ加ヘタ程度ノ鐵道智識ヲ以テ直ニ列車砲兵ノ研究及建設ニ當ラントスルカ如キハ恰モ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルノ類テアル

又此ノ時期ノ研究ハ獨リ實施學校ノミナラス國軍ノ用兵機關モ行政機關モ將又技術ヤ造兵ノ機關モ一体トナリテ其研究ニ腐心シ全般ノ問題ヲ連繋シテ速決スルノ覺悟カナクテハナラヌ又敎育及研究ノ材料トシテ實施學校ニハ機關車及相當ノ鐵道敷設用材料ヲ備ヘテ日常ノ研究及射撃並對外教練等ニ資スル必要カアル

(二) 平時編制部隊ノ編制以後

建設時代ノ研究及敎育ニ次キ直ニ平時部隊ヲ創設シ且逐次之ヲ増設シテ戰時所要部隊ヲ充足スルノ基トナスノ要カ急テアル

此ノ時期ニ到ルモ實施學校トシテハ已設ノ敎導隊ハ依然必要テ之カ列車砲兵部隊要員タル將校ノ實地敎育機關タリ且國軍ノ列車砲兵研究ノ實地機關トナルモノテ其他練習生隊ノ擴張ニ依リテ一部ノ將校ニ

及所要ノ下士卒ニ特業教育ヲ施スコトカ其界限ノ間必要トナル
愈々各隊ノ建制モ一通リ出來、之ニ要スル幹部要員ノ教育モ出來タル
暁ニハ各隊ノ教育ハ概ネ各隊ニ於テ完成スルコトトシ關係アル將校
學生教育ノミヲ學校ニ於テ擔任スルコトトナルノハ現時ノ一般砲兵、
教育ノ如クナルヘキテアル
各隊ノ教育材料トシテハ已ニ學校ノ部ニ於テ述ヘタル如ク機關車及
建築材料ヲ備ヘ付クルコトカ必要テ此等ノ意味カラ言ツテモ小部隊
ヲ箇々獨立分散シテ建制スルコトハ不利益テアル

第四章 列車砲兵ノ運用

列車砲兵ノ特性ハ既述ノ研究ニ於テ明カナル如ク適時且適所ニ其移動性
ヲ活用シテ固有ノ威力ヲ發揮スルニ存シ之ニ依リテ軍ノ最高威力ノ豫備
砲兵トシテノ任務ヲ課スルコトヲ得其用法ハ國土海岸直接ノ防衛ヨリ外
征作戰ニ亘ル廣汎多岐ノ要求ニ適シ多種多様ノ目標ニ對スル戰闘遂行ヲ
許スモノテアル
左ニ此等ノ用法中、列車砲兵特有ノ事項トシテ認メ得ヘキ一般則ニ就キ其
要旨ノミヲ略述スルコトトスル

第一節 任務及軍隊區分

一、任務及他兵種トノ關係

列車砲兵ノ任務ハ野戰及海岸戰ノ両用ニ於テ概ネ次ノ如クテアル

(一) 野戰ニ於ケル任務

野戰ニ於ケル各軍ニ連繫シテ特種ノ任務ヲ遂行スルヲ本旨トシ其任
務ハ軍ノ任務、作戰地ノ狀況、特ニ交通網ノ狀態、敵ノ兵力、編組及素質
等ニヨリテ決セラルルモノテ運動戰タルト陣地戰ナルトヲ問ハス總
軍豫備ノ大威力砲トシテ左ノ如キ遠距離ノ目標ニ對シ敵ニ至大ノ痛
痒ヲ與ヘ且奇襲的效果ヲ獲得スル如ク使用スヘキテアル

最モ堅固ナル防禦工事

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

堅固ニ防護セラレアル砲兵
鉄道ノ接續点及岐分点、隧道、停車場、
道路ノ交叉点、橋梁、弾薬集積所

(二) 海岸戦ニ於ケル任務

海岸戦ニ於ケル任務ハ之ヲ大別スルト既ニ平時ヨリ固定兵備ヲ有スルカ若クハ之ヲ有セサル港湾ノ防禦戦闘ヲ増援シ若クハ援助スル場合ト国土沿岸ニ對スル敵ノ上陸ヲ防禦スル軍ノ支援トノ二カアル

港湾防禦ニ於テハ其長射程ヲ利用シテ港湾及水道ノ出入口ヲ防禦シ或ハ敵艦船ノ射程ヲ其所望ノ目標ニ達セシメナイ様ニ之ヲ遠距離ニ阻止スルノカ本旨テ從ヒテ其射撃目標ハ長射程火砲ヲ有スル敵艦船ニ對シテ指向セラルルノヲ通常トスル

長延ナル海濱ニ於ケル敵ノ上陸ヲ防禦スルニ方リテモ矢張リ其長射程ノ利用ニ就テハ全ク主旨タカ其目標ハ敵ノ艦船ノミナラス運送船等ヲモ包括シ此等目標ヲ成ルヘク遠ク海岸ヨリ阻止スルノカ主任務トナル、此際敵ノ運送船若ハ装甲十分ナラサル艦船ニ對シテハ軽列車砲兵ヲ使用シ敵ノ主力艦若ハ之ニ類似ノ攻防力ヲ有スルモノテ其上陸ヲ支援スルモノニ對シテハ重列車砲ノ運用ニ俟ツヘキモノテアル

(三) 他兵種トノ関係

列車砲兵ノ戦術的任務ノ達成上、上級指揮官ヤ他ノ戦闘部隊ト最モ密接ナル連繋ヲ保持スヘキハ夫々類似ノ特性ヲ有スル他ノ砲兵ト同様テアルカ鉄道隊（状況ニヨリ工兵隊若ハ野戦鉄道隊）ト密接不分離ノ関係ヲ有スルコトハ其移動、線路ノ構築及保全並軍用鉄道ノ運轉等ニ於ケル特種ノ関係トシテ銘記スヘキテ又民間営業用鉄道トノ交渉ヲモ大ニ留意シナクテハナラナイ

航空部隊トノ関係ハ他ノ固定兵備中ノ大威力砲兵ト同様ニ極メテ緊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

要テ空中観測ノ利用ト云フコトハ任務達成上絶對ニ閑却ヲ許サナイ。

二、軍隊區分及指揮ノ系統

時權ノ要塞ニ隷屬使用セラルル場合ノ外其國内用法タルト外征用法タルトヲ問ハス凡テ總軍豫備砲兵タルヘキモノテ更ニ其根本ニ亘リ之ヲ野戰ニ使用スルカ海岸戰ニ用フルカハ國軍作戰ノ目的及狀態ニ據リテ決定シ要スレハ轉換ノ必要ヲモ生スル

編制ノ部ニ於テ述ヘタル如ク列車砲兵ハ大隊ヲ以テ戰術單位トシ從ヒテ野戰ナルト海岸戰ナルトヲ問ハス各大隊ハ通常其所屬隊長ノ直接指揮ノ不可能ナル程度ニ廣地域ニ分散スルノカ常態テ其配置ノ根本ハ各大隊ニ適切至當ナル目標ヲ與フルノ主旨ニ從ツヘキテアル

若シ目標様狀ノ狀態ニヨリ固有聯隊ヲ異ニスル二個以上ノ列車砲兵大隊或ハ列車砲兵ト同様ノ射程又威力ヲ有スル他ノ砲兵トノ協同ヲ利用ニシ相互ノ利益ヲ確保セントスル場合ニ於テハ砲兵集團ヲ設ケテ之ヲ統一指揮セシムヘキモノテ此際列車砲兵聯隊長ハ集團ノ指揮ヲ命セラルルモノテアル

(一) 野戰ニ於ケル場合

野戰軍ニ屬スル列車砲兵ハ所要ニ應シ總軍豫備ヨリ方面軍若ハ獨立軍ニ配屬セラレ其使用ハ通常軍ニ於テ直轄セラレ時宜ニヨリ方面軍ノ直轄トシテ使用セラルルコトトナルヘキモノテアル

即チ野戰軍ニ屬スル列車砲兵ハ總軍豫備トシテ大範圍ノ奇襲的戰略的用法ヲ企圖シ其使用ニ方リテハ寧ロ方面軍ノ直轄砲兵トナレヘキモノテ之ヲ師團等ニ配屬スルコトハ先ツ認メ得ラレナイ

一ノ方面軍若ハ軍ニ已ニ配屬シタル列車砲兵ト雖戰況ノ推移ト作戰上ノ要求ニ應シテハ之ヲ更ニ他ノ方面軍若ハ軍ニ轉屬シ或ハ總軍豫備トシテ之ヲ返屬セシメテ爾後ノ作戰ニ適應セシメントスルカ如キハ大ニ着意スヘキ事項テアル

（二）海岸戰ニ於ケル場合

海岸戰ニ使用セントスル列車砲兵ハ所要ニ應シ之ヲ其海岸防禦管区若ハ某要塞ニ配属セラレ海岸防禦管區司令官若ハ要塞司令官ハ該管區内ニ於テ既設ノ兵備ヲ増援スルカ或ハ新ニ編成スヘキ防禦施設ノ骨幹トナシ若ハ豫期スル戰況ノ變化ニ適應セシメンカ爲之ヲ控置スル等其用法ハ種々ニ岐レル

元來海岸戰ニ於ケル常態ハ殆ント國土ノ全長ニ亙リテ戰場ノ廣漠タルト狀況ハ比較的靜穏ナルヲ以テ大本營若ハ國土防衛司令部トシテハ須ラク列車砲兵ノ戰略的ノ用法ニ着意スヘキテ又海岸防禦管区若ハ要塞ノ司令官等モ亦其守備ノ範圍ニ於テ狀況ノ變化ニ基キ適切ナル部署ノ變更ヲ策シテ戰機ノ要求ニ投合スルコトヲ期スヘキテアル、

第二節　一般用法中特異ノ事項

本節ハ列車砲兵運用上特異ノ事項ヲ抜萃シ断片的ニ其要旨ヲ述フルモノテ移動ニ關スル全般事項ノミハ之ヲ纒メテ次節ニ述フルコトトスル

一、使用ノ一般計画

野戰及海岸戰ニ使用スル列車砲兵ノ配當及之ニ基ク使用法ハ一般計画ニ準據シテ行フヘキモノニテ之ニ依テ各種ノ列車砲兵ノ必要ナル總數ヲ定メ其使用ヲ最モ有效ナラシムル如ク陣地ノ一般位置ニ關スル決心ヲナシ得ルモノテアル

一般計画ハ野戰ニ於テハ方面軍若ハ軍ノ砲兵指揮官、海岸戰ニ在リテハ防禦管区若ハ要塞ノ司令官之ヲ定メ、砲兵集團指揮官（聯隊長）ニ交附セラルルモノニテ若シ中間ニ列車砲兵指揮官（旅團長）カアレハ之ヲ經由スヘキハ勿論テアル

一般計画ハ豫期スル作戰ノ各經過ニ適應スル如ク列車砲兵ノ任務、目標及陣地ノ關係ヲ定メ各目標ニ對シ適切ナル使用ヲ準備スルノヲ目的トシ變換スヘキ各陣地ニ關シテハ完全ナル系統ヲ設ケテ迅速ナル移動ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

支障ナカラシムルト共ニ豫期スル戰鬪間ニ於ケル各種狀況ニ適應スル彈藥補充法ヲ定ムヘキモノテアル

此ノ計畫ハ野戰ニ於テハ爲シ得レハ戰鬪開始ニ先タチ且列車砲兵ノ戰場到着前ニ於テ準備スヘキモノテ海岸戰ニ於テハ必ス戰鬪前ニ於テ準備シ一般防禦計畫中ニ於ケル重要ナル要素ヲナスヘキモノテアル

計畫ノ爲顧慮スヘキ要件ハ次ノ如クテアル

(イ) 使用シ得ヘキ兵力及其特性

(ロ) 關係アル他ノ砲兵ノ威力ノ限度

(ハ) 豫期スル目標ノ位置及特質

(ニ) 所在鐵道線ノ延長及利用度

砲兵指揮官ヲシテ此ノ計畫ノ立案及列車砲兵ノ運用ヲ適切ナラシメンカ爲已述ノ如ク各砲兵司令部ニ專門將校ヲ要スルノテ該將校ノ主任務ハ次ノ如クテアル

(イ) 其地域ニ配當シ得ヘキ列車砲兵ノ用法ヲ決定スル爲必要ナル諸情報ヲ普ク蒐集記錄シ常ニ列車砲兵ノ展開及使用上ノ便宜ニ供シ且關係アル情報及必要ナル意見ヲ作戰主任幕僚ニ具申スル

(ロ) 該地域内ニ於テ豫期スル各種戰鬪ニ於ケル列車砲兵ノ使用計畫ヲ準備シ總司令部豫備砲兵ヨリ必要ナル列車砲兵ノ配當ヲ要求スヘキ基礎トスル

(ハ) 既ニ列車砲兵ヲ配當セラルルコト明瞭ナルヤ其使用ニ關スル決定計畫ヲ準備スル

二、集團指揮官（聯隊長）

野戰タルト海岸戰タルトヲ問ハス集團指揮官ハ列車砲兵ノ戰術的用法ニ關スル重要ナル指揮官テ受ケタル一般計畫ニ基キ當時ノ狀況ヲ考慮シ且地形ノ一般偵察ヲ行ヒタル後、豫期スル戰鬪ニ於ケル集團ノ用法ニ就イテ詳細ナル意見ヲ具申スルヲ要スルモノテ又必要ニ應シテ設備

スヘキ陣地ノ位置、岐分線、側避線、構築又ハ進入線路、架設スヘキ橋梁等既ニ計画セラレサリシ事項若ハ計画ニ追加スルヲ要スル事項ヲモ含マシムヘキモノテアル、

以上ノ意見具申ニシテ上級指揮官ヨリ容認セラルルヤ即チ列車砲兵使用ニ関スル作戦命令ノ基礎トナルヘキモノテアル、

兵團指揮官ハ其部下大隊ニ對シテハ各大隊ニ其配當セラレタル陣地ヘノ進入ヲ命シ大隊長ヲシテ迅速ナル陣地設備及射撃準備並其他ノ施設ニ必要ナル細部ノ情報及諸元ヲ知ラシメ又戦闘ノ為計画シタル目標ヲ各大隊ニ配當シ且部下行動ノ一般ヲ監督指導スルヲ以テ其任務トスル

三、鉄道線ノ利用

列車砲兵ニ緊要無二ノ鉄道線路ニ関シテハ作戦地内外ノ全域ニ亙リ完全ナル研究ヲ必要トシ之ニ依リテ始メテ該砲兵ノ移動、陣地占領及弾薬補充等ノ諸件ヲ遂行シ得ルモノテアル

鉄道線路ニ関シ留意スヘキ要件ノ内容ハ次ノ如キモノテアル

鉄道ノ一般配置ト陣地トノ関係

同ハ地域ニ存在スル他ノ軍隊ノ移動及補充上、鉄道ノ必要度、使用鉄道ニ對スル敵火ノ妨害

橋梁ノ位置及強度

塹道ノ断面其他移動ニ支障ヲ與フヘキモノ

利用シ得ヘキ側避線

四、移動能力

材料ノ補給及鉄道ノ素質並輪轉材料ノ價値ニヨリテ左右セラルルモノテ今米軍ニ於ケル標準ヲ示セハ一時間二十哩一日二百哩ト云フノカ一般標準テ尚其細部ニ就テハ次ノ如キ區分ヲ認メ且一日ノ移動時間ハ八乃至十時間ヲ標準トシテ居ル

(一) 不良ナル線路上ニ於ケル平均時速ハ十五哩

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(二) 本線鉄道若ハ之ニ類スル良好ナル線路上ニ於ケル平均時速ハ二十五哩ヲ計画上ノ最大限トスル

(三) 火急及非常ニ際シテハ本線上高級ノ路盤ニ於テハ三十五乃至四十哩ノ時速ヲ要求スル、現ニ両三年前十四吋加農ノ試験運行ニ於テ東部ヨリ西部迄ノ廣軌本線上ニ於テ四十哩ノ時速ヲ以テ運行ヲ継續シタ事實カアル

五、陣地ノ選定及設備

(一) 陣地ノ選定

(イ) 陣地占領ノ為本線鉄道ノ正規使用ヲ妨ケサルヲ原則トスルヲ要シ従テ其陣地ハ之ヲ本線鉄道ヨリ離隔セシムルコトカ必要テアル時宜ニヨリ軽量テ且迅速ニ設備シ得ヘキ列車砲兵ノ短期使用ノ為ニハ其陣地ヲ本線上若ハ本線側避線上ニ占位セシムルコトカアルカ此際列車砲兵ハ該鉄道上ニ於ケル他ノ弾薬補充ヤ一般運輸ノ為屡々陣地ヲ移動スルノ必要カ生シ又敵機ノ攻撃ヲ容易ナラシムルノ不利カアルカラ斯ノ如キハ特種ノ場合ニ於ケル一時的ノ手段トシテノミ之ヲ採用スルコトヲ許スモノテアル

(ロ) 陣地ヲ集團シテ位置セシムルコトハ偽装ノ效果ヲ減殺スルノミナラス各部隊ノ利用シ得ヘキ行動地域ニ制限ヲ與フルノ不利カアルカラ避ケナクテハナラナイ

(ハ) 陣地占領地域ノ選定ニ方リテハ弾薬補充及各種ノ移動ニ對シテ敵火ノ妨害ヲ受クル公算ノ多少ヲ大ニ顧慮スルコトカ必要テアル、其長射程ヲ十分ニ利用セントスレハ適當ニ前方ニ進出シテ陣地ヲ占ムル必要モ生スルシ之ト同時ニ敵ノ長射程砲ヤ空中爆撃ニ就テ十分ニ着意スルノ必要カアル

(二) 陣地ノ設備

(イ) 陣地ノ設備ニ際シテハ豫メ綿密ナル計画ト所要ノ意見具申及速

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

繋ノ保持ニ依リテ成ルヘク工兵隊等ヲ使用シテ附帯設備ノ促進ヲ計ルコトカ必要デアル、

(ロ) 陣地ニハ射撃用線路及停止用線路カ必要デ又之ヲ本線ニ連接スル進入用線路ヲ必要トスル

射撃用線路ハ火砲一門及弾薬貨車一輌ヲ收容スルニ十分ナル線路長ヲ有シ特ニ適切ナル枕木及軌條ヲ良好ナル路盤ニ敷設シ且全長ニ亙リテ水平ナルコトカ肝要デ砲車ノ位置スル部分ハ火砲ノ後坐ヲ支限スル支脚装置ノ為十分ナル地幅ヲ必要トスル

停止用線路ハ通常射撃用線路ノ側避線トシ要スレハ仝ヘ地域ニ陣地ヲ有スル大隊ノ為仝一ノモノトスルコトヲ得、

観測貨車及発電用貨車其線用貨車等ヲ配置スルモノデアル

進入用線路ハ本線ヨリ岐分シ該地附近ニ陣地占領セル部隊ノ進入撤去ヲ混雑遅滞ナク實施シ得ル如キ線路長ト線路数トヲ有セシメ

其細部ハ陣地ト本線トノ關係位置及占領スヘキ部隊ノ大小及狀況ニヨリテ決定セラルヘキモノデアル

(ハ) 陣地ニ於ケル砲車間隔ハ火砲ノ性能及任務ニ依ツテ差異カアルカ氷軍デハ五十碼(四十五米)乃至二百碼(百八十米)ヲ標準トシテ居ル

(ニ) 陣地ニハ適當ナル排水設備カ緊要デアル 但シ之カ為戰闘間兵員ノ行動ヲ妨クルコトナキコトニハ十分ノ注意ヲ要スル

(ホ) 陣地ノ偽装ハ肝要デアルカ扨テ實際問題トナルト膨大ナル兵器材料ヤ多数ノ貨車ヲ有スル關係上其完全ナル實行ハ困難デ特種ノ努力ヲ拂ツテ陣地占領ヲ明カニ発見セシメナイ様ニセナクテハナラナイ若シ之ヲ等閑視スルトキハ單ニ被害ヲ受クルノミナラス此ノ有力ナル砲兵ノ奇襲的効果ヲ没却シ其價値ノ大半ヲ失フモノト云フコトカ出來ル

偽装ノ為採用スヘキ手段及着意ハ次ノ如クテアル

占領陣地以外ヘ線路ノ偽延長

陣地ニ於ケル線路ノ遮蔽及痕跡ノ除去、

兵器材料及貨車ノ迷彩及不規配置

偽陣地ノ設備

地形ノ利用及煙幕並発煙剤ノ利用

直接戦闘ニ必要ナキ人員及器材並貨車等ノ分離配置及隠匿、射撃間ノミ陣地ニ進入シ然ラサル場合ニ於テハ別所ニ隠匿シ且此ノ動作ノ変換ハ夜暗若ハ地形或ハ煙幕等ノ庇護ニヨリ而モ状況ノ急ニ應シ得ル如クナランムルノ特種考案

第三節　移動

列車砲兵ハ其戦略的移動性ハ頗ル大ナルモ戦術的移動ニハ限度カアル即チ之ヲ評言センカ列車砲兵ハ苟クモ鉄道ノ存在シ若ハ鉄道ヲ施設シ得ル地域ニ於テハ豫期スル戦闘ニ對スル至當ナル状況ノ判断ニ基キ之ヲ希望ノ地点ニ導キ必要ナル準備ヲ完了シテ戦闘ヲ遂行センムルコトカ出来ルカ一度戦闘ヲ開始センメタル後ニ於テ逐次変化スル状況ニ適應センメンカ為之ヲ移動使用センコトヲ案スルハ寧ロ其成功ノ機會ノ尠キコトヲ銘刻セナクテハナラナイ

一、移動ノ種別

列車砲兵ノ移動ハ其目的、方法、鉄道ノ種類、運轉ニ任スル部隊等ノ差異、鉄道網ノ所在等ニ依リ多種多様ノ區分ヲナスコトカ出来ルシ又此等ノ區分モ単一的ニ成立セスシテ彼此複合的ノ場合ヲ生スルコトカ多イカ左ニ先ツ一般的ニ其種別ヲ述フルコトトスル

(一)　目的ニ依ル區分

○戦略上ノ目的ニ依ルモノ

軍ノ作戦地域ニ集中シ若ハ該地域ヨリ後方ニ撤退シ或ハ作戦地域

若ハ海岸防禦管区（要塞）ヨリ他ヘ大移動スル等ノ場合テアル

○戦術上ノ目的ニ依ルモノ

作戦地域内又ハ海岸ノ一防禦管区（要塞）内ニ於ケル陣地進入、撤去及陣地変換等ノ場合テアル

○補給、訓練等ノ目的ニ依ルモノ

停車場ノ変更、部隊ノ訓練、材料ノ修理等ノ目的ニ依リ行ハルルモノテアル

(二) 移動ノ方法ニ依ル区分

列車砲兵トシテ部隊ノ列車編成ニ依リ移動スル場合ト使用部隊ト離隔シ兵器材料ノミヲ物件トシテ輸送セラルル場合トカアル

(三) 鉄道ノ種類及其所在地ニ依ル区分

鉄道ノ種類トシテハ営業用ノモノト軍用ノモノトノ区分ヲ生シ所在地ニ就テハ内地及戦地（占領地総督管区、軍兵站管区、軍直轄管区）ノ区分ヲ生スル

(四) 運転ニ任スル部隊等ノ差異ニ依ル区分

使用線路ノ所属及戦時ノ鉄道管理規定ニ依リ或ハ営業会社ヲ以テ行ハシメ或ハ特種ノ勤務部隊ニ依リ若ハ当該列車砲兵部隊ノ管掌ニ依リテ行ハルルモノテアル

○民間営業会社

内地（海岸防禦管区若ハ要塞地帯ヲ除ク）及戦地中占領地総督管区ニ属スル鉄道上ノ運転ハ民間営業会社ヲシテ之ヲ行ハシムルコトトナル

○鉄道隊

作戦地ニ於ケル鉄道ノ建築、保善及運転ハ共ニ鉄道隊ノ任スルトコロトナルヲ一般トスル

又内地ト雖既ニ海岸防禦管区トナリ或ハ要塞地帯ニ属スル地域ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

鉄道業務ハ此等軍事機関ニ依ツテ行ハルヘキモノテアル

〇列車砲兵部隊

本線鉄道ノ端末停車場ヨリ前方ニ若ハ側方ニ在ル線路ニ関スル業務ハ状況ニ依リ之ヲ列車砲兵ノ高級指揮官ノ掌裡ニ委シ該部隊ヲシテ之ヲ専用セシムルノ必要ナル場合ヲ生スル

二、移動計画

移動計画ハ勿論使用計画ノ一部分テアルカ相當ニ重要ナル部分テアツテ此ノ計画ニ方リ最モ考慮スヘキ要件ハ次ノ如キモノテアル

鉄道線路全般ノ位置及其配置

勾配及路盤ノ特性

隧道及凹道等運行ニ對スル制限

橋梁等ノ通過ヲ許スヘキ最大荷重

線路ノ全長

列車砲移動ノ技術的計画トシテ最モ着意スヘキ事項ハ隧道、凹道ノ幅員若ハ線路両側或ハ上方ノ術工物若ハ地物等ノ関係位置並橋梁及軌條等ニ對スル車軸圧トス

各種ノ術工物等ニ對スル通過餘積ノ有無及其程度並耐重関係ハ通常豫メ調製シアル圖表ニ基キ綿密ナル計画ヲ行フヘキモノニテ此等圖表ハ平時調査ニ依リ國内ハ勿論豫想ノ作戦ニ亘リ周密ナル研究ニヨリ完成セラレアルヲ緊要トシ且平戦両時ニ亘リ逐次之ヲ補正スル必要カアル

又通過ノ餘積ハ同一ニテモ軌道ノ状態、運行速度、屈曲部ニ於ケル列車ノ振動、屈曲部ノ餘高及餘幅等ニヨリテ移動性ヲ左右スルコト大ナルモノカアルコトヲ考ヘナクテハナラナイ

車軸圧ハ軌條及枕木ノ性質、枕木ノ間隔等ニ関係シ又橋梁ノ素質ニ影響スルトコロカ頗ル多イ

要スルニ列車砲兵ノ各将校以下ハ各々其職域ニ應シテ此等技術的ノ事

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

項ニモ通暁シテ置カヌト一[illegible]鉄道隊ヤ民間営業会社ニ依頼セナクテハ移動計画ハ一ツモ完全ニ策定出来ズ運輸ヤ線路ノ敷設保存等ニ関シテモ状況ニ應スル要求ニ適應スルコトカ出来ズ徒ラニ袖手傍観シテ無能ヲ露呈スルコトニナル譯デアル

三、戦術的移動及各級指揮官各部隊ノ責務

各種移動ノ中テ最モ前線ニ近ク必要ナル戦術的移動ニ就テ其ノ一端ヲ紹介スレハ萬事ニ暁光ヲ呈スルノ端緒トナルト思フ

既ニ此ノ範囲ノ移動ニ於テハ敵ノ空中観測ニ対スル顧慮ハ勿論ノコト敵ノ長射程砲ノ射撃ニ対スル掩護ノ着意ヲモセナクテハナラナイ

(一) 列車ノ編成及行動

牽引力ノ関係、側避線ノ長度、線路ノ一般ノ状態、装備ノ特質之ヲ許ス限リ該部隊ノ戦術的用法ニ合致セシムヘキモノデアル

大隊ノ戦闘列車ハ各中隊ノ為観測貨車、火砲車及各門少クモ一輛宛ノ[illegible]貨車ヲ必要トシ大隊本部ノ為ニハ観測貨車、発電車及無線通信車ヲ有セシムルコトカ着意デアル

陣地ニ卸下セサル弾薬ヲ有スル他ノ貨車ハ火砲ノ進入後陣地設備中ニ於テ之ヲ推進スルコトトシ又線路偽装材料、土工具等及輸送用自動貨車ハ適時陣地若ハ其附近ニ搬送シ其他ノ補充機関ハ大隊若ハ集団ノ集積所ニ残置スルヲ通常トスル

(二) 集積所

給水及燃料ノ補充、火砲ノ修理及材料ノ集積、一時的ノ待機等ノ為集積所ヲ必要トシ此ノ集積所ハ端末停車場ノ前方若ハ後方ニ於テ之ヲ求ムルヲ通常トスルモ其陣地ト集積所トノ往復運行ノ為端末停車場ヲ通過スルコトハ努メテ之ヲ避ケテ他部隊ノ鉄道使用ニ遅滞ヲ生セヌ又如クスルコトカ肝要デアル

集團又ハ大隊ノ集積所ヲ決定スルニハ線路長ノ利用及偽装ノ便宜ヲ

顧慮シ且所要ニ應シ速ニ陣地ニ就キ得ル範圍内ニ於テ成ルヘク之ト
分離スルヲ可トスル

(三) 各級指揮官ノ責務

○ 列車砲兵指揮官

(イ) 其管掌ニ委セラレタル軍用鉄道線ノ使用ヲ區署シ列車砲兵部
隊ノ人員ニ依リテ之ヲ行フモノテアル、但シ之カ為直接戦闘ニ任
スヘキ兵員ヲ使用スルコトナク補充ニ任スル部隊ヨリ充用スル
ヲ可トスル

(ロ) 移動ニ関スル命令ハ豫メ鉄道運轉勤務ノ代表者ト協議ノ後之
ヲ準備シ其命令ニ列記スヘキ要項ハ次ノ様ナモノテ適宜圖表等
ヲ採用スルヲ便トスル

　　發車地点

　　列車ノ数及編成

　　出発時刻

　　下車地点若ハ移動ノ為規正停車場

　　設營及補給等ノ特別指示

　　其他必要ナル事項

(ハ) 營業用又ハ軍用鉄道線ノ移動管理者ニ對シ行動ヲ安全ニシ若
ハ遅滞錯誤ナカラシムル為所要ノ情報ヲ提供スルノ責カアル

○ 各級指揮官

(イ) 輸送物件及線路ノ保全ニ関シ全幅ノ注意ヲ拂フコト

(ロ) 所要ニ應シ迅速ナル移動ニ適應セシムル為常ニ材料ノ検査ヲ
行ヒ且所要ノ修理ヲ行フコトニ着意スルコト

(ハ) 所命ニ應シ速ニ移動ヲ行ヒ得ル如ク準備シ修理中ノ物件ニ関
シテハ其完成時間ヲ熟知スルコト

(ニ) 各列車ニ在ル高級先任ノ将校ハ輸送指揮官タルモ列車ノ運轉

若ハ移動ニ関スル指揮権ハ列車砲兵ニ委セラシタル鉄道ヲ使用スル場合ノ外之ヲ有セサルモノテアル

但シコノ場合ニ於テモ自己ノ判断ニヨリ輸送材料ノ安全ヲ害スト認ムル場合ニ於テハ其運行法ニ就キ所要ノ要求ヲナスコトヲ得ル

(四) 各部隊鉄道掛将校及各部隊ノ責務

○ 鉄道掛将校

其部隊ノ乗下車（搭載卸下）列車ノ編成及解除等ニ関スル一切ノ事項ヲ監督スルヲ任トシ其細部ノ職責ハ次ノ如クテアル

(イ) 部隊ノ移動準備ニ関シ各列車ニ就キ十分ナル検査ヲ行ヒタル後之ヲ輸送勤務ニ任スル部隊ニ交付スルコト

(ロ) 下車地点ニ於テ其列車ヲ受領シ且其下車ヲ監督スルコト

(ハ) 列車砲兵指揮官ノ直接指揮ニ委セラレタル鉄道ヲ使用スル場合ニハ其移動間ニ於ケル凡テノ業務ヲ管掌スルコト

(ニ) 部隊ノ陣地ニ属スル進入線路上ニ於ケル移動ニ就テハ凡テ之ヲ管掌スル

○ 各部隊

(イ) 部隊ニ所属ノ材料ノ積載及卸下ヲ行フコトハ勿論其兵器ノ移動ニ関スル準備ヲ行ヒ且移動間所属貨車ニハ必要ナル制動手及材料監視兵ヲ附スルコト

(ロ) 部隊ノ射撃用線路又ハ本線ヨリ岐分スル進入線路（接続点ヲ含ム）ノ維持保全ヲ擔任スル

(ハ) 在来ノ線路及側避線カ不足スル場合ニ線路ヲ特設スルノハ所要ノ作業力ノ大ナル場合ニハ鉄道隊之ヲ行フヘキモノナルモ時トシテハ列車砲兵隊ノ獨力テ之ヲ行フヲ要スルコトカアル、線路ノ短小ナル場合ニ於テ特ニ然リテアル

(ニ) 列車砲兵部隊ハ非常ニ際シテハ正規ノ運轉部隊ニ代リテ自ラ之ヲ實施スルノ要カアル、又單ニ運轉業務ノミナラス線路ノ應急修理、橋梁ノ補強、特ニ陣地進入線及陣地内ノ短小ナル岐分線ノ敷設等ハ自ラ之ヲ行ヒ若ハ鉄道隊ヲ補助シテ之ヲ行ヒ得ルコトカ必要テアル

(ホ) 機関車及貨車ノ缺陥ヲ検知シテ移動間ニ於ケル事故ノ防止ニハ深甚ノ注意ヲ拂フコト

結言

以上ハ列車砲兵ニ関スル白紙的ノ常識事項テ而モ其ノ概念ニ就テハ全ク小官ノ個人意見トシテ何等學校ノ研究乃至ハ討議等ヲ加味セサルモノテアルコトヲ更ニ茲ニ附記シテ其ノ責ヲ明カニスルコトトスル

想フニ緒言ニ於テ述ヘタ如ク何等ノ新機軸ニ属セサル此種砲兵ノ今ニシテ漸ク我國軍ノ一新威力トシテ現實セントスルニ到レルハ過去ノ怠慢ヲ責ムレハ限リナイ事テアルカ遅シト雖尚爲ササルニ勝ルノ事實ヲ認メテ今後一大馬力ヲ掛ケテ擧國的ノ研究及施設ニ腐心シ速ニ同砲兵ニ関スル他ノ先進諸國ヲ凌駕スルノ覺悟カ今日ニ於ケル國軍ニ於テ緊要ノ要求テアル

之カ爲吾人ノ着意スヘキ要件ハ他國ノ研究ヲ玩味スルコトモ必要テアルカ初對面ノ兵器材料ニ物ヲ見ルコトナク虚心平易ニ之ヲ試練スルト共ニ其附屬器材ノ考案創意ハ勿論ノコト、編制ニ裝備ニ運用ニ将又訓練ニ就テ我國軍獨特ノ新機軸ヲ開拓スルコトテ徒ラニ先進諸國ノ轍ヲ模倣シツツ荏苒タルカ如キコトナキヲ切念スルノ要大ナルモノカアル

若シ又兵器ノ機密云々等ヲ問題トシテ此砲兵ノ編制及教育並研究ニ躊躇ヲ生シ或ハ経費ノ充當云々ニ藉口シテ時日ヲ浪費スルカ如キコトアラハ既ニ失敗ノ第一歩テ有ツテ外國ニ委託製作セシメタ兵器ニ就テ機密云々

ハ既ニ無用ノ問題テアルシ遅蒔ノ研究ヲ以テ尚且人後ニ落ツルコトヲ潔シトセサレハ経費ノ充當モ特別ノ覺悟ヲ要スルコト勿論テアル須ラク之ヲ十分ニ試練シテ絶對ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ速ニ我國軍獨特ノ此種新兵器ノ意匠及編制充實ニ邁進スヘキモノテアルト信シテ毫モ疑惑ノ餘地ナキコトヲ高唱シ近ク誕生スヘキ列車砲矢ノ前途ヲ豫メ祝福シツツ本稿ヲ擱筆スル

「ダーダネルス」ノ戦闘（第三）

昭和四年二月

研究部

ハ既ニ無用ノ問題テアルシ運籌ノ研究ヲ以テ尚且人後ニ落ツルコトヲ潔シトセサレハ経費ノ充當モ特別ノ覺悟ヲ要スルコト勿論テアル須ラク之ヲ十分ニ試練シテ絶對ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ速ニ我國軍操縦ノ此種新兵器ノ意匠及編制充實ニ邁進スヘキモノテアルト信シテ寸毫モ疑ノ餘地ナキコトヲ高唱シ近ク誕生スヘキ列車砲兵ノ前途ヲ豫メ祝福シツツ本稿ヲ擱筆スル

「ダーダネル」ノ戰闘（第三）

昭和四年二月

研究部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

八、「がりぽり」ノ陣地戦

連續攻撃ノ局面ハ両軍共疲勞シ弾薬窮竭シ新鋭ノ軍ニ不足ヲ告ケタメ終リヲ告ケタリ。新兵器カ到着スル迄ハ「フオン、リマン」将軍モ「ハミルトン」将軍モ戦況ヲ決定的ニ恢復スル見込ナシト思ヘリ。既ニ從来ニ明カナル如ク、土軍ハ當テ強キコトニ於テ十分ナラスシテ侵入ノ敵ヲ海上ニ撃退セシムル能ハス、一方ニ於テ英軍トテモ防禦軍ヲ排シテ樞要ナル高地ヲ奪取スルニ至ラス。増援軍ハ求メテモ其到着迄ニハ可ナリ久シキ時日ヲ經過セサル能ハサリキ。故ニ五月初頭「がりぽり」ニモ陣地戦ノ時期ヲ生メリ。彼我共ニ深ク塹壕ヲ掘リ防禦築城ノ構設ニ鎬ヲ削リ戦線又戦線ヲ重疊セリ。東欧ニモ西欧ニモ戦闘テフ戦闘ハ爾来同様ノ方式ヲトレリ。「ダーダネル」ノ戦場ニアル両軍司令官ハ徒ラニ此作戦ニ於テ時日ノ遷延スルヲ見ルノミニテ先制ノ利ヲ占メントスルヨリ外何者モ赤尽スル能ハサリキ。技術上劣レル若キ結果ハ「がりぽり」ノ戦闘ニ具

體化サレ撃退セラレタリ。土軍カ英軍ノ死傷数ヨリモ遥カ大ナリシ原因ハ指揮ノ欠陥トカ英兵カ戦闘訓練ニ於テ良好ナリシカタメテハナク敵ノ技術的兵器カ優良ナリシニ是レ由ル。土耳古軍カ貴重ナル人間トイフ材料ト漸増スル犠牲ニ鑑ミ重砲ノ火力ニツキ敵ノ優越ナルニ匹及スルヲ要セリ。五月五日迄ニ「アリブルス」ニ於ケル土軍ノ死傷者ハ将校約二百人、下士卒一万四千人ニ達セシカ英軍ノ損失ハ下士卒八千人ニトドマレリ。「セッド、ウル、バール」ニアリテハ英軍ノ死傷者数ハ五月八日迄ニ約二万人ニシテ土耳古軍ノソレハ公ノ算定数ナシト雖敵砲火ノ效力多大ナリシタメ英軍ノ死傷者数ニ約二倍セルモノト見積ラル。

コノ死傷者数ノ不境状態ハ爾来五月初ヨリ八月初ニ至ル戦闘ニモ同シ割合ヲ維持セリ。陣地戦ハ大範囲ニ亘リテ行ハレタレト兩軍ノ態度及戦法ハ互ニ異ニセリ。特種ノ場合ノ外、土軍ハ失ヒシ土地ヲ再ヒ回復スルタメ防禦ヲ專ラトシ已ムヲ得サル場合ニモ逆襲ノ外ハ攻撃セサル戦策ヲトリシ。一度、シテ英軍ハ戦略的問題テモ戦術的ノ攻勢ヲトリ新タナル攻撃法ヲ採レリ。英軍ハ初メノ十四日間ノ戦闘ニ失敗セシカハ今ヤ非常ナル材料ヲ使用シ適當ナル攻撃ヲ行ヒ攻撃法ヲ再定セルトキ各兵站ニ合宜ニスルコトヘセント企圖セリ。

今ヤ初マラントスル「ガリポリ」ノ陣地戦ハ結局スルトコロ全ク他ノ戦線ニ於ケル塹壕戦ニ異ラス或點ニ於テ土地ノ評價ニ関スルヘキ特徴ト謂フ可シ、戦闘地帯ハ東欧モ西欧モ共ニ縦長距離大ナリキ。從テ土地ヲ失フコトハ戦術上重大ナル意義ヲ存スル譯ニシテ若シ土地ヲ失ヘハ味方ノ射撃效力ハ不良トナリ敵火效力ハ良クナルヘク、又之ニ應シテ彼我ノ戦況ハ位置ヲ顛倒スヘシ。如何ニ塹壕テモ大地面テモ之ヲ固守スル犠牲ト當該地面ノ價値ト比例セサルトキハ之ヲ進ンテ拋棄シテモ良シ。之ニ就キ他ノ正面テモ段々盛ンニ頑強ナル塹壕戦カ発展セリ。然ルニ「ガリポリ」ニ限リテ塹壕戦ハ起ラサリキ。四方ヲ瞰制スル高地脈ハ、失ヘハ海峡ヲ失フ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

失ハサルヲ得サルモノニシテ、是レハ南岬テモ「アリブルヌ」ニ在リテモ土耳古ノ最前線ヨリ数基米後方ニ在リタリ。故ニ尺寸ノ土ト雖犠牲ヲ伴ヒ又ハ更ニ後方ニ於テ有利ニ防禦シ得ルヤ否ヤニ拘ハラス固守スル必要アリ、数百米ノ土地ヲ手離スハ其土地カ東欧ニテモ西欧ニテモ作戦上重大ナル関係ヲ有スルタケ、ソレタケニ「ガリポリ」ニアリテハ其影響スル所至大ニシテ、舊戦線ヲ再ヒ回復スルタメニモ死傷甚シキ逆襲ヲナササル可カラス。之レニ對シテ特ニ必要ナルモノハ精神的要素ナルコト勿論ナリ。土耳古軍カ益々攻撃目標ニ火線カ接近スルヲ見シトキ士氣ハ甚シク沮喪セリ！逆ニ英軍ノ戦闘氣分ハ土耳古軍ノ抵抗力カ漸衰シ土耳古軍カ宿命的アキラメノ氣分ニ陥ルトキニモ前進毎ニ挑発セラレタリ。コノ相違アリシ外、両軍共戦線カ後方連絡ヲ失ヒシタメ両軍ノ正面ニ於テ戦術的状態ハ何等良クナルコトナカリキ。「エルチ、テペ」ニアル土耳古陣地ノ前方変換ハ直接礮隊ノ眼ヲ避ケテ行ハレタリ。土軍ハ益々退却シ

斯クテ土耳古軍ノ戦線ハ敵側ニ向ケル小丘斜面ニ置カレ漸次高ク登リテ全ク敵艦ヨリ通視シ得ル位置ヲ占メタリ。故ニ防備ノ全部ハ敵砲ノ良好ナル目標トナレリ、軍隊カ海上ヲ防禦スル陣地ヲ「エルチ、テペ」ノ前地ニ維持スルヲ得サリシトセハ正シク敵ノ砲火ヲ全ク避ケル高地陣地ナカリシニ由ル。「アリブルヌ」ニ於テモ同シ情況ニアリキ。サレハ「ガリポリ」テハ設堡防禦ノ必要ヲ認メス、之レニ関シテ時ハ別ノ意見モ主唱セラレ、軍隊ノ疲労ト死傷ノ重大ナルニ省ミ少クトモ南軍カ少クモ戦線ヲ後退スルヲ至當ト思ヘリ。之ニ反對シテ『如何ナル犠牲ヲ払ヒテモ』地ノ防禦ノ原則ヲ遂行スヘシトセルハ「ブオン、リマン」将軍ノ主功ノヘトセサル可カラス。

陣地戦中英軍ハ材料ノ装備ニ於テ全世界ニ冠タレト土軍ハ極僅カナル「コンスタンチノープル」ノ補助材料シカ無カリシコト明白トナレリ。是多少ニ拘ハラス眞ナリ。敵ハ五月ニサヘ大口徑砲ヲ揚陸シテ陣地ニ据付

ケ、為ニ昔日ノ如ク何等海上ノ艦砲ノ掩護射撃ノ力ヲ假ラストモヨキ位ニナリタリ。然レトモ艦隊カ多数ノ隻数居合セ砲戦ニ参加セサル日トテハ無ク、土軍ノ砲力ハ此敵ノ重砲ニ抗抵スル能ハサリキ。初週ニ土軍ハ上陸地點ノ射撃ニハ一門ノ重砲モ無カリキ陣地戦トナルヤ要塞ト艦隊ハ全力ヲ挙ケテ悪戦苦闘スル軍ヲ援助セリ。七月末葉ニ三要塞ハ海正面ニ於ケル友軍ノ戦闘力ヲ害セサル限リニ於テ榴弾砲ト臼砲トヲ引渡セリ（軍艦モ亦之ニ劣ラス中口径砲若干門ヲ軍ニ引渡セリ）。然レトモ尚之レニテハ足ラス「フオン、ウゼトム」海軍大将ハ飛行機数台ヲ陸軍用ニ供シ弾薬ハ不足セシカ「エレンケーエ」ヨリ程遠カラサル亜細亜岸ノ「インテペ」ノ高地ニアル要塞砲テ敵ノ占領セル南方地帯ヲ砲撃スルニ至レリ。此砲台ハ中小口径ノ艦砲ヲ備付ケ、砲ノ一部ハ過去ノ戦歴ニヨリ試験セル砲架ヲ移動シ得ル如クシ、一部ハ砲身短キ要塞重砲ヲ改造セルモノナリキ。艦隊司令長官「ゾーホン」海軍大将モ積極的援助ヲナスニ努カセリ。土耳古艦隊ノ内「ハイラデイン、バルバロツサ」及「トルグート、ライツス」ハ元獨艦タリシ「ツイセンブルヒ」及「ヴエルス」ノ變名セルモノナルカ、往々「ダーダネル」ヲ發シ全半島ヲ航シテ上陸地點及「アリブルヌ」在泊敵艦ニ間接射撃スル命ヲ受ケタリ

「フオン、リマン」将軍ハ如上ノ援助ヲ感謝セリ。ソレ程コノ援助ハ尊カリシカ未タ以テ第五軍カ重砲ノ力ニ於テ英軍ト略ゝ伯仲スルニ至ラサリキ。啻ニ重砲ノミナラス塹壕戦ノ他ノ兵器全般ニ関シテモ等シク英軍ニ劣リ「ミネンウエルフエル」手投榴弾、機砲、自動装填銃其他之ニ類スルモノハ全然無キカ又ハ英軍ヨリモ寡少ナリキ、陣地戦中モ土軍ハ攻撃ノ初期ノ如ク多数ノ死傷者ヲ出タシ材料ノ不足ニ悩メリ。

斯クノ如キ材料ノ不足ハ總テノ方面ニ通シ豈夫レ兵器ノ装備ノミニハ限ラサリキ。英軍ノ戦線ハ太キ鐵條障碍物ヲ以テ密ニ錯線トシテ防護セシカ土耳古軍ニアリテハ同シ此材料ヲ以テ最前線ヲ囲繞セシムルホトニ無カリキ。砲弾ヲ防ク掩蔽部モ英軍ノ塹壕ニハ多数ニ施設セラレシカ土耳

古軍ハ好加減ナルモノニシテ特ニ居民アル村落ニ應急掩蔽部ヲ構設シ敵ノ砲弾ニ對シテ殆ト安全ヲ期シ難キモノナリキ。

特ニ土軍ノ悲惨ナル事象ハ弾薬ノ缺乏ナリキ。是レ吾々独逸軍カ四方ノ戦場ニ於テ嘗メシ運命ナリキ。然レトモ ココ「ガリポリ」ニテハ尚全ク別箇ノ種類ノモノタルヲ認メタリ。「ガリポリ」ニアリテハ一時間トシテ正面ニ於テ砲火ノタメ重傷ヲ負ヘル歩兵ヲ運ヒ出スヘシト叫ヒカ止ミシコトナク、連續強勢ナル敵ノ射撃ニ仆ルル運命、土軍トシテハ何等砲火ノ效力ヲ認メ得サリシ運命ヲ顕現セリ、此場合土耳古砲ノ無力ヲ信シテ冒險ニモ有效射界ニ躍動シ射撃ヲ受ケマシト思惟センコトハ勿論好目標ナリキ。「ガリポリ」ノ戦闘中只味方ノ歩兵ニ砲ノ掩護ヲ目的トスルカタメ時々演習弾ヲサヘ発射セシトハ御伽噺ノ如シト雖是レ事實ナリ。然シ初メノ戦闘日ニハ弾薬ノ消費多大ニシテ敵ヲ十分威嚇セリ。「コンスタンチノーブル」ノ廠庫ハ空缺シ、羅馬尼國境ハ土耳古ノ戦闘材料ノ輸送ヲ封鎖セシタメ独乙ヨリ弾薬来ラス、首府ニ於テ砲弾薬ヲ製造セシモ其製造能力遅々トシテ間ニ合ハス漸ク昔ノ内ハ「コンスタンチノーブル」ノ界隈ニ弾薬ノ大工場ヲ設ケタルカ是レ「ピーペル」海軍大佐指導ノ熱誠ナリシ賜ナリトス。然レトモ此種ノ製造モ根本ヨリ補充スル力ナク、之ニ相當スル機械、原料及熟練工無カリキ。弾薬ノ製造ハ初メ極メテ少量ニシテ、製造弾丸ニハ不良弾ヤ不発弾カ過少ナルヲ見タリ。但時日ヲ経ルニツレ是レハ改良セラレタリ。當時斯ル複雑ナル生産過程カ至難ノ情況ニ拘ラス成功シ得タルハ独逸ノ活動力ト独逸ノ企業能力ノ賜トセサルヘカラス。

糧秣及装具ニ関シテモ土耳古ハ英軍ヨリモ不利ノ状態ニアリタリ。世界戦争ヲ通シテ獨逸國民カ痛感セシ如ク、ココニモ苦キ感シヲ以テ洗濯製靴、洋服仕立ニ上手ナル俘虜カボロ〳〵ノ「アサトリーア」ヲ織レリ。實際土耳古軍テハ品物ヲ間ニ合ハス様修繕スル熟練ハ不足セシカ意志ト

トカ所要ノ注意カトカ修繕材料ハ不足セサリキ。肉體ニ「シヤツ」ヲ纏ハサル兵ハ貳百人トコロカ幾千人モアリ。靴下及靴ノ製産量不足ノ結果襤褸小道具材料ヲ足ニ巻付ケナトシ、折角「コンスタンチノーブル」ヨリ供給セラレシ砂嚢モ陣地ノ構築用ニ供セラルルコトナク被服材料ニ轉用セラルルコトアリタリ。是レハコレ軍事官廳ノ咎ニアラス、何トナレハ被服ハ交付サレサリシヲ以テ然リ。編制力ニ富メル「イスマイル、ハツキ、パシヤ」（陸軍経理局長）ハ昼夜軍需品ヲ生産スルノ工場ヲ澤山施設セシメツツアリタリ。而シテ第五軍経理部長陸軍中佐「ブルカーデイ」ハコノ軍需品ノ要給ニツキ各方面ノ要求ヲ充タスコトニ尽力セリ。サレト引渡ス需品ハ求メラルル、量ノ幾割ニシカ當ラス、同様ニ経済上ノ危機戦争、昔日ノ不當ナル政治ヲ蒙レル國トテ需品ヲ大軍ニ填補スルタケノ原料ト労働力ヲ缺如セリ。戦争カ長ヒケハ長ヒク程益々生産ト需要トハ雁行スルヲ得ス、一九一五年度モ装具ハ益々不足セリ。十一月トナレハ第五軍ハ一般ニ最早軍服ヲ着装セサル軍隊トナリ散兵壕ニハ美々シキ本國服ヲ着シ其他送ラレシ色彩ノ服装セル奇観ヲ呈セリ。外套モ亦不足ヲ告ケタレハ寒暖計カ氷点以下ニ下降セル十一月及十二月ニハ凍死セシコトタサヘアリタリ。

若シ土耳古兵カ十分ノ給養ヲ受ケ居タランニハ如上ノ耐寒ハ寧ロ泳ハ得タルナランシ、聞クダニ悲惨ナラスヤ。憔悴セル體ト瘠セコケシ頬トハ暗黙ノ裡ニ明カニ給養ノ不足セルヲ語レリ。作戦地域ノ給養ノ如キハ甚少カリキ。殆ト全部「コンスタンチノーブル」ヨリ海路又ハ陸路ニテ輸送セラレシモノナリ。當時ハ貨物自動車無カリシカハ只軽車輌及浮游船渠ノ縦列ノ運送ハカ量極メテ少クモ然モ有實荷量ノ大部分スラ損耗シタリ。主要ナル供給中心ハ「マルモラ」海ナリキ。「マルモラ」海ニハ敵ノ潜水艇カ侵入シテ海上輸送ハ攪乱セラレ陸軍ノ戦闘力ニ對スル眞誠ナル危険ナリキ。豫備ノ給養ハ少ク飢渇ノ威脅ヲ受ケタリ。往々ニシテ口糧ト菊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

秣ハ減ラサレ夏中ハ亜細亜岸ノ飼草不足ノタメ繋馬ノ大部分ハ排除セラレタリ。糧ノ調理ト總合セハ實ニ原始的ニシテ野戰庖廚ハ無ク、正面ヨリ遥カ後方ニ敵眼ヲ避ケテ庖廚施設ヲ講スルコトニ努メタリ。其他員ノ衛生ニ就キテハ第五軍附独逸軍醫大佐教授「マイエル」博士ニ負フ所大ナリトス。

閑話休題、轉シテ戰闘ニツキ陳ベントス。既ニ述ヘシ如ク、土耳古軍ト英軍、、ハ五月初メ陣地戰ヲナスヨリ外ナキニ至レリ。二三ノ大戰闘ヲ除キ、日ニ日ニ五月初メヨリ單調無味ガ打續キ、両軍陣地ノ線列ニハ特記スベキ變化ヲ招徠セズ、耳ハ戰闘ノ節ロシキ旋律ニ慣ラサレタレド五月末ニハ上陸役第一週間ヨリモ實際變リタル光景トナリタリ。從來海上ノ光景ハ港内輻輳ノ光景ヲ呈シ運送船、軍艦、小艇ガ水面ヲ賑ヤカセシガ、五月中旬ヨリ末ニカケテ海ハ荒レ、大艦ハ度影ヲ留メズ少数ノ水雷艇ト驅逐艦ガ海岸ニ沿フテ急航スルヲ見シノミ。土耳古ノ海上抵抗力ガ曠敗セシコトハ敵ノ大艦ガ多少安全ナルヲ得タル甚ヘシテ、爲メニ攻撃ニ對スル海上ヨリノ觀測法及ビ警戒法ヲ撤去スルニ至レリ。土耳古水雷艇「マナベレッドミ」ハ此虚ニ乘ゼリ。今艇ハ獨逸海軍大尉「フヒルレ」ヲ艇長トシ不意ニ海峡ニ突入シ「モート」灣内ニ碇泊英戰艦「ゴリアス」ニ水雷ヲ見舞ヘリ。巨艦ハ與雷ノ命中ヲ食ツテ數分間ニシテ沈没セリ。勇敢ナル今艇ハ敵ノ混乱裡ニ無事要塞ノ安全区域ニ引揚グルコトヲ得タリ。「ゴーリアス」ト一緒ニ「クイーン、エリザベス」モ亦多島海ノ藻屑ト消エ失セヌ。「クイーン、エリザベス」ハ魚雷ヲ喰ヒシニハアラズシテ独逸潜水艦ガ「ダーダネル」海峡ニ現ハレタルニ因ルモノナルシテ、英海軍軍令部ハ大切ナル軍艦ヲ失ヒタルニ震駭セリ。此ノ襲撃ヨリ逃ルコト数日ニシテ更ニ「ダーダネル」艦隊ノ損失ヲ招徠セリ。五月二十五日ト二十七日ニハ海軍大尉「ヘルジング」ノ艦長タル独逸潜水艦ハ戰艦「トリアンフ」ト「マゼスチック」ヲ撃沈セリ。是等ノ連續的損失及ビ更ニ存續ス可キ潜水艦ノ危險ハ大艦ガ空シク「ムド

ロス」ノ無防禦港内ニ隠レ籠ラザルヲ得ザル状態ヲ生セリ。然レドモ此土耳古正面ノ勇猛ガ艱難ナレシコトハ久シクハ持続セズ敵ハ新タニ有効ナル防禦手段ヲ講シテ新タナル危険ヲ防止スルニ急ギ努力セリ。コノ努力ハ成功セリ。其後四週間ニシテ新タニ特ニ對潜水艦攻撃ニ備フル大艦カアラハレ再ヒ元ノ射撃能力ヲ発揮スルニ至リ、更ニ少数ノ大口径砲ヲ備フル小型平底ノ「状速モニトール」艦カ「ダーダネルス」ニ到着シ大艦ノ補充トナリ潜水艦ノ目標トハナラザリキ。加フルニ運送船トシテハ新型ノ吃水浅キ艦ヲ選擇スルニ至リ、流石ノ独逸潜水艦モ爾後ノ「ダーダネルス」戦闘中全船ノ防禦装置ヲ有セルタメ大ナル効果ヲ発揮スル能ハザリキ。

之ニ反シテ敵ノ潜水艦ハ「マルモラ」海ニテ盛ンニ活動セリ。是等ノ潜水艦ハ第五軍ノ補給路ヲ絶ツホドニ重要ナル連絡線ヲ攻撃シ多数ノ運送船ヲ撃沈シ、戦艦「ハイレディン・バルバロッサ」（一萬五百噸）モ八月「ダーダネルス」ヘノ航行中潜水艦ノタメ撃沈セラル。英國ノ計策ニ依レバ敵潜水艦ノ厄ニカカリシ總隻数ハ、軍艦一、駆逐艦一、砲艦五、運送船一一、其他ノ汽船四四、帆船一四八隻ニシテ土耳古ノ大損ト謂フヘシ。然レトモ未タ以テ英軍ハ全ク第五軍ノ給養上極カニ致命的ナル海上ノ輸送ヲ絶滅スルヲ得ザリキ。

機雷封鎖ハ技術上最優ノ成績ヲ示セリ。七月中旬英軍ハ「ナガラ」海中ノ潜航ヲ封鎖スルタメ深度六十米ニ及ビ水雷防禦網ヲ展張シ只一介ノ機識カヲ以テ防禦網ニ衝突シ之ヲ成断スルハ一事ノミ取リ残サレ居タリ。多数ノ英艦ハ防禦網ニ引ツカカリシカ中ニハ幸ヒニ之ヲ突破セシモノアリタリ。「マルモラ」海ニ於テ第五軍ノ後方運路ヲ絶タシトセシ敵ノ潜水艦十三隻中八隻ハ沈没シ其内四隻ハ殆ント總乗組員共ニ沈没セリ。英海軍ハ「マルモラ」海ノ潜水艦戦ニ於テ誇ルニ足ル行動ヲ為シタルモノト認ム。

如上ノ海戦期間ヲ通シテ第五軍ノ後方ナル「ハガリポリ」ノ陣地戦ハ進行セリ。五月十九日土耳古ハ「アリブルヌ」ニ於テ大々的攻撃ヲナセリ。陸軍大臣副元帥「エンベル」ハ五月十日「ダーダネルス」正面ヲ視察シ「アリブルヌ」ニテ会

所ニ攻撃ヲ企ツレハ成功スル見込アリトノ印象ヲ得タリ。故ニ彼ハ「ミツ
メンゲノーブル」ニ帰ルヤ「リマン」将軍ニ打電シ第五軍ニ増援師團ヲ発進
セシメタリ。「リマン」将軍ノ報テハ「エンベル」ホドニハ希望ヲ嘱セザリシト
雖モ先ニ同セ現状ハ攻撃ヲ敢行シ得ルコトヲ信セリ。茲ニ於テカ五月十九日ヨ
リ暁夜暗ヲ利用シテ敵ヲ攪乱スヘク砲ヲ伴ハス第五師團及ヒ第十九師團並
新ニ「コンスタンチノーブル」ヨリ到来セシ第二師團及第十六師團ナル四
箇師團計約四萬二千人ヲ以テ密集隊形ノママ縦長ナル正面ニ向ツテ突進
セリ。然ルニ此計画ハ失敗ニ帰セリ。即チ敵ハ豫メ「マイドス」ノ軍隊上陸ノタ
メ配置セシ飛行機ノ警告ヲ受ケ精巧ナル陣地ヨリ兇悪ナル銃火及
ビ榴弾ヲ以テ攻撃スル土軍ニ浴セカケタリ。數ケ處ニテ攻撃軍ハ敵ノ数線ヲ
突破シ得タレドモ殆ント称スヘキ防備ノ下ニ突撃カ行ハシタルニトトマレ
リ。薄暮第二師團ノ損耗九千人ハ両軍陣地ノ間ニ於テ或ハ死シ或ハ傷ケリ。
コノ攻撃計畫ハ英軍ヲシテ決戦ノ決意ヲ固メシメタルニ過ギス。斯クテ敵

ハ従来ノ如ク攻撃目標ヲ「セツド、ウル、バーール」ニ向ケテ中心トスルニ至レ
リ。「ハミルトン」将軍ハ五月増援隊ヲ乞フテ許サレ得タル諸隊ヲ併合シテ「ア
ングロサクソン」民族独特ノ不屈不撓ノ士気ヲ以テ再ヒ土耳古ノ戦線ニ突
進セリ。六月四日、二十一日、廿八日及ヒ更ニ七月十二日ノ大攻撃ハ英軍司令
官カ堅確ナル決意ヲ以テ「エルケテペ」ヲ経テ「キリツド、バール」ノ欧州海岸
砲台ニ至ル進路ヲ拓ク企画タルヲ示セリ。而シテ此攻撃ハ益々材料戦ノ特
性ヲ取レリ。海陸無数ノ砲ハ土耳古ノ戦線ヲ猛射シ其射撃効力ハ多少観察
ニ行キ直レリ。然シ防禦軍ハ退却モ動揺モセス、総テノ生命カ犠牲ニサレタリ
ト思ハレシモ英軍歩兵カ越ツヤ彼モ亦再起シテ之ニ當レリ。奮戦ハ継続シ、
塹壕ヨリ這出シ、余カアルモノハ銃剣ヲ以テ敵ニ突撃セリ。機関銃ハ後方ノ
高地ト側射陣地ヨリ発射セラレ、直ニ土耳古砲ノ阻止射撃モ行ハレテ敵ノ
攻撃隊列ニ大破口ヲ生セリ。斯クノ如クシテ両軍トモ此戦闘ニ於テ死傷ヲ
生シ、英軍ハ少シク土地ヲ占領シタレトモ土軍ノ逆襲ニヨリ奪回セラレタリ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

九、白兵戰

七月中旬、英最司令官ハ、此組織的攻撃ノ第二局面ヲ撲術セル余剰ソナササル可カラサルニ至レリ。收穫セシ所ハ何々ソ。兩翼トモ大地ヲ占領セリ、左翼ハ約三基米、右翼ハ約ヘ基米半前進セリ。然レトモ土耳古軍カ失ヒシ處僅ハ後方ニ再ヒ陣地セラレシヲ以テ我引斷定土耳古陣地ノ強度ト深サハ減シ居ラス。コノ前進速度ヲ以テスルナラハ「アペ」ヲ占領スル迄ニハ尚ヘケ月ヲ要ス。上陸ノ第四ニ因タル四月二十八日ニ英軍ハ「セッドヴルバール」ヨリモ五基米先キノ戰線ニ達シ居タレト第ヘ戰闘目標タリ又トウィテモ收手スヘキ目標タル「エルケ、テペ」ヲ去ルコト尚ホ約四基米ナリキ。七月末ハ全軍參戰シテヨリ三ケ月ヲ經過セシカ、如上ノ目標ハ距離千米ノ中程ニ近ツケリ。然カモ此ノ土地占領ハ少シト雖モ重大ナル犠牲ヲ拂ハサレハ得ヘカツス。七月「セッドヴルバール」ニサヘアリシ五ケ師團（第二十九後備師團、第四十二後備師團、英國海兵隊師團ヘ、佛軍師團二）ニ第五十二後備團ヲ加ヘシ六ケ師團計四萬五千人カ參戰シ其内優ニ三分ノ一ハ戰闘力ヲ失ヘリ。又トヒ軍隊ノ現狀及ヒ兵力ヲ許スモ彈藥ノ現狀ハ徐々ニシテ攻撃ノ續行ヲ許サス、野砲ノタメ準備セラレシ彈丸ハ僅カニ五千發ヲ有スルニ過キス。斯彈乏シカラス時ニ當リ「ハミルトン」將軍ハ新リテモ同地中海ヲ航行中ノ增援軍ナコヽニ配備スヘキヤトノ問題ヲ提議セリ。

土耳古軍司令官ノ將來ノ見込モ亦明瞭ナリキ。僅カニ兵艦全部ハ撤退シテ兩正面ガ動揺セスニ存セシハ結構ナレト防衛ニハ屍山血河ノ犠牲ヲ拂ヒ來レリ。世界戰争ヲ通シテ凡ソ防禦戰ノ大ナルモノハ盡ク全ク非常ナル軍隊ノ消費ヲ見タルカ、コヽモ亦其類ニ洩レスシテ軍隊ノ浪費甚大ナリキ。土耳古帝國ノ防禦軍ト精英ノ全部テアル十四箇師團ハ漸次「ダーダネル」ニ配備セサルヲ得サルニ至レリ。全兵力ノ殆ンテ戰場ニ來リシ師團ハ何レモ激戰日ニ其半數以上ヲ失ヘリ。戰爭初メヨリ七月中旬迄ノ當方ノ死傷者數ハ實ニ六萬人ニ達セリ。然レトモ土耳古帝國ノ貯水池ハ全ク盡クルコ

トナリ又策ヲ講スルハ無力ニシテ苦痛ナリシカハ必然此屍山血河ノ犠牲カ打続ケルハ道理ナリト謂フ可シ

土軍カ具体的ニ遙カ敵ヨリモ劣位ニアルハ断ハラスモ克ク英軍ノ攻撃ヲ防キ得タルハ防禦ノ強カリシニ由ル。然レモ英軍ハ材料豊富ナリシニ拘ハラス失敗セシコトモ土耳古軍ハ攻撃材料薄弱ナリシニ拘ハラス克ク之ニ成功スルヲ得タリ、コノ火力ノ劣勢ナルコトモ初メヨリ土耳古軍ヲシテ防禦ナトラネハナラス運命ヲ来タセルナリ。而シテ此劣勢カノ不調衡ト相俟シ、陣地ヨリ多少激ナ射撃シ得ル火力ノ優勢ヲ取得シ得ル見込ハ危カリキ。軍司令官モ土耳古ノ大本営モコレニ対シ改革スルカナカリキ。独逸ノ弾薬及ヒ砲ノ輸送ヒ「コンスタンチノープル」ニ至ル道路カ自由ニナリシ日ニ初メテ改革シ得シ。而シテ独逸ノ戦闘器材ヲ「コンスタンチノープル」ニ送ルニハ「セルビヤ」ヲ経過スルカ「ドナウ」ノ路及ヒ「ベルグラード」――「マッシス」鉄道ヲ自由ニスルカ、羅馬尼ヨリ通過ノ承諾ヲ得サル可カラス。ソレカ政治的手腕ニアレ、又ソレカ軍事的行動ニ依ルニセヨ、斯ノ如キコトハ土耳古国ノ企及シ難キコトニシテ只中欧列強ノ力ニ依テノミ達成シ得ヘシ。故ニ土耳古軍カ「ガリポリ」デ大規模ノ攻撃ニ転シ得ル時機ハ一ニ全般ノ戦闘状態ニ據ルヘキモノニシテ其時迄ハ我慢スルヨリ外ナシ。

「フオン、リマン」将軍ハ更ニ別ノ問題ニ没頭スルヲ要セリ。七月中旬ニハ早クモ将ニ新ナル大々的上陸カ迫リツツアル情報頻々トシテ耳ニ達セリ。独逸ノ最高司令部モ七月末実際ニ新タナル上陸ノ行ハルルハ真ナリト説明セリ、曰ク戦略的戦術的全状態ヨリ見テ敵カ新タニ兵力ノ大増援ヲ為スハコト明ラカナリト。

更ニ新タナル上陸カ実現化セリトノ警報セリ。英軍司令官ハ北岸ヲ案シ状況ヲ達観シテ暗示ヲ得ルヨリ外ナカリキ。然ラハ「スルケ、テペ」ニ対シ「セツドウル、バ――ル」ノ攻撃ヲ全力ヲ挙ゲテ続行スルタメニ新タナル兵力ヲ使用セシヤトイフニ英軍カコレ迄余リ前進シ得サリシニ理由ヲ挙ゲレハ

判然タリ、即チ攻撃地帯ノ天険ナルコト、地域ノ狭キコト是レナリ。然ラハ敵ハ新タナル兵力ヲ「ザロス」湾ニ上陸セシメシヤ。敵ハ恐ラク東方ヨリ攻撃セラルル危険アリテモ第五軍ト欧洲トノ陸路連絡ヲ絶チ「マルモラ」海ノ潜水艦ト策應シテ海上運送ヲ絶ツコトヲ得タルナル可シ。然レトモ此所ニ於テ亜細亜側ニ上陸スル実現性ハ少シ。蓋シ第三ノ隔離セル作戦地帯ノ不利ナルコトハ如上ノ企図上ノ利点ヨリモ甚シケレハナリ。実際英軍トシテハ従来両軍ノ占領セシ地帯ノ間ニモ北方ノ「アリブルヌ」ニモ上陸セントスル考ヲ抱カサリキ。英軍ハ既ニ配置セラレシ軍隊ト連接ナル協同動作ヲ確保スルコトヲ以テ其戦略目標ニ近ツケリ。四月二十五日コヽニモ上陸ハ成功セサリシカハ英軍ハ其方法ヲ改メントスル経験ヲ有スルニ至レリ。他面ニ於テ英軍ハ、コノ戦闘地帯ノ附近ニテ最モ危険ナル地点ハ土耳古軍カ迅速強靭ナル防備ヲナセルナラント信セリ。故ニ如何ニ思考ヲ凝ラスモ「フオン、リマン」将軍カ新ナル攻撃ヲ期待シ居ルヤ否ヤニツキ確推スルヲ得ザリキ。

総テノ見解ヲ綜合スレハ其何レナルカヲ推定シ得トスルモ一切ノ見込ヲ打算セザル能ハズ。

之レト同時ニ第五軍ノ兵力区分カ行ハレタリ。「サロス」湾ト亜細亜沿岸トハ各々二三ケ師団ヲ配セリ。爾余ノ十ケ師団ハ両戦闘正面又ハ其後方ニ配置セリ。援備軍ノ配備ハ「アリブルヌ」ト「セツドウル、バール」ノ間ニ上陸敵軍ノ突撃アラハ直ニ二ケ師団ヲ以テ迎撃シ得ル如ク選定セリ。如上ノ区分ヲ数ニテ示セハ「サロス」湾ト亜細亜岸トハ各二万人、戦闘正面又ハ其直後ニ約八万人ヲ配セリ。

土耳古ノ第五軍カ連続増兵セラルルト共ニ「ダーダネル」ニ数ノ独逸兵モ増サレタリ。上陸前ノ英軍ハ独逸将校（要塞附独逸軍人ヲ除ク）ヲ全ク少数ト打算セリ。実際ニ於テ軍司令官ノ独逸人随伴者数名アリシ外ニ第五軍ニ属スル建制部隊ニハ相当ノ陣地ニ独逸将校二、三名ヲ配シアリタリ。即チ亜細亜要岸ニアリテハ「ウエーベル」大佐カ第三及ヒ十一師団ヨリ編制大。

セル軍團ヲ指揮シ「ペリネット、フオン、タウベネー」少佐コレガ參謀長トナリ、「ニコライ」中佐ハ第三師團長トナレリ。次ニ第八東阿兵縣隊長ナル「ウエルレ」中佐ニ任スル筈ナリシガ後要塞ヨリ軍ニ移セリ。欧洲岸ニアリシ師團ハ土耳古人ヲ指揮官トセシガ遂ニ第五師團ニ独逸人ヲ用ヒ「フアン、ヅー・デンステルン」中佐コレガ師團長トナレリ。然レドモ戦闘ガ初マルヤ多数ノ独逸将校ガ「ダーダネル」ニ来リ、何レモ「コンスタンチノープル」ニアルヲ要セサル者ハ第ロ戦線ニ使用セラレンコトヲ切ニ希望シ、七月末 Militär… (…mission) ノ七十八名中二十八名ハ第五軍ニ配屬スルニ至レリ。残余ノモノハ他ノ土耳古ノ戦場ニ使用セラレサルトキハ「コンスタンチノープル」ニアリテ「ダーダネル」ノ戦務ニ從事セリ。

七月終リ頃、独逸將校ガ一軍團及三箇師團ノ指揮權ヲ握レリ（「トロンメル」大佐、「ホイク」、「ニコライ」、「ニマライ」、「カンネンギーセル」各中佐）。南軍ノ砲兵及ヒ工兵隊長ハ独逸將校（「ビンホールド」少佐及ヒ「エツヘネルト」大尉）ガナレリ。亜細亜岸ノ築城事務ハ「ヱゲルト」大尉ノ手ニ落ケタリ。13

此ノ外ニ（實中ニ）Militärmission ニ屬スル独逸將校ガ独逸ヨリ送致セラレシ野砲兵將校及ヒ徒歩砲兵將校合計十五名將ニ南軍ニ使用セラレタリ。コノ時マサ「ガリポリ」ニハ独逸ノ編成ニヨル海軍機砲隊ニ派ツケ燃炎ノ初メヨリ協働セシガコレハ数コソ少ケレ強力ナルモノナリキ。加之六月ニハ潜航工兵隊ガ加ハリ、維高尼ナ通過スルタメ介留シテ特殊ノ輸送ガ行ハレシリ。コノ隊ニハ赤痢ト「マラリヤ」熱ガ猖獗ヲ極メ報告ニ依レハ二ケ月余ノ内ニ二百名中九十名近診療ヲ受ケタリ

八月初特殊ノ事変起レルヲ知レリ。敵ノ大軍ガ「ミチレネ」ニ輸送セラレシトノ確報来ル。只レ則チ亜細亜ノ大地ニ上陸スル前兆ナリ。之ト今時ニ敵艦ハ「カバ、テペ」ニ對シテ日曜マデキ活動ヲ開始セリ。八月四日敵ノ眼ハ急ニ兩正面ニ活躍シ、午後六時南北軍ハ猛攻撃ヲナシ、南軍ハ中央ニ對シ北軍ハ左翼ニ向ヒタリ

「ビガリ」ノ大本營ハ大ニ緊張セリ。然ラハ最初如何ナルコトカ起リシソ。夜明ケントキ猶ホ「サロ」ス湾及ビ「リムカレ」ニ關スル情報ナカリキ。只七月初「ウエ——ベル」大佐ニ南軍ノ指揮ヲ委ツリシ「ウエビブ・バンヤ」ノ言ニヨリ、「キルテ」ニ激烈ナル歩兵戰カ行ハレツツアルコト、北軍ニ關スル悲報トシテ左翼ノ最前線カ死傷大ナルコトタケ判明セリ。暫クアリテ「サロ」ス湾ノ「エノス」ニ對スル（ト亜細亜海岸ニ對スル艦隊行動ニ關スル）艦隊行動ニ關スル報告來ル。午後九時頃又モヤ「エサッド・パシャ」ヨリ電報來リ、敵ノ大縦列カ海岸ニ沿フテ北進中ナル旨ヲ報セリ。次イテ午後十一時頃「アリブル」ノ北方「スブラ」湾ニ軍隊上陸中ナリトノ報來ル。「エサッド」ハ之ニ附言シテ予ハ「アリブル」ノ南方「カヤル・テペ」ニアル第九師團ヲ即刻北進セシメタリト報セリ。

大本營ハ極度ニ緊張スルト仝時ニ新タニ不安ナル心配ニ包マレタリ。不得要領ナル報ハ其假面ヲ剥イテ策ヲ察スルニ如カス亜細亜海岸及ヒ「サロス」湾ニ對スル艦隊行動ハ「セッド・ウル・バ——ル」ニ於テ北軍ニ對シ單ニ誘致攻撃ヲナスノ單ナル佯撃ニシテ、本攻撃ハ恐ラク更ニ北方ニ位置スル「サリ、ベール」ノ山ト「アナフオルタ」ノ卓闊地ヲ目標トスル作戰計畫ハ相違ナシ。然カモ情況カ明ラカニナルト仝時ニ危險ノ大ナルコトモ打知ラレタリ。新鋭ノ敵ハ大正面ニ亘リテ攻撃ヲ初メタ。コヽニハ薄弱ナル海岸警備隊タケシカナク、「ウイルメル」少佐ノ指揮スル砲數門ヲ備フル三箇砲兵中隊ト少部隊カ廣キ地ニ散布セラレ居タリ。猛攻撃ヲ受ケシ此軍ハ此新鋭ノ敵ニ展開スルニ苦難ノ状態ニアリ第九師團ハ天明迄ニ「サリ、ベール」ニヤット到着シ得ルハ適キス、然カモ疲レ重砲火ヲ蒙ル正面ノ後方ヲ夜行軍シテ初メテ來着シ得ルモノナリ道ニ警戒セル「グレール」ニ於テル第七及ヒ第十二師團ヲ亜細亜ヨリ速派セラルヘル第十一師團ヲ強行軍ヲ以テスルモ新戰場ニハ八月八日中ニ初メテ來着シ得ヘシ。依リテ「サリ、ベール」高地進出ノ爲軍ヨリ派遣スルトシテモ終日晝夜行軍ヲナサヽル可カラス。加之、英軍ハ奇襲ニ出テ[illegible]豫備軍カ來着スル迄ニ目黒ヤ高地線ヲ占領シ八月七日ノ早曉ニ久シク渇望スル

目標ヲ確取スルタメニ全兵力ヲ用ヰヘシ。

南軍ハ終夜戦闘ヲ持続シ動揺ハ絶エス待ヲ変エタリ。「ウエニアパミ」ハ情況ヲ判断シテ彼ノ求メシ師団ノ外ニ尚木制御隊ヲ新突撃点ニ進出セシメタリ。北軍ハ何回モ逆襲ニ出テシカ戦場ニ突撃ハル敵ヲ駆逐スルコト能ハス戦況ハ危殆ニ迫リテ予備隊ノ一部ヲ配賦セネハナラナクナレリ。

八月七日ノ夜カ明ケル迄時間ノ経過スルハ待ツ遠シカリキ。敵ノ砲撃ノタメ天地ハ震撼セリ。早朝テスラ北軍右翼ニアリテ交戦セル第十九師団ノ師団長「ムスタフアケメル」中佐ハ、敵ノ縦隊カ「サリ、ベール」ニ大隊中ナリトノ報ヲ受ケタリ。正ニ苦境ナシスヤ、諸処ニ攻撃セラレル対抗中ノ敵ニ取リマカレ「ムスタハ、ケメル」ハ麾下ニ一箇大隊半ヲ有スルノミナリキ。該隊ハ直ニ赴イテ師団ノ北方ニアル高地線ニ急キ陣取レトノ命令ニ接セリ。土耳古軍カ急イテ高地ノ境界線ニ駐足スル間ニ英軍ハ他ノ斜面ヲ攀ヂ登レリ。土軍ハ悪ム可キ敵ヲ先ヲ照準セル射撃ヲ以テ撃退スルニ屈強ノ好機ナリキ。

此「サリ、ベール」ノ高地線ニ於ケル戦闘ハ僅カ四〇分間ニシテ、ドノ敵モ高地線ヲ占領スルト否トハ勝敗ヲ岐ツモノタルヲ知リタリ。高地ハ海峡ト半島ヲ瞰制シナガラ「アノ海堡ト南軍ノ後方地帯トヲ射界ニ含ミ、北軍ノ陣地ナモ瞰制シテ側射スルヲ得タリ。山頂特ニ其南峯ヘ「ケホマーク、ベール」ハ敵カ占領シテハ奪取セラレ、正ニ白兵戦ニヨリ決戦セントスル状ヲ呈セリ。

八月七日早朝直ニ集合セル英軍ハ改メテ攻撃ヲ決行セリ。コタビハ弱キ防禦軍ヲ撃退スルヲ得タリ。須臾ニシテ英軍ハ漸ク待ツヲ得タルナリ。第十九師團長「カンネレギーセル」ハ（傷キテ戦闘外ニ退キ）既ニ敵ヲ突撃シ撃退セシメントシ居タリ。翌朝迄山峯ハ土耳古軍カ占有シ天明ヨリ激戦ナル砲火カ高地ニ加ヘラルル又英軍ノ背ニ熾烈ナル砲火トシテ降リ来リ四師團ニ行ハレル土耳古ノ逆襲ハ犠牲ニ拘ハラズ発揮セル勇気ニモ拘ハラス斯ルヘキ敵ノ止阻射撃ニ敗退セリ。翌八月九日、又モヤ泳ヘ難キ敵ノ射撃ハ防禦

軍ヲ一時的ニ築城セル塹壕内ニ破摧セリ。之ニ踵イテ歩兵ノ猛攻撃カ行ハレ英軍ハ高地ヨリ奥ニ踏ミ入リ、土軍ハ敗レ運命ノ衰頽カ来タルヲ見タリ、
英軍歩兵ノ出現ト共ニ今迄姿ヲケセシ敵ノ砲火ハ活燥セリ。英印大隊ハ更ニ戦勝ヲ得ンカタメニ少シク敗退セル土耳古軍ヲ追走シ土耳古軍ハ振ツテ極揮ニ抵抗シツツアリシカ僅カニ亜玻ノ榴口シ中新攻撃ヲ蒙レリ、勝ニ誇レル軍兵カ酔レテ高地ニ攀登リシトキ幾百ノ兵ハ血塗レニナリテ流滞セリ。運カ僥倖カ否ノストセハ其両者ハ共ニ来リシナルヘシ。無数ノ戦争ノ舊跡ニアリテハ之ニ類スル勝利ヲ勝者ニ供フルハ一ノナリ。英艦ノ重砲ハ緩徐ナル射撃ニテ突撃スル歩兵ノ中ニ射弾ヲ発揮ヘリ。然シトモ敵ハ岳カ後方ヨリ来ル射撃ノタメニ士気頓ニ挫ケ高地ヲ去テ前日占領セル戦線ヲ夜ニ至リ拋棄セシカハ土耳古軍ハ之ヲ見テ敗走スル敵ヲ追撃セリ。然カモ果レヘ轉瞬ノ仕事ナリキ
然レドモ猶未曾然トシテ危険ハ去ラス、数時間前ニ英軍ノ掌中ニ落ケシ高地線ノ一部カ再ヒ土軍ノ手ニ帰セシノミ。然カモ敵ハ益々高地線ニ踏止リテ吾レハ抵抗シ、「サリヌーシ、ベール」ノ境界線ニカクレテアラユル攻撃ヲ対峙セリ。然レトモ英軍ハドウシテモ全所ヲ拋棄セサルヲ得ス、
是ニ於テカ八月十日「佛曉山スタハ、カメル」ハ亂レク軍ヲ援ケテ新メニ攻撃ヲ起セリ。第九、四及ヒ八師團ハ死ヲ覚悟シテ高地ニ突進シ救援スル敵ヲ追撃シ遂ニ海ニ面スル斜面ヲ猛烈ニ砲撃セリ。然シ死傷モ大ナリシタメソレ以上ノ完勝ヲ博スルニ至ラサリキ。
日暮ルルヤ英軍ハ方ニ二千人ト土軍ハ一万人ハ既ニ対峙セリ、四十八時間ハ英軍カ勝ツニ似タリシカ土軍ノ形状ハ、一ツヲ見ル可キモ爾余ノ命ヲ経キニ比スル勇敢トハ最後ニ英軍ヨリ勝ヲ奪ヘリ。英軍ハ決シテ此高地ニ留マルヲ得ス、高地ニアリテ土軍ヲ殲滅シ要塞ヲ陥落セシムルニ代リニ、土軍ヲシテ完全ニ海岸地帯ヲ瞰制シ確實ナル命中精度ヲ以テ隠レノ射撃ヲナシ得ル最良ノ展望利ク地点ヲ固執セシムルニ至レリ。

「セッドウル、バール」、「アリブルス」、「サリ、ベール」ニ於テ八月六日以来激戦連マシカリシ間ニ、「スルバ湾」ハ少シノ射撃ヲ受ケシ外安静ナリキ。尤モ安静トハ名ノミニテ不安ナル安静ナリキ。第五軍司令部ハ、八月七日ノ夜中「スルバ」湾ニ大々的上陸カ行ハレ居タルコト、今ノ所ヲ警戒セル薄弱ナル土耳古部隊約二千人カ「ウイルメル」ヲ指揮官トシテ密叢林生シ漸次「キユーチユーク、アナフオルタ」ノ高地ニ登ル地帯ニ退却セルコトヲ知リタリト、コノ退却ハ敵ノ追迫ヲ受ケスシテ成就サレタリ。英軍ハ兵力優勢ナリシカ海岸ヨリ数基米ハナレシ平地ニアリテ無為ニ傍観セリ。コ、ニ於テカ謎ヲ生メリ。兎ニ角モ深キ海岸線ニ圍繞セラルル高地ノ峰ヲ占領シテコ、ヲ第一ニ固守スベルニ限ルコト問ハスシテ明カナリ。而シテ「サリ、ベール」ヨリ聞コユル関ノ聲ヨリ想像スルニ新鋭ノ上陸英軍ハ益々士氣緊張シ直接我等ニ對抗スル敵ハ全ク弱力ナリト見タルモノ、如シ。事實上英軍ハ少クトモ二十四時間ノ長キ此処ニ運動ノ自由ヲ得、「フオンリマン」将軍ハ八月七日午後初メテ第七次ニ第十二師團ハ六日行軍ノ後「アナフオルタ」ノ高地ニ着セシ報告ヲ入手セリ。土軍ハコ、ニ陣ヲ撫テ御シテ安堵セリ。翌朝モ攻撃命令カ下セシカ、コノ攻撃ハ情況ニ依リテハ尚ホ敵前ニ於テ重要ナル高地ヲ得ル見込アルモノナリキ。

「フオンリマン」将軍ハ八月八日朝親シク戰端ニ騎行シコノ責ヤ默閑ニ参加セリ。両軍トモ之ニ氣付カス、初メテ土耳古軍カ前進地域ヲ得ヘキコトニツキテモ心付カサリキ。両師團ノ到着前ニ於テ之ヲ指揮スル将軍ノ報告ガ事實ヲ急キ認メルニヨリ初メテ判明セリ。軍ハ疲勞ノタメ尚遠ク後方ニアリシカ、タメ列須ニ交リ初メテ軍團ノ射撃開始、ヨリ細織スルヲ得突ツテ如何ニ早クトモ此夜間ニ攻撃セントスル企當ナルニ至レルモ斷ナラ二十時間ハ恐カク貴重ナル二十四時間ヲ徒費シ見スく英軍ヲシテ四十八時間ノ長キ運動ノ自由ヲ與フル機會ヲ得シメタリ。

然カモ土軍ハ又之ニ就キ誰モ其非ヲ悟ラサリキ。「フオンリマン」将軍ハ[illegible]制

地点ニ先駆スルヤ「スブラ」湾内ノ光景ハ至極平和ナリキ。恰モ美ナル湖面ニ遊リシ心地セリ。實際全平地ニハ冷氣カ眠ル如ク日光ハ閃々タル鏡ノ如キ海上ニハ小艦カ疾走シ、ソノ彼方ニハ運送船カ点々シク碇ヘ、物凄ト軍艦ノ巨体ヨリハ閃光ヲ発ス。小部隊ヤ縦隊カ海浜ヲ去リ尚ホ戦闘ノ印象ヲ留ムレド焼ケツク日中ノ熱ヲ浄タメル海水ハ寧ロ涼ヲ求ムル幾百ノ兵ニ浴ヲ及ボス。トキ此印象ハ頻変ニシテ消磨ス。軍隊ハ別々ニナリテ打寛ロゲル戦場ニツキ、營舎ヨリハ平和ナル烟カ立チ罩メタリ。遥カ前方ニ假築城セル塹壕ヲ演習氣分ニシテ、恰モ演習開始ノ喇叭ノ吹奏サレタカノ如ク塹壕ノ縁ニハ兵士カ烟草吸ヒ作ラ坐シテ雑談ス。コノ時ニ當リ「ベール」ヨリ來ル遠雷ノ如キ砲聲ハ絶ユルコトナキモ彼等ハ馬耳東風ニ聞流シテ毫モ心配セサルモノ、如ク、暗澹タル塊岩ニハ硝烟ト射撃カ飛舞ヒ来リ其後方ヨリ待チ焦ルル土耳古師團カ何時来襲スルヤモ知レサルニ英軍ノ陣營生活ノ平和ナル光景ヲ見ルトキ、吾人ノ眼ヲ疑ハザルヲ得サリキ。

斯クテ大軍カ第一次ノ薄暮攻撃ヲ開始スヘキ夜ノ時刻ハ近ツケリ。然レトモ軍隊ハ見エス。依テ「フオン、リマン」将軍ハ厳重ニ「サロス」軍ノ指揮官ニ説明ヲ求メシニ、熾熱中ヲ強行軍シタルバカリテ軍隊ハ戦闘ニ入ル力ナキコトダケヲ答ヘシモノ、如シ。コレ亦已ムヲ得ストナシ、八月九日朝迄約十二時間攻撃ヲ延期スルコト、ナレリ。英軍ハ此延期ヲモ進ンデ承認セリ。英軍ハ何レニシテモ待テリ。而シテ是レカタメニ必ナラスモ自軍ノ利益ノタメ土耳古軍ノ第二ノ危機ヲ見逃セシモノナリ。蓋シ英軍ハ新鋭ノ上陸セル強力ナル部隊ヲ以テ二日間モ戦略的並戦術的ニ重要ナル点ヲ全軍ノ手ヲ以テスルモ敵ヲ撃退セシムルニ至ラス僅カ一時間ノ内ニ従前ノ兵力ノ全般ノ状況ニ余リニ大ナル威嚇ヲ受ケタレハナリ

八月九日彼我両軍対抗シテ攻撃セリ。コタヒハ英軍カ先ツ率先セシモ遭遇戦トナレリ。土耳古ノ両師団ハ平地ニアリテ、且閑地ヲ攀ヅル英軍ヲ撃退セシメタリ。此戦闘ヲ指揮セル「ムスタハ、ケマル」中佐ハ日暮レントスル頃ニ、

敵ハ一般ニ根據陣地ニ敗退セルヲ認メタリ。英軍ハ戰闘後之ヲ誇大ナラシメル抵抗力モナキ戰線ヲ維持セリ。

八月十日戰闘ヲ継続セリ。英軍ハ第八日ノ手遅レヲ挽回スベク八日及ヒ九日ニ上陸セル新鋭ノ兵力ヲモ用ヒ合計三箇師團ニテ土耳古ノ戰線ニ當ルコト、セシカ、土耳古側モ九日ト十日夜間トニ別ノ増援軍カ來着セリ。陣地モ整備セラレシ土耳古軍ハ攻撃ニ克ク備ヘタレハ流石ノ英軍ノ巨砲モ大目標ヲ看出ス能ハス。八月十日夜二日間ノ戰闘ニ大傷手ヲ受ケシ英國師團ハ平地ニ於ケル上陸初日當時ノ陣地ニ引揚ケ、瞰制的陣地ハ總テ土軍ノ有ニ帰セリ。

英軍ハ此状態デハ疲憊シ切ルルモノデナシ。否デモ應デモ新タナル兵力ヲ以テ陣地ヲ回復スルコトニ努メサルヲ得ナリキ。サレハ八月十五日英軍ハ新タニ攻撃ヲ開始シ土軍ハ豫期シ居タルコト乍ラ「キレシ、テペ」ノ最外右翼ニ對シ只少數ノ兵力ヲ差向ケタリ。英軍ハ多數水雷艇ノ備砲ヨリ側射掩護ヲ受ケツヽ土地ヲ占領シ稍々花織ハ發ノ状況ヲ追出セリ。此高地ノ背面ハ英軍ノ手ニ落チ、斯クテ敵ハ第五軍ヲ包圍シテ據点陣地ヲ得、コ・ヲ利用シテ容易ニ「ダーダネルス」及ヒ「アクバッシス」ニ至ル道ヲ拓クニ至レリ。觀臨セシ軍司令官ハ英軍カ絶エス追撃シ味方ノ豫備軍ナキタメ不安ノ秒時ヲ刻々ト續ケ、彼方ヲ眺ムルモ亞細亞岸ヨリ來ル(ヘキ)大隊モ「サロス」灣ヨリ遂派セラルル第六師團モ杳トシテ見エス、若シ彼等カ直ニ來着セサランカ、既ニ斷趣ノ兆ヲ示セル「ウイルメル」少佐ノ率ユル少部隊ハ直ニ突破セラルヘシト打案セリ。然ルニ遂ニハ一秒千秋ト待ケ焦レシ増援隊ハ現ハレ全速力ヲ以テ携荷ヲ須ハス進軍シ來リ、此部隊ハ直ニ参戰シテ敵ヲ阻止シ敵カ占領セシ地ヲ奪回シ、「キレシュ、テペ」ハ依然トシテ土軍ノ有ニ帰セリ。

サレド之ヲ以テ「スルバ」灣ノ戰闘ハ終ラサリキ。英軍ハ尚ホ此間ニ非常ナル兵力ヲ糾合シテ絶ユルコトナキ砲火ヲ頼リトシテ再ヒ奮然トシテ起ツコトハ明ラカニシテ、新タニ攻撃ヲ決行シ土軍ヲシテ陣地ノ築設ニ遑ナク

ラシムル戦法ニ出ヅルハ理ノ當然ナリトス。

八月二十一日「スルバ」湾ノ方向ヨリ砲聲鳴リ響キヤ「フオン、リマン」将軍ハ豫期セシコトトテ敢テ驚カサリキ。又栄道リニ弾丸ノ雨ハ「パン〳〵」ト土耳古ノ戦線ニ降リ注カレ、軍艦ハ「スルバ」湾ニ防禦網ヲ施設セシタメ魚雷ノ危険ヲ案スル必要ナク、陸上砲ト共ニ全力ヲ挙ケテ相競フテ射撃セリ。次テ午後トナリテ歩兵ノ攻撃ヲ開始セリ。「セッド、ウル、バール」ヨリ来リシ英軍ノ七ケ師団ハ之ニ加ハレリ。枯野ハ炎々ト燃エ上リテ轉タ戦況ノ悽壮タルヲ示シ土耳古砲モ亦二倍ノ努力ヲ以テ射弾ヲ送レリ。土耳古ノ砲火ハ好目標ノ英軍師団ニ濃賑スヘキ死傷ヲ招徠セリ。斯リテ残忍ナル追戦ハ深夜マテ行ハレ、英軍ハ射撃精度良好ナル土軍ノ砲火ヲ避ケ炎上セル乾草ヲ避ケルタメ比較的ニ保護セラル地ノ皺襞ニ團聚セシ結果往々機関銃ニ射殺セラレタリ。然カモ英軍ハ益々攻撃ニ手ヲ緩メス土軍ハ此攻撃ヲ防クタメ最後ノ一人マテモ戦線ニ送レリ。夜中及ヒ早朝軍司令部ニ達セル報告ニ徴スル

ニ、局地的突撃ノ外、敵ハ旧陣地ヲ拋棄シタル位土軍ノ優勢明ラカナリ。

以上ハ大規模ノ最終ノ攻撃ナリキ。引続キテ尚ホ八月廿八日ニハ局部的攻撃カ行ハレ爾後ハ塹壕戦ト陣地戦トナレルコト他ノ正面ニ異ラス

[illegible]

十、陣地戰ト選命ノ要訣

八月中ノ戰鬪ハ土耳古各兵種ノ完成ナル成功ヲ意味ス、此間ノ死傷者數約四萬人、重大ナル數ナリトハ云ヘ決シテ徒死又ハ無益ノ負傷ニハアラス、七月ヨリ十月ニ至ル「サリベール」、七日ヨリ九日ニ至ル「アナフオルタ」、更ニ十五日及十六日ノ「キレシュ、テペ」ニ於ケル最外右翼ニ對スル戰鬪ハ三大難關ナリシカ、土耳古軍ノ優秀ナル指揮ト決死的勇氣ハ最後ニ英軍ニ勝利ヲ占メタルモ全様成果ヲ擧ケタリ、南北兩軍ハ其固有ノ陣地ヲ固守シテ動搖セサリキ、新タナル英軍ノ上陸地ニ對シテハ「サリ、ベール」ノ高地、「アナフオルタ」ノ高地ニ防禦線ヲ布キ神速至妙ノ防禦ノ實ヲ擧ケタリ

元來英軍ハ正面ノ何處ニモセヨ新規ニ兵力ヲ増加セスシテ突撃ノ成功シタルコトナカリキ、此點ニ就キ土軍ノ將來ヲ洞觀スレハ遺憾ナク陣地戰ハ益々最大ノ弱點ヲ示セルモノト謂フヘシ、弱点トハ何ソヤ兵力ノ大

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

浪費コレナリ、最後ノ上陸前テモ土耳古ノ兵力ハ他ノ重要ナル目的ニ餘地ヲトトメ又位置ヲ便用セラレタリ、八月末ニハ土耳古陸軍ノ過半数ニ當ル二十二箇師団カ「ダーダネル」ニ在リタリ、新タナル上陸ニヨリ土耳古ノ正面ハ二倍以上ニ延伸セラレタリ「キレシュ、テベ」ヨリ「カハ、テペ」ニ至ル海岸線ハ新師団ヲ配置シ南岬ニハ四箇師団ヲ配シ従テ第五軍ノ過半数ハ最前線ニ立テリ、是レ防禦ニハ十分ノ兵力ナリシモ攻撃ニハ不足セリト謂フヘシ、寒冷不良ノ天候ニ入ルヤ疾病増加セシタメ兵力ノ浪費ハ益々甚シクナレリ、兵軍殖スルニツレテ給養ハ困難ニシテ不足ヲ生シ被服ヲ装具モ益々足ラサルコトトナレリ、兵士ノ体格上ノ元氣モ士氣モ益々低落セリ、師団ノ精英ハ戦場ニ死シテ損ハリ又ハ病院及病室ニ病ミ又ハ負傷シテ臥セリ、是等ノ補充兵ハ体格発育不完全ノモノ又ハ体質不全ノモノ又ハ訓練不完全ノモノヲ以テセサルヲ得サリキ、秋季中土耳古師団ニ「アラビア」人ヲ以ヲ補充ヲ生セシカ、コレハ氣低ト陣地戦ノ

要求ニ不適ナルコト判明セリ、故ニ軍司令官ハ陣地ヨリ敵ヲ駆逐スルニハ独逸ト連絡ヲトリ独逸ノ新式砲及独逸ノ弾薬ヲ手ニ入レント希求スルニ至リ、ソノ助サヘアレハ敵テ歩兵ノ救援ナクトモ可ナリトスルニ至リシナリ、斯カル連絡ヲトル迄ハ軍司令官ハ自由ヲ縛セラレ、其任務ハ英軍ノ向後ノ侵襲ヲ阻止シ新タナル上陸ニ対シテ予備隊ヲ準備シ決戦ノ日迄補充セラレタル部隊ヲ可成控置スルコトニ限定セサル能ハサリキ

然レトモ英軍司令官ニ関スル状態ハ一層不満足ナリシモノノ如シ、彼ハ八月末新タナル戦斗モ敗レ其戦略的任務ハ臨時ニ新兵力ヲ増ササレハ達成シ難シト胸算ヲ抱カサルヲ得サリキ、「ハミルトン」将軍ハ大苦悩ノ内ニ八月中ノ戦斗ヲ遂行セシコトナラン、吾人ハ真相ノ公ニセラレシ今月ニ於テ初メテ之ヲ知ル、「ダーダネル」戦斗ニツキテハ英国ノ文献カ若モ要領ヨリ其消息ヲ傳フ、第二次上陸及攻撃計画モ戦斗経過書ヨリ明瞭ニ知リ得ヘク、八月七ノ上陸計画ト全様ニ的確ナルモノナリキ、英軍ノ当

時ノ意中ヲ忖度スルニ沢山ノ土耳古軍カ補充セラレ又内ニ不意ニ且神速ニ進撃シテ「アリプルス」ノ北方ノ高地及卑湿地ヲ決定的ニ占領シ、斯クノ如クニシテ「ダーダネル」ニ突破スルノ好機ノ拠点タル陣地ヲ求ムルニ在リシコト鏡ニカケテ見ルカ如シ、若シ英軍ノ企図カ不幸ニシテ失敗ニ終レリトセハ實行ノ誤ニシテ計画ノ罪ニハアラサル可シ

八月ノ戦斗ハ英軍ニトリテモ土耳古軍ニトリテモ優ニ劇的頂点ニ達セルモノトイフヘシ、八月八日ハ「フォン、リマン」将軍カ「アナフォルタ」ノ高地ニテ叶ハス願ト知ラスシテイラ〳〵シナカラ第七及第十二師団ノ来着ヲ待チシ日ナリ、全日「ハミルトン」将軍ハ悲シクモ「スルバ」湾ニ於テ「エネルギー」ヲ消尽スレハ英軍ニ勝利ノ栄冠ヲ得ヘカリシ貴重ナル二日ヲ浪費セシコトヲ自覚シタリ、彼ハ決定的地ハ未タ占領セラレスニアリ「ダーダネル」ニ通スル道路ハ自由ナリシト雖、二万ノ兵カ二日間無為ニ暮セシコトヲ知レリ、是レニ於テカ「サロス」湾ノ飛行機偵察ニ依リ進軍ノ嶮ナル師団カ戦場ニ到達スル時機ヲ観察スルヲ得タリ、ソレカ英軍ニモ解消ヲ与フルコトトナリ司令部ノ位置ヲ他ニ置キシコト敢テ怪ムニ当ラス、然ルニ将師ノ能ハ事ソコニ至ラスシテ好機会ヲ捉フルヲ得スシテ七日「サリベーホ」ニ七日及八日「スルバ」平原ニ八月十五日迄「キレシユ、テペ」ニ好機会ヲ逸シタリ、ソコニテ遅延ナリセハ大ナル損失ナシテ成シ得タルコトモ二三日後ニハ大損失ヲ受ケテモ猶且ツ最早達成スルヲ得サリキ兎ニ角ニモ八月六日英軍ハ十五箇師団十二万人ノ兵軍ヲ以テ戦闘ヲ開始シ内八万人ヲ以テ本攻撃ニ入レリ、八月末ニハ四万七千人トナリ九千人ノ死者ヲ出タシ多少有效ナル結果モ得サリシナリ

「サーバミルトン」ハ八月十六日ニモ新タニ増援隊ノ必要アルヲ認メ約十万ノ兵軍ヲ必要ト思惟セリ、サストハ英軍ノ兵力ハ殆ト従来ニ二倍セシ譯ナリ、要スルニ此要求カ斥ケラレ「ダーダネル」派遣軍ニ対スル補充カ益々減ラサレタルトキ英軍ノ「ダーダネル」戦斗ノ運命ハ文字通リニ決

定サレタルモノナリ、斯クノ如クニシテ「ハミルトン」将軍ハ戦術的防禦ニ逆戻リセサルヘカラサルニ至リ、取リモ直サス英軍モ決戦ノ可能性ナキ陣地戦ノ方式ヲトルコトトナレリ、斯クテ高キ目的タリシ「キリツド、バール」ノ海峡ノ占領ヲ見捨テテ果敢ナキ狭長ナル作戦地帯ヲ固守スルヨリ外ナキニ至リキ

八月末改メテ「ガリポリ」ニ陣地戦カ始マリシカ其表現ニツキテハ言ナキ能ハス、彼我両軍トモ最非モナク控ヘ目ナリシコトカ一般形勢ニ変化ヲ與ヘサル小ナル局地的陣地戦ヘ移動セル結果トナリタルナリ

土耳古軍ニアリテハ正面ヲ延伸シ之ニ應シテ軍隊ヲ増加補充シ新区分ヲ行ヒテ出来ル限リ適切ニ情況ニ適應スルニ努メタリ、第五軍トシテハ戦斗正面及亜細亜岸防禦軍ヨリ十分補充サレシカハ「サロス」湾ノ背面掩護ノ懸念ハ無クナリ第六軍ニ之ヲ委任セリ第六軍ノ軍隊ハ「カバック」ノ地区ニ進メシメラレ軍司令官男爵「フオン、デル、ゴルツ」元帥ハ其本営ヲ加リボリ」市ニ置ケリ十月中仝元帥カ第六軍ノ司令官ニ任セラレ「メソポタミア」ニ赴任スルヤ第六軍司令官ノ後継者ハ其本営ヲ「コンスタンチノープル」ニ移轉セリ 「サロス」湾ニ抵ル土耳古第十七軍団ハ独逸将校ヲ指揮官トシタリ「バック」大佐其人ナリ

大抵戦斗正面ヨリ斜合セル師団ニシテ亜細亜岸ニモヤシ少数ノ兵力ノ外「マイドス」ノ狭キ半島地帯ニハ第五軍ノ全体カ配置セラレタリ「キレシユーテペ」ヨリ「カバ、テペ」ニ達スル正面ノ長サハ十六基米ナルカ、ココニハ多数ノ師団ヲ最前線ニ区分シテ配備シタルカ如シ、加之「アリブル又」及「サリ、ベール」ハ山地ノ特質ヲ有シ「アナフイルタ」ハ平タキ阜岡地ヲ成スカ如ク如上ノ正面ノ戦斗地帯ノ特質カ相違セシタメ「フオン、リマン」将軍ハ正面ヲ区分スルコトトセリ、北部ハ「アナフオルタ」隊カ受持チ海岸ヨリ北方「サリ、ベール」岡ノ上斜面マテ配置セリ、南隊ハ「ムスタハ、ケメル」大佐カ指揮官トナリ六箇師団ヲ以テ編成セリ、之ト直接連絡ヲ保持スルタメ「北軍」

ナル三箇師団カ其左翼ヲ以テ南方ノ「カバ、テペ」ニ配置セラル、秋季中評
判ノ北軍指揮官「エサツド、パシヤ」ハ男爵「フォン、デル、ゴルツ」元帥ニ第一軍
ノ指揮ヲ委任スルタメ「アリ、リサ、パシヤ」將軍ニ指揮權ヲ引渡セリ
南軍ハ新区分スルニ至ラサリキ　然レトモ全軍モ亦指揮官ノ更迭行ハ
ル、即チ「ウエヒブ、パシヤ」ハ他ニ更迭レテコノ間ニ將官トナレル「チヤナツ
ク」要塞司令官「デバツド、パシヤ」カ南軍司令官ニ補セラル、故ニ第五軍ハ
八月末ヨリ三軍ヨリ成リ三箇軍団ノ小部隊トナレリ世界戦争ノ他ノ正
面ニ於ケル軍司令部トハ異リ、ココテハ最高司令部ヲ最前線ヨリ僅々数基
米後方ニ設置セリ

幾週モ幾月モ千遍一律ナル捲ミタル陣地戦ニ打過キシカ其代リ指揮官
並將軍ノ努力ハ切ナルヲ要セリ、之ニ對シテ敵ハ絶エス夜番ヲナシ、土
軍ニ油断ヤ隙カアレハ電光石火ノ速サヲ以テ喰ツテカカレリ、各所トモ
火線間ノ僅カナル距離ヲ進マンカタメ必然的ニ坑道戦カ一般ニ行ハルル
ニ至レリ、嘗テハ高地ノ陣地ヲ競フテ取リ[illegible]如ク今ヤ彼我両軍ハ
地下ニ優劣ヲ角スルニ至レリ、是レニ於テカ静寂裡ニ物凄キ鑿開器及
槌ヲ以テスル掘開作業ノ響ヲ耳ニシ、全陣地ノ各部ハ此坑道戦期間ニ乱
雑ナル漏斗地ニカワリ、坑道戦ノ恐怖サハ殆ント繰返サレタリ、最モ危
険ナル点ニ於ケル土耳古軍ノ態度ハ驚異嘆賞ニ値シ毫モ沈着ヲ失ヒサリ
キ、吾カ独逸工兵ハ從順ナル土耳古兵ニ坑道作業ヲ教導シ勇敢ナリキ、
只遺憾ナリシハ此独逸工兵隊ノ健康状態カ恢復セサルタメ中隊ノ少部
タケカ作業ニ從事セシコト是レナリトス

之レト全時ニ氣温ト生活状態不良ナリシト独逸兵ノ過労ト窮乏カ幾多
ノ損失ヲ招來セリ、全ク軍司令官ノ鉄石ノ如キ意志アリタレハコソアラ
ユル努力ト刺戟ヲ誘致シ得タルモノニシテ軍司令官ハ七月中重患ニ冒サ
レタレトモ一日トシテ軍ノ指揮ヲ執ラサリシコトナカリキ、彼ハ部下部
隊長及下級指揮官ト絶エス親シク連絡ヲトリ軍隊指揮ノ屡次的乱麻ヲ解

決シテ指揮系統ヲ統監シ来レリ、彼ハ殆ト毎日第一線陣地ヲ訪ツレ親シク
情況ヲ判断セリ「リマン、パシヤ」ノ堂々タル風采ハ全将士ノ仰慕セシ所ニ
シテ彼ハ軍象ヲ一見シテ協同ヘ致スルヤ否ヤヲ洞観セシタメ象ニ怖レラ
レタリ、彼ハ部下ノ勲功ヲ賞揚シ反對ニ兼務ノ怠慢アレハ假借ナク非難
シタリ、独逸将校下士卒ハ第五軍ノ就任益々長クナリシタメ独逸軍人ノ
輸入数ハ大ニ減員ヲ超過セリ、特ニ砲兵ノ高級指揮官ニハ屡々独逸将校
ヲ以テ之レニ當テ、九月以来第五軍ノ砲兵将官ハ独逸ノ「グレッスマン」
将軍ヲアテ、重砲隊長ニ独逸ノ「ウチーレ」大佐ヲ任セリ、其他「アナフオ
ルタ」ニ於ケル砲兵隊長及野砲隊長、重砲兵隊長モ北軍ノ重砲兵隊長モ
独逸将校「フオンベルグ」少佐、「リーラウ」大尉「デトレツセン」大尉、ヲ以テ
之レニ宛テタリ、然ルニ南軍ニアリテハ独逸ノ「ピンホルト」少佐心臓ノ疾病
ニオカサレシタメ土耳古将校タル一兵卒ヨリ進級セル「アツ、レムベー」中佐
カ之レニ代リ、公中佐ノ部下ニ「シミツト、コルホー」少佐ト「ゼンフトレー
ベン」少佐カ砲兵分隊長タリキ、一九一五年独逸人ノ高級軍隊指揮官タ
リシモノニハ軍司令官ニ名「ベック」大佐、「カンネンギーセル」中佐ト師団長
四名「ホイク」中佐「フオン、ゾーデンスデル」中佐「ニコライ」中佐「ウイルメン」
少佐」アリ、幕僚トシテハ「エゲルト」大尉カ北軍ノ参謀長トナリ　南軍先
任参謀トシテ「ミユールマン」騎兵大尉亦独逸人ナリキ
　秋ノ内ニ独逸飛行機モ来著シ、イクラカ「セルビア」ト羅馬尼ニ跨ル「バ
ルカン」半島ヲ飛越セリ「ゼルノー」大尉ハ土耳古第一航空隊長トシテノ「ガリポ
リ」市ヨリ遠カラヌ「ガラタ」ニ飛行機三台ヨリ編成セラルル「ダーダネル」
航空隊ヲ設置セリ「ブツデツケ」中尉ハ特ニ勇敢ナル飛行ヲナシ直チニ驍
名ヲ轟セリ
　独逸飛行隊員ハ土耳古飛行隊ノ総補教育不足セルタメ益々必要トセラ
レ無邪氣ニモ個人遊客ト化ケテ羅馬尼ノ関所ヲ越ヘ土耳古ニ潜行セリ
独逸ノ砲兵モ往々冒険的ニ公様ニ假装シテ「コンスタンチノーブル」ニ赴ケ

リ、独逸ノ衛生部隊及治療材料モ沢山「ダーダネル」ニ輸送セラレ大イニ
観迎サレタリ、又独逸赤十字ニヨリ衛生隊カ編成セラレ就中「フオン、ツリ
ユツチエル」男爵「ホツホベルグ」伯「レユチユチン」博士ノ率ユルモノハ険ヲ冒
シテ土耳古ノ衛生勤務ヲ支援シ幾多有為ナル土耳古将士ノ生命ヲ救ヘリ
一九一五年十二月ノ「ダーダネル」戦ノ最終月ニハ熱誠ニ土耳古軍ノ戦友
ヲ助ケシ独逸将士ハ「アナフオルタ」軍ニアリテハ将校五十一名、下士卒
約百名、南軍ニアリテハ将校三十五名ニ及ヘリ　此時ノ独逸将校ノ総数
ハ要塞員ノ独逸軍人ヲ加算シ約七百名ヲ算セリ
秋更クルニツレテ美ナル温カキ日少クナリマサリ　秋風寒ク悉ケシ高
地「ガリポリ」ノ高地面ヲ吹過シ終日強雨降リテ地ハ浅キ泥濘ト化セリ
深キ塹壕ニハ水カタマリ、平原ハ湖海ト化セリ斜面ニアル塹壕ハ或ハ洗
ヒ去ラレ或ハ砂礫カ推積ス、奔々タル急流ハ深ク海中ニ注カレ益々新タ
ナル地ノ割目ヲ生セリ、各兵ハ弱勢タル雲ノ遮ルシキラヒ天日ノ現ハレ
ンコトヲ願ヒ冬日然ヤ氷ノ如キ風寒ク吹キ荒メリ、天幕之レカ為ニ飄動
シ高級司令部ノ丸木小屋ハ動揺セリ夜ニナリテ身ノ暖ヲトルヘキ木ハ頗
ル尊カリキ、焚クヘキ木ハ遠クヨリ求メサレハ得ル能ハサリキ
九月ノ末世界ノ眼ハ「バルカン」半島ニ向ケラレ、特ニ勿論「ガリポ
リ」ヨリソコニ準備セル物ヲ熱心ニ求メタリ、勃牙利ノ動員ト独逸墺太
利匈牙利軍ノ「ドナウ」ヘノ進軍ハ久シク待チニ待チタル「セルビヤ」ニ対
スル戦闘ヲ実現ボスルヲ思ハシメタリ、「ベツクンゼン」ノ凱旋行列及「ブリ
ガリア」軍ノ進軍ハ要スルニ「セルビヤ」ノ抵抗カ絶望ニシテ之ノ破摧セラレ
「ダーダネル」ニ供給スヘキ独逸ノ砲及弾薬ノ供給路カ直チニ自由ニ攫カル
ヘキコトヲ暗示スルモノアリ、数ケ月前ヨリ鶴首シテ待チシコトハ今ヤ
達成セラレントス
十月ニモ「フオン、リマン」将軍ハ新タナル見込ヲ立テ大攻撃ニ必要ナル準
備ニ余念ナカリキ、十一月三日「フオン、ファルケンハイン」将軍ニリ「ガリ

「ポリ」ノ敵ヲ掃蕩スル必要アリト認ムル旨ノ照会ヲ大本営ニテ落着スルヤ待チコカレシ叙ヲ独逸人ノ参謀長ハ直チニ承認スルヲ得タリ、「ブヌスハーマン」将軍ハ第一ニ「アリブルヌ」ト「スルバ」湾ニアル敵ノ兵力ヲ探求シタクナレリ「リマン」将軍ハ之ニ対シテ敵ノ正面中央ヲ突破シ然ル後両翼ヲ内部ヨリ攻撃スルノ計画ヲ樹テ、コレカ成功スレハ初メテ「セツト、ウル、バール」ニ対スル攻撃準備ヲナスコトトシ、多量ノ兵器ヲ要求シ最高司令部ハ之ヲ承認セリ、斯クノ如クシテ手ニ入リシ砲兵中隊ニ十内重迫撃砲兵中隊六、二十八糎臼砲兵中隊三（一重榴弾砲兵大隊、）其他ハ「ガリボリ」及海岸堡塁ニ下リシ砲ノ多量ノ弾薬ナリキ、コノ外ニ技術部隊ハ内ニ Minenwerfer Abteilung 一アリ」ノ外「ガリボリ」ニ輸送スル筈ナリキ、最初ハ交通ノ見込ナカリシタメ最初ノ「コンスタンチノーブル」ニ対スル弾薬輸送サヘ不可能ナリキ、東方ニ於テ大突撃ニ號名ヲ走セシ将校ハ顧問トシテ親シク教導センカ為軍司令部ニ到着セリ

攻撃方法ハ一々適切ナリキ、從来ノ経験ニ基ツキ砲兵其他技術兵器ノ教育ヲ施コセシカ特ニカヲ込メテ歩兵ノ教育ヲモ施コセリ、最良ノ師団ハ相次テ正面ヨリ引抜カレ、正面ヨリモ後方ノ演習営舎ノ突撃部隊トシテ教育セリ

十一月中旬ト十二月初頭土耳古ノ部隊ハ「ガリボリ」ニ到着セリ、コノ部隊ハ墺太利匈牙利ノ一隊ニシテ二十四糎臼砲兵中隊ト十五糎榴弾砲兵中隊ナリキ、前者ハ「アナフオルタ」軍ニ属シ後者ハ「セツト、ウル、バール」ニ対シテ配置セラレ両者トモ察ヲ憾マレリ

斯クテ攻撃準備ハ直チニ盛ンニ行ハレタト、独逸ノ輸送ハ「ガリボリ」ノ戦士カ急セル割ニハ甚タ遅々トシテ行ハレタリ、異ルカラメ戦略的戦術的情況ハ今ヤ全ク変化シタトハ英軍ハ遂ニ此攻撃ヲ余儀無ク送リテ避クヘキコトヲ悟リタルヤ明ナリ「セルビヤ」ニ対スル戦略的結果ハ如何ニナルカ而シテコノ「セルビヤ」カ独逸ヨリ「コンスタンチノーブル」ニ至ル

通路ノ関門タルコトハ英軍ニモ見エ透キタルコトナリ、間モナク土耳古軍ハ今迄ヨリモ優勢ナル兵器ヲ決ル「ガリポリ」ニ備付クル必要ヲ生シ英軍モ米島ヲ占領スルカ此戦場ニ從前ノ兵力以外ノ全ク別ノ兵力ヲ増スカヲ決スヘキ瀬戸際ニナレリ、然ルニ後者ハ十月初メ「サロニキ」ニ派遣サル英仏軍カ上陸シタルモ實際ニ於テ少数ナリキ、畢竟スルニ敵方ニ大潜水艦船ヲ公海ニ行ワヘシトハ思ハレサリキ

土耳古第五軍トシテハ如上ノ状態ニ依リ戦闘正面ヲ最重ニ監視シテ過早ニ敵ノ撤退ノ意図アル兆ヲ発見シ、成リ丈ケ速ニ隠密ノ間ニ独逸ノ武力ノ援助ヲ得ル方法ヲ研究スル意志ナリシコト明カナリ、然レトモ如上ノ二問題ハ實施頗ル困難ナリキ、土耳古軍ハ「ガリポリ」ノ戦術的状態ト空中ノ劣勢ノタメ全ク側方監視シカ能ハス、敵ノ偽装ニ欺カレ易カリキ、然カモ独逸ノ輸送ヲ迅速ニシ隠密ニスルコトハ實現不可能ナリキ、誰シモ考ヘラルル二ツノ連絡線ハ「ベルグラード」—「ニツシュ」間ノ鉄道ト「ドーナウ」道路ナリ、前者ハ後者ヨリモ有效ニシテ運送迅速ナレト橋梁ヲ破壊スレハ一週間ト利用シ難ク、後者ハ度々鉄道又ハ艦船ニ積ミ換ユル必要アリテ却テ面倒臭クモアリ手間モトリテ遅緩ナリ、然モ「バルカン」半島ノ隅々迄モ密使ヤ間諜カラウヨ〳〵セルニ非スヤ——、

表ハ其ノ途ニ於ケル両隊ノ[illegible]シタル[illegible]

ヤ[illegible]開始シテ[illegible]前進[illegible]兵ハ[illegible]米

ス[illegible]運動ヲ[illegible]突[illegible]ハ[illegible]直ナル敵ノ[illegible]ニ[illegible]

[illegible]

文庫

日本將校ノ外閲覽ヲ禁ス

昭和四年三月發行
陸軍重砲兵學校

目錄

○攻城重砲兵ノ運用試驗ヨリ得タル成績
○「ダーダネル」ノ戰鬪（第四）（完）
○佛國砲兵操典　第二部（戰鬪ニ於ケル砲兵）（其一）

蒐錄　第九十三號

本錄ハ當校職員ノ研究調査ニ係ル事項及其他ノ資料ヲ蒐集シ之ヲ校附諸官ノ學術研究ノ參考ニ資スル目的ヲ以テ編纂セルモノトス從テ其所說ハ學校ノ代表意見ニアラス讀者之ヲ諒セヨ

陸軍重砲兵學校研究部

日本軍將校ノ外閲覧ヲ許サス

昭和二年六月

攻城重砲兵ノ運用試驗ヨリ得タル成績

重砲兵學校研究委員

攻城重砲兵ノ運用試験ヨリ得タル成績(正誤表)

枚数	表	裏	行数	誤	正
三	オ		六	此間ノ記、、	行ヲ改ム
四	オ		六	附録第ハ	附録
七		ウ	七	自動貨車ノ時速ノ	行ヲ改ム
八	オ		六	其勢力	其勢力。
〃		ウ	八	濃霧不定	濃霧不変。
九	オ		三	試験ハ不発地点	試験並不発地点
十二	オ		四	シメ今次ハ	シム、今次ハ
〃	〃		七	如ク其不発時刻	如ク其不発時刻
〃		ウ	二	所要ノ	緊急ノ
〃		〃	三	モノノミ貨車	モノノミヲ貨車

十三	オ		六	本作業約五	本作業ノ為約五
〃	〃		八	考察モ又	考察シ又
〃	〃		十六	大一二	大二
十四	〃		十八	各方面ニ対シ	削除
〃		ウ	八	一般ノ行軍	一般行軍
十八	オ		六	遺憾	遺憾
二	オ		九	現時行フル	現時行ヘル
9	〃		五	本試験所謂	本試験ハ所謂
附表第四			三	機械経始	機[illegible]経始

目次

緒言
第一 試験演習ノ目的及演習構成及経過要領
其一 試験ノ目的
其二 演習構成及経過要領
第二 試験ノ判決
第三 試験上得タル参考事項
其一 長途行軍能力及行軍速度
其二 行軍實施要領
其三 陣地占領
其四 砲兵ト自動車部隊トノ関係
其五 攻城重砲兵ノ機動的編制及装備
其六 兵器材料ニ関スル事項

陸軍大學校圖書之印

其七 其他ノ事項
第四 攻城重砲兵ノ用法上将来ノ着意
結言
附表第一 自動車ニ依ル攻城重砲兵ノ運用試験演習實施経過表
附表第二ノ其二 同右試験演習ノ為砲兵及自動車部隊編成表
附表第三 試験部隊ノ行動一覧表
附表第四 備砲作業實施一覧表
附録 試験演習指導計畫

結言

自動車ニ依ル攻城重砲兵ノ運用試験ヲ實施シ作戦上ノ新資料ヲ得ルノ協定當校及自動車學校ノ間ニ成立シ本年一月下旬ニ於テ約五日間ノ演習ヲ實施セリ

試演習ノ成果ハ兩校ニ関聯スル事項ニ就テノミ兩校委員ノ合同會議ニ依リテ議決シ之ヲ兩校委員ノ名ニ於テ其筋ニ報告シ兩校獨自ノ研究ニ関スル事項ハ各個ニ之ヲ審議シ必要ナル措置ニ出ツルコトトセリ

想フニ攻城重砲兵ノ現用主砲タル四五式火砲ハ其誕生決シテ新ナラス既ニ青島ニ於ケル實戦ノ試錬ヲ経、爾後各種ノ演習試験ニ参加セシコト枚擧ニ遑ナク從ヒテ本邦兵學界ノ一般ニ亘リ本砲兵ノ技術的及戦術的兩方面共概シテ試験済ノ状態ナリト速認セラレ此種砲兵ノ既定ノ編成及裝備並其運用ニ關シテハ敢テ新機軸ヲ開拓スルノ餘地アルコトニ着意スルコト十分ナラサリシモノノ如シ

然ルニ當校ニ於テハ野戰的用法上此種砲兵ノ實力ヲ發揮セシムヘキ必要ト其手段ニ關シ種々考案及工夫ノ行ハレタルコトハ再ニ止マラス遂ニ概ネ一案ヲ得タルモ未タ之ヲ實地ニ試練スルノ機會ヲ求メ得サリシ時本演習ヲ行フノ議兩校ノ間ニ進捗シ當校トシテハ單ニ行軍ノミナラス急速ナル陣地占領ヲモ試ムルノ提議ヲ行ヒ茲ニ本演習ノ成立ヲ見タルモノトス

吾人ハ兼ヨリ現用四五式火砲ニ慣熟普及スルモノニ非スシテ之カ為装輪式火砲及四五式火砲ノ改造砲床等ノ實現已ニ成リナルヲ知レルモ現用四五式火砲ノ相當數ヲ國軍砲兵トシテ保有シ且其威力ノ關係上更ニ手段ヲ竭シテ之ヲ輕易ニ運用シ以テ野戰ニ於ケル國軍砲兵威力ノ缺陷ヲ補フノ可能性ヲ試練セントコトニ着意セシモノニシテ其結果ハ各種地形ニ亘リテ連續五日間ニ全行程二〇〇粁ノ作戰行動ハ可能ナルノミナラス尚相當ノ餘力アルヲ確認シ砲床據据開設ニ於テ五時間ヲ有スルトキハ完全ニ備砲作業ヲ了シ得ルコトヲ實證シ更ニ向後ノ装備改善ニ依リテ其能力ヲ向上シ得ヘキコトモ亦明瞭ナルヲ究ムルコトヲ得以テ此種砲兵ノ野戰的用法ニ關シ一新正面ヲ開拓セリ

兼ヨリ現用火砲ニ對シテハ已ニ概成セル改造砲床ヲ使用シ更ニ進ンテハ射程延伸及局部装備ノ改善等ノ補助手段ヲ要スルコト多言ヲ要セサルコロナルモ緊急ノ問題トシテ着意スヘキハ實ニ從來一般ニ本火砲ヲ鈍重ナルモノト極端ニ速斷シ野戰的用法ニ重大ナル價値ヲ有スルノ實力ヲ無視セシ蒙ヲ一掃スルニ在リトス

以下本試驗演習ノ實態ヲ紹介スルト共ニ其成果ニ鑑ミ此種砲兵ノ有スル潛勢實力ヲ鮮明ニシ且運用編制及装備上着意スヘキ要項ヲ述ヘントス

第一 試験演習ノ目的及演習構成要領

其一 試験ノ目的

両校ノ協定ニ基キ攻城重砲兵ノ運用試験演習ノ目的トシテ定メラレタルモノ次ノ如シ（自研第七〇號）

(一)長途行軍間軽材料ノ為約半数ノ自動貨車ヲ使用シ重材料トノ運動上ノ調和ノ試練

自動車ニ依ル四五式十五糎加農軽重両材料ノ各種地形ニ於ケル連続長途運行能力ヲ實験シ作戦上ノ参考資料ヲ求ムルニアリ此間左記ノ各項ヲ併セ実施ス

(二)行軍ヨリ引キ續キ迅速ナル陣地占領

其二 演習構成及経過要領

一、要旨

(一)四五式十五加ハ一門分ノ重材料ノ為五噸及十噸牽引自動車各二ヲ使用シ軽材料ノ為ニハ自載且牽引ニ必要ナル自動貨車ノ約半数ヲ使用シ

逐次進展スル状況ノ下ニ各種地形ニ亘ル連續長途ノ行軍ヲ行ヒ此間輕重材料運動上ノ調和ヲ試練シ又機動作戰ニ伴ヒ行軍ヨリ引續キ急速ナル陣地占領ヲ行フ場合ヲ試練シ以テ運用竝編制裝備ニ關スル新資料ヲ得ル如クス

(二)自動車部隊ハ砲兵ニ協力及配屬セシムル兩場合ヲ實施ス

(三)總行軍行程ヲ約二〇〇粁トシ一日ノ行軍行程ハ四十乃至五十粁ヲ標準トス

但輕材料ノ輸送行程ハ毎日重材料ノ一往行ニ對シ一往復半トス

(四)道路ハ各種ノ地形ヲ通シ特ニ其一部ニハ路幅及曲半徑小ナルモノ竝不良ナル橋梁等ヲ有スルモノヲ選ヒ又行軍ノ實施ハ一部ノ夜行軍ヲ含マシム

(五)展開ハ急速ナル前進ニ引續キ成ルヘク至短時間ニ射撃準備ヲ完了セシムル如クス

二、演習實施ノ經過

附表第一ノ如シ

三、演習部隊ノ編成

附表第二ノ一及二ノ如シ

四、試驗演習指導計畫

附錄第一ノ如シ

五、試驗隊ノ行動一覽及備砲作業實施一覽

附表第三及第四ノ如シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二　試驗ノ判決

試驗演習ノ結果ニ基キ兩校委員ノ合同會議ニ於テ判決シタル事項ヲ左ノ三項トス

一、五噸（擔架車及防楯車ノ為）及十噸（砲身車及砲架車ノ為）牽引自動車ニ依リ四五、弐十五糎加農ノ重材料ヲ牽引シ、天候及氣象良好ニシテ道路ハ概ネ良好ナルモ其ノ一部ハ山地（箱根峠）ヲ通シ且路幅及曲半徑共ニ小ナル場合ニ於テ連續五日間ニ亘リ全行程約二百粁ノ行軍ヲ行フコトハ可能ニシテ尚前進ノ為相當ノ餘力アルモノト認ム

二、前項ノ長途行軍間輕材料ニ對シテハ自載且牽引ノ為必要ナル全車輌數ノ約半數ニ相當スル一噸半積自動貨車（ピアサロー級）ヲ使用シ牽引自動車ニ依ル重材料ノ一往行ニ對シ、同日中ニ自動貨車ヲ一往復半運行セシメ以テ輕重兩材料ノ行軍行程ヲ調和セシムルコトハ可能ナリ

三、四五、弐十五糎加農ノ前進ニ方リ前兩項所載ノ牽引自動車及自動貨車ヲ

使用シ、行軍ヨリ引續キ急速ナル陣地占領ヲ行フ行動ハ概ネ機動作戦ノ要求ニ應セシムルコトヲ得ヘシ

第三 試験上得タル参考事項

其一 長途行軍能力及行軍速度

試験ノ結果ニ基キ両校委員ノ合同會議ニ於テ決定セシ長途行軍能力及行軍速度ノ標準左ノ如シ

一、長途運行能力

甲、重材料

十噸及五噸牽引自動車ニ依ル四五式十五加ノ各種地形ニ於ケル連續長途ノ行軍能力ハ常行軍ニ於テハ一日概ネ三十粁急行軍ニ於テハ概ネ四十五粁ヲ標準トスルヲ適當ト認ム

乙、軽材料

自載且牽引ノ為所要自動車数ノ約半数ヲ使用シ同火砲附属ノ軽材料ヲ運搬セル場合ノ行軍能力ハ常行軍ニ於テハ概ネ九十粁急行軍ニ於

テハ概ネ百三〇…

二、各種地形ニ於ケル…

概ネ良好ナル道路上ニ於ケル十噸及五噸牽引自動車ニ依ル四五、式十五、加重材料行軍ノ一時間平均速度ハ約五粁半ヲ又一噸半積自動貨車（自載）ニ依ル軽材料牽引行軍ノ一時間平均速度ハ約十二粁ヲ以テ連續行軍シ得ヘシ

其二　行軍實施要領

實施ノ結果ニ基キ當校委員ノ判決次ノ如シ

一、軽材料ノ為約半數ノ自動貨車ヲ使用シ重材料トノ運動ノ調和及規正ニ就テ

其ノ一ニ於ケル判決ノ如ク重材料ノ行軍速度ハ毎時平均五粁半ニシテ軽材料ハ十二粁ナルヲ以テ重材料ノ一往行ニ對シ自動貨車ノ大部ハ一往復半以上即チ三倍ノ行程ヲ行軍スルコトトナリ更ニ卸下及積載ノ時間ヲ累加スルトキハ貨車部隊ノ行軍時間ヲ著シク増大シ其實行ノ困難ヲ伴フカ如キモ之ニ関シテハ其可能性ニ就テハ已ニ判決ノ如ク又斯ノ如クスル必要並其困難性ヲ緩和スル手段ニ関シテハ次ノ如キモノアリ

(一)重材料運搬用ノ牽引自動車ニ配スルニ軽材料運搬ノ為自動貨車ヲ使用シ且其装備數ヲ約半數トスル理由

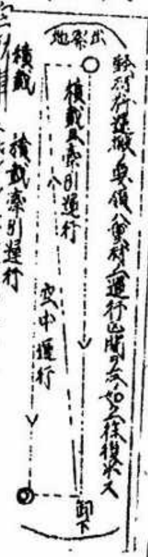
(イ)自動貨車ノ速度ノ現制牽引自動車ニ比シ二乃至三倍ナルノ事實ハ之ヲ利用シテ所要ニ臨ミ迅速ナル軽材料ノ挺進ヲ行ハシメ以テ重材料到着前ニ於テ基礎ノ備砲作業ヲ完成シ次テ重材料ノ到着ト共ニ直ニ其本然ノ備砲作業ヲ行ハシメ之ニ依テ全般ノ備砲作業ニ死節時ナク圓滑迅速ニ全作業ヲ完了セシムルノ要アリ

(ロ)自動貨車ヲ以テ軽材料ノ全部ヲ同時ニ自載且牽引シテ運搬シ得ル如ク装備スルコトナリ其約半數ヲ装備スルハ行軍間ニ於テハ其高

テハ概ネ百三十粁ヲ標準トスルヲ適當トス

二、各種地形ニ於ケル行進速度

概ネ良好ナル道路上ニ於ケル十噸及五噸牽引自動車ニ依ル四五式十五加重材料行軍ノ一時間平均速度ハ約五粁半ヲ又一噸半積自動貨車（自載）ニ依ル軽材料牽引行軍ノ一時間平均速度ハ約十二粁ヲ以テ連續行軍シ得ヘシ



其二　行軍實施要領

實施ノ結果ニ基キ當校委員ノ判決次ノ如シ

一、軽材料ノ為約半數ノ自動貨車ヲ使用シ重材料トノ運動ノ調和及規正ニ就テ

其一ニ於ケル判決ノ如ク重材料ノ行軍速度ハ毎時平均五粁半ニシテ軽材料ハ十二粁ナルヲ以テ重材料ノ一往行ニ對シ自動貨車ノ大部ハ一往優半（六以）即チ三倍ノ行程ヲ行軍スルコトトナリ更ニ卸下及積載ノ時間ヲ累加スルトキハ貨車部隊ノ行軍時間ヲ著シク増大シ其實行ノ困難ヲ伴フカ如キモ之ニ關シテハ其可能性ニ就テハ已ニ判決ノ如ク又斯ノ如クスル必要該其困難性ヲ緩和スル手段ニ關シテハ次ノ如キモノアリ

(一)重材料運搬用ノ牽引自動車ニ應スルニ軽材料運搬ノ為自動貨車ヲ使用シ且其装備數ヲ約半數トスル理由

(イ)自動貨車ノ速度ノ規制牽引自動車ニ比シ二乃至三倍ナルノ事實ハ之ヲ利用シテ所要ニ臨ミ迅速ナル軽材料ノ挺進ヲ行ハシメ以テ重材料到着前ニ於テ基礎ノ備砲作業ヲ完成シ次テ重材料ノ到着ト共ニ直ニ其本然ノ備砲作業ヲ行ハシメ之ニ依テ全般ノ備砲作業ニ死節時ナク圓滑迅速ニ全作業ヲ完了セシムルノ要アリ

(ロ)自動貨車ヲ以テ軽材料ノ全部ヲ同時ニ自載且牽引シテ運搬シ得レ如ク装備スルコトナリ其約半數ノ装備スルハ行軍間ニ於テハ其高

速ニヨリ一往復半スルモ牽引自動車ト毎日ノ行軍行程ノ調和ヲ求ムルコトヲ得ルノミナラス陣地占領ノ近キニ臨ミテハ燃料脂油及豫備品等ハ之ヲ第二回ニ輸送スルコトトシ備砲ノ基礎作業ニ緊要ナル全材料ヲ同時ニ第一回ニ於テ挺進輸送セシムルコトヲ得ルノ餘裕アリ且斯クノ如キハ自動車装備ノ豊富ナラサル我國軍ニ於テ實ニ至當ノ要求ナレハナリ

(二)自動貨車及軽材料ノ行軍ヲ容易ナラシムルノ手段自動貨車ノ時速ノ牽引自動車ノ三倍トナラサルハ自動貨車ハ往復半ノ行軍ヲ困難ナラシムルカ如キモ事實ニ於テ次ノ手段ヲ許シ之ヲ緩和スルコトヲ得

(イ)自動貨車部隊ノ出発及到着時間ヲ牽引自動車部隊ニ比シ若干ノ差異アラシメ貨車ハ日ノ實働時間ヲ牽引自動車部隊ニ比シ一乃至二時間多カラシムルコトニ依リ之ヲ解決シ得

(ロ)行軍到着目標ニ日行程以上ニ亘リ且其到着迄ノ間ニ戦況上他方面ニ轉進スルカ如キ顧慮ナキ場合ニ於テハ自動貨車部隊ハ其一日ノ行軍能力ノ範圍ニ於テ直往若ハ直復セシメ(途中ニ於テハ牽引)自動車部隊ト異ル宿營地ヲ取ラシメ以テ毎日往復スルコトナカラシメ之ニ依リテ積載卸下ノ時間ヲ節約シ且行軍ヲ容易ナラシムルコトヲ得

(ハ)作戦ノ状態及作戦地ノ氣溫等ニ依リテハ各貨車ニ運轉手及助手ノ外更ニ一名ノ運轉手ヲ配屬シ途中交代ノ處置ヲ執ルトキハ其勢力ハ概ネ三分ノ二トナル是レ此種行軍ノ實施ハ器械的ニハ何等ノ支障ヲ呈スルモノニ非スシテ單ニ人員ノ勞働關係ニノミ出ツレハナリ

六、行軍部隊ノ區分及部署ニ就テ

行軍部隊ハ之ヲ軽車輛團及重車輛團ニ區分シ各個ニ縦隊指揮官ヲ設ケ一定ノ行軍計畫ノ範圍内ニ於テ相互ノ連繋及連絡ヲ保持シツツ行軍セシムルヲ主旨トス

從ヒテ之ヲ大観スルニ先ツ軽車輛隊ハ梯團前進シ次テ重車輛團ヲ進マ
シメ軽車輛隊ハ梯團ハ當日ノ行進目標タル地點ニ到着后所要ノ材料ヲ
卸下シ所要ノ空自動貨車ヲ以テ出発地點ニ歸還シ出発地點ニ残置シ
アル軽材料ヲ積載且牽引シタル後軽車輛隊ニ梯團トナリテ更ニ前目標
ニ向ヒ前進スルコトトナルヲ一般トス然レトモ途中ニ於ケル道路ノ状
態及地形ヲ顧慮シ要スレハ軽材料ノ一部ヲ重材料ト共ニ前進セシムル
ヲ要スル場合ヲ生シ又人員ノ輸送區分ノ如キハ状況ニヨリ各種ノ場合
ヲ呈シ其他既述ノ如ク確乎不定ノ遠隔セル目標ニ向ヒ當初ヨリ発動ス
ルカ如キ場合ニハ更ニ他ノ便法ヲ生スルモノトス
戰闘直前ノ行軍ニ在リテハ別ニ特異ノ状態ヲ呈スルモ其三陣地占領ノ
部ニ於テ述フルトコロアラントス

(一) 逐日所命ノ地點ニ向ヒ行軍シ若ハ状況上先ツ概ネ重材料ノ一日行程
附近迄前進スルヲ要スル場合

(イ) 冒頭所述ノ三梯團法ヲ採用ス

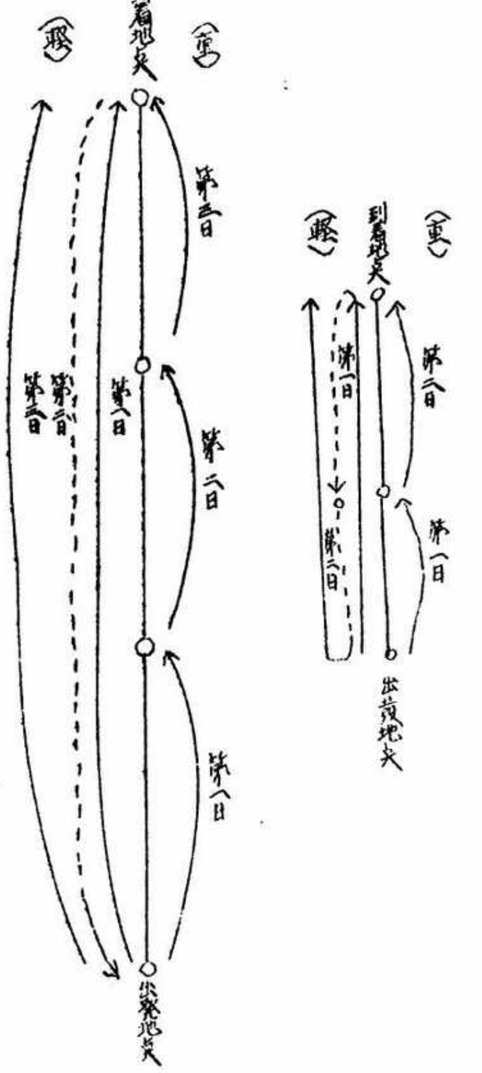
(ロ) 人員ハ道路偵察若ハ補修ニ必要ナルモノヲ先行セシメ其他ハ到着
地點ニ於ケル材料ノ卸下及卸下後ノ監視ハ出発地點ニ於ケル第二
回輸送ノ為ノ積載及積載前ノ監視ニ必要ナルモノヲ區分シ且途中
ニ於ケル各車輛團ノ直接用途特ニ道路橋梁等ノ補修難路ニ於ケル
臂力支援ノ必要並所要ノ力作作業等ヲ顧慮シテ之ヲ定ムルモノト
ス

(ハ) 軽材料中所要ノモノ特ニ力作及土工具ノ一部ハ前進路ノ地形ヲ顧
慮シ要スレハ之ヲ先行スル作業隊若ハ各車輛團特ニ重車輛團ニ編
入スルヲ可トスルコトアリ
燃料脂油及豫備品車貨車ニ輛ハ補給及補充ノ関係ヲ顧慮シ適宜其
行軍位置ヲ定ム

(ニ) 状況上ニ日行程以上ノ地點ニ向ヒ當初ヨリ到着地點ヲ確定スルコ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

トヲ得ル場合
軽車輛團及重車輛團毎ニ要スレハ其宿營地ヲ異ニシ軽車輛團ハ直往及直復ノ主旨ニ依リ行軍ス
今二日行程及三日行程ノ場合ヲ圖示スレハ次ノ如シ



発到着地點ニシテ重材料ノ三日行程以上ニ亘ルトキハ第三日目毎ニ軽重両者ノ合ヘヲ求ムル如クスルヲ可トス
又重車輛團ノ単獨行動間途中ニ於ケル所要ヲ顧慮シ特ニ前進路ノ關係ヲ稽ヘ重材料ニ附随セシムヘキ軽材料ヲ定メ且全般ノ人員區分ヲ決定スルノ要アリ

(三)今次實施セシ自動貨車ノ使用法
演習中ハ概行軍ノ場合ニ於ケル軽材料及之ニ類似ノモノニ對シ自動貨車七輛ノ使用區分ハ概ネ左ノ標準ニヨリ其軽車輛ノ前進部署ハ既述ノ状況等ニ道路網ノ状態ニヨリ各様ノ状態ヲ呈セリ

普通行軍ニ於ケル自動貨車使用區分表

貨車區分	第一回輸送 自載	第一回輸送 索引	第二回輸送 自載	第二回輸送 索引
1	砲床材料	運材車（砲床材料）	砲床材料	運材車（砲床材料）
2	砲床材料	運材車（砲床材料）	砲床材料	運材車（砲床材料）
3	力作及土工具ノ一部	機臺車	力作、土工具ノ一部	御杖車
4	人員	（力作器具車）	人員	（土工器具車）
5				
6	燃料及脂油消耗品			
7				
備考	一、括弧内ノ車輌ハ今次ハ使用セザリシモ之ヲ要スレハ上ノ如リ索引シ得 二、前記ノ場合ニハ第一回ニ於テ「力作及土工器具車」ヲ運搬シ第二回ニ起重機車（二輌）ヲ運搬スルコトアルヘシ 三、「力作及土工器具車」ヲ使用スル場合ト雖途中ニ於ケル道路ノ景況ニヨリ此等器材ノ一部ヲ使用スル場合ニハ其推進及使用後ノ収容ノ爲一部貨車ヲ充當スルヲ要ス			

三、牽引車輌ト重車輌トノ行軍交叉ノ規正及器材料ノ積載及卸下ニ就テ

一、往復半ノ行軍ヲ牽引車輌ニ要求セン爲ニハ牽引車輌ノ復行ト重車輌ノ往行トノ間ニ行軍交叉ヲ生スヘク之カ爲地形特ニ道路網ヲ顧慮シ行進ヲ圓滑ナラシムルノ方法ヲ講シ路幅小ナルモノヲ含ム場合ニ在リテハ兩車輌團ノ出發時刻、休止地點及時間、待避所位置等ノ諸件ヲ考察シ相互ノ行軍ニ遅滞錯誤ナカラシムルコト肝要ナリ

器材料ノ積載及卸下ノ爲主要ナル作業ハ砲床材料ニ關スルモノニシテ一車輌ニツキ卒約四名ヲ標準トセハ晝間ニ於テハ積載ニ十分、卸下十五分ヲ夜間ニ在リテハ積載二十分、卸下二十五分ヲ以テ足レリトス、

其三　陣地占領

一、陣地占領ノ爲前進部署

既述ノ普通行軍間ト異ナリ陣地占領ヲ豫期スルヤ其前進部署ヲ改メ以

テ急速ナル前進ノ後直ニ陣地設備ニ着手シ混雑遅滞ナク最モ整齊ニ備砲作業ヲ遂行シ作業ノ終始ヲ通シテ悉皆ノ間隙ナカラシムル如ク人員及材料ノ前進ヲ部署シ以テ迅速確實ナル展開ノ完了ヲ期セサルヘカラス

之カ為前進部署上着意スヘキ件概ネ左ノ如シ

(一)中隊長及附屬機関ノ挺進急行

此場合ニ於テハ所要ニ應シ観測小隊ノ一部若ハ大部ヲ伴ヒ或ハ観測小隊ノ大部ハ作業隊要員ト共ニ次項ノ挺隊ト同行セシム

而シテ中隊長ノ伴フヘキ要員ノ決定ハ所命ノ地域ニ達シタル後直ニ陣地偵察ニ従事シ得ルコトヲ要スレハ前進途中ニ於テ所要ノ道路偵察ヲ行フヘキコト並陣地決定ニ伴ヒ直ニ経始作業ヲ完了シテ作業隊ノ到着後築飾等ナカラシムルコト等ヲ顧慮シテ行ハルヘキモノトス

(二)作業隊ノ挺進

状況ニヨリ観測小隊ノ一部ノミヲ中隊長ト共ニ前進セシメタル場合ニ在リテハ残餘ハ作業隊ノ挺進部隊ト同行ス

作業隊ハ一貨車ヲ使用シ人員ヲ搭載シ土工器具車ヲ牽引シテ挺進セシメ今次ハ土工器具車ヲ有セサリシヲ以テ被牽引車ヲ附シ所要ノ土工器具ト一部ノ人員ヲ積載セシメ之ヲ貨車ニ牽引セシメタリ作業隊ノ到着ハ中隊長ノ放列陣地決定マテニ要スル時間ヲ稽ヘ其直後ニ到着セシムル如ク其出発時刻ヲ規定ス

(三)輕車輛圖ノ前進

作業隊到着後砲床壕ノ掘孔ニ要スル時間ヲ考ヘ概ネ砲床壕ノ完成スル頃輕車輛圖ノ放列ニ到着スルヲ目途トシテ其出発ヲ規定ス

此場合ニ在リテハ備砲基礎作業ノ完成迄ニ要スル全部材料ヲ同時ニ輸送スルヲ要シ之カ為燃料脂油及豫備品ノ如キハ之ヲ出発地點ニ残シテ第二回ニ輸送スルコトトシ前記挺進セル一貨車ヲ除キ他ノ六輌

ヲ以テ左ノ如ク軽材料ヲ輸送ス
力作器具車ハ出発地點ニ残置シ其積載品中ヨリ備砲作業ノ為所要ノモノノミ貨車ニ積載スルモノトス

貨車区分	自載	牽引
1	力作器具ノ一部	機臺車
2	人員	脚柱車
3	砲床材料	運材車（砲床材料）
4	砲床材料	運材車（砲床材料）
5	砲床材料	運材車（砲床材料）
6	砲床材料	運材車（砲床材料）

(四) 重車輛圖ノ前進
軽車輛圖ノ放列到着後材料ノ卸下及整備ヲ行ヒ次テ砲床材料ノ組立ヲ完了スル迄ノ時間ヲ考ヘ概ネ砲床材料組立終了時刻ニ重車輛圖ノ到着スル如ク其出発ヲ規定ス

二、陣地占領ノ實施及所要時間
今次平塚ヨリ横須賀不入斗練兵場迄（逗子及金澤経由）約四十四粁ノ行程ヲ急進シタル後練兵場ニ於テ展開ヲ行ヒタル成績ニ依レハ掘孔作業開始ヨリ備砲作業ヲ終了シ射撃準備完了迄ニ要セシ總時間ハ實働時間トシテ掘孔作業ノ為約二時間二十分（詳細後述）爾後ノ本作業約五時間ニシテ其掘孔作業ハ比較的迅速ナリシモ本作業ノ實施上ニハ尚相當ニ時間節約ノ余地アル事ハ之ヲ平常ノ教練ニ於ケル成績ヨリ考察モ又今次ノ演習ハ連續五日ノ急行及強行軍ノ直後ニ於テ而モ寒烈ナル天候ニ於テ實施セシ結果タルヲ想察スルモ共ニ之ヲ認メ得ヘキ件ナリトス
今此所要時間ノ使用細別ヲ概観スレハ左ノ如シ
(一) 経始及掘孔作業　二、二〇時間（表面被土内部岩帯ニシテ又此時間ハ工員ニヨリ大イニ差アリテ従来ノ統計ハ二乃至四時間）
(二) 軽車輛到着後ノ材料卸下及整備　〇、四五

(五) 植桿及水準規正器材料ノ組立　一、五〇
(四) 重材料ノ組立　二、八五　　四、五〇

以上ノ作業ハ夜間ニ於テモ之ヲ一倍半ト見レハ十分ニシテ又此結果ハ學校教導隊ノミニ於テ實現シ得ヘキ成果ニ非スシテ各隊ニ於テモ多少訓練上ノ要點ニ着意スルトキハ少クモ斯ノ如キ程度ニ達スルコト敢テ困難ニ非サルコトヲ知ルヘシ

本實験ハ一門ノ火砲及附属材料ニ對スルモノナルモ二門以上ノ場合ニ於テモ編制装備ノ部ニ於テ後述スルカ如ク各門ニ一組宛ノ起重機車ヲ装備シ且人員ニ多少ノ増加編制ヲ行フトキハ各門同時ニ平行シテ前記ノ作業ヲ行ヒ二門中隊タルト四門中隊タルトヲ問ハス同一ノ標準時間ニ於テ展開ヲ完了スルコトヲ得ヘシ

將来砲床ノ掘孔ニ機械的應用ノ方法ヲ考案装備スルトキハ掘孔作業時間ヲ大イニ短縮シ又已ニ既成セル改造砲床ヲ使用スルニ到ッハ純補砲作業時間モ亦少クモ一時間ヲ節約シ得ヘキ見込十分ナリ

其四　砲兵ト自動車部隊トノ關係

現制ノ如ク運搬機関ヲ装備シアラサル攻城重砲兵ノ行軍及戦闘ノ爲使用スヘキ自動車ハ之ヲ牽引自動車隊及兵站自動車隊等ヨリ一時的ノ協力若ハ配属ニヨリ其運用ヲ律スルノ要アリ

一、協力及配属ノ利害ニ就テ

凡ソ軍隊ノ行動ヲ律スルニカリテ一部隊ノ固有能力ヲ發揮セシメンニハ所要ノ部隊ヲ之ニ配属シ的確ナル指揮命令ニヨリテ之ヲ行フノ要アルヤ多言ヲ要セサルトコロナリトス而シテ配属スルコトヲ許ササル場合トハ各方面ニ對シ同時若ハ極メテ至短時間ヲ隔ツル數時期ノ間ニ於テ各方面ニ對シ支援ヲ必要トスル場合ニシテ之ヲ砲兵ト歩兵トノ間ニ見ルトキハ其最モ的確ナル例證ヲ有ス

砲兵ト自動車トノ関係ニ就テハ牽引自動車ニ関シテハ既ニ関係教令ニ於テ攻城重砲兵ニ配属スルヲ通常トスル旨ヲ規定セラレ兵站自動車中隊ニ関シテハ別ニ成文ヲ存セサルモ同様ノ主義ニ依ルヘキコト勿論ニシテ此際牽引自動車ノミヲ配属シ自動貨車部隊ヲ協力セシムルカ如キハ之ヲ認ムルコトヲ得サルトコロナリ

人或ハ謂ハン関係教令ノ指示ハ攻城重砲兵ノ開進地ヨリ陣地近ニ於ケルカ如キ長遠ナラサル輸送ヲ示サレアリ換言セハ戦闘直前ノ場合ヲ意味シ一般ノ行軍ノ如キ場合ニ非スト之ヲ今次演習間ノ行軍ノミノ部分ニ就テ立證反論スルニ素ヨリ砲兵及自動車部隊両者ノ指揮官其モノノ性格ニヨリテモ多少ノ差異ヲ呈スヘキモ一般ニ極メテ良好ナル道路行軍ニ於テ状況上大ナル困難ナク平易ニ其行動ヲ律シ得ヘキ場合ニ於テハ協力ニ就テ何等ノ不便ヲ感スルコトナク圓滑ニ遂行セラレシモ一度難路ニ遭遇シ自動車部隊ト砲兵トノ合力ニヨリ之ヲ通過スルヲ要スル場合ニ臨ムヤ的確ニ協力ノ不利ヲ暴露シ一々指揮系統ヲ正通シテ困難ナル状況ヲ突破セントスルハ迂遠ニシテ多クノ死節時ヲ生シ為ニ行軍行程ニ重大ナル影響ヲ及スノミナラス時ニ緊急ノ必要ニ迫ラレテ指揮系統ヲ正通スルコトナリ其行動ヲ律セシ場合ヲモ生起セリ

此等ノ事象ヨリ判断スルニ戦闘直前ニ於テハ勿論行軍ニ際シテモ状況之ヲ許ス限リ自動車部隊(牽引自動車及自動貨車共)ハ砲兵ニ配属スルノ主義ヲ採用スルヲ緊要ナリトシ之ヲ以テ両者ノ為最良ノ方法タルヲ信セサルヲ得ス既ニ述ヘタル如キ平易ノ状況ニ於テ困難ナキ行軍ヲ行フ場合ト雖自動車部隊ヲ砲兵ニ配属シテ何等ノ不利ヲ感スルコトナク加之配属ニヨリ指揮命令ヲ単簡ニシ其行動ヲ容易ナラシメ得ルノ利アリ況ンヤ難路ニ遭遇シ両者ノ密接ナル合力ヲ要スルコトヲ豫期スル場合及行軍中ト雖空中及地上若ハ海上ノ敵ノ攻撃若ハ急襲ヲ受クルカ如キ顧慮アル場合ニ於テオヤ

従ヒテ協力ヲ必要トスルハ極メテ一時的ニ協同動作スル場合ニシテ且極メテ平易ナル行動ヲ行フ場合ニ限ルモノト認メラル

二、攻城重砲兵ニ自動車装備ノ必要ニ就テ

火砲部隊ト自動車部隊トヲ各別ニ独立部隊トシテ編制シ両部隊ノ協力若ハ一時的編合ニヨリテ砲兵ノ戦場任務ヲ遂行セシメントスルハ砲兵ヲ作戦間連続使用ノ目的ヲ有セサリシ旧時代ノ遺骸ナリト云ハサルヘカラス

之ヲ詳言センカ現制ノ如キ運搬機関ヲ有セサル攻城重砲兵ノ誕生ハ攻城重砲兵ノ使命ニ対スル要求極メテ局限セラレ単ニ要塞ノ攻撃ヲ目途トシ陣地占領ニ使用シ得ル時日ノ極メテ多ク又一度陣地ヲ占領スルヤ長時日ニ亘リ之ヲ同一陣地ニ固着使用セシムルノ過去ノ事実ニ発足シ爾後兵器革リ戦法更新シ砲兵威力ノ増大セルニ拘ラス因習的ニ時代錯誤ヲ踏襲セルモノト謂フヘシ、今ヤ既ニ攻城重砲兵ノ兵器性能上、野戦ニ於ケル堅固ナル陣地ノ攻撃ニモ之ヲ使用スルコトヲ認定セラレアリ又其実力ハ已ニ立証セシ如ク野戦陣地攻撃ニ使用スルニ足ルノ機動性ヲ有シ他面国軍砲兵威力ノ欠陥ヲ考察スルトキハ須ラク前世紀ノ迷夢ヲ打破シテ本砲兵ノ運用ヲ十分ナラシムルヲ要シ之カ為最大ノ欠陥タル自動車装備ヲ行ヒ以テ連続作戦間大威力砲兵トシテ野戦軍ニ編入スヘキ本砲兵ノ用法ニ遺憾ナカラシムルコトヲ期セサルヘカラス。

装備スヘキ自動車ノ種類及数量ニ就テハ之ヲ編制装備ノ部(其五)ニ譲ルモ若直ニ全攻城重砲兵部隊ニ対シ装備スヘキ自動車数ヲ整備スルコトヲ許ササル場合ニ於テハ四五式火砲部隊中十五加及二十四榴等ノ如キ国軍計画ノ編制部隊中其約半数ヲ自動車装備シ之ヲ攻城重砲兵(甲)大隊(聯隊)トシ其他ハ暫ク現制ノ侭トシテ之ヲ(乙)大隊(聯隊)トシ恰モ現制高射砲隊ノ如キ区分ヲ有セシムルモ亦過渡期ノ一策タルヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、牽引自動車隊ノ本質ニ就テ

牽引自動車隊ハ不良ナル地形ニ於ケル車輛ノ牽引又ハ攻城材料、道路修理材料等重材料ヲ運搬スルヲ以テ其主要ナル任務トセラレアルモ此等任務中、攻城部隊関係事項ヲ以テ最モ重要トシ其他ノモノハ臨時発生スル業務ニシテ其多クハ必スシモ牽引自動車隊ヲ要セスシテ他ニ其運搬ノ手段ヲ選フノ餘地アルカ如シ

果シテ然ラハ牽引自動車隊ヲ特設シテ之カ為ニ攻城重砲兵ノ本質上、必須ノ装備タル牽引自動車ヲ缺クハ明カニ本末顛倒ノ甚シキモノニシテ若國軍自動車整備ノ関係上、牽引自動車数ニ乏シトセハ牽引自動車隊ノ編制ヲ廃止シテ該材料ヲ攻城重砲兵ノ装備ニ轉用スルヲ以テ寧ロ當レリトス

人或ハ攻城材料以外ニ鉄道材料若ハ弾薬等ノ重材料運搬ヲ論議スルモノアルモ、此等ハ別途ニ其方法ヲ講スルノ餘地アリ、之ニ反シ攻城重砲兵

ノ本質ヲ全ウセシメンニハ単ニ一時的ノ自動車配属ヲ以テ足レリトセス作戦間、連続的ニ其用途アルコト他ノ自動車砲兵ト異ルトコロナキヲ較量セハ利害ノ軽重自ラ明瞭ナルモノアラン

其五　攻城重砲兵ノ機動的装備及編制

本演習ノ成果ト重砲兵学校従来ノ研究トニ基キ四五式十五糎加農ヲ機動的ニ運用スル為必要ナル装備及編制ノ考案ヲ述フ而シテ四五式二十四糎榴弾砲ニ関シテモ亦概ネ四五式十五糎加農ニ準シ其編制及装備ヲ設定シ得ヘキモ以下ノ記述ハ単ニ四五式十五糎加農ノミニ止ム四五式十五糎加農ノ新式砲床材料（運材車及材料ノ数少キモノニシテ所謂迅速砲床ニハアラス）ヲ有スル部隊ヲ機動的ニ運用スル為ニハ所要ノ自動車ヲ装備シ且適当ニ編制ヲ定ムルコト必要ナリ、此際特ニ着意スヘキ要項左ノ如シ

一、部隊ノ大サ

人員及長径ニ於テ指揮ノ容易ナルコトヲ主トシ人員ノ過多及長径ノ過大ニ失スルヲ避クルヲ要ス

之カ為主トシテ部隊ノ砲数将校下士卒及材料、人員車輌数等ヲ適宜ニ制限シ且其編組ヲ適当ナラシムルコト必要ナリ

二、展開速度ノ増大

各火砲ハ最初ヨリ全数同時ニ展開シ得ルヲ要ス、之カ為砲床壕掘開作業等ノ為ニハ所要ノ兵力ヲ適時先遣シ得ル如ク高速自動車ヲ使用シ得シメ、備砲作業開始ノ時機ヲ遅延セシメサル如ク強力ナル牽引自動車ヲ使用シ、且備砲作業實施ニ於テハ各火砲ハ一門ニ對シ一組宛ノ起重機ヲ配給使用セシムル等展開能力ノ完全ナル発揮ニ依リ展開速度ノ増大ヲ求ムルヲ要ス

三、携行彈薬

火砲ノ特性ニ應シ效力ノ発揮ニ必要ナル彈薬ヲ部隊ニ於テ携行スルヲ要ス

特ニ中隊ニ於テモ終始彈薬ヲ携行シアルコト必要ニシテ主力ト離隔シ展開スル等ノ場合ニ於テ自ラ彈薬補充ヲ行ヒ得ル能力ヲ附與シ置クコト必要ナリ、

然レトモ彈薬ノ大部ハ大隊及聯隊ニテ携行スルヲ適當ト認ム

四、携行燃料

部隊ノ行動ヲ継續セシムル原動力トシテ燃料ノ携行ハ常ニ必要トス

特ニ大陸ノ作戰ニ於テ軍ノ機動ヲ豫想スルトキハ燃料ノ追送ハ言ヒ得ヘクシテ行ヒ難キヲ認メ部隊ニハ自ラ燃料ヲ携行セシムルト共ニ所要ニ應シ部隊ヲシテ後方遠隔ノ地ニ燃料ノ補給ヲ取リ得ヘキ能力ヲ附與シ置クコト必要ナリ、

五、自動車ノ修理及交換

急速ナル展開ヲ行フ途中ニ於テ突發セル自動車其他ニ故障ヲ生スルトキハ他部隊ヨリ交代自動車ヲ招致スルモ間ニ合ハサルヲ常態トスルニ依リ各部隊毎ニ所要ノ豫備自動車ヲ属シ且有力ナル修理機関ヲ附シテ各部隊自ラ修理及交換ヲ行ヒ得ル能力ヲ各部隊ニ附與シ置カサルヘカラス、

総豫備兵力ヲ集結セントスルカ如キ方案ヲ以テ中隊及大隊ノ豫備車輌ヲ聯隊ニ集ムルトキハ砲兵ノ展開ヲ躍進ニ實施スルコト適當困難トナルモノナリ、此点特ニ慎重ナル考慮ヲ要スルトコロニシテ各小部隊迄モ豫備車輌ヲ必要トスル所以ナリ

大体ニ於テ前述ノ如キ要綱ヲ基礎トシ四五式十五糎加農ニ於テ編制及装備ニ関シ左ノ二項ヲ要点トシテ研究ス

一、中隊ノ砲数ハ何門ヲ適當トシ其編制及装備ヲ如何ニ定ムヘキヤ

二、部隊ハ大隊編制ヲ本旨トスヘキヤ聯隊編制ヲ本旨トスヘキヤ、此際ノ編制及装備ヲ如何ニセハ適當ナリヤ

右ニ関シ編制及装備ノ具体案ヲ求メテ逐次ニ之ヲ研究スヘシ

中略

第一、中隊ノ砲数及其編制並装備（附表第一乃至第五共）

第二、大隊編制及聯隊編制（附表第六及第七共）

以上両項取扱上「秘」ニ属シ本稿ニ於テハ其掲載ヲ省略ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其六、兵器材料ニ関スル事項

一、兵器材料ノ改正ニ関スル件

(一)四五式火砲ノ射程延伸ノ方策ヲ講スルヲ要ス

四五式火砲ト雖已述ノ如ク之ヲ構成ニ使用シ得ヘキモノハ総テ改造砲床ノ完成ニ伴ヒ其能力ノ向上、更ニ著シカルヘキヲ以テ更ニ本火砲ノ已整備数ト装輪式同種火砲ノ整備充実ノ将来顧慮トヲ較量スルヲ要ス。ハ本火砲ハ将来某程度迄ハ装輪式同種火砲ト併用スルノ運命ヲ有ス、従テ砲身ノ一部ノ改造又ハ弾薬ニ於テ新薬ニ依リ更ニ射程ヲ延伸シテ新時代ノ要求ニ適應セシムルノ着意ヲ所要ナリトス

(二)、牽引自動車ノ速度ヲ向上スルヲ要ス

火砲ノ運動性ト称スルモノ殆ント其大部ハ自動車ノ性能ニ因リテ左右セラル、故ニ速ニ目下進捗中ナル、七十五馬力程度ノ牽引自動車ノ完成及整備ヲ促進シ且其耐久及堅牢性等ヲ既制（ホルト式）ニ劣ラ

サル如クセハ本砲兵ノ能力上更ニ一層ノ光彩ヲ発揮セシムルコトヲ
得
(三)砲床壕掘孔用機械装置ノ考案ヲ必要トス
砲床壕ノ掘孔ハ土質ニヨリ相当ノ差異アルモ備砲作業全時間ノ少ク
モ四分ノ一ヲ要シ時トシテハ二分ノ一ニ近キ時間ヲ費スコトアリ、從
テ作業全般ノ観察上ヨリ之ノ掘孔作業ニ費ス時間ハ頗ル不経済ナル部分
ニシテ若シコノ時間ヲ節約短縮スルコトヲ得ハ備砲作業上偉大ノ効
ヲ呈セシムルヲ得ルモノトス
コレカ為企図スヘキハ現時行フルカ如キ人力專用ノ土工作業ニノミ
ヨルコトナク、掘孔用機械ヲ考案シ電源ト共ニ之ヲ貨車ニ装備シ
テ此種砲兵ニ附シ以テ機械的掘孔作業ニヨリ作業時間ヲ短縮スルコ
ト絶対ニ必要ナル件ト認メタル、
二、現制兵器材料ノ改善ニ関スル件

(一)、自動車ニ関スル事項
(イ)、牽引自動車ノ換車装置ノ除去ノ構造ヲ堅牢ニシ行軍間顛覆ノ虞ナ
カラシムルヲ要ス
(ロ)、攻城砲兵ノ材料輸送ノ為使用スル自動車貨車ハ運材車牽引ノ為牽
引鈎ヲ附スルヲ要ス
(ハ)、今回使用セシ自動貨車ノ牽引鈎ノ位置ハ過低ニシテ運材車ノ安定
ヲ害スルヲ以テ其位置ヲ高メシ車枠ヲ水平ニ保持シ得ル如ク修正
スルヲ要ス
(二)、火砲附属ノ輓車輌ニ関スル事項
平均時速十二粁ノ連続行軍ニ堪ヘシムル為、改善スヘキ要件左ノ如シ
(イ)、運材車ハ車輪ノ強度ヲ増加スルカ又ハ車輪ト車軸トノ間ニ高速度
ニ堪フル如ク防擦装置ヲ必要トス（輪帯ノ緩ミタルモノ輓車輌ノ
約半数ニシテ輛ノ破解セルモノ六、七輛アリ）

(ロ)、繋駕台車及脚柱車ノ前方桃架ノ強度ヲ増加スルヲ要ス（行軍労ニ日ニ於テ繋駕台車ノ前方桃架折損セリ）

(ハ)、運搬車側板ノ抗力ノ増加ヲ計ルヲ要ス又側板ノ連結ノタメ螺桿ニ依ルハ脆弱ニシテ抗力乏シキヲ以テ駐釘等ノ他ノ手段ニ依ルヲ可トス又側板ヲ直接材料ト接觸セシメサル為側板ノ四周ニ板枠ヲ嵌入スルヲ可トセン

(三)、火砲重材料ニ關スル事項

(イ)、平均時速六粁ニ對シ制轉機手ヲ常時附スル為砲手ノ乗車設備ヲ各車輌ニ附スルヲ可トス

(ロ)、服馬鞍ノ抗力弱キヲ以テ同強度ヲ増加スルヲ要ス

(ハ)、旧制式ノ砲身車前車ノ鋼紐変歪シ鉸鏈離脱困難トナル故正ヲ要ス

(二)、制轉機

行軍間制轉機ノ移動臂端末ト轂胴ノ内側ト接觸シ轂胴内側ヲ摩損スルニ至ル（砲身車及砲架車）故ニ移動臂端末ヲ修正スルカ又ハ轂胴内側ヲ縮小ナラシムル如ク修正ヲ要ス

制轉機ノ制式ヲ改正シ制轉力ノ增大ヲ計ルコトモ亦着意スルノ要アリ

三、兵器材料ニ關シ将来ノ研究及教育上ノ注意

(一)、運搬車ニ對スル材料ノ積載區分及積載法ハ尚研究ノ上カ作成範ニ於テ要ノ修正ヲ要ス

(二)、荷索ニ依ル材料ノ結束法ハ教育上注意ヲ要ス然カ切断セルモノ斷カラス

(三)、起重機ノ繋駕台及脚柱ヲ自動貨車ニ直接積載スル方法設備ノ研究ヲ必要トス

(四)、一門分ノ砲床材料ヲ一回ニ運搬スルタメ運材車ノ規定ノ積載量ヲ超過セシメタル場合行軍速度ハ何料ヲ最大限トスヘキ又積載量ト行軍

速度トノ関係ニ就キ研究ヲ要ス

四、演習間火砲材料ニ関シ破損紛失セシモノ別表ノ如シ

別表、火砲材料破損紛失一覧表

車輛（十五輌）	運材車
一、[illegible] 二、[illegible] 三、[illegible] 四、[illegible] 五、[illegible] 六、[illegible]	（右ハ[illegible]演習間ナレバ） 七、弾薬 大小各一 紛失 八、[illegible] 紛失
十、[illegible]車輛	砲床材料
一、[illegible] 二、[illegible]	一、[illegible] 二、[illegible] 三、[illegible] 四、[illegible]

5

4

附表、火砲材料破損紛失一覧表

重車輌（十五加）

一、砲架車
1. 右方踏鈑上部臂ノ切損
2. 右方踏鈑支桿駐螺切損
3. 防楯托架駐螺摩滅
4. 砲耳蓋駐栓螺子部摩滅
5. 前方托架両側ニ創痕
6. 眼鏡鞘鐶部ノ摩損

二、砲身車
1. 前車胴駐ノ屈曲
2. 被筒駐螺鈑ノ摩損
3. 被筒用駐螺摩滅
4. 眼鏡鞘鐶部ノ摩損
5. 被筒用螺輪ノ切損

三、防楯車
1. 防楯右方上部ノ亀裂
2. 防楯用螺桿ノ摩滅

四、床架車
ナシ

運材車

1. 上面ノ駐螺摩滅、紛失 前車（八九号）
2. 上面ノ駐螺摩滅 前車（九〇号、九一号）
3. 輻ノ緩ミ 前車（九〇号、九一号）
4. 輪帯ノ緩ミ（八九号、三六号）
5. 輻ノ緩ミ 後車（八九号、九〇号、九一号）
6. 側鈑ノ摩損（八九号、九〇号、九一号、三六号）
7. 床鈑ノ破損（八九号、九〇号、九一号、三六号）
8. 轂ノ摩損（八九号）
9. 輻ノ折損（九〇号）
10. 索鉤ノ変形（九一号、三六号）
11. 十字鍬縛革切損（三六号）
12. 輞ノ破損（三六号）
13. 索縄十四本切損

十糎加重機及車輌

1. 機関車前方托架下方横材ノ折損
2. 機関車右側鈑止鈑折損
3. 脚架車前方緊定帯螺桿紐環紛失ス
4. 脚架車後方横鈑屈曲ス
5. 脚架車右方後車輪ノ輞ノ緩ミ
6. 眼鏡鞘ノ屈曲摩滅

砲床材料

1. 底鈑用駐栓 両ヘ紛失
2. 駐楔 大小各一紛失
（右紛失ハ備砲作業間トス）

其七、其他ノ事項

一、火砲材料ノ牽引状態

十糎（砲身車 砲架車牽引）及五糎（砲架車 前車牽引）牽引自動車ノ各種地形ニ於ケル牽引能力ハ十分ニシテ材料ノ安定良好ナリ然レトモ急降坂路ニ於ケル材料車ノ制動機ノ作用稍々十分ナラサル為牽引車ヲ打突シ操縦上ニ影響ヲ及スコトアリ

一、砲弾積自動貨車ヲ以テ軽材料運搬車ヲ牽引セル場合ノ各種地形ニ於ケル牽引能力ハ概ネ適当ナルモ牽引鈎装置過低ノ為運搬車ノ前緣車枝統部ヲ高起シ後車ヲ傾斜セシメ材料ヲ後方ニ滑ラシ後板ヲ損傷スルコト多シ又運搬車ノ自動車牽引ニ適スル如ク結構セラレアラサリシ故ニ高速度ヲ以テ行進スルトキハ震動大ニシテ車体各部ヲ毀損スルコト稍々大ナリ

二、操縦上ノ注意事項

回轉半徑ノ極メテ小ナル道路上ニ於ケル重材料牽引時ノ操向操作ハ前車ノ轉向限界ヲ超過スルトキハ内方前輪ノ後端カ後車ニ接觸シテ回轉スルコトナリ内方ニ滑移シ材料ヲ損傷スルヲ以テ之ニ注意シ圓滑ニ操縱スルヲ要ス

第四、攻城重砲兵ノ用法上、將來ノ着意

攻城重砲兵ナル歴史的名稱ニ依リテ其實態ヲ誤解若ハ軽視スルコトヲ許サザルハ今次遼原ノ火ヨリモ明白ナル事實ニシテ茲ニ從來ノ迷想ヲ一新シ須ラク國軍砲兵威力ノ擴大ヲ企圖スル爲此種砲兵ヲ十分ニ使用シ以テ作戰上ノ要求ヲ向上スルノ着意ヲ真摯ナラシムルハ實ニ緊急事中ノ急局問題ナリトス

今本稿ヲ歸結シ攻城重砲兵用法上、將來ノ着意トシテ必要ナル諸項ノ梗概左ノ如シ

一、攻城重砲兵特ニ其ノ十五加及二十四榴ハ野戰ニ於ケル機動作戰ニ使用スルニ適切ナル運動性ヲ有シ且状況ニ應シ遠達ナル陣地占領ヲ行ハシムルコトヲ得

從テ作戰上之カ用途ニ關シテハ更ニ其任務ヲ擴張スルヲ要シ平時ニ於

ケル國軍練成ノ機會ヲ利用シ各種ノ野戰的演習ニ於テハ必ス之ヲ參加セシメ以テ各兵各砲種協同ノ實ヲ試錬シ且攻城重砲兵其モノノ實力ノ向上ヲ企圖スルコト肝要ナリ

二、十五加及二十四榴ヲ装備スル攻城重砲兵ハ其行軍ニ方リテハ毎日、三十乃至四十五粁ノ行程ヲ各種地形ニ亘リテ連續行軍スルヲ許シ其陣地占領ハ豫メ砲床據擁孔ノ處置ヲ行フトキハ材料ノ陣地到着時ヨリ約五時間ヲ以テ完了スルコトヲ得、將來装備ノ一部ノ改正及改善ノ曉ニハ更ニ之ヲ短縮セシメ得ヘキ見込ナ介ナリ

三、攻城重砲兵ナル名稱ハ之ヲ威力重砲兵ト改稱シ以テ歴史的旧稱呼ニ捕ハレテ其實態ヲ誤斷セシムルコト無キヲ肝要トス

四、本砲兵ノ編制及装備ニ関シテハ時代ニ適應シテ其ノ使命ヲ全カラシムル如ク改變シ以テ其特性ヲ遺憾ナク發揮セシメ之ニ依リテ國軍作戰威力ノ擴大ヲ期スルヲ要ス

本砲兵ニ自動車装備ヲ要スルコトハ必然ノ要求ナリトス

五、攻城重砲兵ノ使用ニ方リテハ常ニ攻城砲兵司令部若ハ攻城砲兵旅ヲ使用スルヲ要スルモノト速斷スルコトナリ此種砲兵ノ一部若ハ火力ヲ野戰軍中ニ編組スル場合ニハ之ニ要スル補助機關ハ別途ニ之ヲ考慮シ其補充機關ハ他ノ野戰軍関係機關中ニ包含スル如クスルノ着意ヲ肝要トス

六、今着地ニ作戰スル爲ニハ自動車運轉手中ニハ一部ノ豫備人員ヲ含マシムル如クスルトキハ内地ニ於ケル試驗成績ニ比シ概ネ同一ノ結果ヲ呈セシ

シメ得ヘキモノト認ム

七、凍寒地特ニ積雪地ニ於ケル此種砲兵ノ用法ニ就キテハ實驗ノ要アリ、即チ自動車並橇等ヲ併用スル試驗ノ如キ之ナリ

八、作戰上、攻城重砲兵ニ要求シ得ヘキ特質ニ鑑ミ各隊平時教育ノ成果ヲ之ニ合致セシムルヲ要シ之カ爲攻城重砲兵ノ戰時編制上、自動車ヲ装備セシメサルモノニ在リテモ平時教育上、各隊ニハ自動車ノ相當數ヲ配當スルヲ所要トス

結言

鈍重ヲ以テ其特性トスルカ如ク一般ニ誤斷セラレ野戰部隊ニ伍シテ比較的軽妙ニ行動シ得且其直後ニ於テ遅滞ナク火威ヲ發揮シ得ルノ實力ヲ無視セラレアリシ所謂攻城重砲兵ノ實態ヲ認識スレハ以上ノ如シ

茲ニ特筆スヘキハ本試驗所謂明治四十五年制ノ材料ニ就テ行ハレタルモノニシテ此種材料ヲ以テスルモ手段ヲ竭ストキハ尚且前述ノ如キ能力ヲ發揮セシムルコトヲ得ルヲ立證シタルモノニシテ更ニ近ク改造砲床ノ完成ヲ見若ハ装備ノ一部ニ改善ヲ加フルトキハ愈々其ノ軽快性ヲ増大スルノコト明カナリ、況ンヤ双輪式火砲ノ完成ニ臨ミテハ將ニ時代ヲ革スルノ状ヲ呈スヘキニ於テオヤ。

吾人ハ我國軍兵器界ヲ擧ケテ本砲兵ノ真特性ヲ明瞭ニ理解シ其使用上、毫髪モ渋滞ヲ感スルコトナク縦横ヲ以テ十二分ニ之カ活用ヲ期スルノ日近カランコトヲ要望シテ筆ヲ擱ク

（了）

附表

第一　自動車ニ依ル攻城重砲兵ノ運用試験演習實施経過表

第二ノ一及二　同右試験演習ノ為ノ砲兵及自動車部隊編制表

第三　試験隊ノ行動一覧表

第四　備砲作業實施一覧表

附表第八

自動車ニ依ル攻城重砲兵ノ運用試験演習實施經過表

[illegible]

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

附表第八

自動車ニ依ル攻城重砲兵ノ運用試験演習實施經過表

日次	月日	行軍状態	經路	距離（粁）	宿營地	摘要
一、	一月二十日	平地行軍	東部校—金沢—逗子—鎌倉—藤沢	三四	藤沢	金沢—逗子間ハ路巾小ニシテ往復通行ヲ許サス又金沢—逗子—鎌倉間ニハ曲半徑小ナルモノ多シ
二、	二十一日	平地行軍（一部夜行軍）	藤沢—平塚—秦野—二ノ宮—小田原	四九	小田原	秦野—二宮間ハ路巾小ニシテ往復通行困難ナリ
三、	二十二日	山地行軍	小田原—宮ノ下—元箱根	二七	元箱根	湯本附近ニ不良ナル橋梁アリ湯本以北ハ專ラ山地トス
四	二十三日	山地及平地行軍（一部夜行軍）	元箱根—宮ノ下—湯本—平塚	五〇	平塚	
五	二十四日	平地行軍（一部夜間行軍）	平塚—藤沢—逗子—金沢—横須賀	四四	横須賀	
		陣地占領	横須賀市不入斗		附近	

備考

一、天候良好ナルモ氣温概シテ低ク、朝夕ハ寒烈ヲ覺エ、特ニ箱根方面ニ於テ然リトス

二、距離ハ重車輛ノ一往行ニ對スルモノヲ示シ全行程二〇四粁トナル

裏面白紙

附表第二ノ一

自動車部隊編成表

区分 / 部隊別	小隊	分隊号	分隊長	運転手	助手	自動車	計	摘要
牽引自動車小隊	長 内田中尉 乗用車一 兵卒二 側車一 兵卒一	1	下士一	一	一	十瓲ホルト一	将校一 下士二 兵卒一五 乗用車一 側車一 牽引車五 被牽引車一	第一分隊ノ五瓲牽引車一及被牽引車一ハ予備車トス
				一	一	十瓲ホルト一		
				一	二	五瓲ホルト一 被牽引車一		
		2	下士一	一	一	五瓲ホルト一		
				一	一	五瓲ホルト一		
自動貨車小隊	長 特務曹長 乗用車一 兵卒二 側車一 兵卒一	1	下士一	一	一	（一瓲半積自動貨車）一	准士官一 下士三 兵卒一七 乗用車一 側車一 貨車七	貨車二ハ砲手用貨車二ハ燃料及消耗品積載用シ其他ハ起重機車及砲床材料並土工力作具用トス
				一	一	右同一		
				一	一	右同一		
		2	下士一	一	一	右同一		
				一	一	右同一		
		3	下士一	一	一	右同一		
				一	一	右同一		
合計	人員						将校（准士官）二 下士五 兵卒三二	
	車輛						乗用車二 側車二 牽引車五 貨車七 被牽引車一	

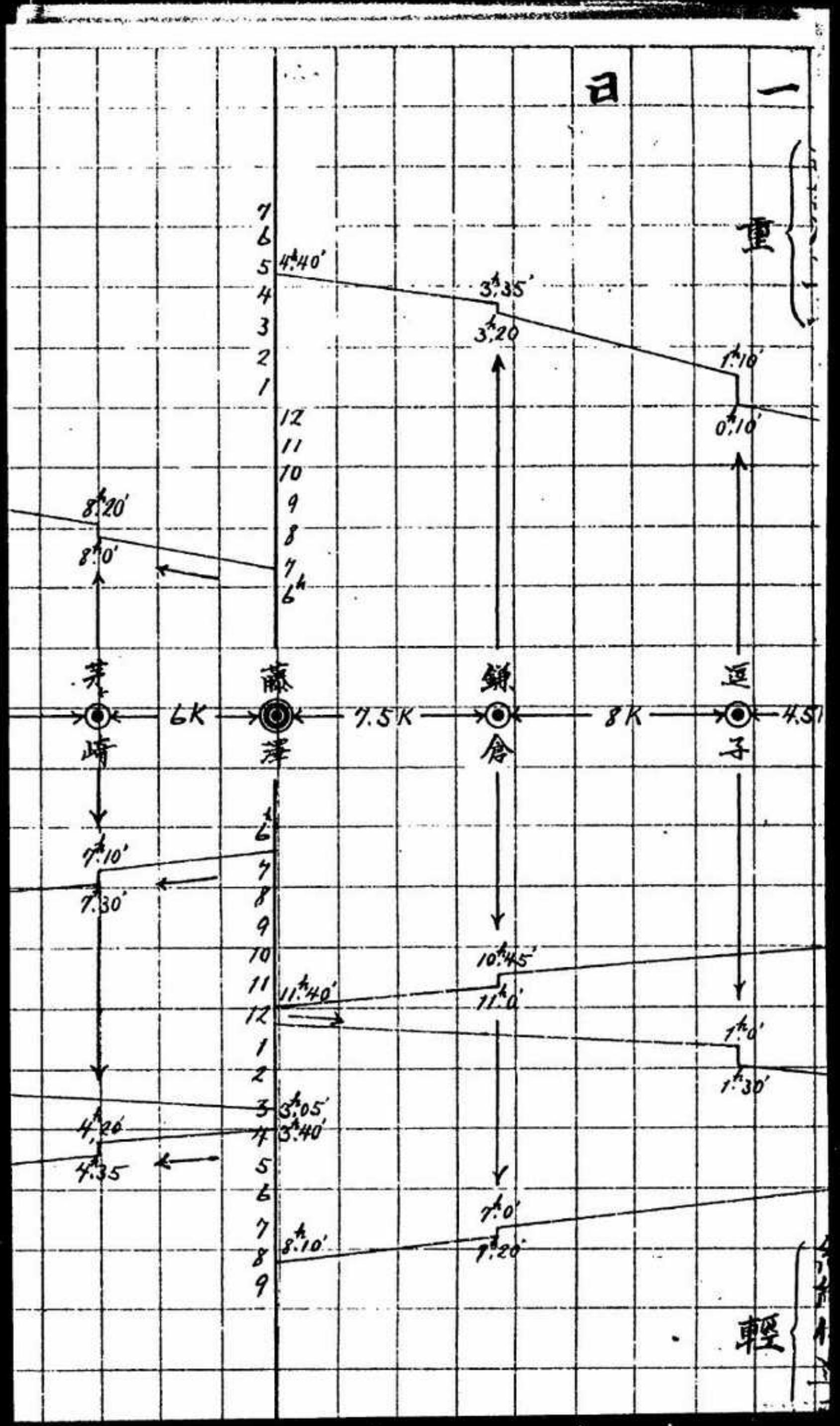
附表第二ノ二

重砲兵部隊編成表

区分		数
人員	将校	池田大尉 浅野中尉
	准士官	一
	下士	五
	兵卒	四二
火砲（門）		四
材料	重材料	四
	軽材料	起重機車一 砲床材料（自動貨車ニ積載八輛分）土工及力作具若干（約車輛分）
摘要		運材車四ヲ有ス
備考		

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

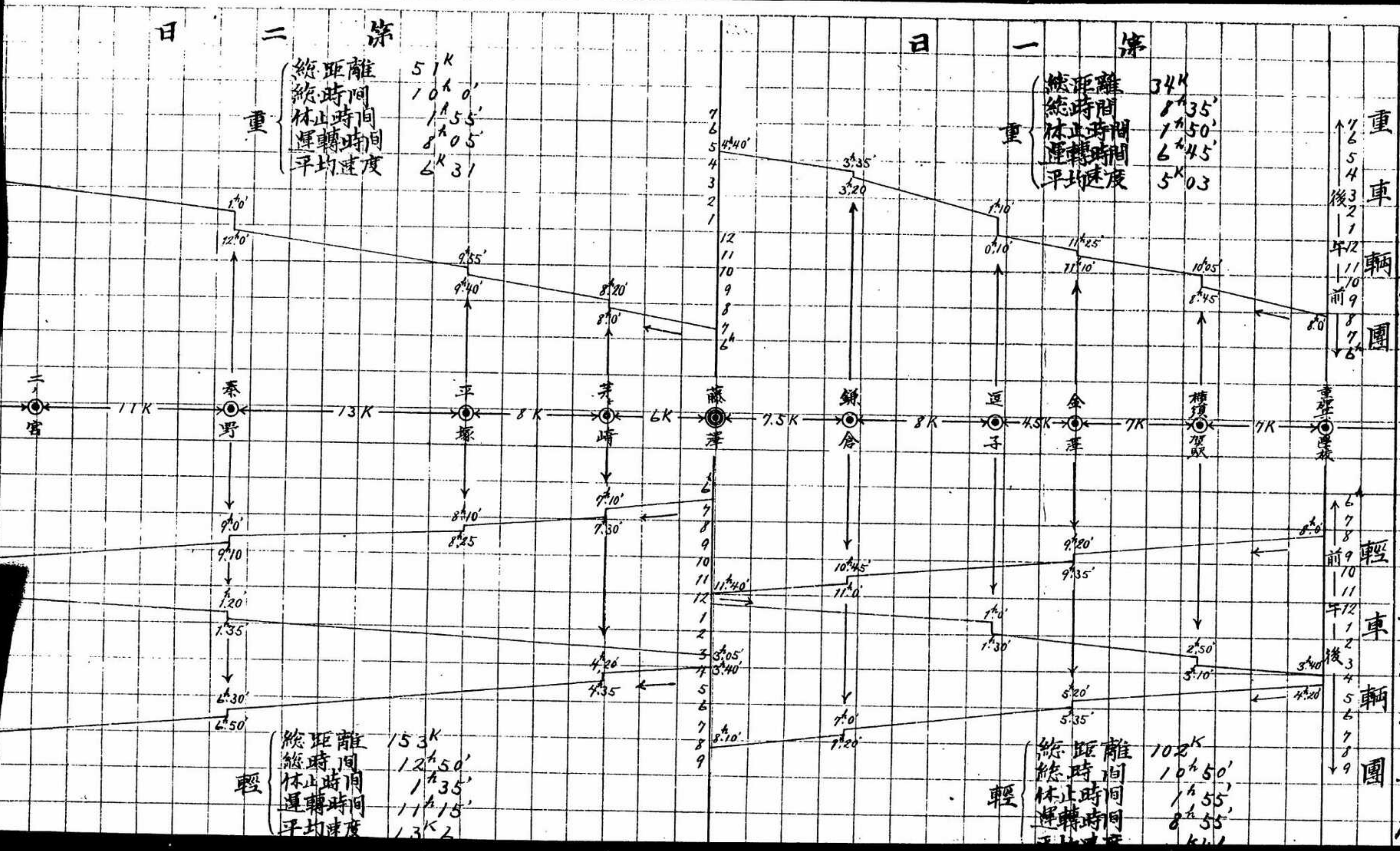


一日
重
輕
茅ヶ崎
藤澤
鎌倉
逗子
6K
7.5K
8K
4.5K
4h40'
3h35'
3h20
1h10'
0h10'
8h20'
8h0'
7h10'
7h30'
10h45'
11h40'
11h0'
1h0'
1h30'
3h05'
3h40'
4h20'
4h35
7h0'
8h10'
7h20'

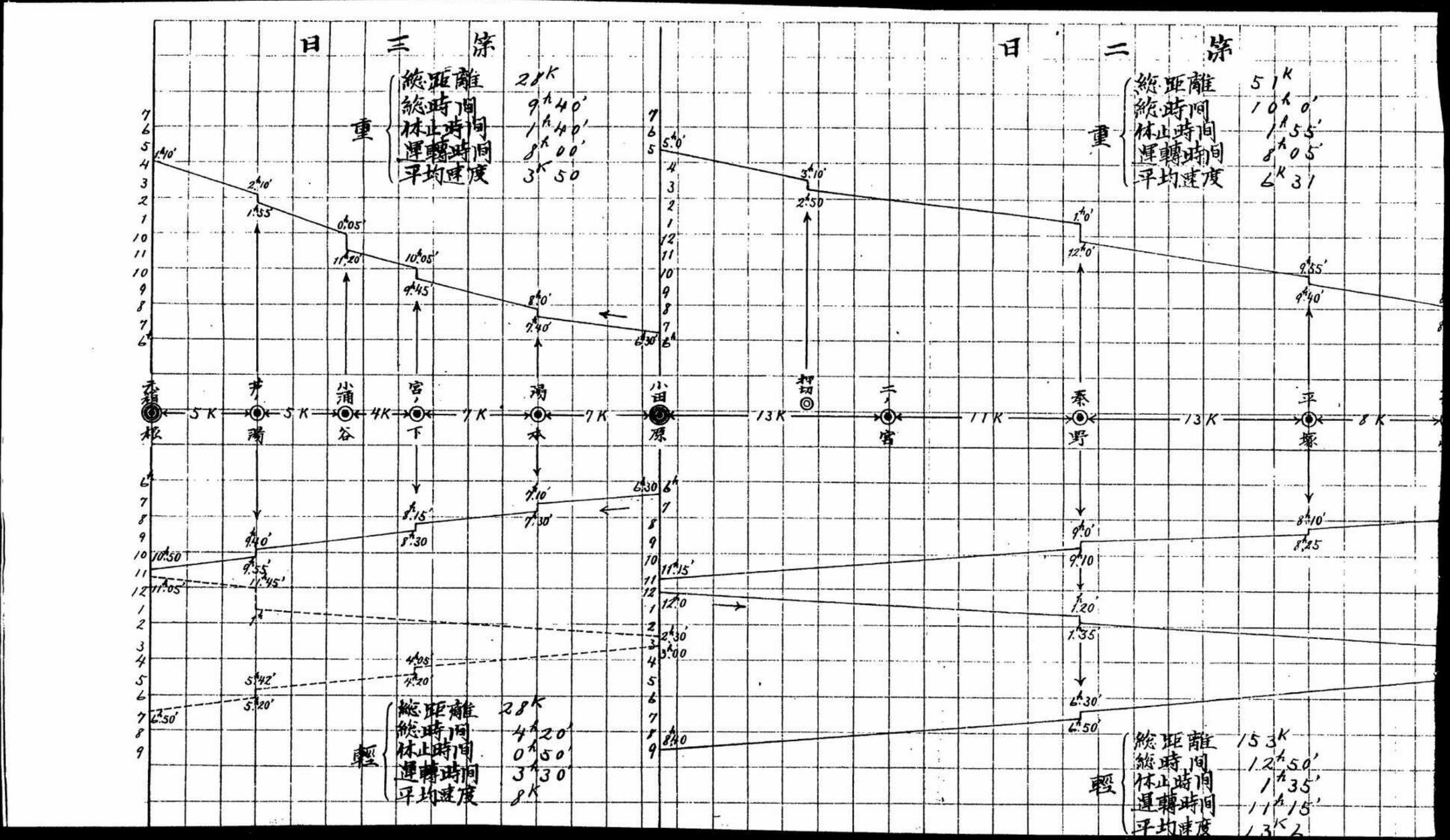
[illegible]

附表第三

自動車ニ依ル四五式十五加



裏面白紙

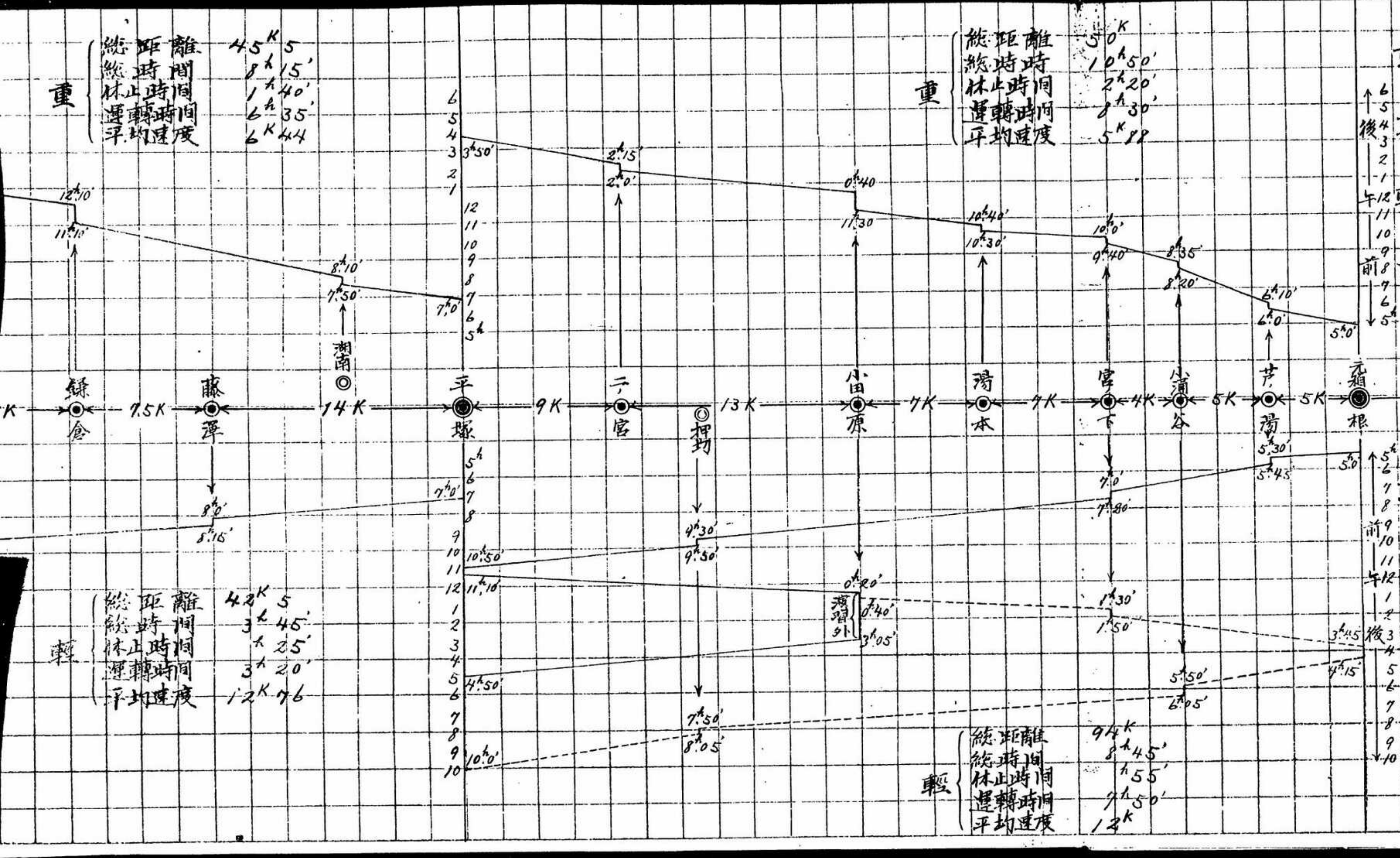

第三日
重
總距離 28K
總時間 9h40'
休止時間 1h40'
運轉時間 8h00'
平均速度 3K50
輕
總距離 28K
總時間 4h20'
休止時間 0h50'
運轉時間 3h30'
平均速度 8K
第二日
重
總距離 51K
總時間 10h0'
休止時間 1h55'
運轉時間 8h05'
平均速度 6K31
輕
總距離 153K
總時間 12h50'
休止時間 1h35'
運轉時間 11h15'
平均速度 13K2
元箱根
芦ノ湯
小涌谷
宮ノ下
湯本
小田原
押切
二ノ宮
秦野
平塚
5K
5K
4K
7K
7K
13K
11K
13K
8K

[illegible]

自 [illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]

[illegible]

用試驗演習試驗隊行動一覽表



裏面白紙

総計 重車輌團

距離	時間	休止時間	運轉時間	平均速度
二〇五K五	四七ん二〇	九ん二五	三七ん五五	五K四二

総計 輕車輌團

距離	時間	休止時間	運轉時間	平均速度
四一九K五	四〇ん三〇	五ん四〇	三四ん五〇	一二K三九

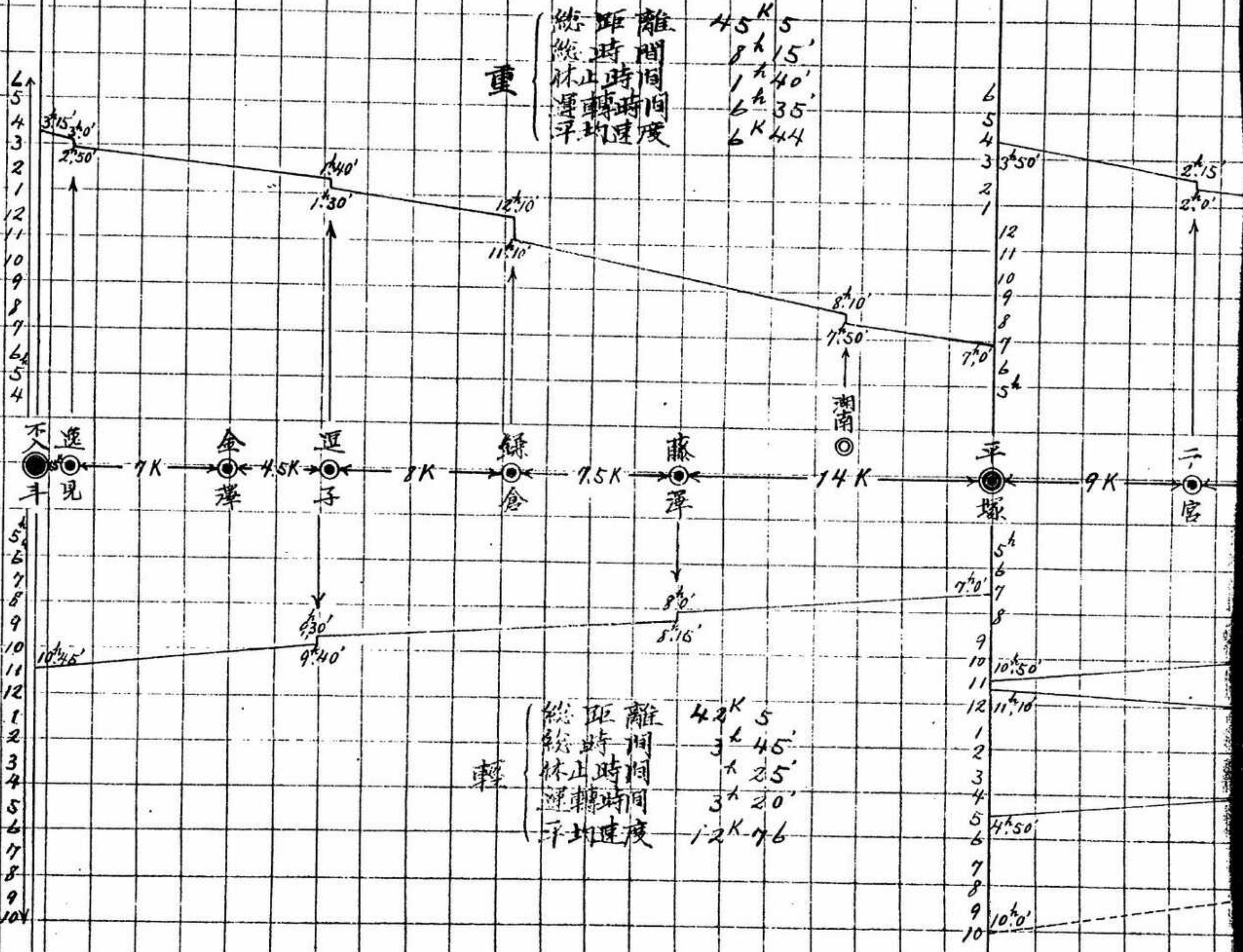
備考

表中

◎ハ宿營地

◎ハ休止地

ハ計画ニ止メ実施ヲ省略セルモノヲ示ス



施一覧表

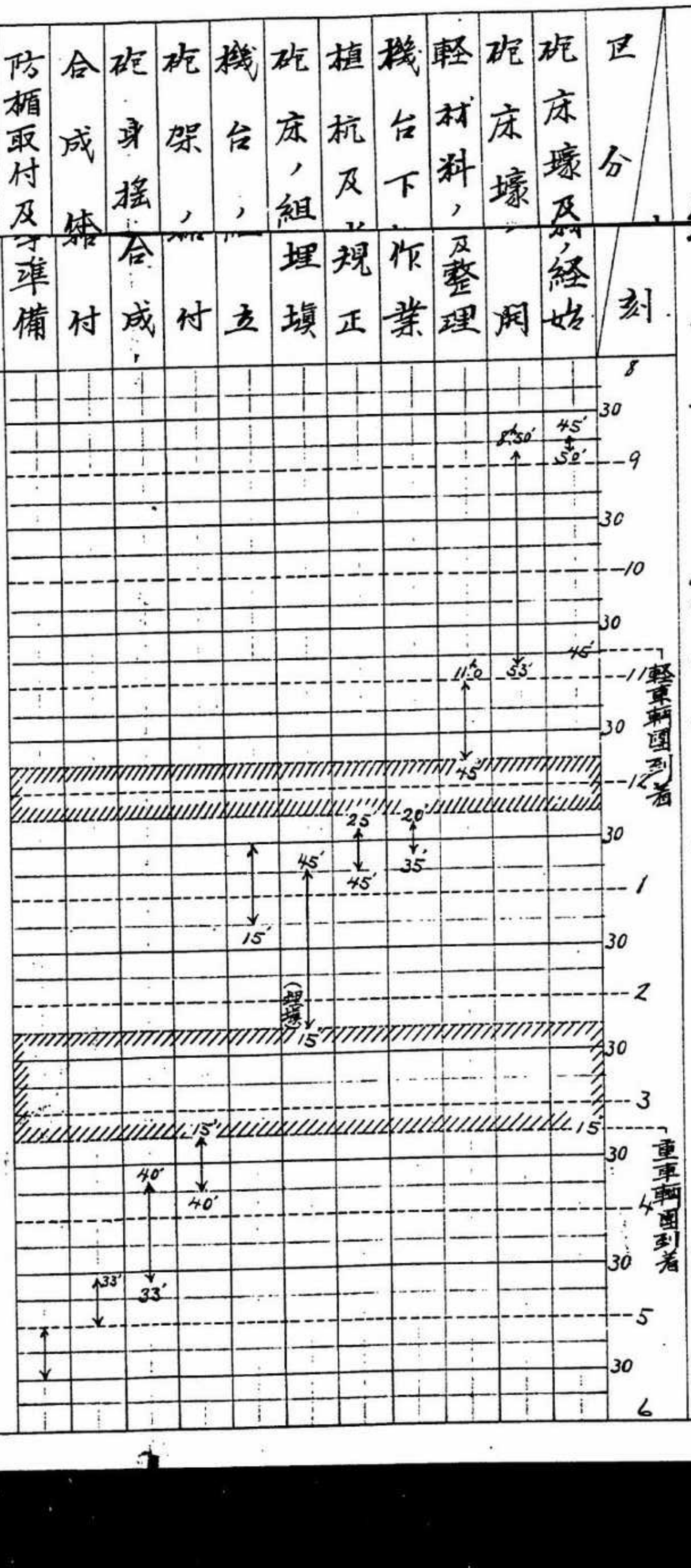
一月二十四日

30
11 軽車輌團到着
30
12
30
1
30
2
30
3 重車輌團到着
30
4
30
5
30
6

附表第四

機作業実施一覧表

一月二十四日



備考

一、作業人員ハ約三十名トス
二、十一時四十五分ヨリ十二時二十分迄午食ノ為休憩ス
三、砲床壕ノ掘開著シク進捗シタルタメ重材料ノ到着時刻迄一時間ノ休止ヲ行ヘリ（自二時十五分至三時十五分）

裏面白紙

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records http://www.jacar.go.jp/

附録

試験演習指導計画

所要地圖（△印ハ参考圖ヲ
◎印ハ秘密圖ヲ示ス）

二十万分ノ一

東京	甲府 △
横須賀	静岡 △

五万分ノ一

藤沢	秦野
大磯	小田原
◎ 横須賀	

演習第一期

（八月二十八日 二十日 二十二日）

上陸直後ノ姿勢ヨリ逐次進展スル軍ノ作戦及前進ニ應シ
逐日所命ノ地域ニ向テスル行軍ヲ試練ス
自動車部隊ハ配兵ニ協力ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

演習指導計画一覧表　其一　（第一期演習）

演習指導計画一覧表 其(一) (第一期演習)

月日	想定及状況等	交付若ハ下達ノ時期方法及場所	摘要
八月十九日	第一想定	正午以後成ルヘク速カニ重砲兵中隊長及牽引自動車小隊長並兵站自動車小隊長ニ重砲兵学校ニ於テ印刷物ヲ交付ス	一、想定ニ基キ所要ノ事項ヲ説明ス 二、(二十日ノ行軍ニ関スル計画及命令ヲ提出セシメ要スレハ所要ノ指導ヲ加フ
八月二十日	演習命令一	午前八時乃至九時(於重砲校庭)	試験隊ノ計画ニ基キ時刻ヲ定メ初動ヲ令ス 但シ偵察者等ノ先行ニ関シテハ隊メ之ヲ行ハシム
	材料卸下地及宿営ニ関スル事項	第一回ノ輕材料若ハ偵察将校等ノ到着ト共ニ藤沢南側附近ニ於テ筆記條トシテ指示ス(口達)	
	第一状況	午後四時以後、各隊長若ハ其命令受領者ノ到着ト共ニ口達ス	二十一日ノ行軍ニ関スル計画及命令ヲ提出セシメ、要スレハ所要ノ指導ヲ行フ
八月二十一日	材料ノ卸下地ニ関スル事項	前日ニ準ス(於小田原入口)	
	第二状況	午後三時以後、各隊長若ハ其命令受領者ノ到着ニ伴ヒ口達ス	一、二十二日ノ行軍ニ関スル計画及命令ヲ提出セシメ要スレハ更ニ所要ノ指導ヲ行フ
	演命二	軽材料ノ約半部ヲ演習外トシテ小田原ニ残置シ所要ノ監視兵ヲ附スヘキコト	二、計画ハ第二回輸送ノ材料ヲモ含ミシ計画セシメ實施上之ヲ小田原ニ残置スヘキヲ示ス
	宿営ニ関スル件	第二状況ノ達後、之ヲ指示ス	
八月二十二日	材料卸下地ニ関スル事項	前日ニ準スハ於元箱根入口)	
	演習命令 三、 一、第一期演習ヲ終了ス 二、試験隊ハ今ヨリ第二想定ニ基キ第二期演習ヲ開始スヘシ 三、本日ノ宿営ニ関シテハ……	午後重材料到着ト共ニ中隊長及両自動車小隊長ニ口達ス(於元箱根)	

裏面白紙

第八想定

一、相甲駿ノ三國ヲ領土トスル赤國ヲ攻略スヘキ任務ヲ有スル青國第八軍ハ三浦半島ニ上陸ノ後、敵ノ前進部隊ヲ駆逐シツツ前進ヲ強行シ其ノ一部ヲ以テ八月十八日以来川尻附近ノ敵既設陣地ヲ攻撃中ニシテ其主力ハ敵ヲ追撃シツツ十九日正午酒匂川ノ線ニ達セリ

二、青國第八軍ニ属スル攻城重砲兵独立中隊（十五加二門）ハ八月十九日浦賀港ニ上陸シ馬堀ニ宿営中、午後三時同中隊長ハ同地ニ宿営中ナル牽引自動車隊小隊長ト（砲兵班自動車隊小隊長ト）共ニ左記要旨ノ軍命令ヲ受領セリ

第八軍命令

八月十九日午後八時
於藤沢町軍司令部

（一）川尻附近ノ陣地ニ在ル敵兵力ハ一師団弱ニシテ酒匂川平地ニ於ケル敵ハ約一師団半ヲ有スルモノノ如シ
御殿場及三島附近ニハ既設ノ陣地ヲ有シ目下尚盛ンニ工事中ナリ

（二）軍ハ速ニ甲府及静岡平地ニ侵入スル目的ヲ以テ依然川尻附近ノ敵陣

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

地ヲ強攻シ且酒匂川河畔ニ於ケル敵ヲ撃攘セントス

(三) 攻城重砲兵独立中隊ハ明二十日横須賀——田浦——三介——逗子——長谷道ヲ経テ藤沢町ニ向ヒ前進スヘシ

(四) 牽引自動車小隊及兵站自動車小隊ハ攻城重砲兵独立中隊ニ協力スヘシ

(五) 重砲兵中隊及牽引自動車小隊並兵站自動車小隊ハ明二十日午後四時命令受領者ヲ軍司令部ニ差出スヘシ

三、重砲兵中隊長及牽引自動車小隊長ハコレヨリ先キ在浦賀兵站司令部ニ於テ進路ノ素質ニ関スル詳報ヲ聞ケリ（ロ 達）

(四) 相模湾ハ青国海軍ノ勢力範囲ニ属シアリ

第一状況　（八月二十日午後四時以後）

攻城重砲兵独立中隊長及牽引自動車隊小隊長並兵站自動車中隊小隊長ハ八月二十日午後〇時藤沢町ニ於テ左記要旨ノ軍命令ヲ受領ス

第二軍命令　（八月二十日午後〇時 於藤沢町軍司令部）

一、川尻附近ノ敵ハ本二十日正午頃ニ其陣地ヲ放棄シテ西方ニ向ヒ退却ヲ開始シ酒匂川河畔ノ敵モ亦本払暁ヨリ山北、小田原ノ線ヨリ退却ヲ開始シ御殿場、箱根及熱海方向ニ退避中ナリ

二、軍ハ其北方兵団ヲ以テ甲府平地ニ向ヒ敵ヲ窮追セシメ主力ハ足柄峠、長尾峠、箱根町及熱海町ヲ経テ御殿場及三島平地ニ向ヒ前進セントス

三、攻城重砲兵独立中隊ハ明二十一日小田原町ニ向ヒ急行シ後命ヲ待ツヘシ

四、牽引自動車小隊及兵站自動車小隊ハ依然、重砲兵中隊ニ協力スヘシ

五、予ハ明早朝、小田原町ニ向ヒ前進ス

右命令受領後重砲兵中隊長及両自動車小隊ハ[illegible]関係事項ニ就キ軍幕僚ヨリ左ノ如キ通報ニ接ス

一、本二十日早朝敵ハ大磯町及相模川橋梁ニ対シ大規模ノ爆撃ヲ企テ其被害ハ意外ニ大ナリ
二、東海道上相模川橋梁ハ相當ノ破損ヲ生セシモ明払暁迄ニハ修理ヲ完成シ諸兵ノ通過ニハ支障ナカラシメ得ルコト確實ナリ
三、花水川橋梁及大磯町及寺坂（大磯西北三粁）附近ハ共ニ至大ナル爆撃ヲ被リ為ニ自動車部隊ノ通過ヲ許ス程度ノ橋梁及道路ノ修理ハ明夕刻ニ非サレハ完了セス
四、重砲兵中隊前進ノ為目下最良ノ道路ハ平塚――秦野――二宮ノ道トス

第二状況（一月二十一日午後三時以後）

重砲兵中隊及両自動車小隊長ハ二十一日午後〇時、小田原町軍司令部ニ於テ左記要旨ノ軍命令ヲ受ケ且別ニ軍副官ヨリ當方面ノ道路素質ニ関スル詳報ヲ受ク

第一軍命令ノ要旨

一、當面ノ敵ハ昨二十日以来箱根、足柄ノ天嶮ヲ利用シテ逐次ノ抵抗ヲ試ミシカ本日正午概シテ足柄峠、長尾峠、箱根町及熱海町ノ線以西ノ地區ニ退却セリ
御殿場附近ノ敵陣地ハ其強度至大ナラス且其方面ノ兵力約一旅団ナルモ、沼津附近ノ敵陣地ハ其規模大ニシテ且近ク静岡方面ヨリ一兵団ノ増援アルモノノ如シ
甲府方面ニ退却セシ敵ハ逐次抵抗ノ後更ニ本日午後ヨリ大月附近ノ既設陣地ヲ利用シ更ニ防戦中ナリ
軍ノ第一線ハ午後二時概シテ足柄峠、長尾峠、山中新田及軽井沢ノ線ヲ通過シ續キテ前進中ナリ
二、軍ハ成ルヘク速カニ御殿場及沼津附近ノ敵陣地ヲ奪取セントス
三、攻城重砲兵独立中隊ハ明二十二日速カニ先ツ元箱根ニ向ヒ前進シ爾後、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三島町方面ニ急進シ得ルノ準備ニ在ルヘシ
四、牽引自動車小隊及兵站自動車小隊ノ重砲兵中隊ニ対スル協力訣ノ如シ
五、予ハ現在地ニ在リ

軍副官ノ道路ニ関スル指示

一、長尾峠及尺衲峠ハ其道路素質良好ナラス加之退却セシ敵ノ爆破ニ依リ約一週間ノ後ニ非サレハ自動車部隊ノ通過ヲ許ササルノ状態ナリ
二、小田原――宮ノ下――箱根道ハ敵ノ爆破ヲ受ケタルモ其程度大ナラス本日午後八時迄ニハ修理ヲ完了シ得ルコト確實ナリ
其道路ノ詳細ニ関シテハ……（ロ 達）
三、湯本――畑宿――元箱根道ハ自動車ノ通過ヲ許サス
四、小田原――熱海――三島道モ諸所ニ敵ノ爆破ヲ受ケ二十四日朝ニ非

サレハ自動車ノ通過ヲ許スニ到ラサル見込ナリ

第一八[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]スヘシ

演習指導計画ノ一覧表「其ノ二」（第二期演習）

月日	想定及状況等	交付若ハ下達ノ時期方法及場所	摘要
へ	第六想定	午後五時重砲兵中隊長及両自動車小隊長ニ元箱根ニ於テ印刷物ヲ交付ス	二十三日ノ行軍ニ関スル計画及命令ヲ提出セシメ要スレハ所要ノ指導ヲ加フ

演習指導計画一覧表「其二」（第二期演習）

月日	想定及状況等	交付若ハ下達ノ時期方法及場所	摘要
八月二十二日	第二想定	午後五時、重砲兵中隊長及両自動車小隊長ニ元箱根ニ於テ印刷物ヲ交付ス	二十三日ノ行軍ニ関スル計画及命令ヲ提出セシメ要スレハ所要ノ指導ヲ加フ 二、計画上ニ於テハ全部ノ軽材料ヲ元箱根ニ有スルモノトシテ作製セシム
	第一状況	右終ツテ後観測班長トシテ口達	
	演命四	在小田原ノ軽材料ハ第二回輸送ノ際小田原ニ於テ積載セシム	
八月二十三日	状況第二	午後二時重砲兵中隊長ヘ	大隊命令ヲ筆記シ伝令トシテ交付
	材料卸下地ニ関スル件	道路偵察者、連絡者若ハ第一回材料ノ到着ト共ニ平塚西端ニ於テ之ヲ口達ス	重材料行軍ノ関係ヲ顧慮シ第二回輸送ノ軽材料ハ小田原ニ於テ積載後、所要時間丈演習外ト令シ爾後、適時演習再興ヲ令シテ発動セシム
	宿営ニ関スル件	午後三時以後、適宜指示ス	
	状況第三	午後八時頃、中隊長若ハ連絡者ニ大隊副官トシテ大隊命令ヲ伝達ス（平塚町ニ於テ）	二十四日ニ関スル前進ノ部署及其命令ヲ提出セシメ要スレハ更ニ所要ノ指導ヲ行フ
八月二十四日	状況第四	小隊長ノ逗子停車場前ニ到着スルヤ、大隊副官トシテ大隊命令ヲ伝達ス	
	状況第五	横須賀駅前ニ於テ伝令トシテ筆記「大隊命令」ヲ伝達ス	
	状況第六	中隊長ノ不入斗練兵場ニ達スルヤ大隊長トシテ大隊命令ヲ口達ス	一、配属以外ノ動作ハ省略セシム 二、適時、宿営及給養ニ関スル指示ヲ行フ 三、所要ノ指導ヲ加ヘテ展開ヲ進捗セシメ備砲作業ヲ統成スルヤ
	演命五	演習中止	演習中止ヲ命ス
	演命六	第二期演習終了ノ件及撤収、帰還ニ関スル件（午後六時頃）	

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二想定

一、横濱ヲ首府トシ久里浜湾ニ軍港ヲ有シ相模川以東及多摩川以南ノ相模及武蔵國ヲ領セル東國ヲ占領スヘキ任務ヲ有スル西國第二軍ハ相模川左岸ニ於テ門澤橋以南ノ地區ニ陣地ヲ占領セル敵ニ対シ八月十九日以来攻撃ヲ敢行中ナリ

二、八月十九日夜掛川町ニ於テ第二軍ニ轉属セシメ且二十三日中ニ二宮ニ到着スヘキ命ヲ受ケタル独立攻城重砲兵大隊（十五加二門ノ三中隊）ハ牽引自動車隊、及兵站自動車中隊約半部ヲ配属セラレ八月二十日以来逐日ノ強行軍ヲ以テ前進シ二十二日夕元箱根ニ達シ宿営セリ

三、八月二十二日午後四時独立攻城重砲兵大隊長ハ新ニ軍當面ノ敵情及爾後ニ於ケル軍司令官ノ企圖並大隊ノ任務ニ関スル軍命令ヲ受領シ午後五時左記要旨ノ大隊命令ヲ下達シテ更ニ前進ヲ部署セリ

独立攻城重砲兵大隊命令

(一) 相模川左岸ノ敵ハ茅ヶ崎町ヨリ西久保、一ノ宮ヲ経テ門沢橋ニ亘ル線及其以東概木小和田、用田ニ亘ル線ノ間ニ陣地ヲ占メテ頑強ナル抵抗ヲ行ヒシカ軍ノ第一線ハ本日正午概シテ本村ヨリ香川、岡田、川端ヲ経テ門沢橋西方、相模川左岸堤防ノ線ニ達シ牡丹餅、高田、行谷、大蔵、倉見 門沢ノ線ニ在ル敵ノ第二線ヲ攻撃中ナリ

軍ハ本日午後ヨリ甘沼方向ヲ主攻スルト共ニ一支隊ヲ厚木南側地区ニ差遣シ敵ノ右側背ニ向ヒ策動セシメツツアリ

(二) 独立攻城重砲兵大隊ハ成ルヘク速カニ平塚附近ニ前進シ軍ノ攻撃ニ参加セントス

(三) 大隊本部ハ明二十三日ヨリ別紙行軍計画(附表一)ニ基キ行動スヘシ、各梯隊ノ所命地點ニ到着後ノ行動ハ更ニ示ス

(四) 予ハ明二十三日午前二時現在地ヲ発シ大隊本部将校及牽引自動車隊長ヲ伴ヒ花岡(平塚西北約六粁)軍司令部ニ向ヒ急行ス

四、第三梯隊長タル第二中隊長ハ大隊命令受領後道路ニ関シ大隊ノ偵察将校ヨリ詳細ナル通報ヲ聞キ他ノ梯隊長ト所要ノ協定ヲ遂ケタル後其梯隊ノ行軍計画ヲ確定シ午後七時迄ニ所要ノ 事項ヲ下命セリ

五、地形及要塞防備ニ関スル假想

相模湾ハ城ヶ島──日蓮岬ノ線以北ノ海面ハ遠浅ニシテ海軍艦船ノ航行ヲ許サス又三浦半島ニ於ケル防備ハ現在ノ如キ施設ヲ存セサルモノトス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第六號表

獨立攻城重砲兵大隊行軍計画表

[illegible]

五 [illegible]

四 [illegible]

(四) [illegible]

第六號ノ附表

箱根方面重砲兵大隊行軍計画表

梯隊区分	第一梯隊 長 第一中隊長 第一中隊輓材料 大隊本部材料 大隊本部下士以下 第一中隊人員約半部	第二梯隊 長 第三中隊長 第一中隊重材料 第三中隊重材料 大隊段列（三分ノ一） 第一中隊人員約半部 第三中隊人員約半部	第三梯隊 長 第二中隊長 第二中隊（内（同）假想） 大隊段列三分ノ一 （假想）	第四梯隊 長 第三中隊砲車小隊長 第三中隊輓材料 第三中隊人員約半部
八月二十三日 出発	元箱根 午前零時	元箱根 午前零時	元箱根 午前五時	
八月二十三日 到着	平塚 午前七時	平塚 午後二時半	平塚 重材料午後八時 軽材料午後十二時半	
八月二十四日 出発	追示	追示	追示	元箱根 午前五時
八月二十四日 到着	追示	追示	追示	追示
自動車ノ配属区分	貨車 九	貨車 二 十輪 八 五輪 八	貨車 七 十輪 四（外ニ假想） 五輪 五（外ニ假想）	貨車 七
摘要	一、第二梯隊ニ先行ス 二、平塚ニ於テ朝食 三、材料卸下後、貨車七輛（運材車四共）ハ午前九時迄ニ小田原ニ帰還シ宿営シ午後十二時出発元箱根ニ到リ第四梯隊長ノ指揮ニ入ル	一、第一梯隊ニ続キテ発進ス 二、朝食所 小田原	一、輕重車輛ノ行進ハ小田原町内ニ於テス 二、朝食後出発スルモノトシ員食所ハ小田原、平塚若ハ元箱根トス 三、配属自動車部隊ハ各々小隊長ヲ有シ且乗用車及側車各二ヲ有ス	一、第一梯隊ヨリ帰還ノ貨車七ハ午前四時三十分迄ニ到着ス

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

状況累ヘ　（八月二十二日午後五時以後）

東ノ兵中隊長ノ第二想定ヲ研究シ翌日ノ為計画及命令ヲ考案シツツアルトキ大隊観測班長トシテ大隊長ノ意圖ニ関シ次ノ如キ要旨ヲ傳達セリ

一、明二十三日ノ到着時刻ヲ午後八時或ハ十二時半ト指示アルハ道路関係上途中ノ故障及餘裕等ヲ見積リ最大限ヲ示シアルヲ以テコノ範囲内ニ於テ成ルヘク速カニ平塚ニ到着ヲ企圖セラルルコトニ着意セラレタシ

二、軍参謀ノ通報ニ依レハ本日迄　敵飛行機ハ主トシテ酒匂川以東ノ上空ニ活動シアルモ其ノ一部ハ時々箱根ノ諸山嶺ヲ通スル道路上ノ要點ニ對シ爆破ヲ試ミタリ
明二十三日朝出発ノ為ノ準備及払暁前ノ行軍ニ方リ努メテ燈火ノ使用ヲ戒メラレタシ

三、既ニ大隊偵察將校ヨリ通報セシ道路状態中、湯本附近ノ不良橋梁ハ

第一及第二梯隊ニ於テ大隊装備ノ導援、藤沢地方徴集ノ材料ヲ併用シテ重車輌ノ通行ヲ許ス如ク修理スル筈

状況第二　（八月二十三日午後二時）（中隊長ヘ）

独立攻城重砲兵第二中隊長ハ午後二時左記要旨ノ大隊命令（正午平塚発）ヲ受領ス（筆記命令トシ、傳令ヲシテ交付セシム）

一、相模川左岸ニ陣地ヲ占領セシ敵ハ昨夜半ヨリ退却ヲ開始シ目下其一部ハ横須賀方向ニ主力ハ横浜方向ニ退避中ナルモノノ如シ

軍ハ本払暁以来敵ヲ窮追中ニシテ其第一線ハ午前十時頃概シテ腰越、大船、長後ノ線ニ達セルモノノ如シ

横浜西方及西南方地区並久里浜湾西方地区ニハ何レモ堅固ナル敵陣地アリ

軍ノ三浦兵団（第五師団長ノ指揮スル第五及第十師団ヲ基幹トス）ハ横須賀方向ノ敵ヲ掃蕩スル為本日秋谷、横須賀ノ線ニ向ヒ敵ヲ窮追中ナリ

大隊ハ三浦兵団ニ配属セラル

二、大隊ハ速カニ三浦兵團ノ前進ニ續行セントス
三、第三梯隊ハ本日豫定ノ如ク平塚町ニ向ヒ前進シタル後明早朝ヨリ更ニ前進ヲ開始シ得ル如ク準備シアルヘシ
四、第一及第二梯隊（新ニ自動貨車八ヲ配属セラル）ハ本日午後更ニ長谷ニ向ヒ前進ヲ續行ス
五、第四梯隊ハ明早朝ヨリ前進ヲ開始シ第一及第二梯隊ニ續行ス
六、予ハ今ヨリ藤沢町ヲ經テ長谷ニ到ル
午後八時迄ニ大隊副官ヲ平塚町ニ歸還セシメ明日ニ關スル命令ヲ傳達セシムル筈

状況第三　（八月二十三日午後八時以後）

第二中隊長ハ午後〇時左ノ大隊命令ヲ受領ス

（一）軍ノ追撃ハ好況ニ進捗シ主力方面ニ於テハ日没頃迄ニ概シテ武相國境ノ線ニ又三浦兵團方面ニ於テハ敵ノ大ナル抵抗ヲ受クルコトナク前進シ午後六時頃秋谷、木古庭、逗見ノ線附近ニ達セルモノノ如シ三浦半島方面、久里浜灣軍港ノ背面ニ於テハ富士山——大津ノ線ニ堅固ナル防禦工事ヲ有スルモ其以西（北）ニハ既設陣地ナク又該方面ノ敵兵力ハ退却中ナルモノヲ合シ約一師団ヲ算ス
三浦兵団ノ企図ハ夜ニ及フモ追撃ヲ續行シ速カニ敵陣地ヲ攻略シテ久里浜灣軍港ヲ占領セントスルニ在リ
二、大隊ハ明二十四日速カニ秋谷及逗鬼ニ向ヒ前進シ爾後ノ陣地占領ヲ準備セントス
三、第二中隊ハ明二十四日早朝出發逗見ニ向ヒ前進スヘシ特ニ到着後直ニ陣地占領ニ着手シ得ル如ク其前進ヲ部署スルヲ要ス
四、第一中隊ハ秋谷ニ第三中隊ハ逗子ニ向ヒ前進ス
五、予ハ本夜長谷ニ在リ明早朝ヨリ兵団ノ前進ニ伴ヒ陣地偵察ニ從事ス

明二十四日午前八時以後貴官ノ到着スル迄逗子停車場前ニ連絡ノ為大隊本部將校一名ヲ残置ス

状況第四 （八月二十四日午前 於逗子停車場前）

第二中隊長ハ逗子停車場前ニ於テ大隊副官ニ會シ左記要旨ノ大隊命令ヲ傳達セラル

一、敵ハ昨夜半迄ニ其主力ハ富士山、岩戸、蛇沼ノ線附近ノ既設陣地内ニ退却シ其一部ハ本松晩 武山、大矢部、堀ノ内（東海岸）ノ線ニ在リ

三浦兵団ノ第一線ハ本松晩迄ニ林、衣笠城趾、田戸ニ亘ル線ニ進出シ攻撃準備中ナリ

二、大隊ハ兵団ノ敵陣地攻撃ヲ援助スル目的ヲ以テ横須賀西南側地区及小田和湾北側地区ニ陣地占領ヲ準備セントス

三、第二中隊長ハ成ルヘク横須賀停車場ニ向ヒ先行シ来ルヘシ

四、大隊長ハ陣地偵察ノ後、横須賀停車場前ニ於テ第二中隊長ノ来着ヲ待ツ

状況第五 （於横須賀驛前）

第二中隊長ノ横須賀停車場前ニ達スルヤ大隊長ヨリ一ノ傳令ハ左ノ大隊命令ヲ交付ス

大隊命令 （八月二十四日午前〇時 於不入斗 古庭）

一、大隊ハ速カニ主力ヲ以テ小田和湾北側地区ニ一部ヲ以テ横須賀西南側地区ニ陣地ヲ占領セントス

二、第二中隊長ハ其部隊ヲ横須賀市、不入斗練兵場ニ向ヒ前進セシメ中隊長ハ同地ニ向ヒ先行シ来ルヘシ

三、予ハ午前九時迄ニ不入斗練兵場ニ到リ第二中隊長ノ来着ヲ待ツ
第二中隊長ハ不入斗練兵場ニ急行シ同地ニ於テ大隊長ニ會スルヤ左記大隊命令ヲ口達セラル

状況第六　（於不入斗練兵場）

大隊命令

一、敵陣地ハ津久井ヨリ富士山、岩戸、小矢ヶ谷戸、池田、根岸、蛇沼、大津ニ亘リ堅固ニ設備セラレ武山、風早西側高地、根岸西側高地ニモ稍々堅固ナル工事ヲ認ム
峰、最寶寺北側、八幡、荒巻、小原附近ヨリ屢々敵砲兵ノ射撃セルモノアリ
三浦兵団ハ其第一線ヲ以テ林村南端、芝崎、大善寺、神金、山崎南端ニ亘ル線ヲ占メ近ク敵ノ第一線部隊ト對峙シツツ攻撃準備中ナリ兵団ノ企図ハ明二十五日払暁迄ニ高円坊、北武、満昌寺、林込ニ亘ル線ヲ占領シ両師団ノ作戦地境ヲ逗子停車場――本古庄――寶塔――林川入江ノ線ニ定メ明払暁ヨリ本古城墟――岩戸――久里浜方向ニ對シ主攻ヲ開始スルニ在リ

二、大隊ハ速カニ陣地ヲ占領シ兵団ノ攻撃ヲ援助セントス

三、第二中隊ハ現在地ニ陣地ヲ占領シ明二十五日払暁迄ニ射撃準備ヲ完成スヘシ
第一中隊ハ谷戸ニ、第三中隊ハ堀越ニ陣地ヲ占領セシム

四、第二中隊ノ戦闘区域ハ岩戸――最寶寺ノ線以北ニシテ富士山　太郎崎――矢津坂ノ線以東トス
又所要ニ應シ猿島以南（東）ノ海面ニ近迫現出シテ兵団ノ攻撃ヲ妨害スヘキ敵艦船ヲ射撃シ得ル如ク準備スヘシ

五、宿営地及糧秣ノ分配ハ泥兵営附近トシ配宿区域及分配時期ニ関シテハ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

後刻大隊副官ヲシテ指示セシム

六、其他ノ事項ハ後刻、追報ス

七、予ハ今ヨリ衣笠城墟ノ大隊観測所ニ到ル

三浦兵団司令部モ同地附近ニ在リ

ダーダネルノ戦闘（第四）（完）

昭和四年六月

研究部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十八、英軍ノ退却

英軍ノ「ガリポリ」ヨリ撤退セシ顛末ハ頗ル研究上有益ナルコトナレハ茲ニ多少徹底的ニ之ヲ述ヘタシ一九一五年七月初メ英佛統帥部ハ協定ノ上近ク西部戰場ノ大攻勢ヲ抛棄スルコトトセリ是故ニ英國ノ新編成軍タル所謂「キッチナー」軍ハ別ノ目的ニ使用スルコトトナリ倫敦ノ内閣ハ政治上軍事上「ダーダネル」戰鬪ヲ有利ニ實施セラルルモノト見テ新鋭ノ五ケ師團ヲ「ハミルトン」將軍ノ麾下ニ送派セリ八月英軍司令官ハ此兵ヲ以テ「アナフオルタ」及「サリ、ベール」ヲ攻擊セリ此企圖カ八月末ニ明ラカニナリ失敗スルヤ巴里ニテハ「ダーダネル」ヘ出師ノ價値ヲ輕視スルニ至ル七月初ノ態度トハ打ッテ變リ佛軍統帥部ハ八月後半期ニハ秋ニナリテ共同的大攻擊ヲ行ヒ「ルース」及「シャンパン」ノ獨逸ノ正面ニ攻擊セシメ突破スヘシト主張セリ此提議ハ英軍統帥部ノ拒避スル能ハス從テ凡ソ使ヘル兵力ハ此新計畫ニ充テルコトトレ「ダーダネル」ニ

關シテハ何等問ハルル所ナカリキ、サレハ八月十六日「ハミルトン」カ更ニ増援軍ヲ送レトノ提議ハ拒絶スル旨ノ答ヲ發表セリ。十四日ヨリ終タル後ノ形勢ノ變化ハ愕然タルモノアリタルヲ記憶セヨ、安ンゾ知ラン「ダーダネル」戰ノ明白ナル反對者タリシ佛蘭西ハ九月初メ主動者トナリ六ケ師團タケテ停滯セル攻撃ヲ復興センカタメ亞細亞岸ニ新鋭ノ大々的上陸ヲ行ハシムヘシト提唱セリ是ニ於テカ「セツド、ウル、バール」ニ配備セル英佛軍各二ケ師團ヲ交代セシムヘシト發議セリ倫敦テハ佛ノ此動機ニ驚目セシカ直ナニ佛蘭西ノ希求ヲ承諾シ「ダーダネル」ニ新タニ派スヘキ兵ノ海上輸送ハ十月初メニ行フコトトセリ然レトモ既ニ九月末ニハ「セルビヤ」ノ動員ノタメ形勢全ク一新スルニ至リ聯合國ハ忽チニシテ屢々怖レラレイツモ延期セラレシ中歐列強ヲ「セルビヤ」ニ對スル攻撃カ今ヤ實現セラルヘキヲ疑ハサリキ、コノ場合勃牙利カ獨墺側ニ左袒スルコトモ明ラカニ相像セラレタリ果シテ勃牙利ノ動員カ完成セハ「セルビヤ」ハ直ナニ西部列國ニ援ヲ求メ希臘ヲ誘フテ「セルビヤ」ヲ急ギ援ケシメントスルヤ必セリ當時希臘ハ佛蘭西カ求メテモ之ヲ援ハス然カモ「サロニカ」ニ上陸シテ「セルビヤ」ヲ援助スルカ如キコト無カリキコノ計畫ハ先ツ第一ニ英軍カ断々乎トシテ拒否セリ英内閣ハ多数決ヲ以テ六ケ師團ノ新軍ヲ「ダーダネル」ニ派遣スヘシトノ意見ヲ有セリ然ルニ佛國統帥部ハ少シテモ現ニ輸送中ノ軍ヲ「サロニカ」ニ赴カシメント主張シテ動カス「ジョッフル」將軍ハ遂ニ此爭點ヲ議會ノ問題ニ附シ若シ英國カ「サロニカ」ニ於テ協同一致ノ行動ヲトラサルトキハ辭職セント威嚇セリ。然レトモ英國内閣ハ事情澗決シテ佛蘭西ノ言ヲ承知スル能ハス遂ニ佛蘭西參謀總長ノ最後通牒ニ屈從スルニ至レリ

斯クテ「ダーダネル」戰鬪ノ運命ハ決定セラレタリ八月末「ガリポリ」ニ上陸シ新鋭強力ナル兵軍ヲ以テ新タナル攻撃ヲナスヘカリシ戰略的企圖ノ實現ハ今ヤソレ以上ノ手段モ講スル能ハス又講セントハセスシテ放

早ヤ行ハサルコトトナレリ是ニ於テ今ヤ既ニ得タル陣地ヲ固守スルカ之ヲ拋棄スヘキカ二途其一ヲ選フヘキ眼目トナレリ二者何レヲ選フヤハ余リ理論上自由ナルコトナリキ狭長ナル地帯ノ占領ハ土耳古ノ砲力頗ル劣勢ナルタメ大ナル死傷ヲ伴フヘク土耳古ノ正面ニ新式重砲ノ射撃ヲ食ヘハ全ク支ヘ切レス射撃シテ海上ニ駆逐スルコトモ譬令損失ヲ蒙ルモ自ラ進ンテ退却スルコトモ兩者共ニ成シ得ルコトナレハ寧ロ退却シタル方カ害少ナキコト勿論ナリ

倫敦ニ於テハ此無慘ナル歸結ニ逢セシムルヲ憚リ公々然ト「退却」ナル語ヲ吐クコトヲ嫌フハ理ノ當然ナリ宜ナル哉當局ハコノ退却ヲ決意スルニ滿二ヶ月ヲ費セリ英國民ノ自負心カヲ見レハ戰爭ノ初メヨリ高ノ知レタ小童同様ニ輕蔑シ居タル土耳古軍ヲ眼前ニ殘シ無條件ニテ退却スルコトハ取リモ直サス獨逸ノ指揮用兵ノ成功ヲ認メル譯ニテ英國ノ苦キ藥ナリシナラン然レトモ英國内閣カ幾度モ迷ヒツツ遂ニ決意スルニ至リシハ多感ナル印象ニヨリシニハアラスシテ現實ノ熟慮ノ結果然リシモノナリ英軍カ「ガリポリ」ヲ退却スルト云フコトハ畢竟スルニ大抵英國ノ支配セシ回々教國ヲ解放シ時ト場合ニ依リテハ英國殖民地ニ大々的公々然タル叛亂ノ起ル兆徴ナリトス加之豫見上退却ニハ重大ナル有形ノ損失ヲ伴フコトヲ虞レタリ故ニ英國内閣ハ此重大ナル問題ニ對シ英國人カ常ニ發揮スル實行性ト政治上特有ノ決斷力ヲ自負シタルモノニシテ後日此政府ノ意見ニ對シテハ見ス／＼成功ヲ取逃カシタルモノトシテ非難カ出ナシカ多少肯綮ニ値スルモノト云フヘシ

十月初メニ至リヘ退却ノ悲劇ノ序幕トシテ英軍ノ「ダーダネル」司令官ニ宛テ二ヶ師團ヲ「サロニカ」ニ赴カシムヘシトノ命令下レリ十月十二日「ロード、キッチナー」ハ「ハミルトン」將軍ニ照會ヲ發シ「ダーダネル」ヲ退却スレハ幾何ノ損失ヲ招クヤト問ヘリ「ハミルトン」ハ之ニ對シ此照會ハ明ラカニ退却ヲ決意セルモノトシテ異議ヲ申立テタリ「ハミルト

ハロ

ン」英軍司令官ハ、退却ハ予ノ考ヘ得ヘカラサルコトナリ若シ撤退トセハ
軍ト材料ノ半分ノ損失アルヘシト答ヘシトコロ、本國ニ召還サレタリ「ハ
ミルトン」ノ後任者「モンロー」将軍ハ反對ノ意見ヲ持セリ彼ハ斷乎ト
シテ「ガリポリ」ヨリノ撤退ヲ主唱セリ然レトモ是カ爲ニハ「ハミルト
ン」ト同様ニ豫想上ノ損失ハ甚大ニシテ兵員ノ約三乃至四割ニ及フヘシ
ト思料セリ、「モンロー」ノ此報告モ倫敦ニ於ケル當局ノ鼻ヲ蹙メ縮セシメ
「ロード、キッチナー」ハ是レカ爲メ親シク「ガリポリ」ニ赴キ自ラ判斷
ヲ下サントスルニ至レリ「キッチナー」ハ[illegible]十一月九日及ヒ其翌日
ノ状況ヲ徹底的ニ吟味シ海陸何レノ攻撃ニモセヨ之ヲ絶對ニ持續スヘキ
ヤ又新ニ起スヘキヤヲ闡明ニシ少クトモ多少陣地ノ撤退ニ關シテモ意見
ヲ吐露セネハナラスト思ヘリ「キッチナー」ハ秋ノ暴風ニ荒レ狂フ海ノ
巨浪ヲ終日上陸不可能ナリシ上陸地テ眺メ連日ノ雨ニ塹壕ノ破壊セラレ
ツツアルヲ實見シ深キ防禦設備ニ洪水カ氾濫シテ塹壕員ノ膝カ水ニ没ス

ニナク撃セリ然ハ陣地ヲ遮蔽シ、ハ不然看觀官ノ吸ヲ聞キテ益々味方ノ
各陣地カ弱クシテ且古陣地ノ總テカ敵ノコトヲ痛感セリ更ニ向フ所即チ彼
ハ肉眼及望遠鏡ニテ四方ヲ見渡スヘ天険ノ要塞カ「ガリポリ」ノ山々俯
ヘ深キ塹壕網ハ全部土耳古ノ有トナリ最前線　彼方數基米ハ海ナルコト
ヲ知レリ
聰明ニシテ衛生ヘ令シテ英國將軍ハ六ケ月七眞聞ヒリナシ氏武意ノ此戦斗ノ
如上ノ結果ヲ望ニ痛感セリ獨立軍隊ノ減員ヲ隊ノ射撃ヨリモ赤痢病ニ原
因スルコトハ大ナルヲ聞キ彼ハ氣温ノ變化ノ結果ヲ無限ニ逸消セリ從來陣
地戦ニ於テ既ニ甚シク損失ヲ蒙リシコトヨリ考ヘ敢シテ撤退ノ際ニ於ケル彼カ
米旨シ土耳古ノ砲撃方便銃トナリタランニハ幾何ノ死傷者ヲ出スヘキヤ懸
念セサルヲ得サリキ然ク故ニ勘クニシテ戦術上不利ナル陣地ニ軍ヲ長ク
ニナシ置クコトハ最早ヤ考ヘタ所ト與ミシ難キ所ト感スルニ至レリ
十一月二十二日「キッチナー」卿ハ「アナフオルタ」及「アリブルヌ」ハ

地帯ノ撤退ヲ聲明セリ然レトモ「セツド、ウル、バール」ハ海軍ノ前進基地
地トシテ必要ナルタメ固守スルコトヲ希望セリ
然レトモ十一月末日及十二月八日新タナル米決定ノ地點ヲ攻撃シ得ヘク
配スルタメ増援軍ヲ派ヘ、ノ「ゲーゼホル」戦ヲ越ヘリ斗ヒ敵ハ ソ
ノ動機ハ艦隊司令長官ノ更迭ニ関シ艦隊新司令官ハ「ガリポリ」 ノ
拋棄ニ就テハ毫モ考ヘス会戦前司令長官ト異リ艦隊ガ新ニ又 殺ノ
絶對有望ナリト思惟セリ十二月六日「キツナナー」ハ又い、や、「ゼンロ
ー」將軍ハ、貴官ハ新ニ四個師團アレハ陣地ヲ恢復シテ 敵
勢ナル攻撃ニ對シ有效ニ固守シ得ルヤト問ヘリ答ヘハ否定的ニヒラシレ
トキ予ハ役ケラレタリ十二月八日「ゼンロー」將軍ニ「スルバ」「ペア
リブル」又「地帯ノ撤退準備ヲナセトノ命令下レリ越ヘテ二十八日「エル
テ、テペ」ヲ占領セサレハ岬ヲ固守スルコト不可能ト認メシタメ「セツ
ド、ウル、バール」ノ撤退命令ヲ下シリ

以上ノ英軍側ニ於ケル出来事ハ勿論土耳古第五軍ニハ少シモワカラサリ
キ大シニモ拘ラス「退却」ナル語ハ恰モ離レス戦略的戦術的形勢ヨリ見
ルニ退却ノ可能性明白ナリキ加之矢継早ニ「ガリポリ」ヨリ「サロニカ」
ニ澤山ノ英軍カ輸送サルトノ報来レリ然レトモ確實ナル支撐點ヲ得ル見
込ハ毫モ無カリキ實際非常ニ重要ニシテ幾千ノ人命ニ係ハル軍事上ノ決
断資料ノ基礎トナルカ如キ情報ハ其出處ノ多少疑ハシキ程度ノモノテモ
コレ無カリキ、正面ヨリ捜索ノ結果得ル消息ニヨリ知察スルヨリ外ナカリ
キ夜ナ夜ナ潜行斥候又候敵哨ハ敵線ニ闖入シ更ニ大々的ニ斥候計画モ實
行セラレタリ然シ其齎ラス報ハ何時モ聞キ慣ルル爆壊ノ警報彼方此方爆壊ヤ
背面地帯ノ火影夜ノ閑ソルト共ニ漸次消滅スル普通ノ戦闘行為ニ関スル
モノニ過キス終日肉眼望遠鏡、双眼鏡テ何カ敵情ニ変化ナキカ（秘密ノ撤収準備ナキカ）発見アラハ
スタメ各地部ヲ監視セリ飛行機ハ對飛行機防禦ノ強メラルル中ヲ敵陣地
ノ上空ヲ飛行シ低空ヨリ目ニ映スル總テノモノヲ捜察セリ亜細亜海岸ヘハ
ニ

於テモ益々「セツドウル、バール」ニ對シテ監視勤務ヲ切ニシ極力早ク[illegible]
岬ノ上陸地ニ於テ敵ノ退却ノ兆候ナキヤヲ視察セリ如上總テノ斥候手段
ヲ講シタルニ拘ラス英軍カ決定的行爲ヲ用意セル徵候ハ少シモ得ザリキ、
吾人ハ高地ノ峯ニアル觀測所ト戰鬪指揮台ヨリ敵カ數ケ月見慣レシ光景
ニ何等ノ變モ來サス演スルヲ見タルノミ海上ノ状態ハ常ノ如ク「モニトー
ル」艦ヤ水雷艇カ「スルバ」灣内ニ徐航シ數隻ノ軍艦カ上陸地ノ沖ニ
ニ碇泊シ其遠近ニ運送船カ碇泊シ、一定數ノ短艇カ此間ヲ往復シ正ニ普通
ノ光景ニ過キザリキ上陸地點ハ從來ノ如ク盛ンニ活動カ行ハレ車輛カ往
キツ戻リツシ彼方地帶ニハ少部隊カ交代シ、病傷者運搬車カ[illegible]ニ着ル
ヲ正面ニ運行スルヲ見タリ砲ノ陣地ハ全部守備兵ヲ置キ而シテ[illegible]
裝塡射擊カ稀ニ行ハレ陣地ヨリ往々只少數ノ砲カ射擊シテモ全ク戰技中
ニ往々見ラルル光景ニ過キサリキ砲ノ活動モ射彈數ト變ラサル[illegible]
少ナルモノナリキ

十二月十九日晩ハイツモノ如ク十備ヘ彼ノ射擊ヲナシ正面ニ於ケル射擊
ハ晩夜中ニ漸次消滅シ只可ナリノ時隔ヲ置キテ手投榴彈ノ音、鐵砲ノ響、
小銃彈ノ音カ夜ノ靜ケサヲ破ルノミナリキ天ハ雲暗澹トシテ蔽ヒ爲メニ
月光ハ殆ククラス塹壕内ハ寂トシテ聲ナク前地ヲ監視スル哨兵ノ外總員
寢ニ就ケリ然ルニ午前三時半頃大爆音カ突如トシテ天ヲ壓セリ「アナフォ
ルタ」頂及北軍ノ就眠者ハ愕然トシテ起キ上リ危險ハ迫リ敵ノ夜間奇襲
ナラスヤト考ヘタリ然ルニ東ニ外ハ乍ト萬象靜ニナリ敵カ單ニ地雷ノ大
爆破ヲ行ヒシモノノ如シ塹壕衞兵ハ直チニ尚震動シテ烟立ツ地ヲ見廻ハ
サント躊躇セリ彼等ハ[illegible]ニ射擊サレルコトナク勇ヲ鼓シテ進ミ敵ノ
塹壕内ニ入リシカ英軍ハ一人モ在ラス……コレ却ミ只事ニハアラス、衛兵
ハ直ニ直上士官ニ旨ヲ報シ司令部ニハ警報電話[illegible]響ヲ鳴セリ
本部ヨリ命令ノ下ラザル内ニ早クモ兵ハ自然的ニイクラカ進出セリ電光
石火ノ如ク速カニ長キ全正面ニ對シ英軍カ退却シタルラシトノ通報ヲ發

セリ数分間ニシテ敵ヲ発見後土耳古砲兵ハ上陸地及海岸線ヲ猛射セリ此
處彼處海濱ヨリ雲霧ニ閉ササレテ見難キ夜ノ闇ヲ貫キ赤キ火影カ閃メケ
リ英抑々何ソ〆英恐ラクハ退却ニ関スル火影ニハアラスシテ新タナル上
陸ニ関スルモノニアラサルナキカ前正面カ前進スル迄ハ命令〆ヲ前令
取消命令ヤラテ混雑シ貴重ナル時間ヲ浪費セリ土地ヲ占領シテモ猶ホト
シテ得タルニ過キス分裂地及海岸ニ至ル急斜面ノ敵ノ陣地ニヨリ土耳古正
面ノ両翼ヘカケテ烟煙、暗夜混乱起リ戦闘起レリ然モ中央、草岡地ニ於テモ
又暫ラクアリテ「スルバ」湾ノ平地ニモ性急ニ塹壕ヲ占領セントアセル
割ニハ急ニ前進セサリキ遂ニ自由ナル地ヲ得ツトシテ成ルヘク踏ミ込ミ太キ鐵
條網ニ會シ踏ミ地雷現ハレ混乱ト死傷ヲ招来セリ海岸ニ向フ 見ユル火影
ハ方向ヲ明示セサリシタメ尚道ヲ踏ミ迷ヘリ海岸ニ近ツカンニツレ海上ノ
敵ノ砲火ハ益々猛烈トナリ多数ノ死傷者ヲ出シ幾度モ停止セリ海岸ニ達
セシ一ヶニハ既ニ敵ノ最後ノ短艇ハ陸ヲ離レテ海上ヲ走レリ

拂暁ニ至リ初メテ形勢ハ稍々明瞭トナレリ敵ノ艦隊モ影ヲ消シ敵艦ノ逃
亡中只一隻ノ巡洋艦カ踏止リテ「アリブルタ」沖ニ見張リヲナシ海岸ト
吾軍カ油断スル間ニ砲撃シテ威嚇セリ夜中前進攻撃ノ道ニシルヘトナリレ
海岸ノ有力ナル火ハ或ハ棄滅シ或ハ消失セリ此火ハ土軍ノ拾ヒ所トナラ
セヌタメ英軍カ放火シタルカ澤山貯蔵セシモノノ如シ然レトモ捕獲品モ
仲々澤山ニ得ラレ敵ノ塹壕及彼方地帯ニハ幾多貴重ナルモノヲ発見シ又
ハ採掘シ海岸テハ艀船特ニ大抵ハ短艇ヲ捕獲シ中ニハ汽船モ若干隻抛棄
シアリタリコノ汽船ハ最後ノ日ニ砲火ノタメ破損シ或ハ其他ノ海損ノタ
メ曳航シ難キ状態ニナリ居タリ英軍ハ軽便鉄道、電話器、工兵具、治療器械
等モ澤山抛棄セリ土軍ハ之ヲ善用スルヲ得タリ更ニ山ナス糧食ト罐詰食
品ヲ得タルハ好都合ニシテ土軍ノ経費欠乏セル折柄トテ大ニ利益ナリキ
只豚肉罐詰タケハ見當ラス更ニ貴重ナル捕獲物ハ大幕営ナリシカコレハ
最後マテ假装ノママノモノナリキ砲ノ捕獲数ハ極メテ少ク英軍ハ歩兵ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

外砲モ悉ク船ニ載セ終ルニ至ラス又砲ガ六十二門ハ我大軍ノ手ニ歸セシノミ
歩兵銃及彈丸ハ拋棄セル塹壕ト廠内ニ夥シク殘サレ吾軍ノ發見スル所トナ
レリ

十二月二十日第五軍ノ意氣軒昂ナリキ將卒トモ歡喜ニ滿チ苦シキ塹壕ト
カ掩蔽部ヨリ外ニ出テ倚等ノ指示ヲ受クルコトナク然ニ打動シ得ル日ノ來リシ
ヲ打喜ヘリ敵軍陣地ノ築城結構ヲ見テ驚愕嘆賞セリ陣地築城術ニ關シテ
ハ英軍ハ賞歎スヘキ敵ナルヲ示セリ即チ英軍ハ天然的ニ非常ニ悪キ陣地
ヲ實地向キニ度々驚嘆スヘキ方法ヲ講シテ土手占ノ火力ヲ發キ安全ニ最
前線近ノ塹壕ニ滯留シ得タル跡ハ明ラカニ讀取ルヲ得タリコレハ英軍固
有ノ實地活動ノ功モアレト全世界ヨリ材料ノ供給ヲ受ケテ豐富ナリシニ
原因セサルヘカラス是ニ於テカ若第五軍カ英軍ト同樣ニ陣地ノ築城材料
カ十分ニアリ陣地戰ニ用ヒ得タランニハトノ念ヲ甚タ[illegible]セサル能ハス
然ルニ幾多ノ形勢モ幾多ノ戰鬪モ全ク之ト正反對ノ結果ヲ生メリ

軍司令官ハ常ニ愉快カリシコソスレ兵士ノ如ク不贊成ニテハ非サリキ其結
果ヲ打算セサリシナリケハソレダケ大成功ヲ賞セリ然レトモコノ指揮官ノ愉
快ノ内ニハ敵カ大損害ヲ伴ヒツツ退却シタルハ成功ニアラサリシトイフ
憐愍ノ情ヲ混ユルモノナリ若夫其目的トセシ戰略的敵軍紀士氣上ノ成果
ノ外ニソレ以上ノ戰術的成果即チ退却セル敵軍ノ精鋭部ヲ俘虜ニシ砲ヲ
捕獲セシコトニ想到スレハ十二月二十日ノ決議カ如何ニ愉快ナリシカ！
之ト同樣成功ヲ「セッド、ウル、バール」ニモ及ボスヘリ「フオン、リマン」
將軍ハ全力ヲ注ケリ「セッド、ウル、バール」ニテハ敵ハ無事ニ逃走スル能ハ
サリキ、
此處ニモ英軍カ退却ノ計畫ヲ抱キシヤ如何ハ相像シ得タルコトナリ多數
ノ人々ハ之ニ對シ大英國ハ「セッド、ウル、バール」ニテ第二ノ「ヂブラル
タール」ヲ再現スヘシト考ヘタリ、「セッド、ウル、バール」ハ英領ニシテ此處
ト黑海トノ世界經濟ノ交通ハ英國ノ支配ニ屬セリ然ルニ「ガリポリ」ハ五兩

岬ヲ持久的ニ固守スヘキ軍事上ノ前提ハ「エルチ、テペ」ノ占領ナリキコ
ノ前提ハ從來充タサレス又形勢次第テ最早充タシ得サルヲ以テ「フオン、
リマン」將軍ハ此處テモ早晩退却カ起ルモノト思料セリ故ニ退却ノ第一
兆候ヲ見テ攻撃スル為敵ノ方策ヲ準備セリ四箇師團ヲ配備セル正面ノ後
方ニ大部隊（八ケ師團）ヲ準備セリ最前線ニ依橋ヲ備ヘテ敵ノ障碍物ト
塹壕ヲモ突破シテ砲ヲ移動シ得ル如クセリ最モ有利ナル攻撃時機如何ト
イフニ退却カ既ニ行ハレツツアリ敵ノ部隊及材料ノ一部モ既ニ撤退セル
時コレナリ而シテ尚陣地ニ存スル部分ハ艦隊ノ支援ニモセヨ最早ヤ支援
ヲ仰ク譯ニハユカス只困難ナルハ此時機ヲ見定ムルコトニ在リキ最後ノ
敵正面ノ長サハ六基米ニシテ其兩翼ハ敵艦隊ノ支配セル海ヲ掩護物トセ
リ故ニ此正面ヨリモ後方ニ突出セルモノヲ側面ヨリ窺知スルコト能ハサ
リキ實際亜細亜海岸ハ側方觀測所トナリシモ距離過大ニシテ双眼鏡テ觀
測シテ得タル結果ハ斥候ノ近接偵察ヲナス能ハサリヤ斯カル場合ニハ空
中偵察カ抜群ノ效力アレトモ之カタメニハ空中ヲ支配スルコトヲ前提ト
セサルヘカラス英軍ハ材料ノ装備ニ關スル總テノ方面ニ於テ非常ナル優
越ヲ維持シタルカ空中偵察ノ方面亦然リ土耳古軍ノ飛行機ハ少數ナリシ
ニ英軍ハ最新式飛行機六十機佛軍同シク二十機ヲ使用セリ勿論敵ハ退却
當日ハ土耳古ノ飛行機偵察ヲ妨ケントシ其飛行機隊ハ特ニ強勢ナリキ
數分間ハ敵ノ飛行機現ハレシニ對シ吾カ飛行機ト對戦セリ次ニ長キ夜中
ニ退却ノ時機ヲ確認スルコトカ土軍ニトリテ困難ナリシコトナリキ敵ハ毎
夜十二時間宛活動シ上陸地ニ於ケル大活動ヲ示ス痕跡ヲ綺麗ニ拭ヒ去リ
人知レス準備ヲナセリ

残ル一法ハ夜中敵ノ正面ヲ斥候テ探知スルニアリキ此點ニカケテハ土軍
ハ克ク準備セリ特ニ正面師團テハ盛ンニ斥候ヲ派セリ殊ニ南軍ノ斥候勢
状ノ如キハ見事ナルモノナリキ「フオン、リマン」將軍ハ敵ヲ困憊セシム
ルタメニ射撃速度ヲ増スコトヲ命シ尚カ為十二月二十日ニモ南軍ニ從來

ノ北軍及「アナフオルタ」軍ヨリ砲兵中隊多数ヲ送レリ特ニ獨逸ノ「レーマン」大尉ノ指揮スル野砲隊ハ夜中「ソム、カーレ」ノ最外岬マデ進出シ「セッド、ウル、バール」ノ敵ノ上陸地ヲ砲撃セリ其他亞細亞岸ノ砲台モ此時迄ニ初メテ獨逸ヨリ弾薬ヲ供給セラレ弾薬ヲ節約スルニ及ハストノ命令ヲ受ケタリコノ弾薬ノ破裂效力ハ優勢ナリシタメ敵ニ大死傷ヲ招致セリ

一月一日「フオン、リマン」将軍ハ親シク「ソム、カーレ」ニ赴キ此家屋ナル観測所ニテ敵情ヲ知ルコトニ努メタリ然レトモ英軍ノ退却ノ徴候ヲ確認スルコト能ハサリキ一月七日司令官ハ敵ノ最外右翼ニ対シ局部攻撃ヲ行フ様命令シ此強制的偵察ニ依リ敵ノ最前線ニ猶相当多数ノ守備兵アルヤヲ確カムルコトトセリ第五軍ハ二時間ノ射撃ヲ行ヒ敵カ力ヲ殺サレスシテ南岬ニアルコトヲ確知セリ

一月八日ハ比較的平安ニ経過キタリ「エルチ、テペ」及其他観測所ヨリ砲兵カ観測セシモ何等異常ノコトナカリキ正面ヨリモ夕刻報告アリシモ其内容ハ普通ナリキ暮隊ハ後方ヨリ普通ノ戦闘警報ヲキクノミニテ夜ト共ニ滅シ子ノ刻頃イツモノ様ニ彼我両軍トモ全ク射撃ヲナササルニ至リ南風著ク起リ久シク安静状態トナリ前地ニ在ル守兵ハ何等ノ報告ヲモ齎ラサス夜中常諸條モ無為ニ夜ヲ更カセリ

午前四時遠方ヨリ多数ノ爆発ノ音カ聞エソレリ再ヒ闇ノ空ハ海岸ノ大火ノ反射ニテ赤クナレリ直チニ土耳古ノ監視哨兵ハ起チ光弾高ク登リシニ対シ直接上陸地ヲ盛ンニ射撃セリ此處モ歩兵ノ前進ハ多数ノ深キ塹壕ニ妨ケラレ又兵間ニ總テノ間隙ハ両班斥騎兵ニ閉サレシ又地雷ヤ自動信管ニテ妨ケラレツツリ歩兵カ大急キテ初メテ上陸地ニ達シタルトキハ既ニ英軍ノ最後ノ撤退カスミテ安全ナリシ時ナリキミノ時暗中敵艦ノ砲火カ普ク発射セラレ獨逸潜水艦ハ兵ニテラ哉セシ実證「プリンス、ゲオルグ」ヲ襲撃セシカ魚雷ヲ発射スルニ至ラス英艦隊司令長官ハ砲撃ヲ中止スル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

コトヲ命シ艦ハ「ムドロス」湾ヨリ安全ニ退却セリ
「セッドゥル、バール」ノ戦利品ハ「アリブルヌ」及「スルバ」湾ノソレヨリモ多数ニ上リ各種ノ戦闘器材ヲ得タリ其ノ一部ハ「コンスタンチノープル」ヲ経テ他ノ正面ニ利用セラレタリ撤退セシ被服ハ第五軍ニ於テ使用セリ砲ハ砲身ヲ爆破セルモノ二十一門ヲ抛棄シテアリ
一月八日ヨリ九日ニ亘ル夜中ノ「セッドゥル、バール」ノ退却ヲ以テ戦闘ノ終幕ハ大團圓トナレリ「ガリポリ」ノ戦闘ハ終リヲ告ケヌ然レトモ此戦記ハ英軍カ損害ヲ受ケスシテ退却セル驚異スヘキ結果ヲ齎ラセシ理由ヲ茲ニ開陳セサレハ完全トハ謂ヒ難シ
斯クノ如キ作戦ハ頗ル至難ノ業ナリキ是英軍カ全正面ニ對シ各處ニ最大五百米ヲ距ツル通話距離ニ見張兵ヲ配セシコトヲ考フレハ判ルコトナリ英軍ノ全占領地、特ニ上陸地點ノ占領地ハ何レモ高位置ニアル土耳古軍地ヨリ通視サレ土耳古砲ノ射界内ニアリタリ此土軍ノ監視裡ニ成算ハ幾千ノ兵ト無数ノ材料ヲ運送スルヲ要セリコレニハ不定困難ナル要素トシテ天候、風、波浪ノ如何ニ左右セラレサルヲ得ス南岬トノ陸上交通ハ同所ノ地方風タル南暴風及南西暴風ノタメニ能ハス斯ノ如クシテ海岸ニハ波浪起ルコト往々ナリキ、「アリブルヌ」ニ於テモ北西風起リ「スルバ」湾モ南風起リテ如上ノ同シ状態ヲ生シタラハ退却ヲ開始シテモ軍隊ノ一部カ既ニ乗船シテカラモ暴風ノタメ終日乗船輸送ヲ續行スルヲ得サルヲ覚悟セサルヘカラス故ニ斯カル状態ニアリシ英軍ヲ土軍カ攻撃セシトキニ敵ハ人間モ材料モ大損失ヲ蒙ラサル理由ナカリキ
故ニ英軍サヘモ豫期セサリシカ如キ風ニ圓滑ニ然カモ死傷者ヲ出スコトナク退却ヲ行フニハ何ヨリモ先ツ好運ナル状態カ持續カサルヘカラス凡ソ幸不運ハ戦爭中勝敗ヲ岐ツ重大ナル要素ニシテ近距離ニアル敵ノ監視裡ニ戦術上不利ノ陣地ヨリ退却スルテフ至難ノ作戦行為ホトニ運不運ノ影響スルモノアラス實際退却ニ關シ英軍ハ其自白スル如ク幸運ニ甚シ

リ惑マレタルナリ十日間ニ亘ル「アリブルタ」及「スルバ」湾ノ退却中「セ
風ハ陸上ヨリ微風カソヨ吹クノミニテ海上恰モ鏡ノ如ク静カナリキ、「セ
ツド、ウル、バール」ニ於ケル乘船モ亦圓滑ニ行ハレタリ只一月八日及九日
ノ最終ニシテ大事ノ退却ノ夜タケ南風強ク吹ケリ時既ニ最後ノ兵ハ離陸
シ居タレハ海岸ニ於ケル激浪ノ危ニ會セスシテスメリ若シ二、三時間早ク
此南風カ起ラハ英軍ノ乘船ハ故障ヲ生シタルナラン｜次ニ他ノ幸運ナ
リシ副要素ハ長夜月明ナリシコト是レナリ上陸地點ヲ瞰射セシ折々ノ射
撃ノ奇襲ヲ受ケル外ハ海岸ニテ長ク徹夜休養ニ從事セスシテ容易ニ彼方
地ノ運動ヲナシ得タルコトハ月明ノ恩ノ御蔭ナリ又海洋ヲ支配セル英軍
ハ多數ノ艦船ヲ使用シタレハ各船ノ積込ミモ少量ニシテ退却スルヲ得從
ツテ比較的短時間ニ乘船軍ヲ收容シ得タル幸運状態ニアリタリ斯ノ如
クシテ北方海岸線ト「セッド、ウル、バール」ノ退却ハ一時ニ同時ニ收容セラ
サル様ニシテ聰明ニ行ハレタリ英軍カ会戰闘ヲ避ケテ戰術的ニ全ク不利

ミリシコトハ占領地域ノ深サカ少キニ依リタルカ是レハ結局英軍カ退却
スルニ切要ノ幸トナレリ特ニ最後ノ夜ノ如キハ英軍ハ無損害ニ速カニ乘
船場ニ到着スルヲ得タルハ此占領地域ノ深サカ少カリシニ因ル
然レトモ如上ノ状態ハ謂ハハ受動的ノモノナリコノ受動的状態ハ善用セ
サレハ何モナラス今英軍ノ統率作戦ヲ見ルニ彼等ノ状況ノ見方ト制御法
ハ真ニ理想的ニ行ハレタリ土耳古軍ニ對スル欺瞞法モ奇襲モ完全ニ成功
セリ巧妙細心ノ退却計画ハ英軍幕僚ノ手練ノ成果ニシテ嘆美措クヘカラ
サルモノナリ最後迄陣地生活ヲ普通ニ見セテ著シキ變化ヲ起サザリシコ
トモ認メサルヘカラス塹壕ノ燈光、燈火、少數縱列ノ往復、各砲台陣地ノ
守備（假令ヘ一門ノ砲アルトコロト雖）飛行機ノ出現、揚陸動作ノ欺瞞手
段等大小凡ユル手段ヲ講シ土耳古軍ノ眼ヲ巧妙ニ欺クコトニ努力セリ特
ニ成功シタル駈引トシテハ英軍カ十二月初メヨリハ殆ト深夜ノ射撃活動
ヲ中止スルヲ常トセシコトヲ擧クヘキナリサレハ早曉ノ沈靜ナリシコトハ

ハ異常ナルコトテモナリ又怪シキコトテモナカリシナリ要シテ土耳古ノ
守備カ怪シクシ突然トシテ捜索ニ當リ幾回モ塹壕内ノ兵數ヲ減メントセシ
原因ナリトス加之英軍ハ全作戰ノ重大ナル危機即チ前方陣地ノ放棄ノ撤
退ノ折ニ理想的ノ僥倖ヲ得タリ乗船ハ順次整然ト行ハレシタメ最終日ニ
ハ陸上ニ残リシモノトシテハ只最前線ノ守備兵全部ト混成隊及歩兵攻撃
ニ会シタルトキ之ヲ撃退スルニ足ル兵力ノミナリキ十二月十九日夜陸上ニ
ニ残リ居シ數ハ「アリブルヌ」カハ一萬八千人然ルニ「アナフオルタ」ハ
八千人一月八日夜「セツド・ウル・バール」ニ在リシモノハ一萬七千人ナリキ
此數ハ午後七時ノ算定高ナリ土耳古ノ前衛ハ攻撃ニ依リ英軍最前線ノ守
兵ヲ調ヘシトコロ其處ニハ最早土耳古軍ノ氣付カヌ内ニ英兵去リテ一人モ
残リ居ラサルコトヲ確メタリ勿論此澤山ノ塹壕守兵カ敵ニ氣付カレス又無ニ
退却セシハ彼等ノ特ニ重要ナル任務タラスンハアラス彼等ハ大間ニ少數
堡崩ヲ打ツテ引揚ケ騒音ヲ避クルタメ石地ニハ河藻ヲ敷キ路ニハ衣服

ニ巻キテ音ナカラセリ猶ホ陣地ニ残存セシ兵ハ例ノ普通ノ方法ニテ兵
依ルコトヲ注目スル如クセリ次ニ彼等ノ兵ハ予メ刻頃塹壕ノ發キヲ消スヘ
ヤ土耳古兵カ露モ怪シマサル如クナセリ彼等ノ最後隊カ退去スルニ當リ
塹壕内ヲ敵カ探測スル様ニナシオキ退路ハ暗夜標識ヲナシアリテ之ヲ辿
リテ急キ退却シ來リシ道ニハ豫メ用意セル鐵條網テ封鎖セリ海岸ニ
着スル最終ノ引揚部隊ハ豫メ待合セル短艇ニ駕シテ沖合ニ引揚ケタリ又
ニ海岸ニアリシ貯藏品及材料貯藏品ニ放火シ地雷ニ點火シ英等カ發火シ
テ爆發スル時分ニハ既ニ最後ノ「ボート」ハ海上ニ在リタリ
然ラハ何故コノ斯ク迄タル賞讃スヘキ英軍ノ退却ニ反シ土耳古軍ク少クト
モ特ニ夜後ニ引揚クル部隊ノ退却サヘ發見セサリシヤ土軍ハ午前四時頃
即チ實際英軍カ既ニ塹壕ヲ撤退シテヨリ二、三時間ヲ經タル時ニ於テ陣地
部隊ハ「アリブルヌ」ノ地雷ノ大爆發ト南岬ノ火焔ノ燃ヘ上リシトニヨ
リ初メテ感付ケリ斯クノ如クシテ土軍ハ痛切ニ敵ノ持續的監視ヲ義務ト

スヘキコトハ萬々承知シ居ラ戦闘搜索ニ失敗セリ事ノ為ニ至リシ所以ハ人間トシテ明白ナルコトナリ土軍ハ自ラ進ミ好ンテ回教徒ト強國ノ虎牙ヲ知リテ命ヲ鴻毛ノ輕キニ比セリ此至善ヲ守リ行ハムトスル人ノ念ハ彼等ヲシテ戦闘ニ困苦欠乏ニ疾病ニ克ク忍ハシメタリ際ニ敵ハ退却シテ殺戮ノ危險カ去リシ以上最早戦闘ハ至善ノタメニモ又戦勝ノ利ノタメニモ行ハレサルニ至レリ實ハ土耳古人ハ戦闘ニ對シ簡單ナル理解ヲ以テ當リ寧ロ無理解ニ對セリ何レニシテモ戦闘ノタメ生命ヲ賭スルコトハ考ヘサリシ故ニ彼等ハ個人的獻身ノ情減衰シ自己保存ノ本性ハ再ヒ現ハレ念々トシテ識ラス／＼卒ニハ箇月ノ長キ免レ得タル危險ニ身ヲ曝サヽランコトスルノ念ヲ起スニ至レリ實ニ土耳古人ノミナラス受レトシ同一ノ状態ノ現象ハ各戦場ニ於テ各國民ノ間ニモ起リシコトハ敢テ茲ニ贅セストモ可ナリ

十六、回想並結論

「ガーリポリ」ノ自由ルノ攻撃ハ各國ニ急キ報シ回レリ「アフガニスタン」山脈、波斯ノ都市白沙亜刺加ノ沙漠ニテモ恐キ響キ渡リ有リモ信徒ノ寄リ集ル處必ス観聲ヲアケタリ「コンスタンチノープル」ニ在リテハ熱狂ノ聲大波ノ如ク天ニ沖シ電飾燦然ト照明セラルル中ヲ旗旒ノ大波立テツツ街頭行列賑々シク行ハレ山ナス群衆ハ回教寺院ニ詣テ同日「勝利者」ト綽名セラレシ土耳古ノ「メーメッドレシャット」皇帝ノタメニ祈願セリ獨逸ノ未安都市ニ於テモ大喜ヒナリキ巴里、倫敦、「ペテルスブルグ」コソ聲シノ意氣鎖沈セシモ獨逸ノ都市ハ大ナル不安去リ人々胸ヲ撫テ下ロセリ

「ダーダネルス」戦争全般ノ起案者アリ戦闘中至大ノ責荷ヲ恐ヒシ英國ノ打撃ハ即座ニ最モ深刻ニ現ハレタリ茲ニ不思議ナルハ露國ナリ當時同國ハ絶對ニ獨墺ノ正面ニ束縛セラレ「ザーリ」皇帝國ノ運命ニヨリハル「ダーダネルス」ノ大戦ヲ雲烟過眼視セシ譯カリケラス英軍論散ニアリテハ委員

會ヲ作リ不快ナル商議ヲナシテ「ダーダネル」戰ノ失敗原因ヲ明瞭ニスルコトニ努メタリ此研究ノ結果ハ立派ナル書冊ニ文飾セラレ明徴ニコレガ失敗理由ヲ曝露セリ是等ノ理由ノ内ニハ過失モアレバ怠慢モアリ然レトモ土耳古軍ニモ矢張リ攻撃スヘキ幾多ノ缺點アリタリ特ニ斯ノ如キ困難ナル旅戰ニハ缺點ヲ生スルヤ避ケ難キコトナリ要スルニ土耳古ノ缺點トハ奈翁ノ謂ヘリシ如ク相手ヨリモ少キ缺點ヲナセルニ外ナラス

「ダーダネル」戰闘ニ對スル要求ハ攻防兩者トモ等シク裝備、器械、訓練ナル點ニ存セリ英軍ガ強敵ノ面前ニテ未知ノ地ニ上陸シ決定的戰術的地點ヲ利用遂ニ占領スル業ニ於テ困難トセシト同様ニ土耳古軍モ海上ニテ之ヲ滅ノ作戰ヲ失敗ニ歸セシムルハ容易ノ業ニハ非サリキ

サレハ「ダーダネル」戰ハ彼我兩軍トモニ統帥部モ軍隊モ最モ困難ナル作業タリシコト明カナリ然レトモ其實施ハ必要ナリシ兵器ニ關シテハ兩者ノ間ニ霄壤ノ差ヲ存セリ實ニ英軍トシテモ軍首脳部ガ必要ト認メ且要求セル兵數以上ニハ然ク中口徑及大口徑ノ榴彈砲及彈藥ノ不足ニ關スル不平滿々タリシハ無理モナキコトナリ然レトモ英軍カ土耳古軍ニ對シ戰ハザルヘカラザリシ困難トイフコトニ比スレハ如上ノ不足ノ如キハ物ノ數ナラス英軍ハ此征戰ニ適ニ單ニ大体見込ノアル困難サヘモ能ハサル程ニ重砲ト彈藥ヲ缺ケリ他ノ方面ニ於テモ土耳古軍ニ對シテ行フヘキ困難ナ策外ヘ策ニ遮ヘシ困難ヲモ想到セサルヘカラス實際英軍ハ濃密タル作戰根據地ナク狹長ナル戰闘地帶ニハ彼等ニ必要ナル水ハ造リテ供セラレス足非ナクシテ埃及ヨリ水槽汽船ニテ搬寄セルヨリ外ナカリキ然レトモ上陸軍ノ尻押シナシテハ世界各地ニ於ケル英領ト盡クルコトナキ資源カアリタルソ幸ナリ各兵ノ戰闘力ノ維持ハ無論ノコト其各個ノ安寧ニ資スルコトサヘモ供給セラレ得又供給セラレタリ斯樣ニシテ多大ナル給養、被服、裝具ヲ得、イクラテモ要求ハ満足セラレタリ然ルニ土耳古軍ノ尻押シハ如何。コレハ貧弱ニシテ民乏シク其同盟國トモ國際交通トモ杜絶セシ國

ナルヒ工ニ産業發達セス交通網モ未發達ナル状態ニアリタリ「コンスタンチ
ノープル」ニテ生産セラレ引渡サレ得シモノモ不十分ナリシカ故ニ「マル
モラ」海ヲ潜伏セル敵ノ潜水艦ノ犠牲トナリ失レリ六月末ニハ資力乏シ
カリシハカリテナク各軍隊トモニ將軍兵ニ對シ各方面ノ補給能率的良
好ナル物ヲ受理スルノ配慮ヲ欠如セリ滋養不十分ニシテ害毒ニナヤマサ
レ日光ノ灼熱ニ對シテ防護セス沙風、濕氣、寒氣ヲ防カス蝿ト最前線ニ
アリテ交代セラレス塹壕内ニアリシモ不平モ云ハス泣言モコホサス以テ忍耐
務ヲ盡セリ此重大ナル試錬ノ時ニ當リ土耳古人ト獨乙勤務ヲナサセシ者ハ
敵ヲシテ防禦トナル土耳古軍ヲ斷念セシメ林ノ如ク靜カナル沈黙ハ無限ノ
稱讃ト尊敬ヲ受クルニ足ルヘシ我カ軍ハ他國民カ誇ムル戦術的模範ハヨ
リ謙遜ニ總テヲ發揮セリ是レ内部ノ情緒ハ外ヨリ容易ニ得良シ得ヘカラス
ト雖モ何モ他國民ノ比肩シ得ヘカラサル所ナリトス何レニシテモ土耳
古兵ハ其特性ハヨリ材料ニ於テ優越ナル英軍ニ對峙シ得シ力ヲ證シ是レ

亦何論ナリトモ敵ノ材料ノ優越ニ對シテ補償スルヲ得サリシト雖其特性
ノ光輝ハ認メサルヘカラス

方今技術並材料戦ノ時代ナルモ精神的指揮ハ依然トシテ決定的影響ヲ軍ニ
及スモノタルヲ失ハス如何ニ材料ニ於テ甚シク優越ナリトモ正當ニ且ツ
懸念ナク之ヲ使用スルコトヲ知ラサレハ其效果全カラス軍用技術上兵事
ダケハ將來常ニ變遷セス指揮ハ器材ヲ有效ニ使用セシムルタメノモノニ
シテ古今ヲ通シテ勝敗ヲ決スヘ更ニ慧敏ナル情況判斷ヲナスモ過早ニ之カ
判斷ヲナササルカ危急ノ時機ニ際シ戦闘力カ挫折又ハ士氣カ消ルルトキ
ハ何モナラス

以上ノ見解ニ從ヒ前彼我兩軍ノ指揮統率ニ就テハ一言セサル能ハス後日英
軍ヨリ「ダーダネル」戦闘中ノ英軍ノ指揮ハ常ニ完全ナラサリキトノ批
評スラ出テタリ五月十八日ノ敗戦彼倫敦ニテモ「ダーダネル」沖ノ艦隊
司令長官ニモ兎角決断力ヲ欠キ直接海戦ノ継續責任ヲ負ハントハセサリ

ヤ當時ノ軍令部長「ヂヤーナル」ハ獨リテ攻撃ヲ續行セヨトノ意見ヲ持
シタリ八月末ニナリテモ同ヘノ状態アリキ「アナフオルタ」ノ新ナル大
攻撃カ失敗スルヤ英國内閣ハ新兵力ヲ以テ攻撃ヲ續行スルカ退却ヲナス
カ何レカニ決定セザルヘカラザル破目トナリシカ滿二ヶ月モ遷延遷延ト
果シナク討議ヤ軍事會議ヲ開キテ「ダーダネル」戰ヲ繼續スルカ斷念ス
ルカヲ議セシ結果大概リ何回モ決定ヲ延期セリ
斯カル不決斷ハ土耳古軍ニハ無カリキ土耳古ノ軍司令部ハ獨逸人ニシ
テ全國ノ全兵力ヲ「ダーダネル」ノ防禦ニ當テテ他ノ作戰ヲ二ノ次ノモ
ノトナセリ「エンベル」ハ意見ノ通ラザリシ場合ノ外常ニ成シ得ル限リ
第五軍ノ總テノ要求ニ即應シ「ダーダネル」防備軍ノ任務ヲ容易ナラシ
メタリ軍司令官亦然リ彼ハ如何ニ危急存亡ノ時機デモ死傷大ナルヘシト思
ハルルトキテモ目前ニ映スル戰闘ノタメ印象ニ捉カルルコトアリテモ必
ス休養ト腕賑ヲナセリ彼ハ味方ニ夥シキ死傷者ヲ出シタ方面ヨリ續々ノ

議會ヘ苦戰ノ軍ヲ退却セシメヨト諫言スルコトアリテモ中心ヲ亂スコト
ナク不屈不撓ノ堅確ナル意圖ヲ以テヘサト戰地ヲ退却セザリキ此鉄石ノ
精カアリタレハコソ勝ヘニ「ダーダネル」ト「コンスタンチノープル」
カ救ハレタルナリ是等カ救ハレタルハ現英國大藏大臣「チヤーナル」カ
其著「世界ノ危機」ニ發想セルカ如ク「ダーダネル」戰ノ初メヨリ土軍
ノ發揮シタル「強キ意志」ヘシテ決シテ材料ノ優越ニハアラス
更ニ英軍カ「ガリポリ」ヲ撤退セシ結果ニ就テ一言セン戰術上終局ノ結
果ハ土耳古軍ヲシテ退却軍ヲ殲滅シ又ハ之ニ少クトモ大損害ヲ及ス希望
ヲ滿タザリシメサリキ「ダーダネル」ヨリ退却セシ英軍ハ十分ニ戰備ヲ整
ヘテ他ノ作戰ニ用ヒラレタリ然レトモ土耳古及其同盟軍ノ得タル戰略的
並士氣上ノ結果ハ英軍ヨリモ大ナリテ最早「コンスタンチノープル」ト
シテハ怖ルルトコロナクナリ黒海ヨリスル心配モナクナリ蓋シ「ガリポ
リ」ノ戰闘ハ露西亞ヲ参加セシムルニ至ラサリシモ英軍カ「ダーダネル」

ヲ退却セル後ハ露西亜カ「ボスポラス」ニ對シテ特別戦闘行動ヲトラン
トスルモ見込モナケレハ又絶對ニ實現シ難キヲ以テナリ「ダーダネルス」ニ
必要ナル海岸防禦ノ外土耳古陸軍ハ解放サレテ他ノ目的ニ使用シ得ルコト
トナレリ「コーカサス」「メソポタミヤ」埃及、「ガリシヤ」ハ勿論土耳古
以外ノ「バルカン」半島テスラ今ヤ此自由ニナリシ土耳古軍ナクハ運河
ニハ任シ得サルニ至リ是等ノ地方ニ對シ土軍ニ守備上ノ要求ヲ措クニ至
レリ

然レトモ兩米印ヲ押シタ如ク決定的ニ露西亜ノ孤立セシコト及其限ナキ内
結果ハ最モ確定不變ノモノタリシカモ當時英國カ受リル危險ヲモ輕視ス
ヘカラサリシモノナリ此危險タルヤ各回教國ニ事變ヲ生シ由々シキ汎回教
ヲ生スルモノナリ然レトモ英國ハ東方ニ於テ強タタカニ備ケラレ汎回教
ヲ救援スルノ必要已ムヲ得ス爾來「シリア」並「イラン」地方ニ近リ
シ戦闘ニ益々多數ノ兵力ヲ使用スヘキモノト認メタリ我カ舊敵ノ率直ナ

ル自白ニ據レハ土耳古軍ハ（結果ハ「ダーダネルス」ニ於テ英佛聯合軍ヲ）蒲米シテ難ク又痛コトダノ聯合軍カ土耳古
ニ挑戦セラルルコトナリ佛露ノ正面ニ參戦シタランニハ頑強ニ戦シ獨墺
軍ノ作戦ヲ可ナリ難澁ナラシメシニ相違ナシトイヘリ夫タケ「ダーダネルス」
ノ戦勝的戦果ハ西部並東歐戦場ノ決戦ニ迄モ響ナキ及ホセルナリ
一九一六年一月最初ノ「バルカン」軍カ旗ニ飾ラレシ都市又中歐各停車場
ヲ過キテ土耳古ニ凱旋シ勝ナヲ親ノ群衆ニ喝采セラレ「コンスタンチノ
ープル」ニ着ヒシトキニハ既ニ本番ノ遠ナル戦闘ノ場面ハイツノ間ニカ
戦乱ノ光景ハ總テ消失シ自然美ノ裡ニ泰平ヲ謳歌シ居タリ
今ヤ白雪ヲ戴ク「インブロス」及「サモトラキ」ノ岩山ハ碧青ノ海ニ聳
ヘ又振然トシテ聳立シ嘗テハ幾ケ月モ日夜激烈榴弾ヤ小銃弾ノ響カ絶エ
サリシ地ハ無双ノ風景ヲ呈スル靜寂境トナリ尊嚴ナル心地ス幾十千人
ノ英軍戦死者ノ墳墓ヲ敬虔ニ自然カ包ミ見ル小亜湾ノ鬼カ永ク活クルカ
如ク眠レラ思ハシム

(註)「ダーダネルス」戦闘ノ死傷者数ニテ正式ニ調査セル総計左ノ如シ

土耳古軍	戦死者	五萬五千人
	死傷者合計	十八萬六千人
英軍	戦死者	三萬二千人
	死傷者合計	十六萬人
佛軍	戦死者	三千七百人
	死傷者合計	二萬六千三百人

昔熱ノ古戦場タル「ヒサリック」ノ高地ヨリ「エルテテペ」ノ斜面迄土耳古陣地ノ雄然タル遺跡アリ遙カ海岸迄英軍ノ築キシ塹壕カ匍匐シ到ル処陣地戦ノタメ錯雑ナル計畫モナリゴチャ〳〵ト深山ニ急造セル砲台陣地、弾薬庫、又掩蔽部ハ陸上奥深ク横ハルヲ見ル破壊サレシ車輌、爆破サレシ艦ノ遺骸、武器、或ハ各種ノ装具モ散乱シ随処ニ断続的ニ土中ニ隠顕スル鐵條ノ鏈レハ日光ニ照ラサレテ幾千ノ蛇ノ如クツレタリ墓山ニ勇士ヲ葬

想セン人

海濱ニハ波カ微動シ遙カ沖ヲ眺ムレハ在リシ昔ノ英艦ニ立チシ檣頭カ水面上ニ立チ水路ノ交通上今ヤ厄介ニモ之ヲ見張ラサルヘカラサルニ至レリ

放眸スル彼方ニハ亜細亜ノ高地カ起伏シ各尚去ラス然カモ今ヤ此熱帯圏ニハ不安ノ生活ハ去ツテ来ラス一時過去ト将来ノ交錯セル変遷ヲ一瞥シテモ今ヤ此荒廃セル場所ノ損傷ヲ匿シ戦前ノ肥沃ト其平和ノ外容ニ還ラスカハ既ニ業ニ躍動セルヲ知ル

吾人ハ古戦場ノ無上ニ光彩陸離タル海陸ニ於テ東天地ノ曉景ノ夢気分ニ陶然タラザル能ハス「ダーダネルス」戦闘ハ畢レリ一変シ此ニ等國ノ國民ヲ集散スル都市ヲ繞ル最終ノ戦闘ニシテ未来ニ再現セサルモノナリヤ否ヤ

（終）

昭和四年三月

一九二六年九月二十四日陸軍大臣認可
一九二八年發布

佛國砲兵操典第二部（戰闘ニ於ケル砲兵）「其一」

研究部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

本稿ハ在佛國内山及細川兩砲兵少佐ノ共譯ニ成リ過般兩少佐ヨリ當校ノ為好意寄贈セラレタルモノトス研究上極メテ有益ナル資料ト認メ蒐録本號以下逐次三回ニ分チ掲載スルコトトス

研究部

佛國砲兵操典ハ久シキ前ヨリ漸次發布セラレツツアリ

本稿第六部戰闘原則ハ既ニ千九百二十六年九月二十四日ヲ以テ陸軍大臣ペンルヴェノ認可ヲ受ケアリシモ之カ部隊ニ發賣頒布セラレタルハ實ニ昨二十七年十二月十日ナリ

本第六部ハ千九百十九年六月十五日發布ノ佛國砲兵野外勤務令草案ヲ改正セルモノニシテ佛國砲兵運用ノ基礎ヲ爲スモノナリ故ニ小官等兩名ハ語學研究ノ餘暇ヲ利用シテ之ヲ譯述シ將來ニ於ケル砲兵研究ノ資料タラシメントセリ　然レトモ小官等語學ノ素養ニ乏シク難解ノ點亦尠シトセス加フルニ佛國軍隊ニ視察スルノ時期ニ達セス況ンヤ之ヲ佛軍將校ニ就キ質疑ノ餘暇ニ存セサリキ

然ルニ本第六部ノ譯述ヲ終リシハ本年晩春ニシテ時恰モ隊附勤務ノ期近ニ迫リアリシヲ以テ之カ報告ヲ暫ク控ヘ隊附間ヲ利用シ諸疑義ヲ確メ相當ノ確信ヲ得シヲ以テ今回改訂ノ上之ヲ報告スルコトトセリ、然レトモノ

本稿ハ在佛國内山及細川両砲兵少佐ノ共譯ニ成リ過般兩
少佐ヨリ當校ノ為好意寄贈セラレタルモノトス
研究上極メテ有益ナル資料ト認メ茲ニ蒐録本號以下逐次三回ニ分
チ掲載スルコトトス

研究部

仏國改正砲兵操典ハ數年前ヨリ逐次發布セラレツツアリ
本篇第二部戰鬪原則ハ既ニ千九百二十六年九月二十四日ヲ以テ陸軍大臣
パンルヴェノ認可ヲ受ケアリシモ之カ巷間ニ發賣頒布セラレタルハ實ニ
昨二十七年十二月ナリキ
本第二部ハ千九百十九年六月十五日發布ノ仏國砲兵野外勤務令草案ヲ
改正セルモノニシテ仏國砲兵運用ノ基礎ヲ為スモノナリ故ニ小官等両名
ハ語學研究ノ餘暇ヲ利用シテ之ヲ譯述シ將來ニ於ケル砲兵研究ノ資料タ
ラシメントセリ、然レトモ小官等語學ノ素養ニ乏シク難解ノ點亦尠シト
セス加フルニ、未タ仏國軍隊ニ親炙スルノ時期ニ達セス況ンヤ之ヲ仏軍
將校ニ就キ探求ノ餘裕タニ存セサリキ
然ルニ本第二部ノ譯述ヲ終リシハ本年晩春ニシテ時恰モ隊附勤務ノ開
始ニ迫リアリシヲ以テ之カ報告ヲ暫ク控ヘ隊附間ヲ利用シ諸疑義ヲ確メ
相當ノ確信ヲ得シヲ以テ今回改訂ノ上之ヲ報告スルコトトセリ、然レト
モ

モ猶若干ノ誤解、誤譯ナキヲ保シ難シ他日ヲ期シ之カ完璧ヲ期セントス

昭和三年十八月二十八日

留學生 陸軍砲兵少佐 内山英太郎

駐在員 陸軍砲兵少佐 細川憲康

本譯述書閲讀上ノ注意

一、譯述ニ方リテハ原書ノ格義ト意義トヲ失ハサランコトヲ勉メタリ故ニ邦文トシテハ文章生硬ニシテ流暢ナラス

二、編制、装備又ハ兵器等ニシテ本邦ニ之ヲ有セサルモノニ對シテハ適當ト信スル譯語ヲ附シ所要ノモノニハ原語ヲ添加セリ

三、譯文ノミニテハ難解ト信シタル場所ニハ譯者註トシテ（　）ヲ以テ別ニ註釋ヲ添加シ或ハ補語ヲ挿入セリ

四、原書中太文字ヲ以テ讀者ノ注意ヲ促セル語ニハ譯文中側線――ヲ附シテ記述セリ

五、本書閲讀ニ方リ千九百二十八年十月六日陸軍大臣「ルイバルトウ」認可、千九百二十二年発布仏國「大兵團ノ戰術的用法ニ關スル教令草案」ト對照セラルルヲ至便ト信ス本操典第二部第三篇ニ教令草案第三篇トノ對照ハ特ニ緊要ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

目次

戰鬪ニ於ケル砲兵

（（毒瓦斯ニ關スル件））

前文
緒論　戰鬪ニ於ケル砲兵
第一篇　砲兵ノ運用及編成ニ關スル原則
第一章　砲兵ノ性能及任務
第一節　戰鬪ニ於ケル砲兵ノ本分
第二節　砲兵ノ特性
第三節　砲兵使用ノ條件
第四節　砲兵ノ任務
通則
各種火砲任務ノ分擔

第二章 砲兵一般ノ編成
第一節 砲兵部隊ノ動員
第二節 砲兵部ノ動員
第三節 動員ニ於ケル砲兵各部隊ノ編成
第四節 砲兵各指揮官ノ職責
第二篇 砲兵ノ運用
通則
第一章 觀測
第一節 觀測ノ目的
第二節 觀測ノ各種手段及其特性
第三節 觀測動作
第二章 砲兵情報勤務
第三章 連絡及通信
第一節 連絡及通信ノ目的
第二節 連絡ノ施設
第三節 砲兵内部ニ於ケル連絡ノ特性
第四節 通信機関
第五節 通信網ノ構成
第四章 偵察
通則
第一節 偵察動作
第二節 各級指揮官ノ偵察作業ノ區分
第三節 射撃ノ可能性
第五章 砲兵ノ展開
第一節 要則
第二節 設備陣地ノ後方ニ於ケル展開

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三節　接敵前進間ニ於ケル展開
第四節　展開ノ完了
第五節　陣地設備
第六節　標定中隊ノ展開
第六章　火力ノ操縦及點檢
第一節　戰場ニ於ケル指揮機關ノ編組
第二節　固有戰闘區域及臨時戰闘區域
第三節　火力ノ操縦
第四節　彈藥ノ使用
第五節　火力ノ點檢
第七章　戰闘間ニ於ケル砲兵ノ陣地變換
第一節　陣地變換ノ動機
第二節　陣地變換ノ所要時間
第三節　陣地變換ニ伴フ不利
第四節　陣地變換ニ關スル制限
第五節　陣地變換ノ實施
第六節　標定中隊ノ移動
第三篇　戰闘間ニ於ケル砲兵各部隊
通則
砲兵ノ部署
第一章　戰闘間ニ於ケル軍砲兵
一、攻勢
第一節　要則
第二節　觸接ノ保持及戰闘開始（Engagement）
第三節　戰闘指導
第四節　戰果ノ擴張

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第五節　攻撃奏功セサル場合（Cas d'échec）
二、防　勢
第一節　防禦編成
第二節　戦闘指導
第三節　交　代
第四節　退却行動
第五節　滞　陣（Stabilisation）
第二章　戦闘間ニ於ケル軍團砲兵
一、攻　勢
第一節　接敵前進
第二節　触接ノ保持及戦闘開始
第三節　戦闘指導
第四節　移動スル敵ニ對スル場合（Cas d'un ennemi en mouvement）
二、防　勢
第一節　防禦編成
第二節　戦闘指導
第三章　戦闘間ニ於ケル師團砲兵
通　則
一、攻撃戦闘
第一節　接敵前進
第二節　触接ノ保持及戦闘開始
第三節　攻　撃
第四節　戦果ノ擴張、攻撃奏功セサル場合
第五節　移動スル敵ニ對スル場合
二、防禦戦闘
第一節　防禦編成

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二節　戦闘指導
第三節　退却
第四節　退却行動
第四章　戦闘間ニ於ケル砲兵群
通則
一、攻撃戦闘
接敵前進
触接ノ保持及戦闘開始
攻撃
戦果ノ拡張
攻撃奏功セサル場合
二、防禦戦闘
防禦編成
戦闘指導
退却
退却行動
第五章　歩兵ノ配属（mis à la disposition de l'infanterie）砲兵部隊
第四篇　特種ノ場合ニ於ケル砲兵ノ運用
第一章　砲兵ノ運用上ニ及ス地形影響
第一節　隠蔽地或ハ断絶地
第二節　森林地及住民地
第三節　水流ノ渡過
第二章　夜間ニ於ケル砲兵ノ運用
第三章　騎兵ト連合セル砲兵ノ運用
第四章　山地ニ於ケル砲兵ノ運用
第五章　列車重砲兵

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第五篇　彈藥補充、砲兵材料及諸補給機関ノ材料ノ保存、修理
第一章　軍ニ於ケル砲兵部ノ一般ノ編成
第二章　彈藥補充
第一節　要則
第二節　軍團内ニ於ケル砲兵部ノ編成
第三節　軍團内ニ於ケル補充ノ實施
第四節　彈藥交付ノ手續
第五節　歩兵彈藥ノ補充
第三章　材料ノ補充
第一節　《材料補充》勤務ノ目的
第二節　勤務部ノ一般ノ編制
第三節　砲兵及諸補給機関材料ノ修理部
第四節　砲兵及諸補給機関材料ノ補充
第五節　自動車材料ノ補充及修理
第六節　其他ノ物件

附録

附録第一　各種砲兵ノ特性
附録第二　砲兵運用計画
附録第三　略語及軍隊符号
附録第四　各種火砲ノ彈藥ノ基数
附録第五　砲兵彈藥補充機関ノ輸送能力及其最大效程
附録第六　若干ノ表ノ範例

《毒瓦斯ニ関スル件》

仏國ノ調印セル國際間ノ協約（des engagements）ヲ仏國政府ハ尊重シ戦争開始ニ方リテハ聯合諸國ト協定シテ諸敵國政府ヨリ毒瓦斯ヲ戦争兵器トシテ使用セサル協約ヲ獲ルコトニ努ム

若シ本協約ヲ獲ルコト能ハサル場合ニ於テハ仏国政府ハ情況ニ應シ行動ノ自由ヲ保留スヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

前文

本操典ノ目的ハ「大兵團ノ戰術的用法ニ關スル教令草案」ノ實行ニ方リ必要ナル砲兵ノ運用ヲ規定スルニ在リ而シテ砲兵ノ勤務ニ關シテ當該兵科ニ直接關係アル事項ニ限定ス

砲兵ノ各指揮官ハ各操典中ノ他部ヲ參照スルコトナク當該指揮官ニ關スル章節中ニ在テ必要ナル諸指示ヲ見出シ得ヘシ之カ為本操典ハ他ノ條項ト重複ヲ厭ハス記述スルノ必要ヲ生スル至レリ

緒論

戰闘ニ於ケル砲兵

第一

火器ノ威力ハ最近戰役ニ於テ壓倒的ナルコトヲ確認セラレタリ作戰ノ性質カ運動戰ナルト滯陣（Non mouvement, stabilisation）ナルトヲ問ハス我カ攻撃地帶ニ對シ適切ニ配置セラレタル火力ヲ以テ最後ノ時期マテ極力維持スル敵陣地ニ對シテハ攻撃ハ失敗ニ終ルヘシ、若シ此攻撃ヲ奏功セシメンカ為ニハ攻者ハ可ナリ強大ナル物質的手段ヲ集結使用シ其火力ノ優勢ニ依リ敵ノ精神的若ハ物質的抵抗力ヲ破摧シ以テ敵ノ防禦手段ヲ有效ニ使用シ得サラシメサル如クスルヲ要ス

故ニ攻撃ニ先チ攻撃準備時期ヲ劃スルヲ要スルコト屢ミナリ該期間ニ於テハ火力ニ依リ豫メ敵ヲ消耗スルニ努ムルモノニシテ其長短ハ情況ニ依リ變化ス、即チ此時期ハ攻者ノ獲得セントスル急襲ノ程度ニ依リ或ハ

兵時期ヲ短縮シ或ハ時トシテ全ク之ヲ省略ス然レトモ後者ノ如キハ一ノ例外ニシテ突撃間我カ火力ノ著大ナル優勢ヲ期待シ得ルトキニ限ルモノトス

砲兵ハ特ニ強大ニシテ廣深ナキ火器威力ヲ有スル兵種ナリ

砲火ノ最大效果ヲ獲得センカ為ニハ之ヲ集團シテ使用スルコト緊要ナリ

之カ為砲兵ハ左ノ要件ヲ具備セサルヘカラス

一、適時ニ多数ノ火砲ヲ陣地ニ誘導シ放列ニ就カシムルヲ要ス之カ為材料ノ運動性大ナルヲ必要トス

二、與ヘラレタル目標ニ對シ迅速ニシテ威力強大ナル火力ヲ集中シ得ルヲ要ス之カ為メニハ火力強大ニシテ操縦容易ナルヲ必要トス

材料ノ運動性ハ左ノ要件ニ適應セサルヘカラス

戦略的機動（Mouvement, stabilisation）廣大ナル範圍即チ一ノ作戦地ヨリ他ノ作戦地時トシテ非常ニ遠隔セル地點ヘノ移動ヲ實施シ得ルコト、蓋シ高級指揮官カ連續的ニ諸會戦ヲ實施シ得ルハ特ニ砲兵集團ノ戦略的機動ニ俟ツコト大ナレハナリ

戦術的機動（La manœuvre stratégique）狹範圍内ニ於ケル陣地變換及同一戦場内ノ一地點ヨリ他ノ地點ニ砲兵部隊ノ集結ヲ行ヒ得ルコト砲兵ノ全部若ハ一部ノ戦術的機動ハ高級指揮官ヲシテ戦場内各種ノ地點ニ對シ連續的ニ「最大ノ努力ヲ實現セシメ得ヘキ」（「」ハ企圖遂行ノ為ノ意）最モ有力ナル諸手段中ノ一ニ属スルモノトス

戦略的機動ハ鉄道又ハ道路ニ依ルモノトス、高速度自動車牽引機関ノ発達及使用、砲兵ノ此種機動ノ實施ヲ著シク容易ナラシムルモノトス

最高級指揮官ニ直属スル砲兵総豫備團（R.G.A. la réserve générale d'artillerie）ノ存在ハ砲兵集團ノ此種移動ヲ迅速、容易ナラシメ又各大兵団ノ編成ヲ紊ルコトナク砲兵部隊ノ配属又ハ回收ヲ行ヒ得ルモノトス、砲兵総豫備團ノ兵力愈々強大ニシテ戦略的機動益々容易ナルニ從ヒ最高級指揮官ヲ

シテ各方面ニ同時ノ會戰遂行ヲ企圖シ得シメ又連續セル會戰間隔ノ短縮ヲ期待シ得シムルモノトス

戰術的機動ノ為ニハ砲兵ハ路外ノ行動ヲ為シ得サルヘカラス而シテ此機動ハ地形、地貌ノ影響ヲ受ケ易キモノトス戰術的機動容易ナルニ從ヒ高級指揮官ハ戰場内ノ諸地點ニ對シ至短時間ニ打擊ヲ倍加シ得ルモノトス

火力ノ移動性及威力、一度陣地ヲ占領スルヤ砲兵ハ此特性ヲ發揮シ戰場内ニ於テ戰鬪能力ノ最大限ニ發揚シ得ルモノトス、而シテ此火力ノ移動性及威力ハ射角操縱ノ容易並材料火藥及彈藥ノ製造上ノ進步ニ因ルモノトス

射擊速度迅速、射界廣濶、射擊遠大ナル各種口徑ノ火砲ヲ併用スル砲兵ハ諸種ノ情況ニ應スル如ク其射擊ヲ調和セシメ各種任務ニ適應スル如ク射擊ヲ實施シ得ルモノトス

火力ノ效果ハ物質的及精神的ノ兩者ニ在リ

火力ノ物質的效果ハ敵ノ人員——隱蔽セラレアルト暴露シアルトニ拘ハラス——及其兵器ヲ破摧スルノ目的トス

此種任務ハ防禦及消耗戰（de bataille d'usure）（決戰ヲ企圖スルニアラスシテ敵ノ人員、材料、施設等ヲ殺傷、破壞シテ其戰鬪力ヲ消耗セシムルヲ目的トス）ニ於テハ攻擊ニ於ケルト等シク之カ實施ニ努ムヘキモノトス、然レトモ時トシテ砲兵ハ長剪的障碍物ノ破壞ニモ亦使用セラルルコトアリ、此場合ニ於ケル砲兵ノ最モ重要ナル任務ハ突擊部隊カ敵陣地ニ侵入スルニ必要ナル破壞ヲ開設孔スルニ在リ

砲火ノ精神的效果ハ火力ノ集團的效果ニ比例スルモノナリ

分散セル火力ハ敵ヲ不安ナラシメ得ルモ之ヲ麻痺スル能ハス之ニ反シ敵ヲシテ絶エス不安ナラシメ之カ為ニハ各種口徑ノ射彈ヲ迅速且精確ニ連續落達スヘキ火制地域ヲ設定シ之ニ至短時間且集團的ナル集中火ヲ指向スルモノトス、之レ敵ヲ萎痺セシメ之ノ掩蔽部內ニ蟄伏セシメ遂ニハ其

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

士氣ヲモ沮喪セシムヘキ最後ノ手段ナレハナリ
高級指揮官ハ連合兵種ノ戰鬪指導ニ方リテハ砲兵ヲ展開シタル後其火力ノ機動ニ依リ之ヲ運用スル如ク絶エス着意セサルヘカラス

第二

砲兵戰鬪開始條件及其火力ノ運用ハ高級指揮官ノ受ケタル任務ヲ基礎トシテ決定スヘキモノトス
觸接ノ維持、限定目標ノ攻撃、縱深大ナル地域ノ戰果擴張、防禦陣地維持、逆襲ノ準備、突撃ノ實施、撃破セル敵ノ追撃等各種ノ場合ニ應シ砲兵ノ運用ヲ異ニシ又使用スヘキ火砲材料ノ種類、地形ニ應スル砲兵ノ配置、彈藥及信管ノ種類ノ選定、實施スヘキ射撃ノ種類モ亦情況ニ應シ變化スルモノトス
地形、氣象状態、地圖及射撃ノ測地的ノ準備ノ基礎タルヘキ諸元ノ精度觀測ノ手段、敵ノ防禦陣地、廣狹及陣地ノ状態等ハ砲兵ノ配置及火力運用ノ要領ニ重大ナル影響ヲ與フルモノトス、之レ砲兵ノ專門的技術ト戰術的運用トハ密接ナル關係ヲ有シ分離スヘカラサル所以ナリ
砲兵ノ運用ヲ規定スルハ他兵種ノ運用ヲ規定スルハ齊シク全般ノ戰鬪指導ニ任スル高級指揮官ノ權限ニ屬スルモノトス
高級指揮官獨リ次ノ與フヘキ命令ニ關シ責任ヲ有シ砲兵ハ此命令ヲ嚴守スルモノトス、獻身的ナル砲兵ニシテ始メテ實現シ得ヘキモノトス、然レトモ砲兵各級指揮官ハ受ケタル命令ノ範圍内ニ於テ之ヲ實行手段、選擇ノ自由ヲ有スルヲ以テ我カ損害ヲ最小限ナラシメ最大ノ效果ヲ獲得スル如ク努力スルヲ要ス、之カ爲ニハ砲兵各級指揮官ハ一方戰況、敵ノ裝備及戰況ノ知悉、他方運用ノ妙ヲ發揮シ材料ノ特性ヲ活用シ及砲兵ノ戰鬪能力ヲ高級指揮官ニ了解セシメ且絶エス之ヲ輔佐スルコト緊要ナリ
同一目的ニ對スル全努力ノ集中ハ最大要件ナリ實ニ指揮官ノ命令ハ全般ノ行動ノ統一ヲ確保スルヲ以テ目的トス、然レトモ戰鬪間ニ於テハ情況ハ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

不断ノ變化ノ命令及情報ノ迅速ナル到達ヲ阻害セラルルコト屡々ナルヲ豫期セサルヘカラス特ニ命令及情報ハ緊要ナル時期ニ到達セサルコトアルノミナラス時トシテハ縦ヒ規定時刻以前ニ到達セル場合ニ於テモ其一部ハ既ニ實行ニ適スルコト往々アリ

此ノ如キハ戰鬪間ニ於テモ當然ナリ故ニ各級指揮官ハ之ニ應セシムル爲次ノ狀態ヲ具備セサルヘカラス

不断ノ注意

独断力

決断力

崇高ナル協同精神

之ナリ而シテ此協同ハ各兵種各部隊間ニ於テ實行セシムルヲ要ス、上級者ハ部下ノ任務ヲ援助シ其責任ヲ輕減シ絶エス精神的援助ヲ與フルコトニ努メ下級者ハ其上官ニ絶エス全幅ノ注意ヲ払ヒ戰況ノ轉移、敵活動ノ情況ヲ報告スルヲ要ス各兵種戰友ハ情報ヲ相通報シ相互支援ヲ與ヘ、戰鬪實行ニ方リテハ最モ完全ナル協同動作ヲ實現セサルヘカラス

第一篇 砲兵ノ運用及編成ニ関スル原則

第一章 砲兵ノ性能及任務

第一節 戰鬪ニ於ケル砲兵ノ本分

第一 砲兵ハ火力ヲ以テ活動ス

砲兵ハ戰鬪ニ際シ其彈丸ヲ以テ歩兵ヲ支援スルヲ本分トス即チ攻撃ニ在リテハ之ヲ準備シ掩護シ、之ニ随伴シ、防禦ニ在リテハ歩兵ヲ援助シテ敵ノ攻撃ヲ撃退スルモノトス

砲兵ノ任務ハ之ヲ單獨ニ遂クル能ハス須ク砲兵ハ其火力ヲ他兵種特ニ歩兵ノ行動トヲ以テ組織セシメ戰斗圏内ニ於テ任務ノ達成ニ勉ムヘキモノトス

第二節　砲兵ノ特性

第一、砲兵ノ主要ナル特性次ノ如シ

1、破壊威力

2、射　程

3、射面ノ移動

射面ノ移動容易ナルハ砲兵ヲシテ所属兵團ノ為ノミナラス屢々隣接兵団ノ為ニモ火力ノ集中ニ依リ各種目標ニ對シ集団的效果ヲ迅速ニ發揚シ得ルモノトス

4、敵ノ地上視界外ニ於テ戦斗ニ参加シ及交戦ヨリ得ル性能、此性能ニ若クハ砲兵ノ不意ノ戦斗参加ハ高級指揮官ヲシテ急襲ヲ企圖シ得ルモノトス

5、精度ハ良好

観測容易ナルカ或ハ測地、弾道、氣象諸元ヲ既知シアル時ハ射撃精度ハ[illegible]ナリ

射面ノ移動容易ニシテ敵眼ニ對シ其範圍ヲ遮蔽シ得ル性能ハ砲兵ヲシテ戦斗間其任務或ハ目標ノ変更ヲ可能ナラシム即チ砲兵ハ一般ニ高級指揮官ノ手裡ニ掌握セルヘク豫備ト見做シ得ヘク高級指揮官ノ有スル最モ威力アリ且機動ニ富メル火力運用ノ機関タルヘキモノトス

第三、之ニ反シ行軍或ハ集合隊形ニ在ル砲兵ハ著大ナル損害ヲ受ケ易キモノトス

第四、砲兵ハ榴弾（着發或ハ曳火）　榴霰弾（曳火或ハ例外トシテ着發）発煙弾（着發或ハ曳火）　照明弾（曳火）　特種弾（着發）ヲ以テ戦斗ス

榴弾及榴霰弾ノ物質的效果ハ破裂ノ時間ノミ有スルニ對シ特種弾ノ效果ハ常ニ破裂後多少永続シ且大ナルモノトス

第五、砲兵ハ破壊及制圧ヲ行フ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

破壊（殲滅）

其本来ノ目標ハ人員ニ在リ、敵ノ兵器、敵ヲ掩護スル障碍物或ハ敵ノ存在ニ緊要ナル通信機関ヲ破壊セント思惟スル場合ニ於テモ常ニ其人員ヲ戦斗圏外ニ立タシムルヲ要ス

破壊ニ因リ得タル精神的効果ハ物質的効果ヲ累加シ之ニ依リ益々破壊効果ヲ増大スルモノトス

制圧

砲兵ノ火力ハ敵戦斗員ノ戦斗的価値ヲ減殺シテ之ヲシテ地下掩蔽物内ニ遁竄セシメ以テ其活動ヲ制限シ或ハ痲痺セシムルモノトス

一般ニ此種効果ハ分散的射撃ニ依ルヨリモ急襲的ニ施行シテ至短時間ノ集団的火力集中ノ方法ニ依ルヲ経済的ニシテ且完全ナルヲ得ルモノトス

第三節　砲兵使用ノ条件

第六

A、戦場ニ於ケル砲兵材料ノ移動

砲兵ハ戦場ニ於テ材料及弾薬ヲ移動スル為各種ノ機関ヲ使用ス

註　例外トシテ浮舟ニ搭載シテ水路ヲ利用スルヲ得、航空機ニ依ル砲兵ノ運搬ハ未タ尚實施セラレアラス

1、繋駕牽引　此方法ハ殆ト如何ナル情況ニ於テモ砲兵ヲシテ歩兵ヲ随伴シ得シムルモ五噸以上ノ重砲兵材料ノ移動ニハ適セス

砲兵ノ弾薬補充ニ使用セラルヘキ或種ノ繋駕車輛ニ至リテハ路外ノ行進ヲ為シ能ハサルコトアルニ注意スルヲ要ス

2、自動車牽引　動力機関ニハ重輪式或ハ無限軌道式アリ

重輪式ハ砲兵ノ移動能力十分ナリト雖道路ヨリノ離隔スルコト困難ナリ、無限軌道式ハ未タ其能力大ナラスト雖砲兵ニ十分ナル運動性ヲ與フルモノトス而シテ其運動性ハ各種ノ地形ニ於ケル被牽引火砲及弾薬車ノ轉動能力ニ依リ差アルモノトス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

3、無限軌道自動車運搬

此方法ハ一般ニ重材料ニ適用セラレ各種ノ地形ニ於ケル移動及補充ニ適ス

然レトモ此方法ハ経済的ナラスシテ砲兵ヲ疲労ス（或種術工物上ノ通過ハ不可能ニシテ其移動距離某程度ノ超過スル場合ニ於テハ鉄道ニ依リ運搬スルノ止ムナキニ至ル）

4、鉄道

移動スヘキ材料約二〇粁ノ超過スルニ至レハ普通鉄道ニ依リ運搬スルヲ要ス此種砲兵材料ハ砲兵総豫備団ニ属スルモノニシテ鉄道ノ利用ニ依リ其機動特ニ戦略的機動著シク容易トナレリ然レトモ此種材料ノ大部ハ其戦術的機動困難ニシテ一ニ豫メ準備セラレタル陣地ノ数ニ関スルモノナリ　此種準備ノ為時トシテ大ナル作業ヲ必要トスルコトアリ

弾薬ハ貨車ニ依リ陣地附近ニ到着ス従テ弾薬ノ補充ハ著シク容易ナルモノトス

5、駄獣ニ依ル運搬

此方法ハ砲兵ヲシテ山地或ハ運動困難ナル地形（森林、弾痕地帯急斜面等）ニ於テハ行動ヲ許スモ著シキ重材料ニアラサレハ適用シ能ハス而モ能力著シク小ニシテ特ニ弾薬ノ運搬ニ於テ然リトス

6、放列布置及撤去

第七、放列布置及撤去ニ要スル時間ノ長短ハ材料ノ重量及其編制（材料運搬ノ為メ）地質、地形、土地ノ状態ニ依リテ著シキ差異アリ

註　各種砲兵ノ放列布置所要時間ハ附録第一ヲ参照スヘシ

而シテ此種動作ハ昼間ヨリモ夜間ニ於テ尚多クノ時間ヲ要スルモノトス

C、火砲ノ操縦（Maneuvre [illegible]）

第八、射撃ノ柔軟性ハ元来火砲（砲身）ノ上下左右移動ノ難易ニ依リテヘ。

大イニ異ナルモノトス

火砲ノ方向移動ハ時トシテ長時間ヲ要シ甚タ困難ナルモノアリ或種ノ火砲ハ無限軌道上ニ設備セル材料、全周旋回列車砲（[illegible]）ハ至短時間ニ全回轉ヲ為シ得ヘク又或種ノ火砲ニ應シ度（六六グラード）ノ射界ヲ有スト雖其他ノ大部ノ火砲ニ至リテハ普通大度（大グラード六〇）ノ射界ノ有スルニ過キサルヲ以テ[illegible]ノ弧形架尾溝（[illegible]）及特種砲床ハ此欠點ヲ醫ス結構上僅少ナル射界ヲ有スル材料ヲシテ實際ニ於テ六〇度時トシテ九〇度ノ水平射界ヲ得シム

a、射撃ノ方法

第九、砲火ノ威力及操縱性ハ射撃ノ修正ヲ為シ得ル方法―假令觀測ニ欠陥アル場合ニ於テモ―急襲的效果ヲ発揚スルカ如ク不意ノ射撃開始ヲ為シ得ル方法及指定セラレタル目標上ニ多数中隊ノ火力ヲ集中シ得ル方法ヲ講スルコトニ依リテ獲得シ得ルモノトス

此等ノ方法ハ精確ナル測地的作業ニ依リ放列陣地、觀測所及目標相互ノ関係位置ノ精確ニ連結スルヲ必要トス

砲火ノ效果ハ上記測地作業ノ精度ニ依リ又ハ之ヲ補足スル為ノ各種ノ情報即チ航空寫眞、三角點及補助點ノ坐標簿、導線法手簿等ノ價值及作業實施ニ使用シ得ヘキ時間ノ長短トニ関スルモノトス

砲兵各部隊ノ為砲兵指揮官ハ現地上ニ實施セル測地成果ノ設備ヲ確實ナラシメ且測地作業ノ促進ニ勉ムルモノトス即チ射撃開始ノ條件之ヲ許ス範圍ニ於テ完全ナル準備及觀測ノ設備ヲ為シ之ヲ成ルヘク速ニ射撃ニ利用シ得シメンカ為ナリ

第十、附録第一ニハ各種砲兵ノ特性ヲ記述シ之ヲ知悉スルハ砲兵ノ正當ナル運用上欠クヘカラサルモノトス

b、砲兵ノ損耗性

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第十八、行軍並集合隊形ニ於ケル砲兵ハ著シク損害ヲ蒙リ易キモノトス。
此ノ如キ場合ニ於テハ砲兵ハ遮蔽困難ニシテ敵火ノ急襲ニ會シテハ迅速ニ分散シテ損害ヲ避ケ或ハ機敏ナル反撃ヲ加ヘテ自衛ヲ試ミル等ノ處置ヲ為ス能ハサルモノトス
放列ニ於ケル砲兵ハ人員及材料ノ一部（實際ニ於テハ最モ重要部）暴露スルニ過キサルモノトス、砲車附近ヲ構築セル人員、掩蔽部、其損害ヲ減少スル　モノニシテ情況之ヲ許セハ構築スルモノトス、材料及弾薬ハ地下ニ或ハ掩蔽下ニ在ラシムル以上損害著シク大ナルヲ免レス
戰闘中ノ放列陣地ノ遮蔽ハ其實施特ニ困難ナルモ無限軌道上ノ或種砲兵材料ハ迅速ニ陣地ヲ変換シ得ルヲ以テ敵ノ射撃ヲ免レ得ルノ機會アルモノトス

第四節　砲兵任務

通則

第十六、高級指揮官ハ砲兵ニ附與スル根本的任務ハ其威力ヲ以テ歩兵ヲ支援セシムルニ在リ

攻撃開始前　多少時間ノ余裕アル場合ニ於テハ砲兵ハ高級指揮官ノ命令ニ基キ友軍歩兵ノ前進ヲ妨害スヘキ有形的障碍ヲ排除シ敵火ノ能力ヲ減殺スルコトニ努ム（準備間ノ任務、即チ破壊若ハ制圧）

攻撃間　砲兵ハ敵ノ瞰制スル視察點、敵ノ活動スヘキ要點ヲ射撃シ歩兵ヲ掩護ス（掩護任務）又火力ヲ以テ歩兵ニ随伴シ接近時ニ於テ敵ヲ制圧ス（直接支援ノ任務）尚對砲兵戰ニ任シ敵砲兵ヲシテ我カ歩兵ノ行動ヲ妨害セラレシム（對砲兵戰任務）

防禦間　砲兵ノ戰闘參加ハ或ハ攻撃準備、破摧射撃ニ依リ敵ノ準備間其攻撃部署ヲ崩壊シ或ハ阻止射撃ニ依リ攻撃前進開始後ニ於ケル敵ノ攻撃ヲ粉砕、分散セシムルモノトス、適時ニ開始セル攻撃準備破摧射撃若ハ適切ニ指導セラレタル阻止射撃ハ時トシテ之ノミヲ以テ敵ノ攻

撃ヲ挫折シ得ルコトアリ

攻防両者ニ適スル場合　砲兵ハ敵ニ痛痒ヲ感セシムヘキ交通路及要點ニ對シ交通遮斷射撃ヲ實施シ時トシテ高級指揮官ノ指示ニ基キ重ナル擾乱射撃ノミヲ行フコトアリ　然ルトキハ效果劣ルモ尚彈藥ヲ節約シ得ルモノトス

各種火砲任務ノ分擔

第十三、　高級指揮官ハ各部隊ヲ部署スルニ當リ各砲種ノ特性ヲ顧慮シ之ニ與フル任務ヲ適切ナラシムルコト必要ナリ

此見地ニ基キ現在砲兵ノ種類ヲ分類スル時ハ次ノ如シ

第十四　輕砲兵　(Artillerie légère)

特性口徑六五或ハ七五種遠射彈道低伸ノ威力弱少、最大射程約八、〇〇〇米、繋駕或ハ無限軌道ニ依リ大ナル戰術的運動性ヲ有ス又自動車牽引或ハ鉄道ニ依リ大規模ノ戰略的機動ヲ行ヒ得

其主要ナル任務ハ歩兵ノ直接支援ト掩護トニ依リテ之カ為ハ敵、戰隊等ニ對シ射撃ス其他掩護トナル或ハ掩護等ニ十分ナル敵砲兵ニ對シ對砲兵戰ノ為ニ障礙物ノ破壊、發煙彈ニ依ル目潰射撃、特種彈ニ依ル地點ノ撒毒等ニ任スルコトヲ得

尚該砲兵、交通遮斷射撃ヲ為シ得ヘク擾乱射撃、阻止射撃ノ實施ニ際シテハ主要ナル任務ヲ遂行シハ絞ニ瞬間間隔ノ射撃ニ屡々使用セラルルモノトス

輕砲兵ヲ其運搬機関ノ種類ニ依リ分類スレハ次ノ如シ

重車砲兵　凡テノ情況及殆ト如何ナル地形ニ於テモ歩兵ノ戰鬪ニ隨伴シ得ルモノニシテ戰術的運動性大ナルモノトス

乘馬砲兵　（騎砲兵ノ意ナリ）前者ヨリハ層運動性大ニシテ騎兵ノ戰斗ニ追隨シ得ルモノトス

駄載砲兵　山地及地形困難ナル地方（森林著シキ彈痕地帯急斜面

等）ノ戦斗ニ追随シ得ヘク威力及射程共ニ前記ノ砲兵ニ劣ルモノトス

自動車積載砲兵　大距離ノ迅速ナル移動ニ適スルモ戦斗間自動貨車ニ依リ運搬スルトキハ運動性大ナラス無限軌道達成ハ農耕用牽引ニ依ルハ必要ナリ戦術的運動性ヲ附与スルモノトス

第十五、2、短重砲（artillerie lourde courte）

特性、一般ニ曲射、射程中等（約一〇粁）威力ハ材料ニ依リ差アルモ中等或ハ大、発射速度可ナリ大、繋駕或ハ無限軌道車ニ依リ戦術的運動ハ可ナリ大ナルモ自動車牽引或ハ鉄道ニ依ルトキハ戦略的運動性大ナリ

此砲兵ニハ短一五五糎及短二二〇糎ノ材料アリ、特ニ敵ノ陣地ヲ破壊シ又ハ対砲兵戦ニ適スル時トシテ制圧及交通遮断ノ射撃ニ適合スルモノトス

尚攻撃ヲ掩護スルタメ或ハ遮蔽シ或ハ掩護セラレタル火砲ニ対スル場合ニ於テ人員ヲ射撃スルモノトス、経済的理由ニ依リ期待スル効果ヲ収ムルヲ度トシ小ナル口径ヲ使用スルヲ要スト雖精神的効果ハ時トシテ大ナル口径ノ火砲ヲ使用スルコトニ依リ得ラルヘキモノナルコトニ着意スルヲ要ス

此種火砲ノ運搬ノ見地ヨリ分類スルニハ次ノ如シ

繋駕砲兵　其特性乗車砲兵ニ類似スト雖其運動性小ナリ

自動車積載砲兵　戦略的移動ニ適スルモ戦斗間ニ在リテハ特種機関ヲ使用スルニアラサレハ運動性ニ乏シ（ハカタピラー、無限軌道牽引車等）

自動車牽引砲兵　自動車積載砲兵ニ類似スルモ戦略的移動性ニ乏

第十六、3、長重砲（artillerie lourde longue）

特性、大初速ヲ以テ射撃シ局減初速ヲモ使用スルニ適ス、射程中等又ハ大（一三—二〇粁）威力中等発射速度及運動性ハ一般ニ短重砲ニ同シ

長重砲ニハ口径（一〇五粍、一四五粍、一五五粍、一九四粍ノ材料アリ」

其重要ナル任務ハ対砲兵戰ニシテ凡テノ火砲ハ皆之ニ適ス、其他交通遮断及擾乱射撃ヲ實施シ時間目標ニ對シテモ使用セラル

一〇五粍砲ハ掩護セラレサル敵砲兵ニ對シ效力少ナキモ工事簡單ナル時ハ優秀ナル效果ヲ現ハスモノトス、特ニ擾乱射撃、交通遮断、射撃、時間目標ニ對スル射撃ニ適スルモノトス

F式一五五粍ノ大威力重砲及一九一六年式ノ一四五粍或一五五粍砲ハ其大射界ニ依リ特ニ迅速ナル火力集中ヲ實施シ又瞬間目標ノ射撃ニ適當ス

一九一七年式一五五粍砲ノ觀測氣球ヲ射撃スルニ使用セラル

此種火砲ヲ運動性ノ見地ヨリ分類スレハ次ノ如シ

一〇五粍砲ハ輓砲ト全ク同様ノ運動性ヲ有ス

一五五粍及繫駕砲ハ一五五粍短繫駕砲ニ比シ運動性稍劣ルモノトス

自動車牽引砲（一四五粍、一五五粍、一五四粍砲）ハ自動車牽引運砲ト同様ノ運動性ヲ有スルモノトス

此重砲ハ其射撃ヲ施行スルニ當リ大初速ノ為信管ノ迅速ニ消耗スルモノナルコトヲ顧慮スルヲ要ス

第十七、久、塹壕砲（Artillerie de tranchée）

特性、射程小（一〇〇〇—一六〇〇米）威力中等又ハ大、垂直射撃、発射速度小或ハ中等、運動性大ナラス堅固ナリ

此砲兵ニハ一五〇粍、一四〇粍ノ材料アリ

該砲鉄條網ノ破壊、戰場工事ノ破壊ニ任シ僅少ナル弾薬ヲ以テ目的ヲ達成シ得シム弾薬補充ノ困難ニ依リ使用ヲ制限セラルルモノトス、

第十八　5、大威力重砲（artillerie lourde puissante）

他砲ノ企圖シ能ハサル破壊作業ヲ實施シ得ルモノトス、例ヘハ遠距離目標、堅固ナル目標、堅固ニシテ遠距離ニ在ル目標ニ對スルカ如キ其レナリ

大威力重砲ニハ二種類アリ

即チ一ハ敵ノ防禦設備ノ堅固ナル部分ノ破壊ニ任スルモノ　（地下掩蔽部、掩蔽砲兵（Artillerie ou cuirassée）洞窟（caves naturelles）等）他ハ遠戦ニ任スルモノニシテ為シ得ル限リ遠ク後方ニ於ケル敵ノ各種交通連絡ヲ遮断シ（橋梁、鉄道、道路等）又敵ノ休息シ或ハ敵ノ存在スヘキ設備（露營地、舎營地、諸廠、縦列、倉庫等）ヲ射撃シ尚第一線附近ノ防者ヲ攻撃時期ニ至ルマテ精神的、物質的ニ孤立セシムル為ノ射撃ニ任ス

大威力重砲ハ其種類多キヲ以テ運動性、射程、発射速度ニ関シ一般的特性ヲ述フル能ハス

此種重砲ハ凡テ砲兵総隊備砲ノ一部ヲ為スモノニシテ特ニ普通鉄道ニ依リテ移動スルトキハ特別ニ之ヲ区分ス　（列車重砲）

普通鉄道ニ依ル列車重砲ハ至大ナル戦略的移動ヲ行ヒ得ルモノトス戦術的見地ニ於テハ其陣地占領及撤去ノ可能度大ナルモ之レニ要スル鉄道ノ存在スルコトヲ要件トス

第十九　各種砲ノ使用ニ方リテハ弾薬補充ノ能否ヲ十分考慮セサルヘカラス

繋駕軽砲兵ノ有スル若干ノ弾薬車及或種ノ重砲部隊ハ各種ノ地形ヲ通過シ得ルモ之ニ反シ他ノ種部隊ハ路外ノ行動ヲ全ク許ササルモノトス」

其他大部ノ部隊ハ一日ニ発射シ得ル弾薬ノ一部ノミヲ運搬シ得ルニ過キス故ニ陣地附近ニ部隊ノ戦斗力ヲ維持スル為弾薬集積所ヲ設備スルコト緊要ナリ

此等弾薬装備ニ関スル拘束ハ戦斗参加ノ砲数ヲ制限シ或ル種ノ陣地ノ

占領ヲ断念シ類次ノ陣地変換ヲ射撃スルニ至ルモノトス

第二十、以上叙述セル如ク各種火砲ノ特性ニ應シ之ニ附與スヘキ任務ハ大差ナキモノトス然レトモ各種型式ノ火砲ハ常ニ協同シ情況之ヲ要スルハ假令其效力ノ一部ヲ犠牲トスルモ全般ノ爲其任務ノ遂行ニ協同スルヲ要ス、砲兵其有スル火砲カ與ヘラレタル任務ノ最モ良ク適合セサルノ口實ヲ以テ無爲ニ終ルカ如キコトアルヘカラス特ニ使用シ得ヘキ全火砲ハ攻撃ノ準備破壊及敵ノ重要ナル攻撃ノ阻止ノ爲挙ケテ使用スヘキモノトス

第二章 砲兵ノ任務

第一節 砲兵部隊ノ動員

第二十一 砲兵ハ次ノモノヲ動員ス

(イ) 同一火砲ヲ以テ装備セラレタル群隊

(ロ) カタピラーノ小銃

(ハ) 標定中隊

(ニ) 築城地帯（[illegible]）ノ防禦ニ任セシメタル陣地砲兵（[illegible]）ノ便用ニ任スヘキ特種部隊

第二十二、動員ニハ砲兵群隊ノ編成ハ操典ノ他ノ部（操典第一部第六篇A（[illegible]）参照）ヲ記述セラレタリ

動員セル砲兵群隊ハ其編制内ニ人員及材料ヲ同時ニ運搬スルヲ必要ナル固有機関ヲ有ス然レトモ制限型（[illegible]）ノ若干群隊、二四口径及二八口径大隊（大威力重砲）ハ其有スル運搬機関ヲ以テ数次ノ循環輸送ニ依リテ始メテ移動ヲ實施シ得ルニ過キス

第二節 砲兵部ノ動員

第二十三 砲兵部（材料及弾薬）ハ動員ニ方リ次ノ各廠ニ依リ擔当セラル

此等各廠ハ次ニ示ス輸送部隊ヲ有スルモノトス

1、砲兵繋駕弾薬小隊或ハ砲兵廠輸送小隊（約四〇屯ノ輸送能力ヲ有ス）
2、歩兵繋駕弾薬小隊
3、砲兵自動車弾薬小隊（約八〇屯ノ輸送能力ヲ有ス）

第三節 動員ニ於ケル砲兵各部隊ノ編成

第二四、動員ニ於テ以下列挙スル部隊ハ編成上次ノ如ク区分セラル
1、師団砲兵、編制上師団ニ属スルモノ
2、軍団重砲兵所謂軍団砲兵ニシテ編制上軍団ニ属スルモノ
3、砲兵総予備団、前記両部隊ニ増加ノ所要ニ應シ戦闘序列ニ編組ス
4、補充保存及修理ノ各部隊

第二五、師団（固有ノ）砲兵、歩兵師団ノ編制上次ノ砲兵ヲ有ス
1、三大隊編制ノ繋駕軽砲兵ハ一聯隊
2、二大隊編制ノ繋駕榴弾重砲兵ハ一聯隊
3、師団砲兵廠ハ一個
騎兵師団ノ師団砲兵ハ編制上乗馬砲兵ハ大隊ナルモ将来ハ聯隊ニ増加セラル

第二六、軍団（固有ノ）砲兵、編制上繋駕長砲重砲兵ハ一聯隊ハ八〇尺砲ノ
二大隊ハ五小砲、砲兵ノ二大隊ヲ有ス

第二七、砲兵諸部隊ハ次ノ概要ヲ有ス

1、自動車積載砲兵数聯隊（七五粍、八五粍及一五五粍ノ榴弾砲）

2、繋駕重砲兵数聯隊

3、自動車牽引重砲兵数聯隊

4、自動車牽引或ハ無限輸送車上ノ自動車大威力重砲兵数聯隊

カタピラー小隊数箇

列車重砲兵聯隊数箇

塹壕砲兵聯隊数箇

山砲兵聯隊数箇（アルプ型）

標定中隊数箇

中央教習所数箇

修理廠及廠附部隊数箇

尚鐵道部隊、對空防禦砲兵聯隊各数箇

第四節　砲兵各指揮官ノ職責

第五八、砲兵ハ次ノモノヨリ動員ス編成ヲ有ス

1、軍内ニ於ケル砲兵ハ一般砲兵指揮部

2、軍砲兵ノ指揮機関

3、軍団砲兵ノ指揮機関

4、軍重砲兵ノ指揮機関

5、師団砲兵ノ指揮機関

以上各種指揮機関ノ職権ハ次ノ如ク第五九乃至第六〇ニ於テ規定セラル

イ、通則

第五九、砲兵指揮官ハ其ノ隷属スル兵団高級指揮官直接ノ補助者ノ一員ナリ

故ニ砲兵指揮官ハ絶エス高級指揮官ノ企図ヲ諒知シアラサルヘカラス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

又砲兵ニ関スル諸件ヲ解決スル為軍ニ高級指揮官ニ意見具申ノ為ノ得ル如ク準備アルヲ要ス此ノ意見具申ハ通常直ニ作戦命令中ニ挿入シ得ル如ク簡記シ以テ呈出セシムルモノトス高級指揮官ニ意見具申スヘキ事項次ノ如シ

1、隷下各部隊ニ砲兵材料ノ配当ニ関スル件

2、砲兵各部隊ノ陣地変換ニ関スル件

3、各砲兵ニ課スヘキ任務ニ関スル件

4、豫想使用弾薬ニ関スル件

第三〇　大兵団ニ属スル砲兵指揮官ハ其隷下各部隊及各部ニ対シ或ハ部隊長（Chef）トシテ或ハ監督者（iilhaetena）トシテ此ノ任務ヲ遂行スルモノトス

砲兵指揮官ハ其隷下ニ固有的ニ属スルト否トヲ問ハス戦場ニ於テ任務遂行ノ為直接ニ命令ヲ附与シ得ル部隊ニ対シテハ部隊長タルノ権限ヲ有ス

軍団砲兵司令官モ亦軍団固有ノ重砲兵並砲兵廠及軍団ニ配属セラレタル砲兵縦隊備団ノ諸砲兵縦隊中ノ師団ニ分属セラレサル砲兵部隊ニ対シテハ部隊長タルノ権限ヲ有ス

砲兵ノ指揮官ハ隷下部隊ヲシテ他ノ部隊ニ属セシメタルモノアルトキハ之ニ対シ単ニ監督ヲ有スルニ過キス

軍団砲兵司令官ノ師団砲兵ニ対スル場合及砲兵総隊師団ニシテ砲兵部隊（軍、軍団又ハ師団）ニ属セシメタルモノアルトキハ砲兵総隊師団ノ司令官タル将官若ハ其他ノ該部隊ニ対スル場合亦斯ノ如クスルモノトス

砲兵ノ指揮官ハ其監督権ヲ行使スルハ劇烈ナル交戦ナル部隊ニ対シ特ニ必要トス砲兵ノ指揮官ハ先ツ砲兵ニ任務ヲ賦与セル指揮官ノ許ニ到ルモノトス而シテ一般ノ情況ヲ諒暁シ砲兵各中隊ニ與ヘラレタル

タル任務ヲ解知スルヤ爾後砲兵各中隊ノ任務遂行ヲ確實ナラシメ指揮官ノ存在又ハ指示ニ依リ之ヲ督勵援助シ特ニ材料ノ保存及人員ノ救護ニ關シ特別ノ留意ヲ拂フモノトス

右砲兵ノ指揮官ニシテ任務ノ達成至難ト認メタル際ハ任務ヲ與ヘタル指揮官ニ對シ自己ノ希望スル命令變更ノ要件ヲ開陳シテ意見ヲ具申スルモノトス又他面ニ於テハ砲兵ノ指揮官ハ上級指揮官ヲシテ將校ノ技術的能力ヲ知悉セシメ以テ此等將校ニ賦課スヘキ任務ノ選擇ヲ容易ナラシム

此ノ如ク活動シテ始メテ砲兵ノ指揮官ハ部隊長タリ且上級指揮官ノ補助者タル任務ヲ達成スルモノトス而シテ砲兵ノ指揮官ノ部下ニ對スル職權及精神的威力ハ益々增大シ戰闘訓練ニ於ケル經驗ハ愈々之ヲ向上ス斯クシテ砲兵ノ指揮官ノ諸事ニ通曉セル結果ハ部隊ノ編制及組織材料ノ改正將卒ニ附與スヘキ恩賞ニ關シ適切ナル提案ヲ爲シ得シムルニ至ルモノトス

第三一、兵團ニ屬スル砲兵指揮官ハ次ニ示ス各部隊ニ對シ連絡組織ノ責任ヲ有ス

イ、大兵團内ノ各部隊特ニ步兵及航空兵

ロ、彼我協力シ得ル如ク隣接スル砲兵部隊

砲兵指揮官ハ隷下部隊ノ全火砲ヲ以テスル[illegible]ヲ可能ナラシメンカ爲隷下砲兵部隊内ノ連絡ノ編成ニ關シ適當ナル命令ヲ與フルモノトス

大兵團ニ屬スル砲兵指揮官ハ又兵團内ノ[illegible]ノ砲兵[illegible]ノ協調[illegible]ノ責任ヲ有ス

第三二、彈藥ノ適切ナル使用ニ關シ砲兵各級指揮官ノ不斷ノ考慮ヲ拂フヲ要ス之カ爲充分ナル準備ナクシテ實施スル射撃ハ萬已ムヲ得サル場合ノ外嚴ニ之ヲ行ハシメス以テ彈藥ノ濫費ニ陷ラシメサル如ク監督ス

スヘキモノトス、砲兵各級指揮官ハ隷下指揮官ニ目標ノ状態ニ関シ為シ得ル限リ情報ヲ通報シ以テ弾薬ノ適切ナル使用ヲ容易ナラシムヘシ又屡々各中隊ノ射撃成果表（le [illegible]）ヲ点検シ努メテ静穏時期ヲ利用シ実施者ト共ニ該表ヲ討議シ以テ隷下部隊ノ教育ヲ改善スルヲ要ス尚砲兵各級指揮官ハ認可セラレタル消費弾薬ヲ以テ最大ノ效果ヲ発揚シ以テ所命ノ成果ヲ最小時間内ニ獲得スルノ努力ヲスルモノトス

第三三、砲兵總監（l'inspecteur général de l'artillerie）ハ各科専門事項ニ関シ總司令官ノ代表者タルモノトス

砲兵總監ハ全砲兵部隊ニ対シ常時之ヲ監督スルノ権限ヲ有ス

砲兵總監ハ砲兵運用ノ條件ニ関シ總司令官ニ報告シ且該司令官ヨリ特別任務ヲ受領スルモノトス

第三四、砲兵総隊備用司令官ハ砲兵總監ニ直属シ其所管ニ属スル全砲兵部隊ノ代表者タルモノトス

該司令官ハ砲兵部隊ノ教育及材料ノ補充ヲ監督シ人員ノ更迭ヲ申請シ或ハ自ラ之ヲ任免ス

該司令官ハ戦線ヨリ撤退セル砲兵部隊ヲ指揮シ又戦線ニ就クヘキ砲兵部隊ヲ指揮ス

該司令官ハ砲兵総隊備用特ニ未タ戦線ニ就カサリシカ或ハ僅ニ[illegible]地上ニ在ル砲兵部隊ノ戦闘参加ノ要領ニ関シ所要ノ研究ヲ為スヘキ任務ヲ受領ス

該司令官ハ掌握材料ヲ有スル砲兵部隊ノ弾薬補充ヲ区署ス

該司令官ハ戦線使用セラレサル砲兵総隊備用ノ部隊ヲ屡々検閲シ[illegible]責任ヲ有ス

第三五、砲兵総隊団内ノ各砲兵部隊長（les commandants [illegible]）ハ各々其ノ権限ニ関シ相類似セル任務ヲ有シ所要ニ応シ[illegible]内ニ於テ[illegible]

兵部隊ノ一時的指揮ヲ命セラルルコトアリ

第三六、軍砲兵司令官ハ砲兵ニ關スル全部ノ事項ニ對シ常ニ軍司令官ノ代表者タルモノトス

軍砲兵司令官ハ軍ニ砲兵群ヲ編組セラレタルトキハ之ヲ直接指揮シ又軍砲兵廠ハ直接其隷下ニ屬スルモノトス

該司令官ハ砲兵各部隊ノ協調ヲ圖リ其ノ教育ヲ改善スル爲軍ノ全砲兵ヲ監督ス

該司令官ハ砲兵總隊備團ヨリ增援セシメタル砲兵特ニ列車運搬ノ戰闘參與ノ可能性ヲ研究セシム

該司令官ハ砲兵情報勤務（S.R.A）ヲ指導シ特ニ標定中隊ノ使用ヲ規定シ該中隊又ハ飛行機ヨリ得タル諸情報ノ短時間内ニ直ニ利用シ得ル如クセシム

該司令官ハ軍ノ砲兵部長トシテ彈藥ノ補充及技術的勤務（材料ノ保存及修理）ニ關シ最高ノ指導ヲ行ツモノトス

該司令官ハ技術上ニ關スル全事項ニ就キテハ砲兵總監ト又軍ニ屬セラレタル砲兵總隊備團ノ部隊（人員及材料）ニ關スル事項ニ就キテハ砲兵總隊備團司令官ト直接連繫スルモノトス

第三七、軍團砲兵司令官ノ軍團砲兵ニ對スル一般ノ權能ハ軍砲兵司令官ノ軍砲兵ニ對スルモノニ準ス

軍團砲兵司令官ハ師團ニ屬セサル全砲兵ヲ指揮シ技術的事項ニ關シテハ師團砲兵ヲ監督ス

註　師團　ニ屬セサル砲兵ヲ以下本文ニ於テ軍團砲兵（[illegible] du Corps）ナル略語ヲ以テ總述ス

該司令官ハ特ニ次ニ示ス事項ニ關シ軍團司令官ニ意見ヲ具申ス

一、增加砲兵ノ配屬ニ關スル件

二、臨時トシテ若干師團間ニ於ケル砲兵ノ一時的配屬換ニ關スル件

3、軍団重砲兵ノ放列陣地又ハ観測所位置トシテ使用スル為師団カ[illegible]スヘキ場所ニ関スル件
4、大軍団重砲兵ト各師団砲兵トニ任務及戦闘区域ノ配当ニ関スル件
5、弾薬補充機及材料修理機関ノ統一ノ為要スレハ師団砲兵廠ヲ軍団砲兵廠ニ併合スル件
其他軍団砲兵司令官ハ遠戦特ニ対砲兵戦ニ関シテハ軍団司令官直接ノ輔佐官ナリ
該司令官ハ軍団内ニ於ケル砲兵情報勤務ヲ指導シ自ラ使ヒ又空中観測ヲ使用シテ其結果ヲ実検シ又隷下部隊ノ偽装ヲ実験スル為空中偵察ヲ利用ス尚軍団司令部第二課及航空部隊ト絶エス連絡スルモノトス而シテ此等機関ヨリスル諸情報特ニ写真ハ目標ノ探究及射撃ノ実験ノ為対砲兵戦ノ基礎ヲ為スモノトス
該司令官ハ戦術上ノ情況之ヲ許ストキハ師団砲兵ヲ対砲兵戦ニ参与セシムル為軍団司令官ニ意見ヲ具申シ而シテ対砲兵戦参与ノ方法トシテハ師団砲兵ニ目標ヲ限定シテ対砲兵戦ノ命令ヲ与ヘ且限定セル地域内ニ於テ之ニ任セシムルカ或ハ其ノ若干大隊ヲ[illegible]軍団砲兵ノ対砲兵戦ハ一般火力組織中ノ一部トシテ参与セシムルモノトス
該司令官ハ軍団ノ砲兵部長トシテ弾薬補充及材料ノ保存及修理ヲ確実ナラシムルカ為要スレハ軍団内ノ全機関ヲ統一シテ使用ス（弾薬[illegible]機関ハ砲兵司令官ハ軍団[illegible]ト同ヘク責ヲ有ス）
第三八、
第三九、師団ノ砲兵司令官ハ師団ニ属セラレタル全砲兵ヲ指揮ス但一時歩兵ノ隷下ニ属セラレタルモノヲ除クモノトス
該司令官ハ師団長ヨリ命セラレタル任務ノ範囲内ニ於テ砲兵ノ戦闘ヲ指揮ス而シテ其任務ハ一般攻勢戦闘ニ於テハ攻撃準備間ニ於ケル破壊、攻撃ノ直接支援及掩護防禦戦闘ニ於テハ攻撃準備ノ破摧及陣前射撃ニ依ル歩兵ノ直接掩護ヲ実施スルニ在リ
該砲兵司令官ハ隷下砲兵諸大隊ヲ以テ攻撃及防禦戦闘ニ於テ所要ニ応

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シ軍団重砲兵時トシテ隣接師団ノ砲兵ヲ支援ス
該司令官ハ次ノ諸件ヲ決定ス
1、師団砲兵ノ砲兵群ニ編組スル件
2、各砲兵群相互及歩兵トノ連絡ニ関スル件
3、各砲兵群ニ特別任務戦闘区域、目標、観測所、陣地ノ配当ニ関スル件
該司令官ハ砲兵ノ陣地変換ニ関スル事項ヲ師団長ニ意見具申シ之カ実行ノ條件ヲ決定ス又緊急ノ場合ニ際シテハ独断ヲ以テ砲兵ノ陣地変換ヲ命令ス
該司令官ハ師団砲兵ノ内部ニ於テ砲兵群ノ作業、観測及情報蒐集勤務ヲ組織シ且之ヲ点検シ又通信機関ノ使用法ヲ規正ス
歩兵師団ノ師団砲兵司令官ハ常ニ師団砲兵部長タルモノトス
註 騎兵師団ハ砲兵部ヲ有セス
師団砲兵廠ニシテ軍団砲兵廠ニ併合セラレタル場合ニ於テハ師団砲兵司令官ハ該砲兵廠ノ勤務ニ干与セサルモノトス
第四〇、 軍団重砲兵隊長タル大佐ハ通常直接ノ隷下部隊トシテ軍団ニ属スル全砲兵中師団ニ属セサルモノヲ有スルモノトス
該隊長ノ主要ナル任務ハ対砲兵戦ヲ担任スルニ有リ之カ為隷下各大隊ヲ使用シ所要ニ応シ軍砲兵、各師団砲兵時トシテ隣接軍団砲兵ヲ支援ス

第二篇 砲兵ノ運用

通則

第四一、 砲兵ノ使用ニ際シテ次ノ諸項ヲ必要トス
観測組織
砲兵情報勤務
連絡及通信施設
砲兵ノ運用トハ次ノ事項ヲ謂フ
偵察

各中隊ノ展開（放列布置）
火力ノ運用及点検
戦闘間ニ於ケル陣地ノ変換

第八章　観測

第一節　観測ノ目的

第四二、観測ニ関スル一般的事項ハ千九百二十一年十一月二日ノ教令草案ニ記述シアリ（大兵団ノ戦術的用法ニ関スル教令草案附録第五）
砲兵観測ハ二箇ノ任務ヲ有ス
一ハ砲兵情報ニ関スル戦術的任務ナリ即ケ常時観測ヲ継続シ戦場ニ於テ為シ得ル限リ完全ニ観測ヲ實施スルモノニシテ目標ノ探究ト審査ニ依リ具体的ニ之ヲ標示スルモノトス
他ハ射撃ノ修正及点検ニ関スル技術的任務ナリ
第四三、観測ハ砲兵ノ為最モ貴重ナル勤務ニシテ之ニ関スル努力ハ益々益々辨スヘキモノトス

第二節　観測ノ各種手段及其機構

第四四　砲兵観測ノ為ニハ次ノ機関ヲ使用ス
地上観測所（Observatoires　）（又ハ観測所（Poste d'observation　）
砲兵各級指揮官ニ依リ利用セラル
飛行機
気球
標定中隊
第四五、地上観測所ハ精密ナル測器具ヲ使用スルニ適ス
地上観測ハ昼夜ヲ通シテ実施シ得昼間ハ気象状態ニ因リ差異アリト雖一般ニ観測所ヨリ情報ノ蒐集及射撃ノ観測ヲ実施シ得ヘク夜間ハ活動中ノ敵砲兵ノ方向ヲ決定シ又交会法ニ依リ或ハ火光若ハ着発信管ノ破裂点ヲ決定シ得ルニ過キサルモノトス

地上観測ノ視界ハ屡々制限ヲ受クルモノトス地上観測所ノ偵察ハ時トシテ長時ヲ要シ又良好ナルモノハ敵砲兵ノ好目標トナルノ不利アリ

第四六、飛行機ハ最モ良ク遮蔽セル敵地域ノ内部迄テ瞰察ヲ遂行スルコトヲ得ヘク又他面機上ヨリ撮影セル写真ノ審査ニ依リ目視ノ免レタル微細ノ徴候ヲモ観察スルヲ得

然レトモ観測飛行機ハ他ニ多クノ任務ヲ有スルノミナラス其航続時間短少ナルモノニシテ敵ハ極力之カ駆逐ニ努ムヘシ

夜間飛行機ニ依ル観測ハ地上ト完全ナル連絡ヲ必要トシ大口径火砲ヲ有スル部隊ニアラサレハ之ヲ適用シ能ハサルモノトス

第四七、気球ハ屡々砲兵ノ為ニ活動スルモノトス

気球ノ陣地変換ハ困難ニシテ第一線ヨリ六乃至七粁ニ位置シ且其高度ハ一、五〇〇米以上ヲ採ラサルモノトス故ニ飛行機ト同一ノ任務ヲ果ス能ハスシテ只飛行隊ノ数個小ナル場合ニ之ヲ補足スルニ過キス之気球ハ観測ノ永続性ヲ有スルヲ以テナリ

第四八、標定中隊ハ地上標定小隊（S.R.O.T.）及音源標定小隊（S.R.S.）各々若干ヨリ成ル

地上標定小隊ハ敵砲兵ノ微光、爆煙、発煙ニ依リ其ノ位置ノ標定ニ関与シ砲兵ノ射撃ノ破裂点ヲ観測シ其ノ射撃ノ修正及検験ニ協力スルモノトス

地上標定小隊ノ任務ハ砲兵ノ使用スル地上観測所ノ任務ト其差異少シト雖前者ハ其精度頗ル大ナルノ特性ヲ有ス

音源標定小隊ハ音響ニ依リ敵砲兵ヲ標定スルモノニシテ闘戦線ノ友軍砲兵ノ射弾ノ破裂点ノ位置ヲ決定シ得ルモノトス

音源標定小隊ヨリ得タル諸情報ハ大ナル精度ヲ有スルモ其ノ配置ニハ比較的長時間ヲ要シ其活動ハ屡々気象状態ニ因リ妨害セラルルモノトス

又（風速四米ニ達シタルトキハ其ノ情報ハ価値ヲ失フニ至ル）尚音源

標定小隊ハ砲兵ノ活動盛ナル時期ニ於テハ其能力ヲ減少スルモノトス

第四九、情報ノ蒐集、射撃ノ修正及点検ノ何レニ関セス為シ得ル限リ多数ノ観測機関ヲ活動セシムルコト緊要ナリ蓋シ之ニ依リテ審査及交会法ヲ容易ナラシムルヲ以テナリ

特ニ観測手段ノ精度ハ実施スヘキ射撃ノ精度ニ適応セシムルヲ要ス

砲兵ハ其射撃ノ為情況(目標ノ性質及距離等)ニ応シ上述セル諸観測手段ノ一ヲ確定スルモノトス然レトモ殊ニ先ツ各種ノ観測手段ヲ実施シタル各情況ニ適合スルモノヲ選用スル如クスルモノトス

第三節 観測動作

第五〇、一般ニ砲兵ノ地上観測ハ特種ノ人員ニ委スヘキモノナルモ砲兵科将校ハ凡テ射撃観測ニ習熟シアルコト緊要ナリ

第五一、飛行機観測ノ成果ヲ充分ナラシメンカ為砲兵ノ要求ハ努メテ目標ノ発見及射撃ノ点検ニ止メサルヘカラス射撃ノ修正ニ飛行機ヲ協力セシムルハ例外ノ場合ト見做スヘキモノトス

第五二、気球ハ殆ト高度大ナル地上観測所ト設備ス故ニ地上観測ノ研究ハ気球観測ニ運用シ得ヘキモ人員ノ疲労大ナルコトヲ考慮セサルヘカラス

第五三、標定中隊ハ目標ノ発見特ニ敵砲兵ノ発見ノミニ任スルモノトス

標定中隊ハ移動シ得ヘキ部隊ニシテ其設備配置ノ為必要ナル器材ノ機関ヲ配備セラレアルモノトス地上標定中隊配置ノ為ニハ概ネ六時間、音響標定中隊配置ノ為ニハ約二十四時間ヲ要ス、

第二章 砲兵情報勤務

第五四、砲兵情報勤務ハ砲兵ニ関係アル各種ノ情報ヲ蒐集シ砲兵ヲシテ直ニ之ヲ利用セシムル為之カ研究及技術的審査ヲ行フヲ任トス

此ノ勤務ハ砲兵各級指揮官―砲兵聯隊(又ハ他兵隊)ヨリ軍砲兵ニ至ル迄ノ許ニ在ル特種専門ノ一乃至数名ノ将校ニ依リテ実施セラルルモ

ノトス

第五五　砲兵情報部ハ参謀部ノ第二課、飛行情報部、各歩兵聯隊ノ情報部ヨリ来ル諸情報ノ外直接ニ次ノ諸情報ヲ受領スヘキモノトス

1、地上観測所ヨリスルモノ

2、飛行機ヨリスルモノ

3、氣球ヨリスルモノ

4、標定中隊ヨリスルモノ

第五六、運動戰(mouvements)間標定中隊ハ一般ニ軍団ニ配属セラレ軍砲兵ハ軍団ノ砲兵情報部ノ動作ヲ統制スルニ過キス、之ニ反シ陣地戦(stabilisation)ニ於テハ軍砲兵ハ標定中隊ヲ区處シ砲兵情報勤務ノ細部ニ至ル迄干渉シ得ルモノトス

第五七、砲兵情報部長ハ機ヲ失セス受領セル情報ヲ研究シ且之ヲ既得ノ情報ニ比較審査スルヲ要ス

此研究審査ノ作業ハ敏捷ナルヘキ参謀部ノ資ニ供スル緊要ナル情報ハ直接ニ之ヲ不断ノ連繫ヲ保持シツツ實施スルヲ要ス

註、情報ノ蒐集及審査ニ関シテハ大兵団ノ戰術的用法教令中ノ諜報

第四ノ第三四、三五、四〇、四四、四五、四六条ヲ参照スヘシ

若シ情報中直接ニ利用シ得ルモノアルトキハ砲兵情報部長ハ直ニ之ヲ當該級指揮官ニ報告シ又時宜ニ依リ之ヲ利用シ得ル砲兵各級指揮官ニ通報スヘキモノトス

第五八、指揮官ハ常ニ各種情報蒐集機関ヨリ送致セラル諸情報ヲ直ニ利用スルニ必要ナル諸條件ヲ確定シ置カサルヘカラス

而シテ重要ナル目標ノ活動スルニ方リテハ機ヲ失セス之ヲ撃滅スルヲ要ス－一般命令ニ依リ砲兵ニ此點ヲ命シタルトキハ命令ヲ除ク一點トス

激ノ一ハ砲兵中隊、一ハ觀測所、一ハ工事等ヲ發見スル毎ニ直ニ之ヲ射撃スル如キハ常ニ必ス之ヲ爲サシメ得タルモノニアラス然レトモ此際ハ先ツ諸情報ヲ利用

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シ最適切ナル時機ニ射撃ヲナスノ第八義トセザルベカラス

第五九、直接ニ蒐集セル諸情報ハ之ヲ直ニ利用スルト否トニ拘ラス戦闘報告中ニ記入スヘキモノニシテ該報告ノ上級指揮官ニ送附スヘキ件ニ関シテハ砲兵情報勤務ニ依リ之ヲ規定セラシルルモノトス

此等ノ諸情報ハ上述セル各種情報網ニ逐次上級部隊（本部又ハ司令部）ニ集中セラルルモノニシテ上級部隊ニ至ルニ從ヒ各部隊ヨリ到達スル諸情報ハ漸次其量ヲ増大ス而シテ此等諸情報ニ依リ側方ニ対スル連絡ヲ維持シ得ルモノトス

此ノ如クシテ集中セル諸情報ハ其ノ研究ノ結果上級司令部ニテ纂総サレ情報記録トシテ其隷下部隊ニ分配セラルルモノトス

諸情報ノ真價ヲ発揮セシメンカ為ニハ情報ヲ利用シ得ル如ク適時ニ審査分配スルコト緊要ナリ、而シテ此ノ處置ハ頗ル重要ナルコトヲ肝銘スヘシ

第三章 連絡及通信

第八節 連絡及通信ノ目的

第六〇、連絡トハ各努力ノ集中ヲ確実ナラシムル為ノ各戦闘手段ノ綜合ヲ謂フ

平時教育ニ依リ準備セラレ戦闘間ニ高級指揮官ノ命令ニ依リ組織セラレタル連絡ハ戦場ニ於ケル各兵種及各級指揮官ノ間ニ存在スヘキ不断ノ連繋ニ依リテ実施セラルルモノトス

通信ハ各級指揮官間及各兵種間ニ為シ得ル限リ確実且迅速ナル連繋ヲ保持セシムルモノニシテ特ニ命令、報告、情報、要求ヲ傳達スルモノトス

通信ハ砲兵ノ射撃実施ノ為特ニ緊要欠クヘカラサルモノトス

第六八、砲兵ノ連絡及通信ニ任スル両種ノ人員ハ特ニ教育セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツルモノトス然レトモ砲兵大隊ニ於テハ連絡将校及観測将校ハ何レニモ之ヲ流用シ得ルモノトス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二節 連絡ノ施設

第六八、戰鬪連絡ノ施設及維持ハ特ニ困難ナリ之カ爲特ニ次ノ事項ヲ必要トス

一、各級指揮官ハ不斷ノ注意ヲ以テ上級指揮官、隷下部隊、隣接部及他兵種ト緊接ナル接觸ヲ保持スルコトニ努ムルヲ要ス

二、此接觸ハ通信機關ノ良好ナル活動ニ依リ確實ナラシメ得ルモノトス

之カ爲次ノ處置ヲ必要トス

指揮官ハ隷下部隊ノ行動ヲ監視シ情報ヲ與ヘ要求ヲ報告セシメ命令ノ實施ヲ監視ス

隷下各部隊ハ上級指揮官ニ情報ヲ呈出シ其ノ行動及要求ヲ報告具申シ時トシテハ其命令下附ヲ請求ス

砲兵各指揮官ハ同一地區ニ行動スル他兵種各部隊ト緊接ナル協同ヲ爲ス爲確實ナル連絡ヲ保持スルヲ要ス此參觀ハ上級指揮官ト通信杜絶ノ恐アル場合ニ於テ直接支援スヘキ部隊ニ對シテ特ニ緊要ナルモノトス

補給部隊ノ各指揮官ハ戰鬪部隊ノ要求ヲ承知シ其ノ要求ナキ場合ニ於テモ之ヲ充足スルコトニ努力スルヲ要ス

三、連絡施設及維持ヲ容易ナラシメンカ爲次ノ處置ヲ取ルヲ要ス

イ、各戰鬪司令所ヲ接近セシムルコト

軍砲兵司令官（軍團及師團砲兵ニ於テモ同様）ハ此ノ場合ニ於テ軍司令官（軍團司令官、師團長）ノ側ニ位置スルヲ通常トス

歩兵ノ指揮官ト之カ支援ニ任スル砲兵ノ指揮官トノ間ニハ特ニ緊接ナル連繫ヲ必要トシ兩者ノ戰鬪司令所ハ稍接近シテ設置セシムルヲ要ス然レトモ戰鬪間ニ於テハ兩者ノ戰鬪司令所ヲ近接セシメ得サルコトアリ蓋シ兩兵種ノ指揮官ハ該兵種ノ戰鬪指揮ノ實施ヲ確實ナラシムルノ必要アレハナリ

ロ、砲兵各級指揮官ハ射撃ヲ友軍他兵種ノ指揮官ニ委ミ接觸シ或ハ幕僚ヲシテ接觸ヲ保持セシムルコト
此種状況ノ会合ハ又要シ砲兵各級指揮官相互間其ノ隷下部隊及隣接砲兵各部隊指揮官トノ間ノ連絡ヲ確實ナラシムルモノトス
ハ、連絡部隊ヲ派遣スルコト
戦闘中ノ歩兵各部隊ハ直接協同砲兵部隊ヨリ派遣セラレタル連絡部隊ヲ受領スルモノトス
ニ、最モ重要ナル通路ヲ確實ニ維持スル為各種通信機関ヲ使用スルコト

第三節　砲兵内部ニ於ケル連絡ノ特性

第六三、　固有戦闘区域隣接シ相互ノ関係或ハ支援ニ任スル各砲兵部隊間ニハ連絡ヲ緊密ナラシムルヲ要ス
此現地ニ於テ連絡ハ次ノ如ク組織セラルルヲ要ス
イ、師団砲兵全般任務砲兵群ト各直接協同砲兵群トノ間
ロ、師団ニ配當セラレタル軍団ノ砲兵群ト此ノ師団ノ砲兵トノ間
ハ、軍団全般任務砲兵群ト此軍団砲兵ニ於リ構成セラレタル師団ノ砲兵群トノ間
ニ、軍ノ砲兵群ト此砲兵群ニ依リ支援セラルル軍団砲兵トノ間
ホ、数師団ノ為對砲兵戦ニ任スル軍ノ砲兵群ト此等師団ノ砲兵トノ間
ヘ、各兵団又ハ之ニ協力スル兵団ニ属シ同一目的ヲ以テ行動スル隣接各砲兵群相互ノ間
第六四、　連絡ノ機能ハ単ニ戦闘間ニ限ラルルモノニアラス
各部隊ハ各々其ノ任務ノ詳細ヲ決定セラレタル瞬間ヨリ各々ヲ相隣接セル位置ニ在ル各部隊間ニ於テ聯絡スル情報ヲ有リテ交ハシ各部隊相互間ニハ連絡ヲ保持スヘキモノトス此際ニ於ケル連絡ハ企図遂行ニ必要ナル諸情報ヲ交換シ警戒ヲ確實ナラシムルモノトス

第四節　通信機関

第六五　砲兵ノ使用スヘキ通信機関次ノ如シ

砲兵部隊内

1、傳令(自動車傳令、自轉車傳令、乗馬傳令(註参照)徒歩傳令)

註、乗馬傳令ハ始ト如何ナル状況ニ於テモ通過シ得ルヲ以テ傳令トシテ最好ノ成果ヲ収メ得ヘシ特ニ情況未タ不明ニシテ大部隊ノ移動ヲ為シ交通ヲ錯雑セシムル場合ハ自動車傳令ニ数騎ヲ附シ時ニ配属スルコト緊要ナリ

2、電話

3、視号通信

4、無線電信(註参照)

5、時トシテ地中電話、鳩傳令、犬

歩、砲兵間

1、以上述ヘタル外尚信号

註　ハ概ネ砲兵大隊以上ノ部隊ニノミ無線電信器材ヲ有スルモノトス

現行器材ヲ以テシテハ各師団共無線電信ニ依リテハ無線通信網ヲ構成シ得ルニ過キス該通信網ハ師団司令部、師団歩兵司令部、前進情報収集所、各歩兵聯隊及各砲兵聯隊随伴飛行機(l'avion d'accompagnement)時トシテ気球ノ為通信所ヲ包含スルモノトス而シテ本通信網ニ依ル過度ノ通信負擔ハ遂ニ混雑ノ害ヲ醸スニ至ルモノトス

故ニ命令ヲ受領スル迄ハ無線通信ハ先ツ直接協同砲兵群ト歩兵聯隊トノ間ノ連絡ニ次テ師団ノ砲兵ト各砲兵群指揮官トノ間ノ連絡ニ止メ他ハ之ヲ縮小シ砲兵大隊ハ緊要已ムヲ得サル場合ノ外之ヲ使用セサル如クスルヲ適当トス

砲兵ト飛行機トノ間
1、無線電信（飛行機ヨリ砲兵ヘ時トシテ両者間）
2、通信筒投下信号（飛行機ヨリ砲兵ヘ）
3、旗布板布版信号（砲兵ヨリ飛行機ヘ）
砲兵ト氣球トノ間
1、電話
2、時トシテ無線電信（氣球ヨリ砲兵ヘ）

第五節 通信網ノ構成

第六六、前進間同行シアラザル各級指揮官相互間ノ通信ハ専ラ傳令ニ依リテ實施セラルルモノトス
砲兵部隊カ戰闘スル際ニ於テハ次ノ連絡ヲ確實ナラシムルヲ要ス
1、指揮ノ為ノ連絡
2、観測ノ為ノ連絡
3、他兵種トノ連絡（特ニ直接協同ノ砲兵ニ在リテハ歩兵ト）
4、補給機関トノ連絡
戰ノ準備ニ在リテハ各師団ハ其ノ前進軌ニ沿ヒ師団通信隊ノ材料ヲ以テ數箇ノ通信中繼ヲ設置ス而シテ此等中繼ノ連接ニ依リテ通信軸ヲ構成ス
各砲兵群ハ各種機関ヲ閉ヒ最寄ノ通信中繼ヲ利用シテ高級指揮官ト連絡スルモノトス
各個兵群ノ内部ニ在リテハ先ツ傳令ヲ以テ連絡シ次テ他ノ機関ヲ使用シテ之ヲ完成スルモノトス
地形之ヲ許ストキハ視号通信ハ最小時間ニ通信ヲ為シ得ル利アリ砲兵群内ノ要諸通信網ハ直ニ之カ構成ニ着手スルヲ要ス該通信網ハ時間、材料及人員ヲ節約スル為メ一般計画ニ従ヒテ命令セラルルモノトス時トシテ師団通信網ノ一部ヲ利用シ以テ之レカ構成ヲ容易ナラシムルコトアリ

リ地上観測所トノ連絡ハ屡々困難ナルモノトス故ニ電話ノ外他ノ比較的損害ヲ受ケ難キ機関（地中電話、視号通信）ヲ用ヒテ通信ヲ二重ニスルコト緊要ナリ、観測所前線陣地ニ遠隔シアル場合ニ於テハ其ノ観測所地域内ニハ乃至数箇ノ通信中継ヲ設ケ前線陣地地域内ニ在ル他ノ通信中継ト連絡シテ編成スルノ利アリトス、然ノスルトキハ各機関ハ最大能力ヲ発揮シ最モ良ク相互補間セシメ得ヘシ、一般ニ該通信網ノ編成ハ砲兵大隊又ハ砲兵群之ヲ実施スルモノトス

砲兵大隊陣地ヲ占領スルヤ空中線ヲ設置スヘキモノトス、一般ニ敵ノ直前ニ於テ砲兵部隊カ可ナリ急ヲ要スル時ハ途中路上ニ在リテモ観測飛行機ト連絡ヲ為シ得ルノ利益アルモノトス此ノ場合飛行機ハ適宜約束信号（煙火又ハ運動ニ依ル信号）ヲ送ルモノトス此ノ際状況時間ニ空中線ヲ設置シ布板ヲ配置シ得ル為ノ所有ル手段ヲ講スルヲ要ス

歩兵聯隊ト直接協同砲兵群トノ間ノ連絡施設ハ砲兵之ニ任スルヲ原則トス然レトモ此ノ連絡ハ行動間ニ於テハ屡々両兵種ノ通信機関ヲ協同セシムルニアラサレハ実施シ能ハサルコトアルモノトス歩兵聯隊ノ通信軸上ニ於ケル電話回線ハ歩砲両兵種混成班（歩兵及砲兵卒）ニ依ルカ或ハ両兵種ノ各編成班ニ作業ヲ分配シテ建設スルモノトス直接協同ノ砲兵群長ト歩兵聯隊長トノ戦闘司令所相近接シアラサル時ハ此ノ回線ハ両指揮官ノ連繋ヲ確実ナラシムル為メノ方法タルモノトス

歩兵聯隊及砲兵群ノ無線ノ送受信所ハ電話ノ副通信トナルヘキモノトス

第六七、完全ニ編成セラレタル陣地正面ニ在リテハ砲兵ハ電話通信ノ為次ノ各種電話網ヲ使用ス

1、一般通信網、大部隊ノ通信部隊ニ依リ建設維持、使用セラルルモノニシテ其回線ハ次ノ通信網ニ区別セラル

イ、指揮用通信網、各級指揮官間、歩兵聯隊及砲兵群ニ至ルマテ連絡ス

ロ、射撃用通信網、射撃ノ編成（操典第八部 第九篇及射撃教範参照）修正兵検ノ為ニ使用スルモノトス此通信網ニ於テ通信中継ノ一半ハ砲兵群或ハ砲兵大隊ノ近傍ニ他ノ一半ハ観測所地域内ニ位置セシムルモノトス該通信網ハ又砲兵ト飛行機、繋留氣球、標定中隊トヲ連絡シ高地上観測所ノ利用範囲ヲ益々拡張スルノ利アリ

ハ、砲兵部隊用通信網、各砲兵部隊之ヲ建設維持使用スルモノトス該通信網ハ凡テノ部隊内ノ連繋ヲ維持シ一般通信網ニ加入スヘキ要旨該線ヲ包含スルモノトス

第四章 偵察

通則

第六八、偵察ハ砲兵ノ戦闘加入ヲ準備スルモノニシテ時間ノ節約及労費ヲ避ケ以テ砲兵ノ陣地占領ヲ確実ナラシムルモノトス

偵察ハ一般ノ任務ニ基キ実施セラルルモノニシテ各種ノ偵察実施前ニハ任務ノ研究ヲ必要トス

一般ニ偵察ニ方リテハ先ツ図上ニ於テ情況及任務ヲ研究シ次テ其結果ヲ現地ニ就キ補足シ修正スルモノトス

偵察ノ完全ヲ期シ行動ノ自由ヲ得シムル為為シ得ル限リ速ニ偵察機関ヲ派遣シ必要ナル時間ヲ得シメ又部隊ヨリ遠ク前進セシムルヲ要ス此種方法ニ依リ道路ノ障碍ハ除去セラレ砲兵ハ戦闘参加以前ニ於テ敵火ニ依リ暴露シテ停止スルコトナキヲ得ヘシ

偵察ハ其区処適切ナルニ従ヒ迅速ニ実施セラルルモノトス

偵察ハ慎重ナルヲ要ス又不用意ニ実施セハ偵察ノ為敵ニ我カ行動ヲ察知セラルルコトアラン又砲兵ノ戦闘加入準備ハ良好ナルヲ得サレハナリ

第一節 偵察勤務

第六九、偵察ニハ次ノ事項ヲ包含ス

1. 観測所ノ偵察
2. 敵列陣地及段列（les positions de combat）（第一部ハ弾薬器材等ヲ携行シ小行李ノ性質ヲ有シ第二部ハ糧食ヲ携行シ大行李ノ性質ヲ有ス）ノ位置ノ偵察
3. 弾薬司令所ノ偵察
4. 通信ノ研究
5. 射撃準備ニ関スル第八ノ意見

観測所ノ偵察

第七〇、 凡ソ砲兵部隊ノ使用スル数観測所（les observatoires）或ハ数観測哨（les postes d'observation）合シテ以テ観測網（le réseau d'observation）ヲ構成スルモノトス

観測網ハ為シ得ル限リ砲兵部隊ノ射撃ニ任スヘキ全区域ヲ観察シ得ルヲ要ス観測所ノ数及位置ハ一ニ地形ニ関スルモノニシテ現地ヲ偵察スルニアラサレハ正確ニ決定シ能ハサルモノトス

今観測所ノ偵察ニ方リ観測所ノ能力ハ観測所ト諸機関及火力機関（les organes de feu）（射撃部隊）ニ連絡スヘキ通信ノ難否ト緊密ナル関係アルモノナルコトヲ銘記スヘシ

観測所ノ正確ナル位置ヲ敵ニ領知セシメサルコトニ勉ムルヲ要ス蓋シ之ニ依リテ敵ノ破壊或ハ制圧射撃ニ観測所ヲ暴露スルコトナカラシメ得レハナリ又重要ナル観測所ハ敵眼ニ暴露スルニアラサレハ交通シ能ハサル地域ニ配置スルコトハ努メテ之ヲ避クルヲ要ス

敵列陣地ノ偵察

第七八、 敵列陣地ハ大砲ノ任務達成ヲ第一要義トシテ決定セラルルモノニシテ為シ得ル限リ次ノ條件ヲ具備セサルヘカラス

1. 大砲ニ廣濶ナル射界ヲ與フルコト
2. 弾薬補充ニ便ナルカ為進出入容易ナルコト

3、連絡ノ施設及通信ノ維持容易ナルコト
4、敵ノ地上観測及飛行機ヨリスル偵察ニ対シ遮蔽シ得ルコト
5、毒瓦斯ノ滞留スル恐アル地域ヲ避クルコト
6、近接防禦ハ比較的容易ナルコト
7、人員ノ為適切ナル位置ヲ求ムルコト
既ニ陣地ヲ占領シ正確ナル測地諸元ヲ算定シ得ヘキ砲兵部隊ノ近傍ニ戦闘加入スル砲兵ハ該諸元ヲ有利ニ使用シ得ルモノトス

第七二、 放列位置ノ偵察

放列位置ハ為シ得ル限リ次ノ諸件ヲ充足スルヲ要ス
1、交通便利ニシテ敵眼ニ遮蔽シ放列陣地及後方段列補充機関ト連絡容易ナルコト
2、敵飛行機ノ偵察ニ対シ遮蔽シ得ルコト
3、敵砲兵火ノ濃密ナル射撃地帯外ナルコト
4、集団ヲ避ケテ展開スルコト之ニ依リテ損害ヲ局限シ得ヘシ
5、大地形殊ニ谷ノ便アル地域ナルコト
6、数箇ノ進出路ヲ有スルコト
情況ニ依リ前車或ハ繋駕自動車ハ放列ヨリ分離シ放列陣地ニ近接セシムルコトアリ然ルトキハ其ノ位置ハ敵眼ヲ避ケ為シ得ル限リ掩護ニ依リ安全ナル如ク選定スルヲ要ス

第七三、 戦闘司令所位置ノ偵察

軍団及師団砲兵司令官ノ戦闘司令所ハ常ニ其ノ所属兵団司令官指揮官ノ戦闘司令所ノ近傍ニ位置スヘキモノトス
其他ノ砲兵各級指揮官ノ戦闘司令所ハ情況ニ応シ又ハ上級指揮官ヨリ指定セラレ或ハ各種ノ利害ヲ考察シテ之ヲ選定スルモノニシテ其ノ位置ハ為シ得ル限リ次ノ条件ヲ充足スルヲ要ス
1、全般情況ニ於ケル命令ノ授受容易ナルコト

21

二、其近傍ニ絶ヘス精細ナ偵察シ得ル観測所ヲ所得シ得ルコト
三、部隊ノ任務ニ直接関係アル部隊（歩兵及騎兵）ト容易ニ連絡ヲ維持シ得ルコト
四、其附近ハ飛行機ト良好ナル連絡ヲ確保スル為空中標識及布板信号所ノ設置ヲ許スコト
五、戦闘司令所及其附近ハ敵ニ遮蔽スルハ勿論飛行機ニ対シテモ遮蔽シ得ルコト
此等ノ条件ヲ綜合スルニ砲兵ニ必要ナル戦闘司令所ノ位置ハ道路ノ附近ニシテ制高ヲ有シ且敵ニ掩蔽シ尚敵ノ組織的射撃ヲ避ケ得ルカ如キ地点ニ選定セラルルコトトナルヘシ又運動間ニ在リテハ此等戦闘司令所ハ通信軸ノ附近ニ選定セラルルモノトス

通信ノ研究

第七四、砲兵ノ戦闘加入時期ニ於ケル通信施設ニハ相当ノ長時間ヲ要スルモノトス
従ヒテ此作業ハ偵察ハ終了ヲ告クルヤ直ニ着手スルヲ要ス之カ為通信班長ハ所属部隊長ノ偵察ニ同行シ最初ヨリ所要ノ決定ト観測所、放列陣地戦闘司令所確定スルヤ之カ細部ヲ決定スルモノトス
通信網ノ構成ニ関シテハ第五章ニ示シタル要領ニ依リ実施スルモノトス

射撃ノ準備

第七五、射撃ノ準備作業ノ内陣地標定及諸元ノ決定等ハ各種機械ノ設置セラルルヤ直ニ実施ニ着手スルモノトス
情況之ヲ許セハ砲兵指揮官ハ特種専門将校ノ指揮ニ依リ測地的編成ヲ為シ少クモ完全ニ実施スルモノトス、此種編成ハ戦闘ニ加入スル砲兵大隊ノ為好結果ヲ齎スモノトス

第六節　全般指揮官ノ偵察作業ノ区分

第七六、 砲兵ハ偵察ノ為多少ノ時間ヲ要シ射撃シ得ルマデ更ニ若干ノ時ヲ要スル為偵察準備ノ命令ニ依リテ全般ノ偵察ヲ迅速ナラシムルヲ要ス

上級指揮官ハ特ニ右ノ如キ場合ニ於テ其ノ偵察ヲ指導スルニ偵察ニ於ケル其ノ実施ノ範囲ヲ示スヲ肝要トス

然レトモ此ノ全般ニ関スル概念ヲ得ル為ニハ砲兵指揮官ハ現場ニ臨査シ或ハ空中観測ヲ利用スルコト緊要ナリ

然レトモ砲兵各級指揮官ハ地図ニ依ル研究ニ依リ属ニ命令ヲ作為セサルヘカラサルコトアリ（複覧図（Le Plan directeur）ヲ有スル時ハ之ニ依ル）

爾後隷下部隊観測偵察ノ結果提出セル報告ニ基キ展開ノ為諸細部ニ関ヘタル命令ヲ修正スルヲ要スルコトアリ此修正ハ部下ヘ乃至数部隊ヲ害受スルノ利益ト全部隊ノ為実行不利トヲ比較考慮シタル後之ヲセノトス

第七七、 師団砲兵司令官、軍団重砲兵隊長、軍団重砲兵司令官ヲ以テ砲兵隊長ニ偵察ヲ命スルニ當リ注意スヘキ主要ナル其要項ハ左ノ如シ 23

一般ノ情況。 敵情、友軍ノ情況、指揮官ノ企図、殊ニ歩兵ニ関スル命令ノ通報

軍隊区分。 砲兵群ノ区分、師団、軍団、軍砲兵ノ編組、隣接砲兵群ノ編組

任務。 砲兵群ノ任務、固有戦闘区域及主要ナル目標、隣接砲兵群ノ情況、使用スヘキ射撃能力、（臨時戦闘区域ニ関スルモノハ一般ノ指示）

観測。 観測所ニ関スル情況、求ムヘキ観測ノ能力、砲兵群ニ協同スヘキ飛行中隊及気球隊ハ連絡ニ従事スル飛行中隊

砲兵情報勤務ニ対スル砲兵群ノ援助

陣地。 放列陣地及段列ノ為選定セル地域、砲兵群ノ為充当スヘキ陣地、

連絡。 砲兵群ニ與フヘキ任務ニ直接関係ヲ有シ互ニ連絡ヲ保持スル

四。

ヲ要スル他ノ部隊、戦闘司令所等ニ出スヘキ連絡者

通信。 通信中枢、前進情報収集所、現在及将来ノ予定電話通信網、特種射撃用通信網、無線電信網ノ編成、暗号記号等ノ介報、視号通信、火箭其ノ他ノ信号規定、暗号ニ関スル事項

射撃ノ編成。 陣地標桿及方向基線、坐標表、測候所（ヘ呼出符号、通信時間、位置）地図、戦闘指導図及写真ノ供給

弾薬補充。 勤務ノ編成、弾薬中央交付所並弾薬廠ノ前進廠及積換所ノ位置、呈出スヘキ報告及要求、各種型式弾薬ノ処理、装薬ノ口ニ依ル特性

次

陣地ノ編成。 命令スヘキ作業、偽装材料及築設材料ノ準備、関係アル弾薬

置場ノ位置、

戦闘参加ノ條件。 砲兵群ノ戦闘参加ノ状態ニ在ルヘキ時間、射撃開始ニ関スル命令

交通。 道路網ニ関スル情況、交通ニ関スル規定、道路ノ通報及交通遮断

射撃準備ノ完了

其他ノ事項、 中央修理所ノ位置、還送ニ関スル件、該地域内ニ於テ使用シ得ヘキ飲用水、揮発油倉庫、飲料水等ニ関スル件

第七八 砲兵群長ハ時間ノ余裕アル場合ニ於テハ上級指揮官ヨリ介報セラレタル地域ヲ巡シ副官ニ詳細ナル偵察任務ヲ与ヘ其ノ報告ニ基キ偵察ヲ完成スルモノトス

時間ノ余裕ナク機ヲ失セス戦闘ニ加入セサルヘカラサル場合ニ於テハ当上ノ係員ノミヲ以テ命令ノ骨子ヲ下ササルヘカラサルコトアリ

砲兵群長ハ砲兵群ノ受ケタル命令ニ基キ麾下各大隊ニ命令ヲ付与スルコトトス

砲兵群長ハ常ニ戦闘セル部隊ヨリ情況ヲ得ルコトニ勉メ且周ク得タル所ヨリ遅滞ナク支援スヘキ部隊ト連絡スルヲ要ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三節　射撃ノ可能性

第七九　現地ニ於テハ射撃ノ可能性ハ各部隊毎ニ腐心シ得ル限リ迅速ニ決定シ且之ヲ上級指揮官ニ報告セサルヘカラス上級指揮官ハ之ニ依リ随時戦闘区域ヲ確定スルヲ得ヘシ

射撃ノ可能性ヲ知悉スルモノハ砲兵各級指揮官（中隊長ニ至ル迄）其任務ヲ迅速ニ遂行スル為極メテ緊要ナリ之ニ依リテ機ヲ失セス又遅疑ニ陥ルコトナク各部隊若ハ各砲車ヲ指定シ任務ニ遂行ニ任セシメ得ヘケレハナリ

第五章　砲兵ノ展開

第一節　要則

第八〇、戦闘ニ於ケル砲兵ノ展開ハ戦術上ノ情況、射撃準備ノ程度、連絡ノ必要、地形ニ依リテ其ノ要領異ニスルモノトス

第八一、戦術上ノ情況当初ノ配置ハ行動間ニ於テ附与セラレタル砲兵ノ任務ニ依リ異ナルモノトス

戦闘ハ其ノ攻防如何ヲ問ハス常ニ不断ノ努力ヲ以テ遂行セラルルモノトス砲兵ハ攻撃的積極ハ防禦スヘキ地帯ニ最大ノ努力ヲ以テ活動シ得ル如ク配置スヘキモノトス尚戦闘（前進又ハ退却）ノ推移ニ伴ヒ機ヲ失セス戦闘ニ干渉シ得ル如ク準備シアラサルヘカラス

此等条件ハ縦深配置ヲ必要トスルニ至ルモノニシテ之ニ依リ砲兵ハ有効ナル戦闘地帯ヲ拡張シ死角ヲ減少シ、損害ヲ減少シ、錯雑ヲ容易ニシ、爾後ノ陣地変換ヲ容易ナラシムルモノトス

縦深配置ノ程度ハ戦術上ノ情況ニ依リテ之ヲ定ムルモノトス

攻勢行動間ハ配置ノ変更ヲ行フコトナク正面ヲ保持スル様ニ顧慮スヘシ射撃シ得ル砲兵ノ大部ニ於テ行フ　陣地変換ハ戦術的条件之ヲ許シ且攻撃準備ヲ秘匿シ得ル限リ最初ヨリ之ヲ前方ニ推進スルヲ要ス蓋シ攻撃ノ企図ハ使用スル縦隊ノ発数ニ依リテ之ヲ暴露スルニ至ル為ニ

得ルモノトス
防禦戦闘ニ於テ砲兵ハ高級指揮官ヨリ指令セラレタル陣地ニ於
方ニ特ニ強大ナル敵砲兵ヲ発見シ得ル如ク配置スルモノトス砲兵ノ一部ノ
ミヲ前哨ノ前方ニ活動シ得ル如ク配置シ敵砲兵ヲ射撃セシム、而シテ砲兵
ノ配置ハ一般ニ攻撃砲兵ノ配置ニ比シ一層縦深大ナルモノトス

第八二、射撃準備及連絡資材ハ殆ト射撃準備ニ於ケル攻撃ノ如ク特ニ観測所
ト連絡ノ要度ハ各種部隊ノ為陣地ヲ選定スル重要ナル影響ヲ与フルモ
ノトス

即チ直接協同戦闘ニ不断ニ注意シ特ニ歩兵ノ同僚ニ対シ射撃スル等ノ任務ヲ有
スル砲兵中隊ノ如キ之ナリ

第八三、地形　地形及地物、遮蔽及掩護、土地及交通ノ状態ハ砲兵ノ配置ニ
影響スルモノトス
例ヘハ移動性若ハ操縦性ニ欠クル火砲ヲ有スル部隊ヲ困難ナル地形ハ（
泥濘地、森林地帯等）ニ配置スルカ如キハ適当ナラス

第八四、一般ニ高級指揮官ハ砲兵ノ占領地域ヲ指示スルニ止ムルモノト
ス、
砲兵各指揮官ハ之ニ基キ細部事項ヲ規定ス

第二節　攻囲陣地ノ彼方ニ於ケル展開

第八五　攻勢ノ為砲兵大集団ノ展開ハ攻撃奏功ノ基礎要件ノ一タル急襲ノ遂行ヲ主眼トセサルヘカラス

砲兵ニシテ攻撃開始ノ時期ニ至ルマテ暴露スルコトナクンハ敵ニ急襲ハ蓋シ實現セラレタルモノト謂フヲ得ヘシ

之カ為着意スヘキ拡大ノ要件トシテ砲兵ノ行動及陣地配備ヲ秘匿スル為偽騙ノ手段ヲ講スルヲ要ス特ニ放列布置前ノ諸行動（陣地偵察、測地作業）ヲ敵ニ發見セラレサル如クスルコト緊要ナリ

偵察ハ縮限シニ遮蔽シテ實施シ徒歩者、乗馬者、自動車等ノ交通ハ常ニ此レ頻繁ナル感ヲ與ヘサル如クスルヲ要ス

測地作業ハ爾他部隊ノ到着前ニ於テ特種専門員ノ作業ニ依リ實施セラレシテ向後砲兵道路法ノ設定ヲ準備スルモノトス就中陣地ヲ占領シアル部隊ハ此観作業ニ協力スルコトアリ否ナルモ測地諸元ノ採究ニ依リテ

常ニ此作業ヲ完成シ増加砲兵部隊ノ射撃準備作業ノ容易ナラシムルコトニ勉メサルヘカラス

第八六　設備陣地ノ攻撃ニ於テ攻撃砲兵ハ一般ニ掩護確実ナルヲ緊要トス然レトモ過早ニ工事ヲ開始シ此企図ノ敵ニ察知セラルルカ如キコトアルヘカラス攻撃ノ準備ニ当リ材料ハ之ヲ工事スヘキ現地ニ運搬シ偽装ヲ施セル場所ニ配置スルヲ以テ足レリトス而シテ中隊到着スルヤ必要ナル人員又ハ弾薬ノ為掩蔽部ヲ構築スルモノトス

弾薬ノ大部ハ豫メ輸送セラルルモノトス此等弾薬ハ砲兵中隊ノ将来位置スヘキ場所或ハ各部隊カ弾薬補充ノ為迅速ニ到リ得ヘキ場所附近ノ弾薬置場ニ配置セラルルモノトス

同様ノ注意ハ敵ハ攻撃ノ豫期スル某正面ニ増援スヘキ部隊ノ為ニモ亦必要ナリ蓋シ敵ヲシテ其正面前ニ於ケル我兵力ニ関シ明確ナル判断ヲ為シ得シメサランカ為ナリ

第八七　設備陣地ニ対スル砲兵ノ攻撃準備ハ次ノ事項ヲ包含スルモノトス

1. 弾薬及築設材料ノ輸送
2. 射撃ノ測地的準備、観測網及通信網ノ編成
3. 各砲隊人員ノ到着
4. 放列布置《掘付作業ヲ含ム》
5. 時トシテ砲陣地ヲ占領スルコトナク若干火砲ヲ以テスル射撃ノ修正

諸作業中最モ時間ヲ要スルモノハ弾薬ノ輸送ナリトス此輸送期間ハ構成スヘキ弾薬補充組織ノ要度、交通網ノ交通能力及使用輸送材料ノ運搬能力ニ関係スルモノトス

之ニ反シ砲兵材料ノ放列布置ハ比較的短時間ニ終了スルモノトス《註参照》射撃ノ測地的準備、弾道遅ノ決定、装薬ノ口ニ依ル特性ノ決定等豫メ十分ナル注意ヲ以テ準備セラレアルトキハ火砲材料《陣地ヘノ

ノ誘導ハ最後ノ時期ニ行フヲ得ヘク之ニ依リ攻撃ノ前日ニ行ハルヘキ射撃ノ如キハ僅カノ修正若ハ點檢ヲ行ヘハ足レリトス

註、本條與附錄第八八主要材料ノ放列布置ニ必要ナル最小限ノ時間ヲ了知セシム

第三節　接敵前進間ニ於ケル展開

第八八　接敵前進ハ敵ノ交通遮斷射撃地帶内ニ進入スル時期ヨリ開始スルモノトス

高級指揮官ハ一般行軍部署中砲兵ノ警戒ノ安全ヲ顧慮シ且機ヲ失セス迅速ニ戰闘ニ加入シ得ル如ク前進間ニ於ケル砲兵ノ部署ヲ命令スルモノトス砲兵各中隊ハ現出スヘキ敵砲兵ニ對シ其ノ火力ヲ以テ迅速ニ之ヲ捕捉シ得ル如ク常ニ準備シアラサルヘカラス

接敵前進間ニ於ケル各級指揮官ノ通信ハ傳令ニ依リ確保セラルルモノトス

停止又ハ行進間ニ於テ砲兵ハ地上及空中ノ敵ニ對シ警戒スルヲ要ス又砲兵ハ敵ノ空中ヨリスル視察ニ對シ遮蔽スルコトニ勉メ敵飛行機ノ攻撃ニ對シテハ其機關銃ヲ以テ自衛ヲ行フモノトス

砲兵ハ敵ニ近ツクニ從ヒ其隊形ノ疎開ニ勉メ尚各部隊間ノ距離ヲモ逐次ニ増加スルヲ要ス

砲兵ハ道路上ヲ行進スルヲ原則トスルモ繋駕輕砲兵一〇五糎砲大隊例外トシテ一五五糎榴彈砲大隊ハ原野畑地ヲ通過シ得ルモノトス

自動車砲兵ハ未タ敵ニ觸接セサル間ハ後方ニ位置セシメラルルモノトス然レトモ該部隊ノ諸偵察ハ適時戰闘加入ヲ準備スル爲前方ニ《部隊ニ先行シテ》行ハルルモノトス若混雜ヲ惹起スルノ虞ナキトキハ自動車長ハ砲兵ヲシテ爲シ得ル限リ迅速且大距離ニ砲火ヲ開始シ得シムル爲師團砲兵ノ行軍位置ト同高ノ位置マテ推進セシムルヲ利トスルコトアリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第八九　編成セラレタル陣地ノ掩護下ニ於テハ砲兵ハ通常夜間陣地ヲ變換スルモノトス

若黄間ノ行動實施ヲ必要トスル場合ニ於テハ砲兵ハ敵ノ地上爲シ得レハ空中ヨリスル目視ニ對シ遮蔽セル道路ヲ求メテ小部隊毎ニ前進スルモノトス

第九〇　前條ノ原則ハ獨リ砲兵ノ射撃部隊ニ適用スルノミナラス又放列陣地附近ニ到ルヘキ彈藥補充ノ諸部隊ニモ齊シク適用スヘキモノトス

第九一　觸接ノ時期近接スルヤ砲兵ハ漸次ニ進行シ其ノ一部ハ常ニ戰鬪ニ加入シ得ルカ如キ方法ヲ以テ陣地ヨリ陣地ヘ躍進スルモノトス

諸情報ハ注意ヲ拂ヒ蒐集セラルルモノトス

各部隊ハ傾聚ヲ實施シ地上觀測所及空中觀測者ト連絡スヘキ空中線ヲ火砲材料ノ現地上ニ配置《放列ヲ布置》スルモノトス

此時期ニ於ケル通信ハ各々中隊、觀測所、戰鬪司令所間ヲ視號通信又ハ爲シ得ル限リ短距離ノ電話線ニ依リ構成セラルルモノトス

状況急ヲ要スル場合ニハ中隊長ノ指揮ヲ容易ナラシムル爲中隊ハ觀測所ニ近ク放列ヲ布置スルモノトス

第四節　展開ノ完了

第九二　觸接ノ保持ハ行進間ニ行ハレ展開ハ砲兵各部隊ノ情況ヲ顧慮シ高級指揮官ニ依リ決定セラレタル任務遂行ニ適スル如ク完了スルモノトス而シテ砲兵各部隊ノ陣地狹狹ハ現在陣地ニ於テ十分ナル效果ヲ以テ交戰シ得ル限リ之ヲ避ケサルヘカラス

砲兵各級指揮官ハ隷下部隊ノ射撃及觀測ノ可能性ニ關シ情報ヲ補修スルモノトス

第九三　《時間ノ経過ニ伴ヒ》觀測施設ヲ完成シ地形ハ漸次其細部ニ至ル迄明瞭トナリ諸情報ハ漸クタキヲ加フルモノトス

最初單一ノ觀測哨ニ依リ界近的ニ施行セラレタル射撃ノ點檢ハ聽テ相

對應セル數個ノ觀測所ヨリ交會法ニ依リ之ヲ實施シ得ルニ至ルモノトス

第九四　步兵ト連絡ノ爲ノ連絡班（des détachements de liaison avec l'infanterie）ノ組織ハ砲兵ノ展開ニ先タチ實施セラレ通信ハ砲兵ノ展開ニ伴ヒ進展スルモノトス

施設スヘキ各種ノ連絡次ノ如シ

砲兵群ニ在リテハ其戰闘司令所ヨリ次ノ箇所ニ

1、最寄ノ通信中樞

2、支援スヘキ步兵部隊（直接協同ノ砲兵群）

3、觀測哨

4、隣接スル他ノ砲兵群

砲兵大隊ニ在リテハ其戰闘司令所ヨリ次ノ箇所ニ

1、（所屬）砲兵群

2、支援スヘキ步兵部隊（直接協同ノ砲兵大隊）

3、各觀測所

4、隣接スル他ノ砲兵群

5、時トシテ通信中樞、氣球又ハ某地上標定隊

又連絡班ハ所屬指揮官ト連絡スル爲電話線ヲ架設スルモノトス

第五節　陣地設備

第九五　陣地決定スルヤ直ニ其設備ニ着手スルモノトス陣地設備ニ方リテハ偽装ヲ顧慮セサルヘカラス遮蔽セサルカ遮蔽又ハ偽装ノ誤リタル陣地ハ損害多キモノトス

陣地ノ設備ハ所要ニ應シ射撃ノ間斷ヲ利用シテ漸進的ニ實施スルモノトス

實施スヘキ緊要ナル作業ノ順序次ノ如シ

1、陣地及其近傍及特ニ足跡ノ遮蔽

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

2、陣地進入及射撃實行ノ容易ナラシムル作業
3、電話通信所、戰闘司令所、人員ノ掩蔽部ノ構築此等ノ作業ハ先ツ
敵ノ砲撃ニ對シ掩護シ得ヘキ單簡ナル掘土作業ニ依ルモノトス
4、彈藥ノ爲簡單ナル掩蔽部ノ構築
5、部隊所要ノ時間ト材料トヲ使用シ得ルニ至ルヤ人員及彈藥掩蔽部
ノ改修

第六節　標定中隊ノ展開

第九六　運動期間ニ於テ標定中隊ハ軍團ニ配當セラルルヲ通常トス
此種部隊（《所要時間ノ大ナルコト第五ニ參照》）ヲ情況ノ明瞭トナルマ
テ後方ニ位置セシメ爲ニ戰闘加入ノ所要時間ヲ早急ナラシメサルヲ要
ス寧ロ所屬標定各小隊ヲ迅速ニ展開シ活動セシメンカ爲ニハ常ニ之ヲ
手裡ニ掌握シ且之ヲ十分ニ運用スルヲ適當トス
（《標定中隊ハ展開ノ爲時間ヲ要スルノ故ヲ以テ情況ノ明瞭トナルマテ之
ヲ後方ニ位置セシムルヲ許サス之ヲ有利ニ使用センカ爲ニハ各小隊ヲ
近ク手裡ニ掌握シ迅ニ行動、展開セシムルノ方法ヲ講シ之ヲ最高度ニ使
用スルコトニ勉ムルヲ要スル意ナリ》）

第九七　標定中隊ハ軍團砲兵司令官ノ命令ニ基キ其師團ノ通信軸ニ沿ヒ
テ移動ス該中隊長ハ軍團重砲兵隊長ト連絡ヲ保持シ絶エス情況ヲ報告
スルコトニ勉ムルモノトス
全接敵前進間地上標定小隊ハ常ニ一ノ觀測所ヲ配置スルモノトス其諸哨
ハ歩兵ノ前進ニ伴ヒ通信軸ニ沿ヒ視界大ナル地點ヲ交互ニ占領スルモ
ノトス其本哨（le central）ハ後方ニ位置スルカ或ハ陣地ニ就キアル
ヘ哨所ノ近傍ニ位置スルモノトス蒐集セル諸情報ハ標定小隊長ノ決意
ニ依リ直接ニ近傍ノ砲兵部隊ニ通報シ同時ニ通信軸ニ依リテ砲兵情報
部及軍團前進情報收集所ニ通報スルモノトス
音源標定小隊ハ爲シ得ル限リ之ヲ前方ニ推進セシメ師團ノ一二カト同高

ノ位置ニ在ラシムルヲ原則トス

第九八　音源標定小隊及地上標定小隊ハ命令ヲ受クルヤ直ニ迅速且同時ニ展開シ得ルノ準備ニ在ルモノトス之カ為隊ハ圖上ニテ研究シ高級指揮官ノ命令セル逐次ノ躍進ニ依リ展開シ得ヘキ地帯ヲ決定スルモノトス

音源標定小隊及地上標定小隊ハ測地作業ニ依リ決定スヘキ地點數ヲ減少センカ為シ得ル限リ同位置ニ配置スルモノトス

此等小隊ノ本哨ハ相隣接シテ設置スルヲ要ス標定中隊長モ亦其戦闘司令所ノ同一地區ニ設置ス

第九九　之ヲ要スルニ標定諸中隊ハ観測ニ任スヘキ他ノ砲兵諸部隊ト等シク為シ得ル限リ迅速ニ累近的ノ結果ヲ獲得シ逐次之ヲ修正シ其目的ヲ達スルモノトス

第六章　火力ノ操縦及點検

第一〇〇　火力ノ操縦トハ高級指揮官ヨリ指示セラレタル目標ヲ適時ニ射撃スル為砲兵各部隊ノ戦闘ヲ協調セシムルヲ謂フ

最大ノ効果ヲ収ムル為最良ノ方法ハ不意且迅速ニシテ強大ナル集中火力ヲ以テ目標ヲ射撃スルニ在リ

此効果ハ地形ノ利用ニ関スル砲兵ノ柔軟性及各部隊ニ固有及臨時ノ戦闘區域ノ配當ニ依リテ求メ得ヘシ（第一一〇乃至第一一三参照）

第一節　戦場ニ於ケル指揮機関ノ編組

第一〇一　砲兵指揮機関ノ編組ハ其任務ニ適應セサルヘカラス即チ決定セラレタル機関ハ命セラレタル戦闘行為ニ適應スルヲ要ス

指揮權ニシテ上級指揮官ニ統一セラレアルトキハ砲兵ハ急襲性ト威力トヲ遺憾ナク發揚シテ戦闘ヲ遂行シ得ルモノトス此指揮ノ統一ハ下級指揮官ノ獨斷行為ヲ拘束スルモノニアラス即チ下級指揮官ハ緊急ノ時機及上級指揮官トノ連絡絶エタル場合ニ於テハ徒ニ命令ヲ待ツコト

ナリ。須ク專行スヘキ義務ヲ有スルモノトス

之ニ反シ指揮權ニシテ隷下各級指揮官ニ分割セラレタルトキハ情報ヲ迅速ニ利用シ得ルノ利アリト雖砲兵ハ集團的效果ノ獲得ハ甚タ困難トナルモノトス然レトモ指揮權ヲ分割セル場合ニ於テモ直ニ以テ指揮權ヲ僅少タリトモ放棄セルモノト考フヘカラス假令指揮權カ戰闘實行ニ直接干與スルノ程度少キ時ニ於テモ尚各部隊ノ努力ヲ總ヘシ際ノ將來ノ必要ヲ告知シ及次期ノ戰闘ニ於ケル部署（l'organisation et l'action）ヲ為スコトニ關シ指揮權ハ行使セラルルモノトス

指揮機關ノ編組ハ射擊準備ノ精度、通信ノ價値及速度ニ關係スルコト大ナリ各射擊ノ測地的準備ノ所望ノ條件ニ合致セシメ得ル如ク實施可能ニシテ且通信確實ナル時ハ上級指揮官ハ迅速ニ情報ヲ知得シ且其命令ヲ遲滯ナク實行部隊タル砲兵中隊マテ傳達シ得ルノ利益ヲ增大スルモノトス

若之ニ反シ射擊ノ測地的準備ヲ缺キ通信確實ナラサルトキハ戰闘ノ進展ニ伴ヒ適時適切ニ行動シ得シメンカ為（指揮ノ一部ヲ）下級指揮官ニ委ヌルヲ要ス

第一〇二　戰闘間ニ於ケル砲兵ノ主要ナル任務次ノ如シ

1、步兵ノ行動ヲ妨害スル障碍ノ破壞

2、步兵ノ直接支援及掩護

3、對砲兵戰

4、敵交通線ニ對スル射擊

第一〇三　砲兵ノ各種任務中步兵ト密接ナル協力ヲ要スルモノ（副防禦（des défenses accessoires）破壞、直接支援及掩護）ハ師團砲兵之ニ任スルモノトス

第一〇四　對砲兵戰ハ某程度ニテハ步兵戰闘ト獨立シテ實行スルヲ通常トス而シテ本戰闘ハ為シ得ル限リ廣大ナル正面及縱深ニ亘リ實施シ得

ル如ク組織スルヲ利アリトス此縦深及横廣ノ度ハ使用火砲ノ射程ニ依
リテ制限セラルルモノナリ對砲兵戰ノ任務ハ一般ニ軍團重砲兵ノ負担
スル所ナリト雖他ノ兵團ノ砲兵モ亦火砲ノ射程並威力及戰況ノ進展ニ
伴ヒ之ニ參與スルコトアリ

第一〇五 敵ノ交通網ハ愈〻戰線ヲ遠サカルニ從ヒ益〻上級指揮官ト重
大ナル關係ヲ有スルモノトス故ニ交通遮斷ノ任務ハ各兵團ノ砲兵之ヲ
分担スルモノトス

第一〇六 以上ノ見地ニ基キ師團砲兵、軍團重砲兵及軍砲兵ニ配當スヘキ
任務ハ自ラ決定セラレ而シテ尚モ通信之ヲ許ス限リ指揮ノ統一ヲ圖リ
且火力操縦ノ利益ヲ最大限ニ發揚スルヲ要ス

第一〇七 砲兵ノ參戰兵力多キニ從ヒ屢〻師團砲兵軍團重砲兵及軍砲兵
内部ニ於ケル指揮ノ實行ヲ統一ナラシムルモノトス故ニ此等各部隊ハ
次ニ揭クル規定ニ從ヒ之ヲ砲兵群ニ區分スルコト肝要ナリ

イ、相近似セル任務ヲ有スル各部隊ヲ同一ノ指揮官ノ隷下ニ編合シ且成
ルヘク同一ノ地區ニ配置シ以テ情報ノ蒐集並利用及觀測機關ノ活動
ヲ容易ナラシムルコト

註、此條件ハ必スシモ口徑ノ單一ナルコトヲ要求セリ時トシテ同
一砲兵群内ニ異種火砲ヲ編合スルヲ利トスルコトアリ是假令
目標ノ性能同一ナルモ其掩護ノ程度ニ著シキ差異アル場合ニ
於テハ目標ノ狀態ニ應シ使用スヘキ火砲ノ威力ニ差異ヲ附シ
得ヘケレハナリ

ロ、砲兵群ハ最大限三―四大隊ヲ以テ編組スルコト此編組ハ命令ノ傳
達ニ最大ノ效果アルモノトス

ハ、砲兵群ハ協力スヘキ部隊ノ配置ニ適合セシムルコト

ニ、建制ヲ尊重スルコト建制ノ維持ハ各部隊即チ聯隊及大隊ノ威力ヲ
發揚スル爲缺クヘカラサルモノナリ故ニ爲シ得ル限リ聯隊ヲ以テ

一砲兵群ヲ編組スルカ又ハ其核心ト為スヘキモノトス蓋シ聯隊長ハ所要ノ幕僚（本部附將校等）及附属機関ヲ有スレハナリ又大隊ノ建制ハ万止ムヲ得サル場合ノ外之ヲ分割セサルモノトス

第一〇八　各兵團即チ歩兵師團、軍團及軍ニ屬スル砲兵間ノ任務ノ分配及砲兵群ノ編組ノ為記述セラレタル上述ノ諸原則ハ一般ニ次ニ示セル原則ニ歸納シ得ヘシ

師團砲兵

数個ノ直接協同砲兵群ヲ編組ス其数ハ第一線部隊タル歩兵聯隊ノ数ニ等シカラシム而シテ此砲兵群ニハ輕砲兵時トシテ榴彈砲ヲ包含スルモノトス

一乃至数箇ノ全般任務砲兵群ヲ編組ス而シテ此砲兵群ニハ短重砲及為シ得レハ長砲ヲ包含セシムルモノトス

特ニ歩兵師團ニシテ塹壕砲兵ヲ有スルトキハ情況ニ應シ一箇ノ砲兵群ヲ編組スルカ或ハ以上ノ各砲兵群ニ分屬スルモノトス

軍團重砲兵（Artillerie lourd de Corps d'Armée 之ヲ略稱シテ單ニ Artillerie de corps ト謂フ）

各師團ノ作戦地域ニ各々砲兵群ニ配當シ該砲兵群ハ通常對砲兵戰ニ專トシテ師團砲兵ノ増援ニ任ス

一乃至数箇ノ全般任務砲兵群ヲ編組ス此砲兵群ハ通常交通遮断射撃擾乱射撃及臨機ノ目標ニ對スル射撃ニ時トシテ或ハ軍團ノ作戦地域内或ハ隣接軍團ノ作戦地域内ニ於ケル對砲兵砲兵群ヲ増援ス各砲兵群ハ亦限界ニ近似セル材料ヲ以テ編組セラル然レトモ彈丸威力ヲ目標ノ性能ニ適應セシムル為異種口徑ノ火砲ヲ加フルモノトス

軍砲兵

数箇ノ砲兵群ヲ編組ス此砲兵群ハ射程ノ延長及威力ノ増大ニ依リ軍團重砲兵ノ戰闘ヲ増援ス（一五五粍大威力重砲、一五四粍無限軌道重砲、一

八〇糎長重砲、二四〇糎被牽引重砲及總テノ列車砲兵）

此等ノ部署ハ固ヨリ絶對的ノモノニアラス特ニ未タ砲兵ノ増加ヲ受ケサル大兵團戰闘ニ加入スルニ方リテハ高級指揮官ハ活動少キ地區ノ不利ヲ顧ルコトナリ正面中ノ（（重要度大ナル））一部ニ火力ノ集中ヲ可能ナラシムルカ如キ砲兵隊ノ部署ヲ爲サザルヘカラサル情況ノ發生スルコト屢〻ナリトス

第一〇九　以上述ヘタル如キ固有任務ノ外ニ各兵團砲兵ハ必要ニ應シ他ノ兵團ノ砲兵ノ増援ニ使用セラルルモノトス

即チ軍團重砲兵ハ師團砲兵ノ工事破壞ニ協力シ或ハ敵ノ人員ニ對スル射撃ヲ増援シ又師團砲兵ハ對砲兵戰ニ參加シ軍砲兵ハ對砲兵戰ノ爲軍團重砲兵ヲ増援スルコトアルカ如シ又同一兵團（歩兵師團、軍團、軍）ニ屬スル諸砲兵隊モ亦相互緊密ナル援助ヲ爲スモノトス

第二節　固有戰闘區域及臨接戰闘區域

第一一〇　戰闘ニ加入スヘキ凡テノ砲兵部隊ハ任務ヲ受領ス

任務ヲ完全ニ決定センカ爲指揮官ハ實施ノ條件ヲ確定シ特ニ如何ナル目標區域ニ對シ任務ヲ達成スヘキヤ又同時ノ要求アル場合ニ於テハ如何ナル順序ヲ以テ任務ヲ達成スヘキヤヲ指示スルコト緊要ナリ

此區域ハ固有戰闘區域ト稱セラルルモノニシテ各級指揮官ハ該區域内ニ於テ次ノ諸件ヲ行フモノトス

1、地形及目標ノ探究ヲ深厚ニス
2、凡テノ情報ヲ蒐集ス
3、射撃ヲ豫定シ之ヲ準備ス
4、不斷ノ監視ヲ實施ス
5、射撃ノ必要ヲ認メタル場合ニハ獨斷ヲ以テ之ヲ實施ス

固有戰闘區域ノ側方限界ハ歩兵部隊ノ戰闘地域ト一致スルヲ原則トス

是ニ依リテ歩砲兩兵種間ノ連絡ヲ容易ナラシムルヲ得レハナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

固有戰鬪區域ノ縱深限界ハ砲兵カ陣地變換ヲ爲スヘキヤ否ヤニ依リ異ルモノニシテ其公算大ナルニ從ヒ縱深ヲ狹小ナラシメサル如ク定メラルルモノトス而シテ此限界ハ戰鬪間變更シ得ヘキモノトス

固有戰鬪區域ノ分配ハ砲兵戰鬪ノ指揮ノ實施通信ノ澁滯ニ依リ困難トナリシ時ニ於テモ猶指揮ヲ爲シ得ル如ク其廣狹ヲ按定スヘキモノトス

又此分配ニ當リ空中觀測作業ヲ容易ナラシ且此見地ヨリ爲シ得ル限リ地上ノ明確ナル地線ニ依リ戰鬪區域ヲ與フル如クスルヲ利アリトス

第八一一　時宜ニ依リ若干ノ砲兵部隊ハ其材料ノ特性ニ基キ一他部隊ノ固有戰鬪區域若干ニ跨レル某ヘ區域内ニ於ケル臨機ノ目標ヲ射擊スヘキ任務ヲ受リルコトアリ此際後者部隊ハ豫メ適時ニ之ヲ昔知セラルルモノトス

此種戰鬪干與ハ友軍部隊ノ附近ニ於テハ避ケサルヘカラス

第八一二　砲兵部隊ノ戰鬪ハ其固有戰鬪區域内ニ限ラルルモノニアラス

此區域ヲ圍繞スル全地域及該地域ニ對シ其有スル機關ノ一部或ハ全部ヲ以テ射擊シ得ル時ハ之ヲ以テ臨時戰鬪區域ヲ構成ス

指揮官ハ其隷下各部隊ニ配當セラレタル臨時戰鬪區域ニ關シ概要ノ指示ヲ與ヘ得ルニ過キス陣地ヲ占領スヘキ此區域ノ限界ハ實施者自ラ之ヲ決定シ且上級指揮官ニ其射擊ノ可能性ヲ報告スヘキモノトス

臨時戰鬪區域ニ對スル射擊ノ準備及觀測ノ研究ハ第二次的ノ緊急度ヲ以テ實施セラルルモノトス

第八一三　射擊セラルヘキ總テノ目標ハ少クモ一砲兵部隊ノ擔任セル固有戰鬪區域内及爲シ得ル限リ多數部隊ノ臨時戰鬪區域内ニ存在スルモノトス

砲兵部隊ハ他部隊ノ要求若ハ承諾ヲ受クルカ又ハ高級指揮官ノ命令ニ依ルニアラサレハ一緊急ノ場合ヲ除ク一他部隊ノ固有戰鬪區域内ニ在ル目標ニ對シ射擊セサルヲ原則トス

第三節　火力ノ操縦

第一一四　第一〇〇ニ示シタル火力ノ操縦ハ火砲ノ操用容易ニシテ射撃修正ノ方法完全ナルニ從ヒ愈々容易ナルモノトス
火力操縦ノ效率ノ大ナラシメンカ為ニハ精密ナル方法ニ依リ決定セラレタル目標ニ對シ射界大ニシテ彈道遊決定セラレタル火砲及彈量ヲ測定セル彈薬ヲ用フルヲ要ス此際放列陣地ハ精確ナル方法ニ依リ測地的ニ決定セラレ氣象諸元ヲ既知シアルコト緊要ナリ射撃ニ依ル地點ノ標定ハ火力操縦ヲ一層迅速ナラシメ得ルモノトス

第一一五　上級ノ指揮官火力ノ操縦ヲ實施スル場合ニ於テハ相當ノ時間ヲ要スルモノトス
指揮官ニ命令作為ノ時間ヲ必要トスル如ク實施者ニモ亦事實射撃準備ノ為時間ヲ要スルモノニシテ此時間ハ忽ニスヘカラサルモノトス
此時間ハ要旨命令ヲ與フルコトニ依リテ短縮シ得ルモノトス之カ為指揮官ハ常時部下ニ對シ適時命令ヲ記述シ且之ヲ傳達スルコトニ着意シアルヲ要ス
要旨命令ハ實施者ニ對シ目標、射撃ノ要領及使用彈薬數等ノ概要ヲ指示スルモノニシテ最後ニ示シタル使用彈薬數ハ迅速射ニ在リテハ彈薬數ニ代スルニ最大發射速度ト射撃継續時間トヲ以テスルヲ通常トス爾後所要ニ應シ無線電信ニ依リ傳達セラルル簡單ナル指示ノ射撃スヘキ目標ノ番號（若ハ坐標）及時刻ノハ適切ニ準備セラレタル射撃ノ迅速ナル開始ヲ確保スルモノトス
此方法ハ要旨命令中ニ明確ニ豫定指示セラレタル某目標ノ近傍ニ在ル凡テノ目標ニ對シ十分ナル精度ヲ以テ迅速ナル射撃ヲ施行シ得シムルモノナリ

第四節　彈薬ノ使用

第一一六　彈薬ノ合理的節約ハ砲兵指揮官ノ重要ナル義務ノ一ナリ尚大

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

兵團ノ高級指揮官モ亦此責ヲ有ス
次ニ揭クル規定ハ能リ之ヲ遵守セサルヘカラス
彈藥ノ使用ニ方リテハ指示セラレタル任務ニ基キ目標ノ重要度ト達成スヘキ效果トヲ比較考慮シテ決定スルヲ要ス而シテ使用彈藥ヲ最小限ニシ收ムヘキ效果ヲ最大ナラシメンカ為情況之ヲ許ス限リ射撃修正ヲ十分ニ施行スルコトニ努ムヘシ又目標ヲ縱射シ得ヘキ部隊ヲ配置スルコトニ依リ彈藥ノ節約ヲ圖リ得ルモノトス然レトモ此後者ノ方法ハ射撃ニ必要ナル連絡ヲ困難ニシ又ハ步兵ノ安全ヲ危殆ナラシムルカ如キ場合ニ於テハ之ヲ避ケサルヘカラス
高級指揮官ハ十分ナラサル火力密度ヲ以テスル或種ノ射撃ハ決然之ヲ斷念スルヲ勝レリトス
屢〻無意味ニ實施セラレタル射撃例ヘハ報復射撃、阻止射撃ノ場合ノ如キハ彈藥ノ著シキ濫費ニ陷ルモノニシテ爲シ得ル限リ之ヲ避クルヲ要ス

砲兵部隊陣地ヲ撤去スルニ際シ殘置セル彈藥アルトキハ爲シ得ル限リ迅速ニ之ヲ回收スルヲ要ス

第五節　火力ノ點檢

第八八七　砲兵各級指揮官ハ（下級指揮官ㇱ）實施セル射撃修正ヲ絶エス點檢スルモノトス而シテ其點檢ノ結果ハ之ヲ該下級指揮官ニ通報シ以テ或ハ射撃修正ノ資ニ供シ或ハ射撃スヘキ地域ヲ狹小ナラシメ得ルモノトス
火力ノ點檢ハ其方法ノ如何ヲ問ハス決シテ之ヲ忽ニスヘカラス而シテ標定中隊ノ協力ヲ受クルコト稀ナルヲ思惟シアルヲ要ス
運動間ニ於ケル火力ノ點檢ハ特ニ空中觀測ニ依リテ實施セラルルモノトス然レトモ通信ニシテ各種ノ觀測作業ヲ許スニ至ラハ地上觀測モ亦射撃ノ點檢ニ參與スヘキモノトス
之カ爲各級指揮官ハ成ルヘク速ニ已ニ部署ニ就キタル其隷下觀測所或

ハ隷下部隊ノ観測所中適當ナル數箇ヲ選定シ其作業ヲ統一スヘキモノトス
周到ナル計畫ニ基キ一圏（par séries）毎ニ射撃ノ點檢ヲ實施スルハ常ニ有利ナルモノトス
寫眞ノ審査及第二課ヨリ送附セル情報ハ射撃修正ノ為並射撃效果判定ノ為有利ナル點檢資料ヲ呈供スルモノトス上文ノ指示ハ注意シテ蒐集セラレタルモノニシテ同一目標ヲ再ヒ射撃シ或ハ同一地區ニ於ケル他ノ新目標ニ對シ射撃ヲ實施セントスル場合ニ於テ使用彈藥數ヲ決定スルニ適スルモノトス

第七章　戰鬪間ニ於ケル砲兵ノ陣地變換

第一節　陣地變換ノ動機

第一一八　戰鬪間ニ於ケル砲兵ハ次ノ動機ノ一ニ基キ陣地變換ヲ實施セサルヘカラサルニ至ルモノトス

1、砲兵部隊ニ附與セラレタル最初ノ任務變更セラレ最初ノ陣地ニ於テ新任務ヲ實施スルニ適セサルニ至リタル時
2、砲兵部隊ニ附與セラレタル任務ニ變化ナキモ此任務ヲ達成スルコト能ハサルニ至リシ時即チ目標ノ離隔或ハ近接ニ依リ射撃ノ效果無キカ若ハ射撃ノ施行不可能ナルニ至リタル場合或ハ支援スヘキ部隊ト最早充分ナル連絡ヲ期待シ能ハサルニ至リタルカ如キ場合之ナリ
3、我カ砲兵陣地ニシテ敵ノ偵諜スル所トナリ尚該陣地ニ止マル時ハ敵ノ有效ナル破壊或ハ制壓射撃ヲ蒙リ且其任務ノ達成ヲ妨害セラルルニ至リタル場合特ニ持久性毒彈ニ依リ組織的射撃ヲ蒙ル全放列陣地ハ直ニ撤退セサルヘカラサルニ至ル
4、又或情況（特ニ防禦ニ於テ）ニ於テハ砲兵小部隊ハ順次ノ陣地變換ヲ為サヽルヘカラス此部隊ハ普通ノ射撃實行ニ任スルモノニシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

テ此偽配備ニ依リ敵ノ偵察機関ヲシテ眞配備ヲ誤認セシメ並ニ射スル敵ノ注意ヲ避ケ得ルモノトス而シテ眞陣地ノ砲兵ハ注意シテ遮蔽シ沈黙ヲカムルモノトス

第二節　陣地變換ノ所要時間

第一一九　砲兵ノ陣地変換ハ

1、放列撤去
2、材料ノ移動
3、放列布置及新陣地ニ於ケル射撃組織

陣地變換ニ要スル時間ハ材料ノ移動状、地形、天候、敵ノ活動状態等ニ依リ著シク差アリ

陣地変換ニハ一般ニ弾薬ノ移動ヲ伴フモノニシテ其重量ハ相當ニ大ナリ又新タニ射撃準備ヲ必要トシ通信網ノ変更若ハ修正並観測所ノ移動ヲ要スルモノトス

此作業ハ比較的長時間ヲ要シ砲兵ノ陣地変換ヲ企圖スル場合ニ於テハ其影響ハ常ニ考慮シアラサルヘカラス

第三節　陣地変換ニ伴フ不利

第一二〇　砲兵ハ陣地変換ニ際シテ屢〻危険ニ遭遇シ其火力ヲ使用スルヲ得サルモノトス

故ニ砲兵ノ陣地変換ハ之ヲ最小限ニ制限スヘキモノニシテ或ハ時間毎ニ梯次ニ實施シ又砲兵指揮官ハ陣地変換實施時期ニシテ火力ノ減少ヲ來スモ忍ヒ得ヘキ時期ヲ選定スヘキモノトス

運動困難ナル部隊ノ戦場内ニ於ケル陣地変換ハ避クルヲ要ス例ヘハ自動車牽引砲兵農耕用牽引車ヲ欠ケル自動車積載砲兵ノ如シ之カ為同一ノ任務ニ服セシムヘキ全砲兵ヲ最初縦深ニ配置スルニ方リテハ其運動性最モ大ナル部隊ノ攻勢ニ在リテハ後方ニ防勢ニ在リテハ前方ニ位置セシムルコト必要ナリ

第一二一　砲兵指揮官ハ大距離ノ躍進ヲ為サシメ以テ漸次ノ陣地変換ヲ減少スルヲ要ス

躍進距離ハ運動ノ速度、戰況及地形ニ依リテ変化ス然レトモ亦射撃放列布置及陣地撤去ニ要スル時間ニ依リテ決定セラルルモノトス一般ニ此陣地変換ノ距離ヲ火砲ノ射程ノ某割合ヨリ小ナラシムルカ如キハ砲兵使用上ノ過誤ト謂フヘシ（試参照）又火砲カ新陣地ニ就キ未タ射撃ヲ開始セサルニ先タチ再ヒ前進セシメサルヘカラサルカ如キモ亦不可ニシテ何等用ヲ為サヽルモノトス

試、陣地変換ハ一般ニ軽砲ノ為ニハ射程ノ五分ノ一ヲ、重砲ノ為ニハ射程ノ三分ノ一ヲ以テ最小限トスルモノトス

第四節　陣地変換ニ関スル権限

第一二二　砲兵ノ陣地変換ハ高級指揮官ノ命令ニ依リ実施セラルルモノトス高級指揮官ハ砲兵ニ任務ヲ與フルヤ戰闘ノ進捗及陣地変換実施ノ條件ニ関シ常ニ豫メ其意圖ヲ砲兵ニ知ラシメ置クノ注意ヲ必要トシ戰闘實行間ニ於テハ適時ニ陣地変換實行ニ関スル命令ヲ與フルモノトス

一般ニ高級指揮官ハ陣地変換ノ細部ニ関シテハ之ヲ示スコトナシ只砲兵ノ戰闘ヲシテ常ニ効果アラシメ且砲兵ト其観測所或ハ砲兵ト其支援スヘキ歩兵トノ緊密ナル連絡ノ維持ニ関シ監督スルモノトス

高級指揮官ハ砲兵ノ要求ニシテ至當ナル時ハ陣地変換實施ニ必要ナル機関（作業手、運搬機関、材料）ヲ與ヘ之カ使用ニ供スルモノトス

第一二三　砲兵指揮官ハ情況及受ケタル任務ニ基キ陣地変換計畫ヲ策定シ高級指揮官ノ認可ヲ受クルモノトス

陣地変換計畫ニハ新ニ編組スヘキ砲兵群アルトキハ其編組及任務ヲ定メ火砲及弾薬ノ移動ヲ規定シ又此移動ノ結果ニ依リ観測連絡及通信組織ノ改変ヲ豫定ス

右ノ陣地変換計畫ニハ（戰況ノ進捗ニ伴フ）各種ノ假定（上ノ假定モ亦

《状況ニ依リ》変化スヘキモノトス）ヲ考定スルヲ要ス然レトモ計画ヲ
徒ニ膨大ナラシムルハ之ヲ避クルヲ要ス
陣地変換計画ハ当事者ニ交付セラレ以テ現地及地図ヲ研究シ資ニ供シ
又其火砲及弾薬ノ移動ヲ準備シ道路ヲ修理シ観測所ヲ偵察シ通信網ヲ
擴張シ等トシテハ射撃ノ準備ヲ適切ナラシムルモノトス
此ノ如キ陣地変換計画ハ道路ノ混雑及時間ノ損費ヲ避ケ得シムルモノ
ナリ
緊急ノ場合ニ於テハ陣地変換計画ハ準備命令ヲ以テ之ニ代フルコトア
リ

第一二四　後方ヘノ陣地変換ハ之ヲ詳細ニ準備シ得ルモノトス前方ヘノ
陣地変換ハ困難ヲ伴ヒ時間ヲ要スルモノトス蓋シ一般ニ占領スヘキ現
地ニ到リ偵察シ或ハ作業スルコトハ困難ナレハナリ

第五節　陣地変換ノ実施

第一二五　敵ニ大ナル目標ヲ呈セサル如ク注意スルヲ要ス特ニ敵ノ反撃
ヲ受クル恐アル時ニ於テ然リ故ニ陣地ヲ変換スヘキ部隊ハ多少之ヲ分
割シテ実施スルモノトス然レトモ一般ニ砲兵数抄カ又ハ大隊自ラ歩兵
部隊ノ支援ニ任シアル場合ノ外ハ大隊以下ニ分割セサルモノトス而シ
テ大隊ノ各中隊ハ同時ニ躍進ヲ為スモノトス

第一二六　前進行動間ニ於テハ高級指揮官ヨリ砲兵ニ委ネラレタル範囲
砲隊ノ指定セラレタル条件ニ基キ《陣地変換ヲ》独断実行スルコトヲ
得特ニ歩兵ノ直接支援ニ任スル砲兵ニ於テ然リ一般ニ火砲ノ前進ハ弾薬
ノ補充確実ナル場合ノ外実施セサルモノトス
ヘ一般ニ稀ニ急速スルコトナルモ重量大ニシテ操縦ニ迂ナリ且弾薬補
充困難ナル火砲ニ依リ道路ヲ閉塞セル場合ニ於テハ其材料ノ一部ヲ失
フノ危険ニ陥ルモノトス

第一二七　退却行動間砲兵ハ終始歩兵ヲ掩護スル為其位置ニ留リアルヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

要ス陣地変換時機ノ決定之ニ依リ定マルモノニシテ決シテ敵ノ接近ニ基クヘキモノニアラス
時宜ニ依リ若干ノ砲兵部隊ハ其陣地ヲ確保スヘキ命令ヲ受クルコトアリ斯クノ如キ場合ニ於テハ凡テノ手段ヲ竭シ苟モ其位置ニ於テ射撃ヲ実施シ得ル限リ之ヲ継続スヘキモノトス敵ノ近迫ニ依リ之ヨリ脱逸ノ見込ナキニ至ラハ該部隊ハ其火砲ヲ敵手ニ委スルニ先タチ之ヲ破壊スヘシ
第一二八　防禦ニ於テハ陣地變換カ部隊ノ精神上ニ及ス影響ニ鑑ミ一般ニ高級指揮官ヨリ確定セラレタル時機ノ外之ヲ実施セサルヲ原則トス
第一二九　戰闘間通信ノ杜絶ヲ顧慮シ陣地変換計畫ニ關スル高級指揮官ノ意圖ヲ各部隊ニ承知セシメ置クヲ要ス此計畫或ハ其摘録ニハ例ヘハ砲兵ノ行フヘキ陣地変換ハ其前方或ハ側方ニ在リテ戰闘スル歩兵ノ情況ニ從ヒテ実施スヘキコトヲ示スモノニシテ砲兵ハ斯クシテ高級指揮官ノ企圖ニ基キ且歩兵トノ連絡ヲ顧慮シ其運動ヲ規正スルモノトス凡ソノ場合ニ於テ砲兵ハ其陣地変換ヲ近傍ニ在ル部隊ニ通報スヘキモノトス
第一三〇　砲兵指揮官ハ各中隊其任務ヲ確實ニ遂行シ得而モ危険ニ陥ラサル如クアラユル手段ヲ講スルヲ要ス砲兵指揮官ハ高級指揮官ヨリ敵カ放列陣地ニ突入スル最後ノ時期ニ至ル迄陣地ニ其部隊ヲ維持スヘキ筆記命令ヲ受ケタル場合ノ外其火砲ヲ保持スヘキ責任ヲ有ス
第一三一　戰場内ニ於ケル近距離ノ陣地変換ノ爲メニハ繋駕砲兵ヲ選定スルヲ可トシ大距離ノ陣地変換ノ爲メニハ自動車砲兵ヲ以テスルヲ優レリトス
第一三二　陣地変換ニ方リテハ新タニ觀測及通信ノ組織ヲ爲サヽルヘカラス此組織ハ展開ニ關スル規定（第九二乃至第九四）ニ從ヒ実施セラルルモノトス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第六節　標定中隊ノ移動

第一三三　標定機関ノ移動ハ戰闘ノ進捗ニ從ヒ最初ノ展開《姿勢》ニシテ態勢ヲ達成スルニ適セサルニ至リ実施セラルヘキモノトス
移動スヘキ標定機関ハ軍團砲兵司令官ノ隷下ニ置カルルヲ通常トス
移動ノ為ニハ新位置ノ偵察並決定及新通信網ノ構成ヲ必要トス
此等作業ノ遅延ハ準備ノ為注意ノ程度ニ依リテ異ナルモノトス
標定中隊長ハ常ニ軍團重砲兵ト確實ナル連繋ヲ保持スルヲ要ス

第一三四　軍砲兵司令官ハ標定中隊ノ移動ヲ統ヘスルモノトス標定中隊新配備ニ就キタル後所要ニ應シ之ヲ直接其隷下ニ置クコトヲ得

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/